



札幌市立大学年報
平成23年度
(2011年度)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

目次

I 概要

1	大学設置の経緯	1
2	デザイン学部の概要	3
3	看護学部の概要	4
4	デザイン研究科の概要	6
5	看護学研究科の概要	7
6	助産学専攻科の概要	8
7	平成23年度の特筆すべき事項	9
8	行事	10

II 教育活動

1	教育活動概要	11
2	共通教育・連携教育	12
3	デザイン学部	14
4	看護学部	26
5	デザイン研究科	38
6	看護学研究科	42
7	助産学専攻科	48
8	デザインと看護の連携教育	51

III 研究活動

1	個人研究費による研究一覧	53
2	学内公募研究課題一覧	56
3	学外からの研究費、研究補助金などの受入状況	57
4	寄附金の受入状況	59
5	その他研究助成	59
6	海外出張記録	60

IV 社会活動

1	地域貢献諸活動	63
2	公開講座開催実績	77
3	社会における活動	78
4	専門職支援・セミナー講師等	82
5	国際交流実績	90
6	サテライトキャンパスの利用状況	90

V キャリア支援活動

1	デザイン学部	91
2	看護学部	96

VI 平成24年度入学者選抜結果

1	デザイン学部・看護学部	98
2	大学院デザイン研究科・大学院看護学研究科	103
3	助産学専攻科	108

VII 附属図書館

1	概要	110
2	利用状況	111

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1	役員会及び審議会の審議状況	112
2	役員及び審議会委員名簿	114

IX 学内運営の概要

1	2011年度(平成23年度)公立大学法人札幌市立大学 組織図	115
2	部局長会議	115
3	企画戦略会議	116
4	教授会	117
5	地域連携研究センター	117
6	附属図書館	118
7	アドミッションセンター	118
8	キャリア支援センター	118
9	学内委員会	119
10	FD・SD活動	127

X 資料

1	平成23年度年度計画	129
2	平成23年度決算	141
3	教職員数	142
4	管理職一覧表	142
5	教員一覧表	143
6	学生定員及び学生数	144
7	授業料等	145
8	奨学金貸与・授業料減免実施状況	145
9	学生の入選・受賞	146
10	学生の課外活動	147
11	後援会	148
12	教育・研究刊行物一覧	148
13	施設	149
14	大学への交通アクセス	153
15	札幌市立大学 大学歌『みらいの手』	154

XI	教員業績一覧	155
----	--------	-----

I 概要

1 大学設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力をもった職業人が強く求められている。特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取り組みが特に重要であり、こうした取り組みに対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず、看護職養成機関の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を初めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関には、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性と方向性について幅広い議論を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年生大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「(仮称)札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「(仮称)札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受け入れ、校地・校舎のあり方といった事項について準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「(仮称)札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念とした札幌市立大学を平成18年4月に開学した。

また、デザインと看護の学部での教育を基盤として、より高度な専門的知識を有する高度専門職業人及び研究者・教育者の育成を目的として大学院修士課程を設置することとした。

大学院修士課程は大学院基本計画に基づき1期生の卒業時期に合わせた開設が計画され、平成21年5月に「札幌市立大学大学院設置認可申請書」を文部科学省に提出、10月に大学院の設置が認可され、平成22年4月に札幌市立大学大学院を開設した。

大学院の開設と合わせて、より高度な能力を持った助産師の養成が必要とする社会的要請を受け、本学に助産学専攻科を設置して助産師の養成を行うこととした。

その後、平成23年5月に「大学院(博士後期課程)設置認可申請」を文部科学省に提出、10月に大学院(博士後期課程)の設置が認可され、平成24年4月に札幌市立大学大学院(博士後期課程)を開設した。

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

沿革

昭和40年4月	札幌市立高等看護学院 開校
平成3年4月	札幌市立高等専門学校 開校
平成8年4月	札幌市立高等専門学校専攻科 開設 札幌市立高等専門学校附属研究所 開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「(仮称)札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「(仮称)札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「(仮称)札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	公立大学法人札幌市立大学 設立認可
平成18年4月	公立大学法人札幌市立大学 開学
平成18年10月	サテライトキャンパス 開設
平成19年4月	地域連携研究センター 開設 アドミッションセンター 開設
平成20年3月	札幌市立高等看護学院 閉校
平成20年4月	キャリア支援センター 開設
平成20年8月	認定看護管理者制度サードレベル教育課程 開講
平成21年3月	札幌市立高等専門学校本科 閉科
平成21年10月	大学院(修士課程)設置認可
平成21年12月	助産学専攻科の助産師学校指定通知
平成22年4月	大学院(修士課程)デザイン研究科・看護学研究科・助産学専攻科 開設
平成23年3月	札幌市立高等専門学校専攻科 閉校
平成23年10月	大学院(博士後期課程)設置認可

2 デザイン学部の概要

1) 特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

また、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある7つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

- ① 幅広いデザイン能力を持った人材の育成
デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。
- ② 人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成
造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。
- ③ 地域社会に貢献できる人材の育成
時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 高いコミュニケーション能力
的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。
- ② 課題探求能力と問題解決能力
社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。
- ③ デザインの基礎となる表現力
豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。
- ④ 人間や環境に配慮したデザイン能力
人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。
- ⑤ 新たな価値を発見する柔軟な発想
固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想を養う。
- ⑥ 企画力や管理・運営能力
デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。

3 看護学部の概要

1) 特色

看護学部では、幅広い職業人を育成することを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある7つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2) 教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

① 的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ、専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

② 人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるように常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護など、看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③ 地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、本学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内あるいは全国的な視点から、看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3) 育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度、先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯数も増加

しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

しかし、看護職は今後も当分の間、不足の状態が続くことが予測されているにもかかわらず、看護職の養成機関の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 対人関係形成能力
豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。
- ② 権利擁護・安全なケア提供能力
さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。
- ③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力
緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。
- ④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力
看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。
- ⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力
主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4 デザイン研究科の概要

1) 特色

デザイン研究科は、デザインの役割が拡張し、従来のように造形や視覚表現にとどまらず、社会や地域、産業等の複雑な問題をデザイン課題として受け止め、人間や環境に配慮したデザインを提案し、その解決策を実現できる高度なデザイン能力を有する人材が必要となっている中で、よりよい地域社会の実現に貢献できる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成するため、以下の能力を修得することを特色とする。

- ① デザインに関連する複合的かつ複雑な課題・問題を解決する「課題解決能力」の修得。
- ② デザインを通じて新たな価値を生み出す「創造力」の修得。
- ③ 課題・問題の発見、分析から具体的事業化までを一貫したデザインプロセスとしてまとめる「企画調整能力」の修得。
- ④ 課題・問題をデザインの立場から調査、分析、判断、行動、評価、提案までを具体化する「実践能力」の修得。

また、平成17年9月中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の4つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組む。

2) 教育目的

デザイン研究科は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業、芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としている。

3) 育成する人材像

デザイン研究科では、次のような人材の育成を目的とする。

- ① 屋内外の様々な空間を対象とする空間デザイン分野において、人間の生活や自然環境に配慮しつつ、建築デザインや環境デザインに関する高度なデザイン能力を有する人材。
- ② 人間生活に欠かせない多様な製品並びにそれを支えるインタフェース(操作性)について、人間中心の生活システムとしての製品やそのインタフェースをデザインできる高度なデザイン能力を有する人材。
- ③ 人々の豊かなコミュニケーション活動を支えるコンテンツの制作と、多様なコンテンツのメディア展開を企画・構築し、運営に至るプロセスをプロデュースできる高度なデザイン能力を有する人材。

5 看護学研究科の概要

1) 特色

近年、看護分野は専門分化しており、これに対応する卓越した実践能力を有する看護職及び統合的な調整能力を有する看護管理者の育成が急務となっている。

また、これら卓越した臨床能力及び看護の専門性のさらなる向上には、看護の未来を見据えた洞察力・創造力を有し、学問的理念を基盤として研究を推進する自立した教育者・研究者の果たす役割が大きい。

看護学研究科は、このような社会の要請に応える人材を育成し、札幌を発信源に、21世紀の看護の一端を担い、これを保健・医療・福祉分野へ発信できる、看護のバランス感覚に優れた人材の育成を目指している。

なお、看護学研究科では、平成17年9月5日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の4つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組むこととする。

2) 教育目的

看護学研究科では、以下の能力の修得を通して、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ看護学を発展させることのできる研究者・教育者や、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。

- ① 正確性・緻密性及び独創性を有する高度な臨床看護実践能力
少子高齢社会の渦中にあり、多様な価値観を持つ人々に対し、正確性、緻密性及び独創性を兼ね備えた高度な看護実践能力を養う。
- ② 高度な倫理観に基づき、専門看護分野において分析・判断・行動・評価ができる能力
人権意識や倫理観が厳格に問われるとともに複雑化する社会にあって、専門看護分野において柔軟に対応し、高い倫理観を持って自ら分析・判断・行動・評価する能力を養う。
- ③ 他職種と協働し、看護における将来展望に資する統合・調整ができる能力
医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力をさらに高め、保健・医療・福祉分野でリーダーシップを発揮できる能力とともに、看護の各専門領域において看護の将来展望を視野に入れた変革・統合・調整・教育能力を養う。
- ④ 積雪寒冷地における健康づくり支援に取り組む能力
積雪寒冷地においてライフサイクルに応じた健康づくりに関する課題を探求し、課題解決に向けた能力を養う。

3) 育成する人材像

保健・医療・福祉が日々新たな課題を抱える中、様々な人々の健康レベルに対応できる卓越した高度看護実践者、専門化・複雑化及び高度化した看護の質の向上に必須な看護管理者、看護の質を確保する看護技術の開発・評価を担う看護者あるいは科学的知識と学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる研究者、次世代の看護の基礎教育・継続教育の中心的担い手としての教育者を育成する必要がある。また、今後は、研究能力を有した看護実践者及び臨床能力を有する研究者・教育者の育成がより一層求められている。

このため、看護学研究科においては、次の能力を備えた人材を育成する。

- ① 保健・医療の中核を担う高度臨床看護実践者の育成(専門看護師を含む)
- ② 総合的に看護ケアをマネジメントする看護管理者の育成
- ③ 地域や在宅においては健康な生活と福祉の向上に率先して貢献する看護職の育成
- ④ 看護の学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる看護研究者の育成

- ⑤ 次世代の看護教育の中心的担い手としての教育者の育成
- ⑥ 看護技術の開発及び評価能力を備える人材の育成
- ⑦ 幅広い視野のもとで新しい看護システムや制度の開発に資する人材の育成

6 助産学専攻科の概要

1) 特色

助産学専攻科では、学士課程4年間において培った自己研鑽力が発揮できる教育課程を特色としている。

その1つとして、選択科目を設定せず、学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創っている。加えて、この学びの更なる発展に向け文献研究を行う。

また、1年間の学修では、助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、ハイリスク事例に対応できるような高度な知識・技術を熟練した助産師と専門医のもとで修得する。この学修では看護師資格が大いに役立っている。

2) 教育目的

札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤に、各種助産技術能力の正確な修得を目指し、次のような教育を目的とする。

- ① 助産師に必要な基本的かつ高度な知識が修得できる。
- ② 助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術が修得できる。
- ③ 助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアが実践できる。

3) 育成する人材像

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、助産師の需要がさらに増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。

このため、助産学専攻科においては、次のような人材を育成する。

- ① 助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有する助産師
- ② 地域社会における母子健康の向上に貢献できる助産師
- ③ 人間性豊かな助産師

7 平成23年度の特筆すべき事項

平成23年度、札幌市立大学では以下のような特筆すべき事項があった。

1) 大学院博士後期課程の設置認可

本学では、平成22年度から大学院デザイン研究科修士課程及び同看護学研究科修士課程を設置し、高度専門職業人、研究者及び教育者の育成に取り組んできた。

大学院博士後期課程については、修士課程第1期生の修了時期に合わせて開設することを計画しており、5月に文部科学省に対する両研究科の博士後期課程の設置認可申請を行った。その結果、書面審査や面接審査等を経て、10月末に両研究科とも設置認可を得ることができた。平成24年度からはデザイン研究科、看護学研究科ともに、2年間の博士前期課程(修士課程)と3年間の博士後期課程からなる「区分制」大学院として再組織された。

2) 看護職支援

看護学部では、社団法人日本看護協会の認定を受け、看護管理者制度サードレベル教育機関として教育を実施してきた。平成23年度は、札幌市と協力して、「看護職復職支援講習会」(厚生労働省委託事業「地域雇用創造推進事業」)を実施した。9月12日から10日間のプログラムに看護職復職希望者40名が受講し、講義や演習、医療機関での実習を通して、復職への不安や課題を解消するため支援を受けた。また、実習終了時点で6名の就業が内定した。

3) 震災支援

3月11日に発生した東日本大震災の復興を支援するために、4月24日から16日間に渡り、看護学部教員を中心に延29名の教職員を5班に分け、いわき市に震災派遣を行った。震災支援ではいわき市保健所の要請を受け、避難所での健康相談、戸別訪問を行い、関係機関より感謝された。

4) 国際交流事業

デザイン学部とのワークショップを相互に開催してきた台湾の華梵大学と学術教育交流協定を締結した。この提携を受けて、平成24年2月には華梵大学の学生20名を受入れ、本学学生とワークショップを開催した。ワークショップの成果は札幌市中心部の大通ビッセ1階にて展示し、市民へも紹介した。

この他、11月には中国の承德医学院大学の学生を5名及び引率1名を受け入れ、本学の講義の受講ならびに病院見学等を実施した。

5) 地域連携

昨年度に引き続き、地域連携を促進した。11月22日には初めて本学で展開されている研究成果を学外に紹介する「学外研究交流会」を開催した他、行政、民間企業等をデザイン学部及び研究科の卒業・修了展に招待する「卒展ツアー」を実施した。3月には、過去の交流に加え、今後も双方協力、発展することを目的に芸術の森キャンパスに隣接する札幌芸術の森と協力協定を調印した。

6) 理事長選考

理事長の任期満了を控え、次期理事長選考を行った。その結果、蓮見孝筑波大学教授が次期理事長に選出された。

7) 認証評価機関(財団法人大学基準協会)による大学基準適合認定の取得

公立大学法人は、6年間の中期目標期間終了後、設立団体による評価委員会の評価を受けることが義務付けられており、その評価の際には認証評価機関による評価結果を踏まえることとなっている。

平成23年度末をもって本学の第1期中期目標期間が終了する時期を迎えるにあたり、これまでの諸活動を自己点検・自己評価した報告書(平成22年度版)及びその関連データを4月に大学基準協会に提出し、認証評価を受審した。この結果、同協会による書面評価、実地調査等の審査を経て、翌年3月に「大学基準協会の大学基準に適合している」旨の認定を受けた。

8) 桑園キャンパス増築

桑園キャンパスではPC教室、ロッカールームならびに図書館の狭隘化が課題となっていたことに伴い、増築を行い、環境改善を行った。

8 行事

前期開始	4月1日
入学式・後援会総会	4月4日
前期ガイダンス	4月4日・5日
前期授業開始	4月5日・6日
前期履修登録期間	4月5日～19日
健康診断	4月28日
第1回オープンキャンパス	6月18日
デザイン学部編入学試験	7月23日
前期定期試験期間	8月2日～8月11日
夏季休業	8月12日～9月7日
看護学部編入学試験	9月10日
助産学専攻科入学試験	9月10日
第2回オープンキャンパス	9月24日
前期終了	9月30日
後期ガイダンス	9月30日
後期開始	10月1日
後期授業開始	10月3日
後期履修登録期間	10月3日～14日
大学院デザイン研究科博士前期課程入学試験	9月17日・18日
大学院看護学研究科博士前期課程入学試験	10月1日
大学祭	10月8日・9日
特別選抜入学試験(推薦入学・社会人)	11月26日
冬季休業	12月23日～1月5日
後期定期試験期間	2月7日～17日
一般選抜入学試験(前期日程)	2月25日
特別選抜入学試験(私費外国人留学生)	2月25日
大学院デザイン研究科博士前期課程入学試験(2次募集)	3月3日
大学院看護学研究科博士前期課程入学試験(2次募集)	3月3日
大学院看護学研究科博士後期課程入学試験	3月3日
大学院デザイン研究科博士後期課程入学試験	3月4日
春季休業	3月6日～30日
一般選抜入学試験(後期日程)	3月12日
卒業式	3月19日
後期終了	3月31日

II 教育活動

1 教育活動概要

「共通教育科目」は、デザインと看護の両学部共通とし、両学部に通ずる「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生が一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化した。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。また、学芸員の資格を取得するために必要となる科目を「自由科目」という区分で開講した。その他、専門教育科目を履修する上で必要となる技術や知識を補完する目的で「日本の研究開発とデザインの役割」、「デザインアイデア発想ワークショップXB法ver.2」といった特別講義を実施した。

デザイン研究科の授業科目は、幅広い視野を身につけ、デザインと看護に通ずる関連領域の基礎的素養を涵養するため、看護学研究科と合同で行う「研究科連携科目」とデザイン分野における高度専門職業人及び研究者・教育者に必要な専門知識・技術、研究方法を修得するための「専門教育科目」の2つに区分し、「専門教育科目」はさらに「基本科目」、「展開科目」、「実践科目」及び「修了研究」の4つの科目群で構成し、学生がデザインの高度かつ専門的な知識・技術を学ぶことができるよう体系化した。

2 共通教育・連携教育

1) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	担当教員
スタートアップ演習	演習 60時間	◎原 俊彦 齋藤 利明 吉田 恵介 ライト デーヴィッド 石田 勝也 片山 めぐみ 小宮 加容子 上田 裕文 須之内 元洋 長谷川 聡 樋之津 淳子 吉川 由希子 櫻井 繭子 星 美和子 村松 真澄 神島 滋子 河村 奈美子 多賀 昌江 鶴木 恭子 照井 レナ
哲学と倫理	講義 30時間	★中島 孝一
体のしくみ	講義 30時間	小宮 加容子
人間関係を考える	講義 30時間	★椿 武愛子
札幌を学ぶ	講義 30時間	原 俊彦
英語 I A	演習 30時間	★大野 拓恵 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語 I B	演習 30時間	町田 佳世子 ★白土 淳子 ★向井 千和子
英語 I C	演習 30時間	★マammadヴァ セヴィンジ ★山田 パトリシア
日本語表現法	演習 30時間	★安永 立子
基礎カウンセリング	演習 30時間	★小坂 守孝
情報リテラシー I (デザイン学部)	演習 30時間	★児玉 潤二郎
情報リテラシー I (看護学部)	演習 30時間	★川島 千明
情報リテラシー II (デザイン学部)	演習 30時間	大淵 一博
情報リテラシー II (看護学部)	演習 30時間	★川島 千明
宗教と思想	講義 30時間	★堀 雅彦
芸術と文化	講義 30時間	★郡田 尚子
心のしくみ	講義 30時間	★藤本 愉
現代社会と家族	講義 30時間	原 俊彦
現代社会と経済	講義 30時間	★近藤 公彦
統計の世界	講義 30時間	原 俊彦
英語 II A	演習 30時間	町田 佳世子 ★大野 拓恵 ★佐川 萌東子 ★清水 香
英語 II B	演習 30時間	松井 美穂 ★白土 淳子 ★向井 千和子
英語 II C	演習 30時間	★マammadヴァ セヴィンジ ★山田 パトリシア
プレゼンテーション	演習 30時間	◎武田 亘明 柿山 浩一郎
対人コミュニケーション	演習 30時間	町田 佳世子
手話	演習 30時間	★高橋 淨
環境を考える	講義 30時間	矢部 和夫

授業科目	授業形態・時数	担当教員
ジェンダーを考える	講義 30時間	松井 美穂
健康とスポーツ	講義 30時間	★布上 恭子
現代社会と国際関係	講義 30時間	★先川 信一郎
ボランティア活動を考える	講義 30時間	★小沼 春日
中国語(デザイン学部)	演習 30時間	★照井 はるみ
ロシア語(デザイン学部)	演習 30時間	★ジダーノワ ナターリア
グループ・ダイナミクス	演習 30時間	★山口 司
実践英語A(デザイン学部)	演習 30時間	松井 美穂
実践英語B(デザイン学部)	演習 30時間	★山田 パトリシア
実践英語A(看護学部)	演習 30時間	町田 佳世子
実践英語B(看護学部)	演習 30時間	★マammadヴァ セヴィンジ
中国語(看護学部)	演習 30時間	★照井 はるみ
ロシア語(看護学部)	演習 30時間	★ジダーノワ ナターリア
教育を考える	講義 30時間	★竹中 健
韓国語	演習 30時間	★松田 由紀

◎印:科目責任者(オムニバス形式等の場合)

★印:非常勤講師

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

3 デザイン学部

1) 平成23年度時間割

① 1年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	情報リテラシーⅡ	デザイン原論	情報リテラシーⅠ	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ～ 12:10	情報リテラシーⅡ	色彩設計論	情報リテラシーⅠ	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC	哲学と倫理
3	13:10 ～ 14:40	デザイン史	造形基礎 実習Ⅰ	英語ⅠA 英語ⅠC 日本語表現法	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC	札幌を学ぶ
4	14:50 ～ 16:20	造形基礎 実習Ⅰ ※2010 年度以降 入学生		表現基礎 実習 ※2010 年度以降 入学生	英語ⅠA 英語ⅠC 日本語表現法	スタートアップ演習
5	16:30 ～ 18:00		リメディアル	リメディアル	基礎カウンセリング 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC	

② 1年後期

		月	火	水	木	金		
1	9:00 ～ 10:30	プログラミングⅠ	デザイン方法論	宗教と思想	工学基礎 ※2010年度以降入学生	手話		
2	10:40 ～ 12:10	プログラミングⅠ	感性科学	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	現代社会と家族	手話		
3	13:10 ～ 14:40	コンピュータ 基礎実習Ⅰ	造形基礎 実習Ⅱ	コンピュータ 基礎実習Ⅰ	造形基礎 実習Ⅱ	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC プレゼンテーション	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	現代社会と経済
4	14:50 ～ 16:20					心のしくみ	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション
5	16:30 ～ 18:00			芸術と文化	統計の世界	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション		

③ 2年前期

		月		火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	デザイン材料 加工実習 I	コンピュータ 基礎実習 II A (3D)	ジェンダーを考える	デザイン法規	デザイン材料 加工実習 I	デザイン解析論
2	10:40 ～ 12:10			環境を考える ロシア語 実践英語B	感性デザイン論		認知科学
3	13:10 ～ 14:40	プログラミング II		ロシア語 実践英語B	コンピュータ基礎実習 II A (3D)	現代芸術論	ユニバーサルデザイン論
4	14:50 ～ 16:20	ヒューマンファクターズ 入門		現代社会と国際関係 健康とスポーツ		創造産業論	設計製図基礎 実践英語A 中国語
5	16:30 ～ 18:00	近現代建築史		グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える		キャリアガイダンス	実践英語A 中国語

④ 2年後期

		月		火	水	木		金
						第1～7.5週	第7.5～15週	
1	9:00 ～ 10:30	広告デザイン 製品造形論		教育を考える	コンピュータグラフィックス	メディア ビジネス	家具・イン テリアデ ザイン	コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)
2	10:40 ～ 12:10	空間デザイン論 製品デザイン論 コンテンツデザイン論 メディアデザイン論		韓国語 情報社会論	ヒューマンファクターズ			
3	13:10 ～ 14:40	博物館概論	視聴覚教育 メディア論	デザイン材料加工実習 II	コンピュータ基礎実習 II B (ムービー)	コンピュータ 基礎実習 II C (CAD)	デザイン材料 加工実習 II	ダイナミックオブジェクトデザイン 空間デザイン史 広告デザイン エコロジーデザイン論 実践英語A
4	14:50 ～ 16:20	デザイン総合実習 I						
5	16:30 ～ 18:00			生涯学習概論	博物館概論	キャリアガイダンス		

⑤ 3年前期

		月	火		水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	博物館実習	学外実習A	学外実習B	メディア文化史	一般構造 コンテンツ制作システム論	物語デザイン論 インタラクティブデザイン
2	10:40 ～ 12:10	博物館実習	アニメーションI		博物館情報論	感性情報学 都市計画論	環境計画論 マルチメディアコンテンツデザイン
3	13:10 ～ 14:40	博物館資料論	プロトタイプシミュレーションI ブランド構築		博物館資料論	建築計画論 製品計画論 出版メディアデザイン	景観デザイン論
4	14:50 ～ 16:20	博物館経営論	知的財産権論				デザイン総合実習II
5	16:30 ～ 18:00					キャリアガイダンス	

⑥ 3年後期

		月	火	水	木		金
1	9:00 ～ 10:30	寒冷地デザイン論	バーチャルリアリティ	インターネットメディアデザイン			
2	10:40 ～ 12:10	観光とデザイン	空間デザイン法規 製品デザイン史 アニメーションII	デジタル映像コンテンツデザイン	建築生産 アートマネジメント論		構造力学 デジタルアーカイブ
3	13:10 ～ 14:40	デジタル映像史		建築講法	構造・材料 実験	メカトロ ニクス	プロトタイプシミュレーションII メディア芸術論
4	14:50 ～ 16:20		学部連携演習	地場産業振興論		感性インタ ラクティブ デザイン	デザイン総合実習III
5	16:30 ～ 18:00			地場産業振興論	キャリアガイダンス		

⑦ 4年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 } 10:30		デジタル音響デザイン			
2	10:40 } 12:10		放送メディアデザイン 建築設備計画		コンテンツ流通技術	ヒューマンケア機器デザイン
3	13:10 } 14:40		住宅論 ネットワークシステムデザイン		デザインマネジメント	ロボテックス
4	14:50 } 16:20		デザイン英語			起業論
5	16:30 } 18:00				キャリアガイダンス	

⑧ 4年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 } 10:30					
2	10:40 } 12:10					
3	13:10 } 14:40					
4	14:50 } 16:20					
5	16:30 } 18:00				キャリアガイダンス	

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成22～23年度の入学生及び平成24年度の編入生に適用

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件
	大区分	中区分			小区分	必修		
共通教育科目	導入科目	小区分	スタートアップ演習	演習	2	2	1年前期	2単位
			文化に対する理解	講義	2	2	1年前期	4単位以上
	哲学と倫理	講義	2	2	1年前期			
	宗教と思想	講義	2	2	1年後期			
	芸術と文化	講義	2	2	1年後期			
	人間に対する理解	小区分	環境を考える	講義	2	2	2年前期	4単位以上
			教育を考える	講義	2	2	2年後期	
			心のしくみ	講義	2	2	1年後期	
			体のしくみ	講義	2	2	1年前期	
	社会に対する理解	小区分	ジェンダーを考える	講義	2	2	2年前期	6単位以上
			人間関係を考える	講義	2	2	1年前期	
			健康とスポーツ	講義	2	2	2年前期	
			現代社会と家族	講義	2	2	1年後期	
	外国語	小区分	現代社会と国際関係	講義	2	2	2年前期	8単位以上
			現代社会と経済	講義	2	2	1年後期	
			札幌を学ぶ	講義	2	2	1年前期	
			ボランティア活動を考える	講義	2	2	2年前期	
			統計の世界	講義	2	2	1年後期	
			英語ⅠA	演習	1	1	1年前期	
			英語ⅠB	演習	1	1	1年前期	
英語ⅠC			演習	1	1	1年前期		
英語ⅡA			演習	1	1	1年後期		
英語ⅡB			演習	1	1	1年後期		
英語ⅡC			演習	1	1	1年後期		
英語ⅡD			演習	1	1	1年後期		
コミュニケーション科目	小区分	基礎カウンセリング	演習	1	1	1年前期	4単位以上	
		対人コミュニケーション	演習	1	1	1年後期		
		グループ・ダイナミクス	演習	1	1	2年前期		
		手話	演習	1	1	1年後期		
		情報リテラシーⅠ	演習	1	1	1年前期		
		情報リテラシーⅡ	演習	1	1	1年前期		

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件			
	大区分	中区分			小区分	必修			選択		
専門教育科目	基本科目	小区分	デザイン原論	講義	2	2	1年前期	16単位以上			
			デザイン史	講義	2	2	1年前期				
			デザイン方法論	講義	2	2	1年後期				
			色彩設計論	講義	2	2	1年前期				
			感性科学	講義	2	2	1年後期				
			工学基礎	講義	2	2	1年後期				
			感性デザイン論	講義	2	2	2年前期				
			ユニバーサルデザイン論	講義	2	2	2年前期				
			創造産業論	講義	2	2	2年前期				
			現代芸術論	講義	2	2	2年前期				
			デザイン解析論	講義	2	2	2年前期				
			ヒューマンファクターズ入門	講義	2	2	2年前期				
			近現代建築史	講義	2	2	2年前期				
			設計製図基礎	演習	2	2	2年前期				
			認知科学	講義	2	2	2年前期				
			デザイン法規	講義	2	2	2年前期				
			エコロジーデザイン論	講義	2	2	2年後期				
			情報社会論	講義	2	2	2年後期				
			造形基礎	小区分	情報社会論	講義	2		2	2年後期	6単位以上
					造形基礎実習Ⅰ	実習	2		2	1年前期	
表現基礎実習	実習	2			2	1年前期					
造形基礎実習Ⅱ	実習	2			2	1年後期					
デザイン材料加工実習Ⅰ	実習	2			2	2年前期					
デザイン材料加工実習Ⅱ	実習	2			2	2年後期					
情報基礎	小区分	コンピュータ基礎実習Ⅰ	実習	2	2	1年後期	8単位以上				
		コンピュータ基礎実習ⅡA(3D)	実習	2	2	2年前期					
		コンピュータ基礎実習ⅡB(ムービー)	実習	2	2	2年後期					
		コンピュータ基礎実習ⅡC(CAD)	実習	2	2	2年後期					
		プログラミングⅠ	演習	2	2	1年後期					
		プログラミングⅡ	演習	2	2	2年前期					

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件
	大区分	中区分			小区分	必修		
専門教育科目	展開科目	小区分	空間デザイン論	講義	2	2	2年後期	展開科目から一つの科目を含め34単位以上を修得
			空間デザイン史	講義	2	2	2年後期	
			景観デザイン論	講義	2	2	3年前期	
			都市計画論	講義	2	2	3年前期	
			空間デザイン法規	講義	2	2	3年後期	
			構造力学	講義+演習	2	2	3年後期	
			建築構法	講義+演習	2	2	3年後期	
			構造・材料実験	実習	2	2	3年後期	
			建築設備計画	講義+演習	2	2	4年前期	
			建築計画論	講義	2	2	3年前期	
			環境計画論	講義	2	2	3年前期	
			家具・インテリアデザイン	講義+演習	2	2	2年後期	
			住宅論	講義	2	2	4年前期	
			製品デザイン論	講義	2	2	2年後期	
			製品デザイン史	講義	2	2	3年後期	
			製品造形論	講義	2	2	2年前期	
			製品計画論	講義	2	2	3年前期	
			感性情報学	講義	2	2	3年前期	
			ヒューマンファクターズ	講義+演習	2	2	2年後期	
			インタラクションデザイン	講義+演習	2	2	3年前期	
			メカトロニクス	講義+演習	2	2	3年後期	
			ロボティクス	講義+演習	2	2	4年前期	
			感性インタラクションデザイン	演習	2	2	3年後期	
			プロトタイプシミュレーションⅠ	演習	2	2	3年前期	
			プロトタイプシミュレーションⅡ	演習	2	2	3年後期	
			ヒューマンケア機器デザイン	演習	2	2	4年前期	
			コンテンツデザイン論	講義	2	2	2年後期	
			デジタル映像史	講義	2	2	3年後期	
			コンテンツ制作システム論	講義	2	2	3年前期	
			物語デザイン論	講義	2	2	3年前期	
			バーチャルリアリティ	講義	2	2	3年後期	
			コンピュータグラフィクス	講義+演習	2	2	2年後期	
			アニメーションⅠ	講義+演習	2	2	3年前期	
			アニメーションⅡ	講義+演習	2	2	3年後期	
			デジタル音響デザイン	講義+演習	2	2	4年前期	
			ダイナミックオブジェクトデザイン	演習	2	2	2年後期	
			マルチメディアコンテンツデザイン	演習	2	2	3年前期	
			デジタル映像コンテンツデザイン	演習	2	2	3年後期	
			ネットワークシステムデザイン	演習	2	2	4年前期	
			メディアデザイン論	講義	2	2	2年後期	
メディア文化史	講義	2	2	3年前期				
知的財産権論	講義	2	2	3年前期				
メディア芸術論	講義	2	2	3年後期				
アートマネジメント論	講義	2	2	3年後期				
広告デザイン	講義+演習	2	2	2年後期				
ブランド構築	講義+演習	2	2	3年前期				
デジタルアーカイブ	講義+演習	2	2	3年後期				
コンテンツ流通技術	講義+演習	2	2	4年前期				
メディアビジネス	演習	2	2	2年後期				
出版メディアデザイン	演習	2	2	3年前期				
インターネットメディアデザイン	演習	2	2	3年後期				
放送メディアデザイン	演習	2	2	4年前期				

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件
	大区分	中区分			小区分	必修		
専門教育科目	展開科目	小区分	一般構造	講義+演習	2	2	3年前期	8単位以上
			寒冷地デザイン論	講義	2	2	3年後期	
			観光とデザイン	演習	2	2	3年後期	
			地産産業振興論	講義	2	2	3年後期	
			建築生産	講義	2	2	3年後期	
			デザインマネジメント	演習	2	2	4年前期	
			起業論	講義	2	2	4年前期	
			デザイン英語	演習	2	2	4年前期	
			構造力学Ⅱ	講義+演習	2	2	4年前期	
			学外実習A(インターンシップ)	実習	2	2	3年集中	
			学外実習B(フィールドスタディ)	実習	2	2	3年集中	
			学部連携	演習	2	2	3年後期	
			デザイン総合実習Ⅰ	実習	2	2	2年後期	
			デザイン総合実習Ⅱ	実習	2	2	3年前期	
			デザイン総合実習Ⅲ	実習	2	2	3年後期	
			卒業研究	演習	6	6	4年	

平成21年度の入学生及び平成23年度の編入生に適用

Table with columns: 区分 (大区分, 中区分, 小区分), 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Includes sections for 共通教育科目 and コミュニケーション科目.

Table with columns: 区分 (大区分, 中区分, 小区分), 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Includes sections for 専門教育科目 (基本科目) and 情報基礎.

Table with columns: 区分 (大区分, 中区分, 小区分), 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Includes sections for 専門教育科目 (展開科目) and メディアデザイン系.

Table with columns: 区分 (大区分, 中区分, 小区分), 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Includes sections for 専門教育科目 (発展科目) and 学際連携.

展開科目から一つの科目を含め34単位以上を修得

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

平成20年度以前の入学生及び平成22年度以前の編入生に適用

Table with 6 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 共通教育科目 and コミュニケーション科目.

Table with 6 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 専門教育科目 (基本科目, 造形基礎, 情報基礎).

Table with 6 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 専門教育科目 (展開科目, コンテンツデザイン系, メディアデザイン系).

Table with 6 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 専門教育科目 (発展科目).

*ただし平成20年度にデザイン学部デザイン学科に入学した学生及び平成22年度にデザイン学部デザイン学科に編入した学生を対象とした配当年次は3年後期とする。

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
(基本科目)	(26)	(14)	(40)
(展開科目)	(-)	(34)	(34)
(発展科目)	(14)	(8)	(22)
合計	53	71	124

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デザイン原論	講義 30時間	◎吉田 恵介 原田 昭 武邑 光裕
デザイン史	講義 30時間	★今村 信隆
色彩設計論	講義 30時間	★中井 和子
造形基礎実習 I	実習 60時間	◎石崎 友紀 ★外崎 由香
表現基礎実習	実習 60時間	◎齋藤 利明 杉 哲夫 片山 めぐみ
デザイン方法論	講義 30時間	酒井 正幸
感性科学	講義 30時間	張 浦華
造形基礎実習 II	実習 60時間	◎上遠野 敏 上田 裕文 須之内 元洋
コンピュータ基礎実習 I	実習 60時間	◎吉田 和夫 ★児玉 潤二郎
プログラミング I	演習 30時間	大淵 一博
工学基礎	講義 30時間	◎斉藤 雅也 細谷 多聞 ★菊池 規雄 ★和田 義則
感性デザイン論	講義 30時間	張 浦華
ユニバーサルデザイン論	講義 30時間	酒井 正幸
創造産業論	講義 30時間	武邑 光裕
現代芸術論	講義 30時間	上遠野 敏
デザイン解析論	講義 30時間	中原 宏
ヒューマンファクターズ入門	講義 30時間	小宮 加容子
デザイン法規	講義 30時間	★津幡 笑
認知科学	講義 30時間	片山 めぐみ
デザイン材料加工実習 I	実習 60時間	◎上遠野 敏 石崎 友紀 齋藤 利明
コンピュータ基礎実習 II A(3D)	実習 60時間	細谷 多聞 ★増田 直也
プログラミング II	演習 30時間	城間 祥之
近現代建築史	講義 30時間	◎羽深 久夫 那須 聖 山田 良 ★池上 重康 ★小澤 丈夫 ★武田 明純 ★中渡 憲彦
設計製図基礎	演習 30時間	◎山田 良 那須 聖

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・時数	担当教員
エコロジーデザイン論	講義 30時間	矢部 和夫
情報社会論	講義 30時間	武田 亘明
デザイン材料加工実習Ⅱ	実習 60時間	◎石崎 友紀 ★川上 理恵
コンピュータ基礎実習Ⅱ B(ムービー)	実習 60時間	望月 澄人 ★田辺 達也
コンピュータ基礎実習Ⅱ C(CAD)	実習 60時間	◎城間 祥之 那須 聖
空間デザイン論	講義 30時間	◎吉田 恵介 那須 聖 山田 良
空間デザイン史	講義 30時間	羽深 久夫
家具・インテリアデザイン	講義 + 演習30時間	◎那須 聖 ★中村 昇 ★長谷川 演
製品デザイン論	講義 30時間	◎長谷川 聡 杉 哲夫
製品造形論	講義 30時間	石崎 友紀
ヒューマンファクターズ	講義 + 演習30時間	小宮 加裕子
コンテンツデザイン論	講義 30時間	◎望月 澄人 城間 祥之 齋藤 利明 細谷 多聞 大淵 一博 福田 大年
コンピュータグラフィクス	講義 + 演習30時間	福田 大年
ダイナミックオブジェクトデザイン	演習 30時間	◎齋藤 利明 城間 祥之
メディアデザイン論	講義 30時間	◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 ライト デーヴィッド 石田 勝也 須之内 元洋
広告デザイン	講義 + 演習30時間	吉田 和夫
メディアビジネス	演習 30時間	ライト デーヴィッド
デザイン総合実習Ⅰ (空間デザインコース)	実習 60時間	◎那須 聖 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 齋藤 雅也 片山 めぐみ 山田 良 上田 裕文
デザイン総合実習Ⅰ (製品デザインコース)	実習 60時間	◎杉 哲夫 石崎 友紀 柿山 浩一郎 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅰ (コンテンツデザインコース)	実習 60時間	◎細谷 多聞 城間 祥之 齋藤 利明 望月 澄人 大淵 一博 福田 大年
デザイン総合実習Ⅰ (メディアデザインコース)	実習 60時間	◎吉田 和夫 上遠野 敏 武田 亘明 ライト デーヴィッド 石田 勝也
生涯学習概論	講義 15時間	★木村 純
景観デザイン論	講義 30時間	◎吉田 恵介 ★中野 美代子 ★三宅 理一
都市計画論	講義 30時間	中原 宏
建築計画論	講義 30時間	那須 聖
環境計画論	講義 30時間	◎齋藤 雅也 矢部 和夫 吉田 恵介
製品計画論	講義 30時間	柿山 浩一郎
感性情報学	講義 30時間	張 浦華
インタラクティブデザイン	講義 + 演習30時間	柿山 浩一郎
プロトタイプシミュレーションⅠ	演習 30時間	三谷 篤史
コンテンツ制作システム論	講義 30時間	福田 大年
物語デザイン論	講義 30時間	望月 澄人

授業科目	授業形態・時数	担当教員
アニメーションⅠ	講義＋演習30時間	望月 澄人
マルチメディアコンテンツデザイン	演習 30時間	細谷 多聞
メディア文化史	講義 30時間	武田 亘明
知的財産権論	講義 30時間	◎★安河内 正文 ★北尾 知道 ★野呂 洋子 ★濱口 英樹 ★林 幹浩 ★武藤 伸樹 ★八代 峰樹
ブランド構築	講義＋演習30時間	武邑 光裕
出版メディアデザイン	演習 30時間	◎吉田 和夫 ★橋 匡子
一般構造	講義＋演習30時間	羽深 久夫
学外実習 A (インターンシップ)	実習 60時間	◎杉 哲夫 武田 亘明 福田 大年 山田 良
学外実習 B (フィールドスタディ)	演習 60時間	◎吉田 和夫 大淵 一博 上田 裕文 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅱ (空間デザインコース)	実習 60時間	◎那須 聖 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 斉藤 雅也 片山 めぐみ 山田 良 上田 裕文
デザイン総合実習Ⅱ (製品デザインコース)	実習 60時間	◎柿山 浩一郎 張 浦華 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅱ (コンテンツデザインコース)	実習 60時間	◎城間 祥之 齋藤 利明
デザイン総合実習Ⅱ (メディアデザインコース)	実習 60時間	◎吉田 和夫 上遠野 敏 須之内 元洋
空間デザイン法規	講義 30時間	★小林 宏
構造力学	講義＋演習30時間	★石丸 修二
建築構法	講義＋演習30時間	★正田 亨
構造・材料実験	実習 60時間	羽深 久夫
製品デザイン史	講義 30時間	杉 哲夫
メカトロニクス	講義＋演習30時間	三谷 篤史
感性インタラクティブデザイン	演習 30時間	◎三谷 篤史 張 浦華
プロトタイプシミュレーションⅡ	演習 30時間	柿山 浩一郎
デジタル映像史	講義 30時間	武邑 光裕
バーチャルリアリティ	講義 30時間	細谷 多聞
アニメーションⅡ	講義＋演習30時間	福田 大年
デジタル映像コンテンツデザイン	演習 30時間	福田 大年
メディア芸術論	講義 30時間	武邑 光裕
アートマネジメント論	講義 30時間	上遠野 敏
デジタルアーカイブ	講義＋演習30時間	須之内 元洋
インターネットメディアデザイン	演習 30時間	須之内 元洋
寒冷地デザイン論	講義 30時間	◎山田 良 斉藤 雅也
観光とデザイン	演習 30時間	◎上田 裕文 ★小野 有五 ★敷田 麻美

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・時数	担当教員
地場産業振興論	講義 30時間	◎★小早川 護 ★内田 純一
建築生産	講義 + 演習30時間	★中村 欣嗣
学部連携演習	演習 60時間	◎杉 哲夫 武邑 光裕 齊藤 雅也 武田 亘明 張 浦華 ライト デーヴィッド 石田 勝也 大淵 一博 片山 めぐみ 山田 良 ◎内田 雅子 定廣 和香子 清水 光子 守村 洋 菊地 ひろみ 杉田 久子 太田 晴美 原井 美佳 淵本 雅昭 三上 智子
デザイン総合実習Ⅲ (空間デザインコース)	実習 60時間	◎山田 良 中原 宏 羽深 久夫 矢部 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 那須 聖 片山 めぐみ
デザイン総合実習Ⅲ (製品デザインコース)	実習 60時間	◎張 浦華 酒井 正幸 石崎 友紀 杉 哲夫 柿山 浩一郎 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
デザイン総合実習Ⅲ (コンテンツデザインコース)	実習 60時間	◎望月 澄人 城間 祥之 齋藤 利明 細谷 多聞 大淵 一博 福田 大年
デザイン総合実習Ⅲ (メディアデザインコース)	実習 60時間	◎武邑 光裕 上遠野 敏 吉田 和夫 武田 亘明 ライト デーヴィッド 石田 勝也 須之内 元洋
建築設備計画	講義 + 演習30時間	齊藤 雅也
住宅論	講義 30時間	山田 良
ロボティクス	講義 + 演習30時間	三谷 篤史
ヒューマンケア機器デザイン	演習 30時間	◎小宮 加容子 杉 哲夫 張 浦華
デジタル音響デザイン	講義 + 演習30時間	◎★久保 壽光 ★伊藤 博之
ネットワークシステムデザイン	演習 30時間	大淵 一博
コンテンツ流通技術	講義 + 演習30時間	石田 勝也
放送メディアデザイン	演習 30時間	ライト デーヴィッド
デザインマネジメント	演習 30時間	杉 哲夫
起業論	講義 30時間	◎★佐々木 信 ★小林 元
デザイン英語	演習 30時間	松井 美穂
卒業研究 (空間デザインコース)	演習 90時間	◎羽深 久夫 中原 宏 矢部 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 那須 聖 山田 良
卒業研究 (製品デザインコース)	演習 90時間	◎石崎 友紀 酒井 正幸 杉 哲夫 張 浦華 柿山 浩一郎 小宮 加容子 三谷 篤史 長谷川 聡
卒業研究 (コンテンツデザインコース)	演習 90時間	◎望月 澄人 城間 祥之 齋藤 利明 細谷 多聞 大淵 一博 福田 大年

授業科目	授業形態・時数	担当教員
卒業研究 (メディアデザインコース)	演習 90時間	◎吉田 和夫 上遠野 敏 武邑 光裕 武田 亘明 ライト デーヴィッド 石田 勝也 須之内 元洋
博物館概論	講義 30時間	◎矢部 和夫 ★奥岡 茂雄 ★佐々木 亨 ★山田 悟郎
視聴覚教育メディア論	講義 15時間	武田 亘明
博物館経営論	講義 15時間	◎矢部 和夫 ★佐々木 亨 ★佐藤 幸宏
博物館資料論	講義 30時間	◎★古沢 仁 ★亀谷 隆 ★佐藤 幸宏
博物館情報論	講義 15時間	武邑 光裕
博物館実習	実習 90時間	◎矢部 和夫 ★石井 淳 ★佐藤 幸宏 ★吉崎 元章

◎印:科目責任者(オムニバス形式等の場合)

★印:非常勤講師

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

4 看護学部

1) 平成23年度時間割

① 1年前期

		月		火	水	木	金
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)				
1	9:00 ~ 10:30				情報リテラシー I	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40 ~ 12:10			看護観察技術論	情報リテラシー I	英語 I A 英語 I B 英語 I C	哲学と倫理
3	13:10 ~ 14:40	形態機能学 I			英語 I A 英語 I C 日本語表現法	英語 I A 英語 I B 英語 I C	札幌を学ぶ
4	14:50 ~ 16:20	形態機能学 I			英語 I A 英語 I C 日本語表現法	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C
5	16:30 ~ 18:00	看護学原論	地域保健学 概論	人間発達援助論			基礎カウンセリング 英語 I A 英語 I B 英語 I C

※集中講義：看護初期実習 6/6(月)~6/10(金)

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

② 1年後期

		月		火		水	木	金
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)			
1	9:00 ~ 10:30	病理病態学		薬理学	看護過程論	芸術と文化		情報リテラシー II 手話
2	10:40 ~ 12:10	病理病態学		看護理論	看護過程論	英語 II A 英語 II B 英語 II C プレゼンテーション	現代社会と家族	情報リテラシー II 手話
3	13:10 ~ 14:40	基礎看護技術論		形態機能学 II		英語 II A 英語 II B 英語 II C プレゼンテーション	英語 II A 英語 II B 英語 II C	現代社会と経済
4	14:50 ~ 16:20	基礎看護技術論		形態機能学 II		心のしくみ	英語 II A 英語 II B 英語 II C	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション
5	16:30 ~ 18:00			感染予防論		宗教と思想	統計の世界	英語 II A 英語 II B 英語 II C 対人コミュニケーション

※集中講義：基礎看護学臨地実習 I 10/17(月)~10/21(金)

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

③ 2年前期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30	精神看護学 概論	人間工学	ジェンダーを考える	生命科学		成人看護学 概論	家族社会学	老年看護学概論	
2	10:40 ~ 12:10	疾病治療学B		環境を考える 実践英語A 実践英語B	医療情報		疾病治療学概論		臨床栄養学	
3	13:10 ~ 14:40	公衆衛生学	成人看護 援助論	実践英語A 実践英語B	生命倫理	環境保健		社会福祉学	症状マネジメント論	
4	14:50 ~ 16:20	公衆衛生学	成人看護 援助論	現代社会と国際関係 健康とスポーツ	疾病治療学A			社会福祉学	症状マネジメント論	
5	16:30 ~ 18:00			グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える						

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅱ 5/23(月)～6/3(金)

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

④ 2年後期

		月		火	水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30	在宅看護学 概論	精神看護 援助論	教育を考える	臨床心理学		臨床薬理学		援助的 人間関係論	在宅看護 援助論
2	10:40 ~ 12:10	母性看護学 概論	精神看護 援助論	実践英語B			小児看護学 概論	看護倫理学	援助的 人間関係論	在宅看護 援助論
3	13:10 ~ 14:40	感染管理論		中国語 ロシア語	疾病治療学C		老年看護 援助論	がん看護学		
4	14:50 ~ 16:20			中国語 ロシア語	韓国語		老年看護 援助論	がん看護学		
5	16:30 ~ 18:00						チーム 医療論			

※集中講義：成人看護臨地実習Ⅰ 10/24(月)～11/11(金)

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

⑤ 3年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	認知症ケア		小児看護 援助論		在宅看護 技術論		リハビリ テーショ ン看護学		保健統計	
2	10:40 ～ 12:10	認知症ケア		小児看護 援助論		在宅看護 技術論		リハビリ テーショ ン看護学		保健統計	
3	13:10 ～ 14:40	成人看護 技術論		母性看護 援助論				地域看護 学概論		精神看護 技術論	
4	14:50 ～ 16:20	成人看護 技術論		母性看護 援助論				保健医療福祉 制度論		精神看護 技術論	
5	16:30 ～ 18:00							保健医療福祉 制度論			

※集中講義：老年看護学臨地実習Ⅰ 5/9(月)～5/13(金)

成人看護学臨地実習Ⅱ、精神看護学臨地実習、在宅看護学臨地実習 6/20(月)～7/29(金)

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。

⑥ 3年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)	前半 (第1～7.5週)	後半 (第7.5～15週)
1	9:00 ～ 10:30	研究方法論		健康教育 指導法		看護教育学		地域看護 援助論		小児看護 技術論	
2	10:40 ～ 12:10	研究方法論		健康教育 指導法		透析ケア		地域看護 援助論		小児看護 技術論	
3	13:10 ～ 14:40	重症集中 ケア						母性看護 技術論		救急 看護学	
4	14:50 ～ 16:20	地域看護 援助論		学部連携演習 ※一部集中で開講します。				母性看護 技術論		老年看護 技術論	
5	16:30 ～ 18:00	地域看護 援助論						放射線医療 管理論		老年看護 技術論	

※集中講義：母性看護学臨地実習、小児看護学臨地実習、老年看護学臨地実習Ⅱ 11/21(月)～12/16(金)、1/16(月)～1/27(金)

母性看護学臨地実習の一部 12/19(月)～12/22(金)、1/30(月)～2/3(金)

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合があります。

⑦ 4年前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 } 10:30	国際保健学		パリアティブケア		看護管理学				ヘルスプロモーション活動論	
2	10:40 } 12:10	現代専門職論		災害看護学		看護管理学				ヘルスプロモーション活動論	
3	13:10 } 14:40	地域看護技術論		医療経営学		看護情報学		卒業研究		医療安全管理論	
4	14:50 } 16:20	地域看護技術論		寒冷地医療				卒業研究		ペリネタルケア	
5	16:30 } 18:00			国際看護学							

※集中講義：地域看護学臨地実習 6/13（月）～7/22（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

⑧ 4年後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 } 10:30										
2	10:40 } 12:10										
3	13:10 } 14:40							卒業研究			
4	14:50 } 16:20							卒業研究			
5	16:30 } 18:00										

※集中講義：ヘルスケアマネジメント実習 9/26（月）～10/14（金）

※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

平成21年度以降の入学生及び平成23年度以降の編入学生に適用

Table with 7 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 共通教育科目 like 'スタートアップ演習', '哲学と倫理', '文化に対する理解'.

Table with 7 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 共通教育科目 like '英語 I A', '英語 I B', '英語 I C'.

Table with 7 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 専門教育科目 like '形態機能学 I', '形態機能学 II', '生命科学'.

Table with 7 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 専門教育科目 like '看護学原論', '看護理論', 'ヒューマンケアの基本'.

Table with 7 columns: 区分, 大区分, 中区分, 小区分, 授業科目の名称, 授業形態, 単位数 (必修, 選択), 配当年次, 卒業要件. Rows include 専門教育科目 like '地域看護学概論', '地域看護援助論', 'コミュニケーションに関するもの'.

平成18～20年度の入学生及び平成20～22年度の編入学生に適用

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件	
	大区分	中区分			小区分	必修			選択
共通教育科目	専入科目		スタートアップ演習	演習	2		1年前期	2単位	
		文化に対する理解		哲学と倫理	講義	2		1年前期	4単位以上
				宗教と思想	講義	2		1年後期	
			芸術と文化	講義	2		1年後期		
			環境を考える	講義	2		2年前期		
			教育を考える	講義	2		2年後期		
	人間に対する理解		心のしくみ	講義	2		1年後期	4単位以上	
			体のしくみ	講義	2		1年前期		
			ジェンダーを考える	講義	2		2年前期		
			人間関係を考える	講義	2		1年前期		
			健康とスポーツ	講義	2		2年前期		
	社会に対する理解		現代社会と家族	講義	2		1年後期	6単位以上	
			現代社会と国際関係	講義	2		2年前期		
			現代社会と経済	講義	2		1年後期		
			礼儀を学ぶ	講義	2		1年前期		
		ボランティア活動を考える	講義	2		2年前期			
	統計の世界	講義	2		1年後期				

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件		
	大区分	中区分			小区分	必修			選択	
共通教育科目	外国語	英語	英語 I A	演習	1		1年前期	8単位以上		
			英語 I B	演習	1		1年前期			
			英語 I C	演習	1		1年前期			
			英語 II A	演習	1		1年後期			
			英語 II B	演習	1		1年後期			
			英語 II C	演習	1		1年後期			
			実践英語A	演習	1		2年前期			
			実践英語B	演習	1		2年前期-後期			
			韓国語	演習	1		2年後期			
		中国語	演習	1		2年後期				
		ロシア語	演習	1		2年後期				
		コミュニケーション・情報技術	日本語表現	日本語表現法	演習	1			1年前期	4単位以上
				プレゼンテーション	演習	1			1年前期	
				基礎カウンセリング	演習	1			1年前期	
			コミュニケーション・情報技術	対人コミュニケーション	演習	1			1年前期	
	グループ・ダイナミックス			演習	1		2年前期			
	手話			演習	1		1年後期			
		情報リテラシー I	演習	1		1年前期				
		情報リテラシー II	演習	1		1年後期				

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件	
	大区分	中区分			小区分	必修			選択
専門教育科目	専門基礎科目	人間と生命	形態機能学 I	演習	2		1年前期	5単位以上	
			形態機能学 II	演習	2		1年後期		
			生命科学	講義	1		2年前期		
			生命倫理	講義	1		2年前期		
			環境保健	講義	1		2年前期		
		健康と健康増進と予防	人間工学	講義	1		2年前期		10単位
			薬理学	講義	1		1年後期		
			臨床薬理学	演習	1		2年後期		
			臨床栄養学	演習	1		2年前期		
			病理形態学	演習	2		1年後期		
		保健と医療と福祉	疾病治療学概論	演習	1		2年前期		6単位以上
			疾病治療学A	演習	1		2年前期		
			疾病治療学B	演習	1		2年前期		
			疾病治療学C	演習	1		2年後期		
			感染予防論	講義	1		1年後期		
	公衆衛生学		講義	1		2年前期			
	保健と医療と福祉	社会福祉学	講義	1		2年前期	6単位以上		
		家族社会学	講義	1		2年前期			
		チーム医療論	講義	1		2年後期			
		感染管理論	講義	1		2年後期			
		臨床心理学	講義	1		2年後期			
地球保健学概論		講義	1		1年前期				
保健と医療と福祉	保健医療福祉制度論	演習	1		3年前期	6単位以上			
	保健統計	演習	1		3年前期				
	医療情報	演習	1		2年前期				

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件		
	大区分	中区分			小区分	必修			選択	
専門教育科目	看護の基礎となるもの	看護の基礎となるもの	看護学原論	講義	1		1年前期	7単位		
			看護理論	講義	1		1年後期			
			援助的人間関係論	演習	1		2年後期			
			人間発達援助論	演習	1		1年後期			
			看護初期実習	実習	1		1年前期			
			看護倫理学	講義	1		2年後期			
			健康教育指導法	演習	1		3年後期			
			看護過程論	演習	1		1年後期			
			看護観察技術論	演習	1		1年前期			
			看護の基本的展開	症状マネジメント論	演習	2			2年前期	10単位
			基礎看護技術論	演習	2		1年後期			
			基礎看護学臨床実習 I	実習	1		1年後期			
			基礎看護学臨床実習 II	実習	2		2年前期			
			研究方法论	演習	1		3年後期			
			小児	小児看護学概論	講義	1			2年後期	5単位
	小児看護援助論	演習		1		3年前期				
	小児看護技術論	演習		1		3年後期				
	小児看護学臨床実習	実習		2		3年後期				
	母性看護学概論	講義		1		2年後期				
	健康レベルに 応じて生活を 援助するもの	母性看護援助論	演習	1		3年前期	5単位			
		母性看護技術論	演習	1		3年後期				
		母性看護学臨床実習	実習	2		3年後期				
		成人看護学概論	講義	1		2年前期				
		成人看護援助論	演習	1		2年前期				
	成人	成人看護技術論	演習	1		2年前期	8単位			
		成人看護学臨床実習 I	実習	3		2年前期				
		成人看護学臨床実習 II	実習	2		2年前期				
		老年看護学概論	講義	1		2年前期				
		老年看護援助論	演習	1		2年後期				
	老年	老年看護技術論	演習	1		3年後期	6単位			
		老年看護学臨床実習 I	実習	1		3年前期				
		老年看護学臨床実習 II	実習	2		3年後期				
		精神看護学概論	講義	1		2年前期		5単位		
		精神看護援助論	演習	1		2年後期				
	精神看護技術論	演習	1		3年前期					
	精神看護学臨床実習	実習	2		3年前期					
	在宅看護学概論	講義	1		2年後期	5単位				
	在宅看護援助論	演習	1		2年後期					
	在宅看護技術論	演習	1		3年前期					
	在宅看護学臨床実習	実習	2		3年前期					
	リハビリテーション看護学	演習	1		2年前期					
	健康問題への対応	がん看護学	演習	1		2年後期	5単位以上			
		認知症ケア	講義	1		3年前期				
		透析ケア	講義	1		3年後期				
		重症集中ケア	講義	1		3年後期				
救急看護学		講義	1		3年前期					
放射線医療管理論		講義	1		3年後期					
ペリネタルケア		講義	1		4年前期					
パリアティブケア		講義	1		4年前期					
寒冷地医療		講義	1		4年前期					

区分	区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		配当年次	卒業要件
	大区分	中区分			小区分	必修		
専門教育科目	コミュニティケアに関するもの	コミュニティケアに関するもの	地域看護学概論	講義	1		3年前期	8単位
			地域看護援助論	演習	2		3年後期	
			地域看護技術論	演習	1		4年前期	
			ヘルスプロモーション活動論	演習	1		4年前期	
			地域看護学臨床実習	実習	3		4年前期	
			看護教育学	演習	1		4年前期	
			卒業研究	演習	4		4年	
			ヘルスケアマネジメント実習	実習	3		4年後期	
			看護情報学	講義	1		4年前期	
			災害看護学	講義	1		4年前期	
	発展・統合に関するもの	国際看護学	講義	1		4年前期	11単位以上	
		国際保健学	講義	1		4年前期		
		医療経営学	講義	1		4年前期		
		医療安全管理論	講義	1		4年前期		
		現代専門職論	講義	1		4年前期		
学部連携	学部連携演習	演習	2		3年後期	2単位		

② 卒業要件

※平成18～20年度(編入学生は20～22年度)入学生

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	92	6	98
(専門基礎科目)	(19)	(2)	(21)
(専門科目)	(73)	(4)	(77)
合計	104	22	126

※平成21年度(編入学生は23年度)以降入学生

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	12	16	28
専門教育科目	94	6	100
(専門基礎科目)	(20)	(2)	(22)
(専門科目)	(74)	(4)	(78)
合計	106	22	128

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数		担当教員			
形態機能学Ⅰ	演習	60時間	★高野 廣子			
地域保健学概論	講義	15時間	清水 光子			
看護学原論	講義	15時間	◎定廣 和香子 河野 總子			
看護初期実習	実習	45時間	◎守村 洋 大野 夏代 清水 光子 吉川 由希子 菊地 ひろみ 櫻井 繭子 菅原 美樹 杉田 久子 田中 広美 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 渡邊 由加利			
看護観察技術論	演習	30時間	◎大野 夏代 杉田 久子 田中 広美 星 美和子 鶴木 恭子 檜山 明子			
人間発達援助論	演習	30時間	◎内田 雅子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則			
形態機能学Ⅱ	演習	60時間	★高野 廣子			
薬理学	講義	15時間	★富樫 廣子			
病理病態学	演習	60時間	★小林 正伸			
感染予防論	講義	15時間	富樫 武弘			
看護理論	講義	15時間	定廣 和香子			
看護過程論	演習	30時間	◎大野 夏代 杉田 久子 田中 広美 鶴木 恭子 檜山 明子			
基礎看護技術論	演習	60時間	◎田中 広美 樋之津 淳子 大野 夏代 杉田 久子 鶴木 恭子 檜山 明子			

授業科目	授業形態・時数	担当教員
基礎看護学臨地実習 I	実習 45時間	◎杉田 久子 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 田中 広美 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 工藤 京子 鶴木 恭子 照井 レナ 原井 美佳 測本 雅昭 三上 智子 田仲 里江 檜山 明子
生命科学	講義 15時間	★山田 恵子
生命倫理	講義 15時間	★村上 友一
環境保健	講義 15時間	★齋藤 健
人間工学	講義 15時間	◎樋之津 淳子 ★佐藤 秀一
臨床栄養学	演習 30時間	★高野 良子
疾病治療学概論	演習 30時間	◎★福島 直樹 ★真尾 秀樹
疾病治療学A	演習 30時間	◎★柳澤 克之 ★福田 洋之 ★本村 文宏
疾病治療学B	演習 30時間	★向井 正也
公衆衛生学	演習 30時間	★池野 多美子
社会福祉学	講義 15時間	★大内 高雄
家族社会学	講義 15時間	◎原 俊彦 吉川 由希子
医療情報	演習 30時間	★小笠原 克彦
症状マネジメント論	演習 60時間	◎菅原 美樹 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 神島 滋子 工藤 京子 測本 雅昭
基礎看護学臨地実習 II	実習 90時間	◎田中 広美 定廣 和香子 樋之津 淳子 大野 夏代 杉田 久子 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 工藤 京子 鶴木 恭子 照井 レナ 原井 美佳 測本 雅昭 三上 智子 田仲 里江 檜山 明子
成人看護学概論	講義 15時間	◎内田 雅子 中村 恵子
成人看護援助論	講義 30時間	◎菅原 美樹 内田 雅子 藤井 瑞恵 神島 滋子 工藤 京子 測本 雅昭
老年看護学概論	講義 15時間	坂倉 恵美子
精神看護学概論	講義 15時間	山本 勝則
臨床薬理学	演習 30時間	★唯野 貢司
疾病治療学C	演習 30時間	★三澤 一仁
チーム医療論	講義 15時間	◎河野 總子 星 美和子 太田 晴美
感染管理論	講義 15時間	◎スーディ神崎 和代 ★石角 鈴華
臨床心理学	講義 15時間	◎山本 勝則 ★菊池 浩光
援助の人間関係論	演習 30時間	◎守村 洋 山本 勝則 杉田 久子 藤井 瑞恵
看護倫理学	講義 15時間	宮崎 みち子
小児看護学概論	講義 15時間	松浦 和代
母性看護学概論	講義 15時間	宮崎 みち子
成人看護学臨地実習 I	実習 135時間	◎藤井 瑞恵 内田 雅子 菅原 美樹 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 工藤 京子 鶴木 恭子 照井 レナ 原井 美佳 測本 雅昭 三上 智子 田仲 里江 檜山 明子

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

授業科目	授業形態・時数	担当教員
老年看護援助論	演習 30時間	◎村松 真澄 坂倉 恵美子 原井 美佳 ★川人 由美子
精神看護援助論	演習 30時間	◎守村 洋 河村 奈美子 ★安田 素次
在宅看護学概論	講義 15時間	スーディ神崎 和代
在宅看護援助論	演習 30時間	◎菊地 ひろみ スーディ神崎 和代 照井 レナ ★工藤 和子 ★石崎 剛
がん看護学	演習 30時間	◎樋之津 淳子 松浦 和代 村松 真澄 ★松山 茂子
保健医療福祉制度論	演習 30時間	◎★館石 宗隆 清水 光子
保健統計	演習 30時間	◎★片倉 洋子 ★榎 洋一
小児看護援助論	演習 30時間	◎吉川 由希子 三上 智子 富樫 武弘
母性看護援助論	演習 30時間	◎山本 真由美 多賀 昌江 ★内田 亜紀子
成人看護技術論	演習 30時間	◎藤井 瑞恵 菅原 美樹 神島 滋子 工藤 京子 測本 雅昭
成人看護学臨地実習Ⅱ	実習 90時間	◎菅原 美樹 内田 雅子 藤井 瑞恵 神島 滋子 工藤 京子 測本 雅昭
老年看護学臨地実習Ⅰ	実習 45時間	◎原井 美佳 坂倉 恵美子 村松 真澄
精神看護技術論	演習 30時間	◎河村 奈美子 山本 勝則 守村 洋
精神看護学臨地実習	実習 90時間	◎守村 洋 河村 奈美子
在宅看護技術論	演習 30時間	◎照井 レナ スーディ神崎 和代 菊地 ひろみ
在宅看護学臨地実習	実習 90時間	◎菊地 ひろみ スーディ神崎 和代 照井 レナ
リハビリテーション看護学	演習 30時間	◎神島 滋子 ★石鍋 圭子 ★奥宮 暁子 ★表 亮介 ★平山 光久
認知症ケア	演習 30時間	スーディ神崎 和代
地域看護学概論	講義 15時間	清水 光子
健康教育指導法	演習 30時間	◎櫻井 繭子 清水 光子
研究方法論	演習 30時間	◎内田 雅子 樋之津 淳子 松浦 和代
小児看護技術論	演習 30時間	◎三上 智子 松浦 和代 吉川 由希子
小児看護学臨地実習	実習 90時間	◎吉川 由希子 松浦 和代 三上 智子
母性看護技術論	演習 30時間	◎多賀 昌江 山内 まゆみ 山本 真由美
母性看護学臨地実習	実習 90時間	◎山本 真由美 宮崎 みち子 山内 まゆみ 多賀 昌江
老年看護技術論	演習 30時間	◎村松 真澄 原井 美佳
老年看護学臨地実習Ⅱ	実習 90時間	◎村松 真澄 坂倉 恵美子 原井 美佳
透析ケア	講義 15時間	◎内田 雅子 ★城下 弘 ★佐藤 奈津子
重症集中ケア	講義 15時間	◎菅原 美樹 中村 恵子 測本 雅昭 ★小山 昭人
救急看護学	講義 15時間	◎測本 雅昭 中村 恵子 菅原 美樹 ★三上 剛人
放射線医療管理論	講義 15時間	◎★池田 光 ★宮崎 知保子
地域看護援助論	演習 60時間	◎清水 光子 櫻井 繭子
看護教育学	講義 15時間	◎定廣 和香子 田中 広美

授業科目	授業形態・時数	担当教員
学部連携演習	演習 60時間	◎内田 雅子 定廣 和香子 清水 光子 守村 洋 菊地 ひろみ 杉田 久子 太田 晴美 原井 美佳 洲本 雅昭 三上 智子 ◎杉 哲夫 武邑 光裕 武田 亘明 張 浦華 ライト デーヴィット 石田 勝也 大洲 一博 斉藤 雅也 山田 良 片山 めぐみ
地域看護技術論	演習 30時間	◎櫻井 繭子 清水 光子
ヘルスプロモーション活動論	演習 30時間	◎清水 光子 櫻井 繭子
地域看護学臨地実習	実習 135時間	◎櫻井 繭子 清水 光子 田仲 里江
ペリネイタルケア	講義 15時間	◎三上 智子 吉川 由希子 多賀 昌江
パリアティブケア	講義 15時間	◎菊地 ひろみ ★石垣 靖子 ★松山 茂子 ★武藤 記代子
寒冷地医療	講義 15時間	◎坂倉 恵美子 ★前沢 政次
看護管理学	演習 30時間	◎河野 總子 星 美和子 太田 晴美
看護情報学	講義 15時間	★佐藤 ひとみ
災害看護学	講義 15時間	◎太田 晴美 ★浅井 康文
国際看護学	講義 15時間	◎大野 夏代 スーディ神崎 和代
国際保健学	講義 15時間	★玉城 英彦
医療経営学	講義 15時間	◎河野 總子 スーディ神崎 和代
医療安全管理論	講義 15時間	◎河野 總子 ★阿部 順子
現代専門職論	講義 15時間	◎山本 勝則 中村 恵子
ヘルスケアマネジメント実習	実習 135時間	◎星 美和子 河野 總子 大野 夏代 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 菅原 美樹 杉田 久子 田中 広美 藤井 瑞恵 村松 真澄 山本 真由美 太田 晴美
卒業研究	演習 120時間	◎樋之津 淳子 内田 雅子 河野 總子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ神崎 和代 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 清水 光子 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 櫻井 繭子 菅原 美樹 杉田 久子 田中 広美 藤井 瑞恵 星 美和子 村松 真澄 山本 真由美 太田 晴美 神島 滋子 河村 奈美子 工藤 京子 多賀 昌江 鶴木 恭子 照井 レナ 原井 美佳 洲本 雅昭 三上 智子

◎印:科目責任者(オムニバス形式等の場合)

★印:非常勤講師

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

4) 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成23年6月6日～10日	医療機関	82名
		障がい児通園施設	29名
		老人福祉センター	65名
		地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所	18名
		保健所・保健センター	39名
		その他	10名
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成23年10月17日～21日	医療機関	328名
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成23年5月23日～6月3日	医療機関	738名
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成23年10月24日～11月11日	医療機関	1,053名
老年看護学臨地実習Ⅰ	平成23年5月9日～13日	老人福祉センター	243名
成人看護学臨地実習Ⅱ	平成23年6月20日～7月29日	医療機関	793名
精神看護学臨地実習	平成23年6月20日～7月29日	医療機関	702名
在宅看護学臨地実習	平成23年6月20日～7月29日	医療機関	48名
		訪問看護ステーション	270名
		地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所	299名
母性看護学臨地実習	平成23年11月21日～12月22日 平成24年1月16日～2月3日	医療機関	696名
小児看護学臨地実習	平成23年11月21日～12月16日 平成24年1月16日～27日	医療機関	485名
		保育所	229名
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成23年11月21日～12月16日 平成24年1月16日～27日	医療機関	380名
		介護老人保健施設	166名
地域看護学臨地実習	平成23年6月13日～7月22日	保健所・保健センター	890名
		事業所	89名
ヘルスケアマネジメント実習	平成23年9月26日～10月14日	医療機関	1,053名
		介護老人保健施設	91名
		事業所	89名

5) 大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）

「学社連携による循環型就業力育成プログラム」平成23年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成23年4月25日	ポートフォリオ学年別説明会(2年次対象)を実施。
平成23年5月17日	看護学部FD研修会「ポートフォリオの実践的活用方法を習得する(講師:千葉大学教育学部特命教授 鈴木敏恵氏)」を実施。(参加者33名)
平成23年5月24日	ポートフォリオ学年別説明会(1年次対象)を実施。
平成23年6月2日	ポートフォリオ学年別説明会(3年次対象)を実施。
平成23年6月8日	ポートフォリオ学年別説明会(4年次対象)を実施。
平成23年7月7日	第1回シャトル研修「お元気ですか?へこんでいませんか?」(東京)を実施。(参加者10名)
平成23年7月8日	第1回シャトル研修「お元気ですか?へこんでいませんか?」(札幌)を実施。(参加者25名)
平成23年7月20日	看護学部FD研修会「第1回シャトル研修報告会(講師:シャトル研修班)」を実施。(参加者26名)
平成23年7月20日	看護学部FD研修会「進路指導の基本(講師:北海道大学キャリアセンター 今寛子氏)」を実施。(参加者29名)
平成23年8月3日・10日	看護学部FD研修会「本学におけるポートフォリオの展開方法について(講師:ポートフォリオ班)」を実施。(参加者30名)
平成23年9月24日	就業力スキルアップセミナー(特別講演会)「国際的な看護活動から日本の看護の発展を観る(講師:高知県立大学学長 南裕子氏)」を実施。(参加者82名)
平成23年9月29日	特別講義「今から役立つ社会人基礎力(講師:株式会社マイナビ高橋清子氏)」を実施。(参加者76名)
平成23年9月30日	ポートフォリオ1・2年生合同グループワークを実施。(参加者93名)
平成23年10月12日	SCU看護キャリアデータベースオリエンテーション(2年次対象)を実施。(参加者73名)
平成23年10月19日	ポートフォリオ3・4年生合同グループワークを実施。(参加者25名)
平成23年10月19日	SCU看護キャリアデータベースオリエンテーション(3・4年次対象)を実施。(参加者28名)
平成23年10月21日	SCU看護キャリアデータベースオリエンテーション(1年次対象)を実施。(参加者80名)
平成23年10月24日	SCU看護キャリアデータベースオリエンテーション(助産学専攻科)を実施。(参加者9名)
平成23年11月17日	第2回シャトル研修「若手看護職員のためのキャリアアップ」(札幌)を実施。(参加者41名)
平成23年11月18日	第2回シャトル研修「若手看護職員のためのキャリアアップ」(東京)を実施。(参加者22名)
平成24年2月24日	特別講義「就職活動に必要な対応を学ぶ(講師:株式会社マイナビ高橋清子氏)」を実施。(参加者77名)
平成24年2月27日 ～3月13日	卒業生向け「就業前スキルアップトレーニング」を実施。(延べ83名参加)
平成24年3月6日	看護学部FD研修会「看護学部ラーニング・ポートフォリオの次年度の方向性と進め方(講師:ポートフォリオ班)」を実施。(参加者19名)
平成24年3月8日	「看護職キャリア形成支援に関する意見交換会」(札幌)を実施。(参加者29名)
平成24年3月9日	「看護職キャリア形成支援に関する意見交換会」(東京)を実施。(参加者16名)
平成24年3月13日	特別講義「人間関係づくりの第一歩プリセプターとの関係性の構築」(講師:本学卒業生2名)」を実施。(参加者27名)
平成24年3月22日	平成23年度成果報告会を実施。(参加者62名)

本事業は平成22年度から平成26年度まで5年間の予定だったが、平成23年度限りで事業廃止となった。

5 デザイン研究科

1) 平成23年度時間割

① 前期

		月	火	水	木		金	土
		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス		芸森キャンパス	桑園キャンパス
		修士1年生	修士1年生	修士1年生	修士1年生	修士2年生	修士1年生	修士1年生
1	9:00 ～ 10:30							国際関係特論
2	10:40 ～ 12:10		建築計画特論					コミュニケーション特論
3	13:10 ～ 14:40	デザイン研究法						少子高齢社会特論
4	14:50 ～ 16:20		インターンシップI (事前講義)	建築構造 デザイン特論	地域創成 デザイン セミナーA	インタラクション デザイン特論	デザイン マネジメント 特論	連携 プロジェクト 演習
			インターンシップII (事前講義)					
5	16:30 ～ 18:00	メカトロニクス 特論	製品造形特論		形状情報処理特論			
			ビジュアル デザイン特論					
6	18:10 ～ 19:40		デザイン特論			地域プロジェクト 演習	景観デザイン 特論	
7	19:50 ～ 21:20			メディアプロ デュース特論				

② 後期

		月	火	水	木	金	土
		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	桑園キャンパス
		修士1年生	修士1年生	修士1年生	修士1年生	修士1年生	修士1年生
1	9:00 ～ 10:30		建築環境学特論				健康福祉政策特論
2	10:40 ～ 12:10					製品評価特論 造形表現特論	地域経済政策特論
3	13:10 ～ 14:40	地域環境評価特論			インタフェース デザイン特論 映像デザイン特論		ヒューマニティ特論
4	14:50 ～ 16:20	日本建築史特論				地域創成デザイン セミナーB	連携プロジェクト 演習
5	16:30 ～ 18:00			地域ブランド構築特論			
6	18:10 ～ 19:40	現代芸術特論					

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区 分	授業科目の名称	授業 形態	単位数			配当年次	修了要件	
			必修	選択	自由			
研究科連携科目	国際関係特論	講義	2			1・2 前期	4単位以上	
	少子高齢社会特論	講義	2			1・2 前期		
	健康福祉政策特論	講義	2			1・2 後期		
	地域経済政策特論	講義	2			1・2 後期		
	ヒューマンディ特論	講義	2			1・2 後期		
	コミュニケーション特論	講義	2			1・2 前期		
	連携プロジェクト演習	演習	2			1 通年		
専攻教育科目	基本科目	デザイン特論	講義	2		1 前期	4単位以上 (必修2単位 を含む)	
		デザイン研究法	講義	2		1 前期		
		デザインマネジメント特論	講義	2		1 前期		
	展開科目	建築計画特論 ※	講義	2			1・2 前期	12単位以上 (必修2単位 を含む)
		建築環境学特論 ※	講義	2			1・2 後期	
		建築構造デザイン特論 ※	講義	2			1・2 前期	
		日本建築史特論	講義	2			1・2 後期	
		景観デザイン特論	講義	2			1・2 前期	
		地域環境評価特論	講義	2			1・2 後期	
		環境共生デザイン特論	講義	2			1・2 前期	
		環境マネジメント特論	講義	2			1・2 後期	
		製品造形特論	講義	2			1・2 前期	
		製品評価特論	講義	2			1・2 後期	
		メカトロニクス特論	講義	2			1・2 前期	
		インタフェースデザイン特論	講義	2			1・2 後期	
		インタラクションデザイン特論	講義	2			1・2 前期	
		形状情報処理特論	講義	2			1・2 前期	
		造形表現特論	講義	2			1・2 後期	
		映像デザイン特論	講義	2			1・2 後期	
		ビジュアルデザイン特論	講義	2			1・2 前期	
	現代芸術特論	講義	2			1・2 後期		
	メディアプロデュース特論	講義	2			1・2 前期		
	地域ブランド構築特論	講義	2			1・2 後期		
デザイン特別演習 ※	演習	2			1 前・後			
実践科目	地域プロジェクト演習 ※	演習	2			2 前期	4単位以上 (必修2単位 を含む)	
	地域創成デザイン特別セミナーA	演習	2			1・2 前期		
	地域創成デザイン特別セミナーB	演習	2			1・2 後期		
	インターンシップⅠ ※	実習	2			1・2 集中		
	インターンシップⅡ ※	実習	4			1・2 集中		
修了研究	特別研究	演習	6			1～2 通年	6単位	

※は、一級建築士受験資格取得にかかる実務経験1年に相当する科目

② 修了要件

科目区分		修了要件	
研究科連携科目		4単位以上	
専門教育科目	基本科目	4単位以上	
	展開科目	空間デザイン分野 製品デザイン分野 コンテンツ・メディアデザイン分野	12単位以上
	実践科目	4単位以上	
	修了研究	6単位	
合計		30単位以上	

3) 教育活動

連携科目

授業科目	授業形態・時数	担当教員
国際関係特論	講義 30時間	◎スーディ 神崎 和代 大野 夏代 ★玉城 英彦 ★南 裕子
少子高齢社会論	講義 30時間	原 俊彦
コミュニケーション特論	講義 30時間	町田 佳世子
健康福祉政策特論	講義 30時間	◎★鎌田 隼輔 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義 30時間	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義 30時間	★藤尾 均
連携プロジェクト演習	演習 30時間	◎城間 祥之 石崎 友紀 上遠野 敏 細谷 多聞 ◎中村 恵子 松浦 和代 菅原 美樹 村松 真澄

◎印:科目責任者(オムニバス形式等の場合)

★印:非常勤講師

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デザイン特論	講義 30時間	原田 昭
デザイン研究法	講義 30時間	◎中原 宏 矢部 和夫 柿山 浩一郎
デザインマネジメント特論	講義 30時間	◎酒井 正幸 ★篠崎 雅春
建築計画特論	講義 30時間	那須 聖
建築環境学特論	講義 30時間	斉藤 雅也
建築構造デザイン特論	講義 30時間	★小島 雅樹
日本建築史特論	講義 30時間	羽深 久夫
景観デザイン特論	講義 30時間	吉田 恵介
地域環境評価特論	講義 30時間	◎中原 宏 矢部 和夫
環境共生デザイン特論	講義 30時間	◎★一ノ瀬 友博 ★鶴島 孝一
環境マネジメント特論	講義 30時間	★斎藤 馨
製品造形特論	講義 30時間	石崎 友紀
製品評価特論	講義 30時間	柿山 浩一郎
メカトロニクス特論	講義 30時間	★原田 宏幸
インタフェースデザイン特論	講義 30時間	酒井 正幸
インタラクションデザイン特論	講義 30時間	細谷 多聞
形状情報処理特論	講義 30時間	城間 祥之
造形表現特論	講義 30時間	齋藤 利明
映像デザイン特論	講義 30時間	望月 澄人
ビジュアルデザイン特論	講義 30時間	吉田 和夫
現代芸術特論	講義 30時間	上遠野 敏
メディアプロデュース特論	講義 30時間	★久保 俊哉
地域ブランド構築特論	講義 30時間	★内田 純一

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デザイン特別演習	演習 30時間	◎城間 祥之 原田 昭 石崎 友紀 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 那須 聖 細谷 多聞 柿山 浩一郎
地域プロジェクト演習	演習 30時間	◎酒井 正幸 城間 祥之 ライト デーヴィッド 那須 聖 柿山 浩一郎
地域創成デザイン特別セミナーA	演習 30時間	羽深 久夫
地域創成デザイン特別セミナーB	演習 30時間	酒井 正幸
インターンシップ I	演習 30時間	◎中原 宏 城間 祥之 石崎 友紀 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 和夫 吉田 恵介 齊藤 雅也 那須 聖
インターンシップ II	演習 60時間	◎羽深 久夫 齊藤 雅也 那須 聖
特別研究	演習 90時間	◎城間 祥之 原田 昭 石崎 友紀 上遠野 敏 齋藤 利明 酒井 正幸 中原 宏 羽深 久夫 望月 澄人 矢部 和夫 吉田 和夫 吉田 恵介 細谷 多聞 齊藤 雅也 那須 聖 柿山 浩一郎

◎印:科目責任者(オムニバス形式等の場合)

★印:非常勤講師

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

6 看護学研究科

1) 平成23年度時間割

		月		火		水	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 } 10:30						
2	10:40 } 12:10						
3	13:10 } 14:40						
4	14:50 } 16:20	看護理論特論	看護コンサルテーショ ン特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学 特論	看護専門職教育特論	継続教育特論
5	16:30 } 18:00	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論I 看護技術学特論I 看護教育・看護マネジ メント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論I 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 精神看護学特論II 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特 論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	臨床哲学特論
6	18:10 } 19:40	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論I 看護技術学特論I 看護教育・看護マネジ メント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論I 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 精神看護学特論II 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特 論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学 特論	看護専門職教育特論	継続教育特論
7	19:50 } 21:20	看護理論特論	看護コンサルテーショ ン特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	臨床哲学特論

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

木		金		土	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
				国際関係特論	健康福祉政策特論
				コミュニケーション特論	地域経済政策特論
				少子高齢社会特論	ヒューマニティ特論
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習I 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習 ※隔週開催 老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 母性看護学演習 小児看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 精神看護学演習II 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習 ※隔週開催		特別研究 課題研究		連携プロジェクト演習	
		小児看護学特論II 精神看護学特論III	急性期病態管理学特論		
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習I 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習 ※隔週開催 老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 母性看護学演習 小児看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 精神看護学演習II 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習 ※隔週開催		小児看護学特論II 精神看護学特論III	急性期病態管理学特論		
		特別研究 課題研究			

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	シラバス 掲載頁	配当年次	単位数			授業形態			修了要件
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
研究科 連携科目	国際関係特論	27	1・2 前		2		○			4 単 位 以 上
	少子高齢社会特論	28	1・2 前		2		○			
	健康福祉政策特論	29	1・2 後		2		○			
	地域経済政策特論	30	1・2 後		2		○			
	ヒューマニティ特論	31	1・2 後		2		○			
	コミュニケーション特論	32	1・2 前		2		○			
	連携プロジェクト演習	33	1 通		2			○		
専 門 基 礎 科 目	看護理論特論	35	1 前	2			○			8 単 位 以 上
	看護研究法特論	36	1 前	2			○			
	看護倫理学特論	37	1 前		2		○			
	看護管理学特論	38	1 前		2		○			
	臨床哲学特論	39	1 後		2		○			
	看護コンサルテーション特論	40	1 後		2		○			
	看護専門職教育特論	41	1 前		2		○			
	継続教育特論	42	1 後		2		○			
	寒冷地生活支援看護学特論	43	1 後		2		○			
	家族看護学特論	44	1 後		2		○			
	地域生活看護学特論	45	1 前		2		○			
	老年看護学特論	46	1・2 後		2		○			
在宅看護学特論	47	1・2 後		2		○				
地域看護学特論	48	1・2 後		2		○				
地域生活看護学演習	49	1 通		2			○			
老年看護学演習	50	1・2 通		2			○			
在宅看護学演習	51	1・2 通		2			○			
地域看護学演習	52	1・2 通		2			○			
門 専 実 践	母子看護学特論	53	1 前		2		○			1 つ の 組 織 か ら 8 単 位 以 上 （ 専 門 看 護 師 認 定 希 望 者 16 単 位 以 上
	母子看護学特論	54	1・2 後		2		○			
	小児看護学特論I	55	1・2 後		2		○			
	小児看護学特論II	56	1・2 前		2		○			
	母子看護学演習	57	1 通		2			○		
	母子看護学演習	58	1・2 通		2			○		
	小児看護学演習	59	1・2 通		2			○		
	小児看護学実習I	60	1・2 通		4			○		
	小児看護学実習II	61	1・2 通		2			○		
	成人看護学特論	62	1 前		2		○			
	急性期看護学特論	63	1・2 後		2		○			
	慢性期看護学特論	64	1・2 後		2		○			
急性期病態管理特論	65	1・2 後		2		○				
成人看護学演習	66	1 通		2			○			
急性期看護学演習	67	1・2 通		2			○			
慢性期看護学演習	68	1・2 通		2			○			
急性期看護学実習	69	1・2 通		6				○		
門 看 護 科 学	精神看護学特論I	70	1 前		2		○			8 単 位 （ 専 門 看 護 師 認 定 希 望 者 4 単 位
	精神看護学特論II	71	1・2 後		2		○			
	精神看護学特論III	72	1・2 前		2		○			
	精神看護学演習I	73	1 通		2			○		
	精神看護学演習II	74	1・2 通		2			○		
	精神看護学実習I	75	1・2 通		4			○		
	精神看護学実習II	76	1・2 通		2			○		
	看護技術学特論I	77	1 前		2		○			
	看護技術学特論II	78	1・2 後		2		○			
	看護技術学演習I	79	1 通		2			○		
	看護技術学演習II	80	1・2 通		2			○		
	専 門 教 育 科 目	看護教育・看護マネジメント学特論	81	1 前		2		○		
看護教育学特論		82	1・2 後		2		○			
看護マネジメント学特論		83	1・2 後		2		○			
看護教育・看護マネジメント学演習		84	1 通		2			○		
看護教育学演習		85	1・2 通		2			○		
看護マネジメント学演習		86	1・2 通		2			○		
研 究	特別研究	87	1~2 通		8					8単位（専門看護師 認定希望者4単位）
	課題研究	88	1~2 通		4					

② 卒業要件
※修士論文コース

区分	必修	選択	合計	
研究科連携科目	－	4	4	2
専門教育科目	4	20	24	
専門基礎科目	4	4	8	
専門科目	－	16	16	
選択する領域・分野から	－	8	8	
研究	－	8	8	
合計	4	26	30	

※専門看護師コース

区分	必修	選択	合計	
研究科連携科目	－	4	4	2
専門教育科目	4	24	28	
専門基礎科目	4	4	8	
専門科目	－	20	20	
選択する領域・分野から	－	16	16	
研究	－	4	4	
合計	4	30	34	

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	担当教員
国際関係特論	講義 30時間	◎スーディ神崎 和代 大野 夏代 ★玉城 英彦 ★南 裕子
少子高齢社会特論	講義 30時間	原 俊彦
健康福祉政策特論	講義 30時間	◎★鎌田 隼輔 ★大久保 一郎
地域経済政策特論	講義 30時間	★佐藤 孝一
ヒューマニティ特論	講義 30時間	★藤尾 均
コミュニケーション特論	講義 30時間	町田 佳世子
連携プロジェクト演習	演習 30時間	◎中村 恵子 松浦 和代 大野 夏代 菅原 美樹 村松 真澄 ◎城間 祥之 上遠野 敏 吉田 恵介 細谷 多聞
看護理論特論	講義 30時間	◎内田 雅子 ★黒田 裕子
看護研究法特論	講義 30時間	◎松浦 和代 内田 雅子
看護倫理学特論	講義 30時間	◎宮崎 みち子 ★今井 道夫
看護管理学特論	講義 30時間	◎河野 總子 中村 恵子
臨床哲学特論	講義 30時間	★尾形 敬次
看護コンサルテーション特論	講義 30時間	◎河野 總子 ★藤野 智子
看護専門職教育特論	講義 30時間	定廣 和香子
継続教育特論	講義 30時間	◎★佐藤 紀子 ★舟島 なをみ ★中山 登志子
寒冷地生活支援看護学特論	講義 30時間	◎坂倉 恵美子 ★池田 貴夫 ★前沢 政次
家族看護学特論	講義 30時間	◎吉川 由希子 ★柳原 清子
地域生活看護学特論	講義 30時間	◎坂倉 恵美子 スーディ神崎 和代 ★加藤 登紀子
老年看護学特論	講義 30時間	坂倉 恵美子
在宅看護学特論	講義 30時間	スーディ神崎 和代
地域看護学特論	講義 30時間	★加藤 登紀子
地域生活看護学演習	演習 60時間	◎坂倉 恵美子 スーディ神崎 和代 ★加藤 登紀子
老年看護学演習	演習 60時間	◎坂倉 恵美子 村松 真澄
在宅看護学演習	演習 60時間	◎スーディ神崎 和代 菊地 ひろみ
地域看護学演習	演習 60時間	★加藤 登紀子
母子看護学特論	講義 30時間	◎宮崎 みち子 松浦 和代
母性看護学特論	講義 30時間	宮崎 みち子
小児看護学特論 I	講義 30時間	松浦 和代
小児看護学特論 II	講義 30時間	松浦 和代
母子看護学演習	演習 60時間	◎松浦 和代 宮崎 みち子 吉川 由希子 山内 まゆみ
母性看護学演習	演習 60時間	◎宮崎 みち子 山内 まゆみ
小児看護学演習	演習 60時間	◎松浦 和代 吉川 由希子
小児看護学実習 I	実習 180時間	◎松浦 和代 吉川 由希子

授業科目	授業形態・時数	担当教員
小児看護学実習Ⅱ	実習 90時間	◎松浦 和代 吉川 由希子
成人看護学概論	講義 30時間	◎中村 恵子 内田 雅子
急性期看護学特論	講義 30時間	中村 恵子
慢性期看護学特論	講義 30時間	内田 雅子
急性期病態管理学特論	講義 30時間	◎★田中 秀治 ★山口 芳裕 ★浅井 康文
成人看護学演習	演習 60時間	◎内田 雅子 中村 恵子 菅原 美樹
急性期看護学演習	演習 60時間	◎中村 恵子 菅原 美樹 ★平尾 明美 ★藤野 智子
慢性期看護学演習	演習 60時間	内田 雅子
急性期看護学実習	実習 270時間	◎中村 恵子 菅原 美樹 ★平尾 明美 ★藤野 智子
精神看護学特論Ⅰ	講義 30時間	◎山本 勝則 ★阿保 順子
精神看護学特論Ⅱ	講義 30時間	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学特論Ⅲ	講義 30時間	◎山本 勝則 ★藤井 博英
精神看護学演習Ⅰ	演習 60時間	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学演習Ⅱ	演習 60時間	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅰ	実習 180時間	◎山本 勝則 守村 洋
精神看護学実習Ⅱ	実習 90時間	◎山本 勝則 守村 洋
看護技術学特論Ⅰ	講義 30時間	樋之津 淳子
看護技術学特論Ⅱ	講義 30時間	樋之津 淳子
看護技術学演習Ⅰ	演習 60時間	◎樋之津 淳子 ★山内 豊明
看護技術学演習Ⅱ	演習 60時間	◎樋之津 淳子 大野 夏代
看護教育・マネジメント学特論	講義 30時間	◎河野 總子 定廣 和香子
看護教育学特論	講義 30時間	定廣 和香子
看護マネジメント学特論	講義 30時間	河野 總子
看護教育・看護マネジメント学演習	演習 60時間	◎河野 總子 定廣 和香子
看護教育学演習	演習 60時間	定廣 和香子
看護マネジメント学演習	演習 60時間	◎河野 總子 星 美和子
特別研究	演習 240時間	◎中村 恵子 内田 雅子 河野 總子 坂倉 恵美子 定廣 和香子 スーディ神崎 和代 樋之津 淳子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則 大野 夏代 守村 洋 吉川 由希子 菊地 ひろみ 星 美和子 村松 真澄 ★加藤 登紀子
課題研究	演習 120時間	◎中村 恵子 松浦 和代 山本 勝則 守村 洋 吉川 由希子

◎印:科目責任者(オムニバス形式等の場合)

★印:非常勤講師

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

7 助産学専攻科

1) 平成23年度時間割

① 前期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30	妊娠期助産 診断・技術学 シミュレーションラ ボ 演習室1		分娩期助産 診断・技術学 シミュレーションラ ボ 演習室1		周産期 ハイリスク援助論 シミュレーションラ ボ 演習室1		分娩期助産 診断・技術学 シミュレーションラ ボ 演習室1		産褥期助産 診断・技術学 シミュレーションラ ボ 3階実習室 演習室1	
2	10:40 ~ 12:10	妊娠期助産 診断・技術学 シミュレーションラ ボ 演習室1		分娩期助産 診断・技術学 シミュレーションラ ボ 演習室1		周産期 ハイリスク援助論 シミュレーションラ ボ 演習室1		分娩期助産 診断・技術学 シミュレーションラ ボ 演習室1		産褥期助産 診断・技術学 シミュレーションラ ボ 3階実習室 演習室1	
3	13:10 ~ 14:40	助産学総論 演習室1	助産学演習 演習室1	助産学 フィールド 演習 演習室1		周産期医学論 演習室1		乳幼児 支援論 演習室1		助産管理論 演習室1	
4	14:50 ~ 16:20	助産学総論 演習室1	助産学演習 演習室1	助産学 フィールド 演習 演習室1		周産期医学論 演習室1		乳幼児 支援論 演習室1			
5	16:30 ~ 18:00			地域母子 保健論 演習室1							

※開講曜日時間は週によって変更する場合があります。

② 後期

		月		火		水		木		金	
		前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)	前半 (第1~7.5週)	後半 (第7.5~15週)
1	9:00 ~ 10:30	助産学演習 演習室1									
2	10:40 ~ 12:10	助産学演習 演習室1									
3	13:10 ~ 14:40	助産学課題研究 演習室1									
4	14:50 ~ 16:20	助産学課題研究 演習室1									
5	16:30 ~ 18:00										

※開講曜日時間は週によって変更する場合があります。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	授業形態	単位数 (全科目:必修)
基礎助産学	助産学総論	講義	2
	周産期医学論	講義	2
	乳幼児支援論	講義	2
	妊娠期助産診断・技術学	演習	1
	分娩期助産診断・技術学	演習	2
	産褥期助産診断・技術学	演習	1
実践助産学	助産学フィールド演習	演習	1
	周産期ハイリスク援助論	演習	1
	地域母子保健論	講義	1
	助産管理論	講義	1
	助産学実習Ⅰ	実習	3
	助産学実習Ⅱ	実習	3
	助産学実習Ⅲ	実習	3
	助産学実習Ⅳ	実習	2
助産学実習Ⅴ	実習	1	
統合助産学	助産学演習	演習	2
	助産学課題研究	演習	2
合計			30

② 修了要件

30単位 (全科目必修)

3) 教育活動

授業科目	授業形態・時数	担当教員
助産学総論	講義 30時間	宮崎 みち子
周産期医学論	講義 30時間	◎★堀本 江美 ★小泉 基生 ★高野 良子 ★唯野 貢司 ★西 基
乳幼児支援論	講義 30時間	◎渡邊 由加利 富樫 武弘 ★丸山 知子
妊娠期助産診断・技術学	演習 30時間	◎山内 まゆみ 多賀 昌江
分娩期助産診断・技術学	演習 60時間	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江
産褥期助産診断・技術学	演習 30時間	◎山内 まゆみ 多賀 昌江
助産学フィールド演習	演習 30時間	◎山内 まゆみ 多賀 昌江 ★川代 久実子 ★川名 愛深 ★西田 令子 ★福田 由佳 ★山岸 由佳

授業科目	授業形態・時数	担当教員
周産期ハイリスク援助論	演習 30時間	◎渡邊 由加利 山本 真由美 ★荒木 英司 ★鈴木 伸和 ★田森 啓介 ★築島 健 ★中島 健 ★服部 司 ★平山 恵美
地域母子保健論	講義 15時間	◎宮崎みち子 ★有原 友子 ★川代 久実子 ★西田 令子 ★福田 由佳 ★山岸 由佳
助産管理論	講義 15時間	◎宮崎 みち子 中村 恵子 ★荻田 ヒロミ ★佐々木 真理子 ★成瀬 恵 ★水野 栄子
助産学実習 I	実習 135時間	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江
助産学実習 II	実習 135時間	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江
助産学実習 III	実習 135時間	◎山内 まゆみ 山本 真由美 渡邊 由加利 多賀 昌江
助産学実習 IV	実習 90時間	◎渡邊 由加利 山内 まゆみ 山本 真由美 多賀 昌江 ★上杉 恵利子 ★荻田 ヒロミ ★成瀬 恵
助産学実習 V	実習 45時間	◎山本 真由美 宮崎 みち子 山内 まゆみ 渡邊 由加利 多賀 昌江
助産学演習	演習 60時間	◎宮崎 みち子 大野 夏代 山内 まゆみ 山本 真由美 渡邊 由加利 多賀 昌江
助産学課題研究	演習 60時間	◎宮崎 みち子 山内 まゆみ 渡邊 由加利

◎印:科目責任者(オムニバス形式等の場合)

★印:非常勤講師

4) 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
助産学実習	平成23年7月4日～ 平成24年3月9日	医療機関	743名
	平成23年7月25日～ 9月20日	母子健康センター	10名

8 デザインと看護の連携教育

「デザイン」「看護」という、一見異なる学部の学生たちが、共に学ぶのが札幌市立大学の共通教育科目である。常識にとらわれない多彩なカリキュラムと自由な雰囲気の授業で、地域社会に根ざした豊かな人間性と柔軟な感性を育む。

1年次前期「スタートアップ演習」では、「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や少人数編成によるグループ活動を通じ、コミュニケーション能力を高める。また、異分野同士が協力して何かを作り出す体験をすることで、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的な学習方法や課題解決の手法などを習得する。

平成23年度(2011年度)「スタートアップ演習」

テーマ	チーム名
SCU学生クッキングスタジオ	食いしん坊
生活の自由を薬に!	コラボちゅ〜
根絶!小児肥満 〜キミの脂肪を畑の肥料に〜	AKT19
癒city 〜その癒しに満足していますか〜	そら豆の永久恋愛
「障がい者とファッション」	one〜和〜
限りある時間を安らぎとともに -日本家屋風ホスピスの提案-	オムライス
地震ナメたらあかんっ!!	かび☆いも
市立病院劇的ピフォーアフター	談・暖・団〜DAN〜
見えないということ〜そして見えない人達の為に〜	にんにくRUN OH!
Welcome Baby♡	内臓系

3年次後期「学部連携演習」では、スタートアップ演習から2年を経て、基本的な専門教育の上に、相互の専門性を尊重し合い、それぞれが看護・デザインの専門家として積極的に取り組む姿勢を身につける。少人数グループで、看護・デザイン相互に関わりのあるテーマや課題について、毎年共通テーマを設定し、相互の学生が共同・協力しながら、課題発見・解決に取り組む。

平成23年度(2011年度)「学部連携演習」

テーマ	チーム名
銭湯生活 ～銭湯で広がる輪～ 孤独死防止のための公衆浴場を核とした地域コミュニティの支援プロジェクト	SUPER☆SUITECASE
冬に負けない,地域みんなが心身ともに健康で明るい社会づくりを目指し備える	こたつ
石狩鍋 -ホテル- おいしい時間を、あなたと。 ナベをかこもう!〜日常と非日常をつなぐ「備え」の提案〜	silent boys and girls
健康診断ゲーム 健康でいるための備え	チームなまず
Kenshin+ 健康診査受診率増加を目指した電子健康診査+健康診査プレゼントサービス	マモノプラス

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

テーマ	チーム名
備え辞典	チームCS5
ヒーローになれるもん! 子供用の防災変身グッズによる被災時の安全確保と児童のストレス緩和に関する提案	ヒーローズ☆
こころの備え:はじめよう、70歳の返礼 年寿への“お返し”を通じた新たな自己実現の提案	チームこころん
睡眠チェックツールの提案 良質な睡眠を取るために	チームおねぼうさん
(PA) ³ SSPORT FOR FATHER 父親になるための備え『父子手帳』の制作	Team Q

III 研究活動

1 個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
原田 昭	・札幌市立大学の国際関係事業の展開と、地域連携事業の展開
酒井 正幸	・ユニバーサルデザイン研究 ・動物園のランドデザイン
城間 祥之	・高齢者とロボットとの会話によるコミュニケーションの可能性に関する研究
中原 宏	・コミュニティと住区デザインに関する研究
石崎 友紀	・デザイン製品における工学的性能と審美的性能の均衡の研究、道具学探究、造形教育、地域様式デザイン開発
上遠野 敏	・現代美術創作研究 ・同時代の美術研究 ・日本の美意識研究
齋藤 利明	・オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出
杉 哲夫	・プロダクトデザイン事例研究およびデザイン開発
武邑 光裕	・ソーシャルメディアと連携した創造産業(Creative Industries)賦活要因に関する研究
羽深 久夫	・北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 ・米国・東欧・北欧における木造建築の保存・再生・活用 ・日本および世界における医療施設・福祉施設の調査 ・世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原 俊彦	・ドイツと日本における無子の増加に関する研究 ・超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン ・震災に関わる地域人口への影響評価・復興モデルの検討
望月 澄人	・CG作品とアニメーションの制作
矢部 和夫	・地域の湿原やその他の生態系における生物多様性の保全・再生と創出に関する研究
吉田 和夫	・組織活性化におけるVI(ビジュアル・アイデンティティ)の役割とその生成について
吉田 恵介	・地域景観資源評価手法の開発と景観デザイン
斉藤 雅也	・想像温度と温熱快適性の解明
武田 亘明	・「ICTを活用したメディア教育の研究」 1)情報を読み解く力の育成教育に関する研究 2)手書き入力・自動採点システムによる放課後自学自習用電子教材の開発 3)クリエイティブ人材育成の実践的学びの場のデザイン
張 浦華	・形態と感性評価の相関要因に関する研究
那須 聖	・建築形式に内在する言語様相性
細谷 多聞	・視覚的環境情報の電子化とその活用に関する研究
町田 佳世子	・北海道の企業が採用に際して求めるコミュニケーション能力に関する調査 ・体験型教育・啓蒙プログラムにおける仲介者の役割の解明
石田 勝也	・サウンドアンドビジュアルを使用した空間的創造性の構築
大淵 一博	・デザイン学習者向け教材の開発と教育効果測定に関する研究

教員名	研究課題
柿山 浩一郎	・製品・サービス発想における、リアルタイム集団アイデア発想システムの精度向上
片山 めぐみ	・地域と高齢者を結びつける「縁側サービス」-日本におけるコミュニティ・レストランの事例研究
小宮 加容子	・個々の障害・能力に対応したユニバーサルなインタフェースに関する研究-視覚情報からの影響についての考察-
福田 大年	・ワークショップの活動を基盤としたアイデア発想能力の向上に関する基礎的研究
松井 美穂	・20世紀アメリカ南部文学
三谷 篤史	・木の感性性能を生かしたメカトロ積木の開発
山田 良	・環境芸術の空間構造に関する研究
上田 裕文	・震災復興の風景計画に関する研究
須之内 元洋	・ウェブサービスを活用した公共メディアの展開における課題と展望
長谷川 聡	・産学連携の製品デザインによる地場産業の新興

看護学部

教員名	研究課題
中村 恵子	・成人看護学領域における看護技術獲得とその検証
スーディ神崎 和代	・ITを用いた遠隔看護システム ・地域在宅ケア従事者を対象とした継続的学習モデルの構築 ・離島在住高齢者の転倒と転倒リスクに関する研究
山本 勝則	・精神看護学におけるシュミレーション教育
宮崎 みち子	・胎児の生きる権利に関する研究
内田 雅子	・慢性期看護における対象理解と心理社会的援助 ・事例研究法 ・看護OSCEにおける評価法 ・看護職キャリア形成の評価枠組み
河野 總子	・呼吸ケアにおける看護師の裁量権の見直しと拡大可能性 ・看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究-ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究-
坂倉 恵美子	・季節別にみた地域在住高齢者の外出頻度と精神健康の関連および回想法による介入効果の分析 ・老年看護実習における看護学生の高齢者イメージの変化-地域健康高齢者を対象とした実習Ⅰおよび認知症・強弱高齢者を対象とした実習Ⅱ前後の比較- ・2011日本老年看護学会交流集会のテーマ「老年看護学教育における客観的臨床能力試験(OSCE)の取り組み」
定廣 和香子	・看護学実習における医療事故防止に向けた教授活動
樋之津 淳子	・基礎看護技術と臨床教育をつなぐ卒後研修プログラムの開発
松浦 和代	・低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラムへの適用
大野 夏代	・指圧・マッサージ、OSCEなど看護技術及びその評価に関する研究 ・国際的研修活動の評価に関する研究
清水 光子	・保健師の専門性に関する研究 ・官学民連携による地域に根ざした健康教育演習の実際と学習効果

教員名	研究課題
守村 洋	・メンタルヘルスに関する研究(主として精神障害セルフヘルプ・グループへの地域生活支援および自殺予防に関する研究)
山田 典子	・セーフティプロモーション(SP) ・セーフティコミュニティ(SC)活動の現状と課題
吉川 由希子	・広域医療圏に居住する障害児の在宅ケアに関する研究
菊地 ひろみ	・在宅看護サービスによる在宅療養者の病状安定および重症化予防の対医療費効果に関する基礎的研究
櫻井 繭子	・地域看護教育における官学民連携に関する研究 ・支援専門職に関する研究
菅原 美樹	・成人看護学実習におけるポートフォリオの活用に関する研究
杉田 久子	・臨床看護実践における知の構築プロセスの研究～看護師の「知」に基づく看護実践の可視化に関する研究～ ・クリティカルケア看護師のexpertiseの探求
田中 広美	・看護技術に関する研究
藤井 瑞恵	・循環器疾患等の生活習慣病予防に関する疫学的研究
星 美和子	・人間の脆弱性とウェルビーイングに関する研究
村松 真澄	・高齢者施設のATP検査法を用いた環境調査
山内 まゆみ	・助産師基礎教育の「職業準備性」を高める教育技法の検証
山本 真由美	・産科混合病棟の看護管理者が認識する困難な課題－北海道札幌圏の総合病院の場合－
渡邊 由加利	・助産学におけるOSCEの方法と信頼性の検討
太田 晴美	・東日本大震災への組織的復興支援活動－JMATと地域保健医療機関へ“つなぐ”支援活動－
神島 滋子	・脳損傷患者の認知機能評価スケールの開発に向けた研究
河村 奈美子	・発達段階各期における精神保健と看護
工藤 京子	・地震などの災害時における在宅酸素療法者の実態と対応策の検討
多賀 昌江	・周産期のグリーフケアを支援するためのデザイン研究：妊娠22週未満の死産児を安置するための専用棺の開発
鶴木 恭子	・重曹使用による清拭の清浄度の研究
照井 レナ	・在宅ケア従事者が連携して行う Multi-discipline型、かつ計画と評価に関わる自己主導型学習活動システムの構築 ・IT活用による遠隔看護サービス(E-KANGO)研究
原井 美佳	・寒冷地で居住してきた女性高齢者の尿失禁のリスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究
渕本 雅昭	・看護大学院における高度専門職業人(専門看護師)育成のためのOSCEプログラム開発に関する研究
三上 智子	・自然免疫Toll様受容体における分子進化機構の解明－分子進化速度、同義非同義置換速度の解析、系統樹解析から－
田仲 里江	・保健師のストレスに関する研究
檜山 明子	・疼痛に関する看護実践方法の検討

2 学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
上田 裕文	特定保健指導をうけた健康ウォーキングによる健康観光まちづくりに関する研究
大淵 一博	静止画を迅速かつ容易に色彩分析可能なモバイルツールの開発
片山 めぐみ	高齢者との世代間交流を可能とする子どもの居場所に関する研究 －児童館と高齢者福祉施設の併設における適切な空間計画と運営方針－
福田 大年	デザイン系大学の資源を活用した循環型組織的学習による就労継続支援 B 型事業所の内発的発展に関する基礎研究
山田 良	北海道の環境芸術に関する基礎的研究 －空間形成の変遷と地域再生の観点から－
田仲 里江	保健師の Sense of Coherence (SOC) に関する質的検討
檜山 明子	看護師の疼痛アセスメント方法に関する研究～精神疾患患者に対するアセスメントに焦点を当てて
照井 レナ	医師との連携と協働に基づく訪問看護師の薬剤管理における裁量に関する研究
原井 美佳	寒冷地で居住してきた女性高齢者の尿失禁のリスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究

共同研究

教員名	研究課題
◎齊藤 雅也、酒井 正幸、 吉田 和夫、張 浦華、 細谷 多聞、町田佳世子、 大淵 一博、片山めぐみ、 柿山浩一郎、小宮加容子、 河村奈美子	円山動物園の施設・サインのサービスデザイン研究
◎町田佳世子、上田 裕文、 河村奈美子	市民参加型自然体験プログラムにおける心理的・認識的变化を促すファシリテ ティブコミュニケーションのデザイン
◎多賀 昌江、 スーディ 神崎和代、 城間 祥之、柿山浩一郎	死産児出産の悲しみを癒す棺の感性デザインに関する研究
◎村松 真澄、坂倉恵美子、 原 俊彦、藤井 瑞恵、 原井 美佳	北海道の介護保険施設において実施されている口腔ケアに関する看護管理的取り 組みの実態調査
◎大野 夏代、松浦 和代、 清水 光子、藤井 瑞恵、 原井 美佳	国際的な研修活動の評価 －帰国後の状況調査から実効性のある研修に向けての提案－
◎松浦 和代、杉 哲夫、 吉川由希子、小宮加容子、 三上 智子	低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラムへ の適用

◎印:代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
13	9	10	6	23	15

3 学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費助成事業(科研費)

研究代表者	研究課題	研究種目	金額(円)
松浦 和代	小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討	基盤研究(C)一般	2,080,000
矢部 和夫	太平洋沿岸の泥炭地湿原における高茎湿生草原の成立・維持機構の解明とその保全	基盤研究(C)一般	650,000
神島 滋子	脳損傷患者の認知機能評価方法の開発 - LOCFAS の臨床応用に向けて -	基盤研究(C)一般	910,000
松井 美穂	アメリカ南部モダニズム文学の形成と女性作家	基盤研究(C)一般	520,000
樋之津 淳子	看護基礎教育と看護師の臨床教育をつなぐ客観的臨床能力試験プログラムの開発	基盤研究(C)一般	780,000
渡辺 由加利	看護教育における模擬患者養成プログラムの検証と模擬患者を支援するシステム構築	基盤研究(C)一般	780,000
定廣 和香子	看護学実習中の医療事故回避に向けた教授活動自己評価尺度の開発 - 実習安全FDの実現	基盤研究(C)一般	1,170,000
内田 雅子	チーム・プロセスに焦点を当てた人材育成連携活動の形成的評価研究	基盤研究(C)一般	650,000
吉川 由希子	広域医療圏に居住する障害児の在宅ケア支援ネットワークモデルの構築と検証	基盤研究(C)一般	1,430,000
坂倉 恵美子	閉じこもり高齢者のスクリーニング尺度の作成と訪問介入プログラムの開発	基盤研究(C)一般	1,040,000
酒井 正幸	インタフェースデザインにおける視覚的使いやすさ感の研究	基盤研究(C)一般	1,950,000
町田 佳世子	動物園を舞台とした教育・啓蒙活動における専門的実践家の役割とその効果の解明	基盤研究(C)一般	1,690,000
原 俊彦	札幌市における配偶関係別移動率の解明	基盤研究(C)一般	1,040,000
三谷 篤史	異方性エッチング加工による非対称微細構造表面におけるトライボロジ特性の解明	基盤研究(C)一般	2,210,000
太田 晴美	災害看護に取り組む看護師支援に関するアクションリサーチ	基盤研究(C)一般	1,950,000
淵本 雅昭	大学院におけるOSCEを用いた専門看護師の看護実践能力評価プログラムの開発	基盤研究(C)一般	3,250,000
山内 まゆみ	現職助産師の業務実態を背景とした看護系大学による卒後研修教育プランの開発	基盤研究(C)一般	2,080,000
宮崎 みち子	助産学専攻科における客観的臨床能力試験(OSCE)を用いた教育プログラムの開発	基盤研究(C)一般	3,510,000

研究代表者	研究課題	研究種目	金額(円)
菊地 ひろみ	看護系大学の在宅看護分野における看護技術教育の到達度と方法の明確化	基盤研究(C)一般	260,000
斉藤 雅也	小学児童の夏・冬の閾値温度の地域比較研究	基盤研究(C)一般	2,600,000
星 美和子	看護師の内的成長とウェルビーイングを促進するモデル構築と検証に関する研究	挑戦的萌芽研究	1,040,000
上田 裕文	樹木葬墓地にみる新たな森林利用の日独比較研究	若手研究(B)	910,000

受託研究費

研究代表者	研究課題	受託元	金額(円)
坂倉 恵美子	高齢者(札幌市老人福祉センター利用者)の意識調査	社会福祉法人 札幌市福祉事業団	418,000
守村 洋	平成23年度 札幌市自殺未遂者実態調査	札幌市保健福祉局	1,183,350
片山 めぐみ	寿都町におけるコミュニティ・レストラン及び空き家活用術等の調査研究	寿都町	1,200,000
上田 裕文	寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究	寿都町	1,200,000
斉藤 雅也	寒冷地の動物園における熱帯系飼育・展示施設のデザイン研究	札幌市環境局	1,000,000
吉田 和夫	ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究 - 西門周辺アプローチの誘導サイン -	札幌市環境局	500,000
矢部 和夫	円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究	札幌市環境局	500,000
上田 裕文	札幌芸術の森野外美術館景観調査	(財)札幌市公園緑化協会	400,000
矢部 和夫	西岡公園湿原環境調査研究	札幌市豊平区	1,071,000
長谷川 聡	インテリア製品としての「しけシルク」活用方法に関する研究	(株)松井機業場	500,000
斉藤 雅也	札幌版次世代住宅基準の普及に関する基礎的研究 - 性能表示方法の調査とデザイン -	札幌市都市局	500,000
矢部 和夫	平岡公園人口湿地・池・植物生育等環境調査研究	(財)札幌市公園緑化協会	770,700
吉田 和夫	ブランディングの視点に基づく福祉用具企業の広報戦略に係る研究	(株)特殊衣料	600,000
武邑 光裕	札幌駅前通地下歩行空間北2条広場における継続的コンテンツ供給等に関する調査・研究業務	札幌市市長政策室	1,000,000
吉田 恵介	全国花のまちづくり札幌大会広報物の原画デザインにかかる研究	札幌市環境局	315,000
酒井 正幸	地方都市観光振興のためのICTを用いた情報ユニバーサルデザイン	三菱電機(株)デザイン研究所	500,000
羽深 久夫	南区の地域活性化に向けたまちづくり調査研究	札幌市南区	987,000
酒井 正幸	UD視点からの図書館サイン計画の研究	札幌市教育委員会	2,211,300
酒井 正幸	路面電車を活用する地域創成デザインに関する研究	札幌市市民まちづくり局	1,050,000

共同研究費

教員名	研究課題	助成元	金額(円)
張 浦華	軽労化技術実用化のためのデザイン・感性反応の研究	(株)スマートサポート	100,000

4 寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額(円)
中村 恵子	看護の資質向上のため	医療法人社団碩心会心臓血管センター 北海道大野病院	300,000
中村 恵子	看護研究の促進及び看護の質向上のため	社北海道勤労者医療協会	480,000
矢部 和夫	平成23年度美々川自然再生に関する調査研究	(財)リバーフロント整備センター	800,000

5 その他研究助成

教員名	寄附目的	寄附元	金額(円)
スーディ神崎和代	在宅療養者と訪問看護事業所をつなぐ遠隔看護システムの安定性向上	(財)北海道科学技術総合振興センター	2,000,000

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

6 海外出張記録

期間	教員名	目的国	目的
平成23年4月23日 ～27日	須之内 元洋	中国	北海道・上海アジアクリエイティブフォーラムにおけるアプリケーションのブース展示・プレゼンテーション、上海創造産業クラスター視察
平成23年5月2日 ～7日	坂倉 恵美子	カナダ	ICCHNR(国際地域看護学学会学術集会)出席
平成23年5月3日 ～8日	宮崎 みち子	マルタ	2011年国際看護師連盟学術集会出席
平成23年5月18日 ～21日	中村 恵子 菅原 美樹 測本 雅昭	中国	Asia Pacific Meeting on Simulation in Healthcare 2011 (アジア・環太平洋シミュレーション医学会)参加
平成23年6月17日 ～26日	山内 まゆみ	南アフリカ	第29回国際助産師連盟(ICM)3年毎大会出席及び研究発表
平成23年6月24日 ～7月2日	ライト デーヴィッド	オーストラリア	5th International Conference on Communities and Technologies 出席及び研究発表
平成23年6月27日 ～7月1日	吉田 恵介	オーストラリア	5th International Conference on Communities and Technologies 出席及び研究発表
平成23年7月10日 ～17日	星 美和子	メキシコ	Honor Society of Nursing Sigma Theta Tau International 22nd International Nursing Research Congress 参加及び研究発表、World Academy of Nursing Science 2nd International Nursing Research Conference 参加
平成23年8月13日 ～26日	片山 めぐみ	アメリカ、 台湾	International Conference on Environmental Enrichment (ICEE 2011) (国際環境エンリッチメント学会2011)研究発表、台湾における高齢者に対する地域サービスの調査
平成23年8月14日 ～21日	松井 美穂	アメリカ	Goucher College 図書館にある H.L. and Sara haardt Mencken Collection にて調査、アメリカ議会図書館にて資料調査
平成23年8月22日 ～9月1日	羽深 久夫	チェコ、 ポーランド	プラハ及びワルシャワの歴史的建造物群調査、ワルシャワ工科大学建築学部の資料調査
平成23年8月22日 ～9月5日	吉田 恵介	中国	大連市旧日本人街の伝建ファサード景観調査、西安市の花博調査、西寧市他の植生及び公園利用実態調査、北京市禁苑の庭園調査
平成23年8月26日 ～31日	原田 昭	韓国	ANBD2011ソウル展オープニング及び展覧会出席、LG 電子本社デザインセンター・Cho Youl 教授作品制作スタジオ・ヘイリ芸術村・イチョン芸術村視察
平成23年8月26日 ～31日	張 浦華	韓国	Asia Network Beyond Design 2011出席、LG エレクトロニクス・漢城大学訪問・Cho Youl 教授作品制作スタジオ・ヘイリ芸術村・イチョン芸術村視察
平成23年9月7日 ～19日	矢部 和夫	インドネシア	パランカラヤ大学と現地調査サポートのための打合せ、パランカラヤ市周辺の泥炭湿地林火災後に成立した二次草原の群落・環境調査(JSPS/JICA プロジェクト)
平成23年9月9日 ～22日	上田 裕文	ドイツ	「樹木葬墓地にみる新たな森林利用の日独比較研究」のため、ドイツの樹木葬墓地視察、事務局・森林官へのヒアリング調査、社会調査として埋葬博物館でのヒアリング。「欧州ランドスケープ条約が各地域の景観・観光政策に及ぼす効果発現の実証的研究」のため、カッセル大学 Bruns 教授へのヒアリング調査

期間	教員名	目的国	目的
平成23年9月10日 ～16日	大野 夏代 藤井 瑞恵 原井 美佳	マレーシア	学内共同研究「国際的な研修活動の評価－帰国後の状況調査から実効性のある研修に向けての提案－」の現地調査(データ収集)
平成23年9月13日 ～18日	村松 真澄	フランス	看護教育についての視察及び交流会、病院の口腔ケアの看護管理についての視察
平成23年9月23日 ～10月1日	細谷 多聞	ブルキナファソ	共同研究に伴う現地調査(コンポストトイレの現地量産設計に伴うトイレの利用状況と制作材料の調査)
平成23年9月28日 ～10月2日	石崎 友紀	台湾	2011台北世界設計大展－国際工芸設計展作品出品及び開幕式参加
平成23年10月14日 ～22日	武邑 光裕	オランダ、 イタリア、 バチカン	札幌市受託研究「札幌駅前通地下歩行空間北2条広場における継続的コンテンツ供給等に関する調査・研究業務」に関する調査及びヒアリング、バチカン博物館・シークレットアーカイブ視察
平成23年10月24日 ～29日	田中 広美	韓国	日・韓・中看護学会参加、8th International Nursing Conference 参加
平成23年10月26日 ～29日	宮崎 みち子	韓国	8th International Nursing Conference (INC2011) 参加及び研究発表
平成23年10月26日 ～28日	大野 夏代	韓国	8th International Nursing Conference 研究発表
平成23年10月28日 ～11月4日	定廣 和香子 星 美和子	アメリカ	Sigma Theta Tau International 41st Biennial Convention 出席及び研究発表
平成23年10月30日 ～11月6日	酒井 正幸 柿山 浩一郎 三谷 篤史	オランダ	国際会議 IASDR2011出席及び研究発表
平成23年11月1日 ～6日	松浦 和代	オランダ	国際会議 IASDR2011出席及び研究発表(インタラクティブ知育玩具の開発に関する研究発表、感性教材モデルデザインに関する情報収集)
平成23年11月15日 ～18日	武邑 光裕	韓国	UNESCO Creative Cities Network Mayors Conference and Annual Meeting 及び Korean National Commission for UNESCO Organizer : Seoul Design Foundation 参加
平成23年11月17日 ～19日	城間 祥之 スーディ神崎 和代	韓国	韓日露科学都市共同シンポジウム出席、又松大学訪問
平成23年11月19日 ～23日	中村 恵子 内田 雅子 菅原 美樹 渕本 雅昭	韓国	シミュレーションセンター視察、連携研究のためのディスカッション
平成23年11月23日 ～27日	片山 めぐみ	マレーシア	円山動物園アジア館に飼育予定の動物に関する生息地環境調査(樹木・地形・サイン情報のデザイン)、展示手法調査
平成23年12月5日 ～12日	三谷 篤史	タイ	2011 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (ROBIO2011) 参加及び研究発表
平成24年1月4日 ～14日	吉川 由希子	デンマーク、 スウェーデン	2012年北欧研修ツアー参加 (北欧の障害児者の福祉・保育・学校教育の視察)
平成24年2月21日 ～3月1日	上田 裕文	ドイツ、 オランダ	国際会議「景観：理論、実践そして国際関係」にて日本の風景概念について発表、「欧州ランドスケープ条約が各地域の景観・観光政策に及ぼす効果発現の実証的研究」のため De Gelderse Poort の事例調査

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

期間	教員名	目的国	目的
平成24年2月21日 ～24日	大野 夏代	シンガポール	East Asian Forum Nursing Scholars (EAFONS)
平成24年3月4日 ～9日	望月 澄人	インド	8th IAWRT Asian Women's Film Festival 2012(第8回 IAWRT アジア女性映画祭2012)の研究及び取材
平成24年3月6日 ～9日	羽深 久夫	韓国	韓国における歴史的建造物の保存活用に関する現地調査
平成24年3月7日 ～13日	照井 レナ	イギリス	27th International Conference of Alzheimer's Disease International 出席、ロンドン市内大学研究者とのネットワーキング
平成24年3月9日 ～13日	スーディ神崎 和代	イギリス	27th International Conference of Alzheimer's Disease International 研究発表
平成24年3月11日 ～18日	松浦 和代 大野 夏代	モンゴル	草の根技術協力事業「発達性股関節脱臼の予防と早期発見」に関わる現地視察
平成24年3月20日 ～26日	吉田 和夫 斉藤 雅也	アメリカ	爬虫類・両生類の(国外類似)展示施設と建築環境・設備システムの視察
平成24年3月24日 ～31日	武邑 光裕	アメリカ	カリフォルニア大学バークレー校 Center for New Media にて研究会議及び講義、シリコンバレー・ベンチャー企業 Miselu との研究会合
平成24年3月26日 ～28日	原田 昭	韓国	カリスト大学での講演会出席

IV 社会活動

1 地域貢献諸活動

1) 受託研究一覧

研究課題	期間	概要	連携先
高齢者(札幌市老人福祉センター利用者)の意識調査	平成23年4月1日 ～平成24年3月20日	札幌市老人福祉センター利用者の生活実態と主観的幸福感の関連性を明らかにすることを目的として、平成23年10月5日～10月24日に留め置き方による自記式質問紙調査を実施した。質問紙の配布部数は2,000部であり、そのうち1,020人から回答を得た(回答率51.0%)。	社会福祉法人 札幌市福祉事業団
平成23年度札幌市自殺未遂者実態調査	平成23年6月2日 ～平成24年3月20日	現状が明らかにされていない札幌市における救命救急センターに搬送されてくる自殺企図者の現状把握(量的調査)と救命救急に従事する看護師へのインタビュー調査(質的調査)との2つの調査を実施した。	札幌市 保健福祉局
寿都町におけるコミュニティ・レストラン及び空き家活用術等の調査研究	平成23年4月25日 ～平成24年3月27日	寿都町の食文化を活かしたコミュニティ・レストランの可能性を調査し、具体的な運営方法について検討・提案した。開設場所を、旧道立病院(高齢者総合福祉施設として改修中)や町の空き家とすることで、高齢者の見守りをはかり、同時にレストランでの調理や配膳等を担うことで生きがいを得られるしくみを導入する。また、乳幼児をもつ母親などが高齢者に子どもを預けながら趣味の時間を持てるようなニーズや運営方法についても町民有志と検討した。	寿都町
寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究	平成23年4月25日 ～平成24年3月27日	「海を活かしたまちづくり」の実践にむけ、現況の課題抽出と関係者による先進事例視察を行った。また、中間支援組織を目指したインフォーマルな意見交換と社会実験、町民ワークショップを実施した。これらを通して、まちづくりのパートナーシップ形成に関して一定の成果が上げられた。これらの研究活動は、平成23年8月24日北海道新聞朝刊(小樽・後志版)および平成24年3月18日北海道新聞朝刊(小樽・後志版)などで報道された。	寿都町
寒冷地の動物園における熱帯系飼育・展示施設のデザイン研究	平成23年5月31日 ～平成24年2月29日	札幌市円山動物園において、寒冷地における熱帯系飼育・展示施設のデザイン監修と温熱環境モニタリングを行い、動物飼育・展示施設の先進モデルを提案することを目的として以下を行った。(1)「アジア館」の実施設計にかかるデザイン監修。(2)「アフリカ館」の基本計画にかかるデザイン監修。(3)「は虫類・両生類館」の温熱環境モニタリング。	札幌市環境局

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

研究課題	期間	概要	連携先
ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究－西門周辺アプローチの誘導サイン－	平成23年5月31日 ～平成24年2月29日	平成24年度実施を想定した札幌円山動物園西門周辺のサインリニューアル計画素案作成をユニバーサルデザイン視点から行った。	札幌市環境局
円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究	平成23年5月31日 ～平成24年2月29日	ササ除去による山野草回復試験、外来種除去による山野草回復試験、導入候補小動物の現状把握と地図化、小動物の生育環境のモニタリングを行った。	札幌市環境局
札幌芸術の森 野外美術館景観調査	平成23年7月1日 ～平成23年10月31日	開館25周年を迎える札幌芸術の森野外美術館では、樹木の生長などにより彫刻の鑑賞環境に大きな変化を生じている。そこで、今後の継続的な園地整備のための、森林のあり方に関する指針を得るため、利用者を対象としたニーズ調査と景観評価調査を行った。	(財)札幌市公園 緑化協会
西岡公園湿原環境調査研究	平成23年8月4日 ～平成24年2月28日	西岡公園の湿原において、木道設置による湿原環境への影響について検討し、木道存廃の決定に関する基礎資料を得ることを目的とし、研究を行った。研究内容 1湿地内の流路変遷・2湿原環境調査・3魚類調査	札幌市豊平区
インテリア製品としての「しけシルク」活用法に関する研究	平成23年9月30日 ～平成24年2月29日	しけ絹の展示会巡回用キット(木建)、しけ絹をシェードとした入隅設置型照明兼ディスプレイ(木工)、しけ絹を用いた小型ディスプレイラック(木工)、しけ絹を用いたナイトライト(木工)以上4点のデザインを具現化した。	(株)松井機業場
札幌版次世代住宅基準の普及に関する基礎的研究－性能表示方法の調査とデザイン－	平成23年9月15日 ～平成24年2月29日	「札幌版次世代住宅基準」の普及を目的として、住宅の断熱性能の表示方法に関する調査と、制度の愛称決定および、性能表示プレートのデザイン研究を行なったものである。具体的には以下を実施した。1)住宅の断熱性能を市民に伝えるための表示方法の検討。2)断熱性能の表示プレートのデザイン研究。	札幌市都市局
平岡公園人工湿地・池・植物生育等環境調査研究	平成23年10月4日 ～平成24年2月25日	人工湿地・池の生態系についてこれまで5年ごとに行われてきたモニタリングを今回も継続して行い、今後の順応的な植生管理のための基礎的な情報を得た。内容①植物相を調査しその変遷を比較した。②群落種組成調査と水位連続観測を含む水文化学環境の測定を行い、今後の生態系の変化の方向性を推察した。	(財)札幌市公園 緑化協会
ブランディングの視点に基づく福祉用具企業の広報戦略に係る研究	平成23年9月28日 ～平成24年2月29日	福祉用具業界における(株)特殊衣料の業態を、ブランディングの観点から分析し、実際の会社案内等、活用できる広報戦略の提案を行った。	(株)特殊衣料
札幌駅前通地下歩行空間北2条広場における継続的コンテンツ供給等に関する調査・研究業務	平成23年10月11日 ～平成24年3月16日	札幌駅前地下歩行空間北2条広場における継続的コンテンツ供給に資するコンテンツ制作ワークショップを計4回開催し、市民、文化芸術団体、行政職員、学生などを対象として市民情報発信を促した。あわせてファシリテーターの育成などのワークショップも開催した。	札幌市 市長政策室

研究課題	期間	概要	連携先
全国花のまちづくり札幌大会広報物の原画デザインにかかる研究	平成23年10月7日 ～平成24年1月31日	全国花のまちづくり札幌大会広報物の原画デザインを行い、4組の原画案を作成した。その後発注者とも協議した。注文と意見に基づき一案を作成した。	札幌市環境局
地方都市観光振興のためのICTを用いた情報ユニバーサルデザイン	平成23年11月28日 ～平成24年3月15日	札幌市を事例に地方都市の観光振興を目的とした情報ユニバーサルデザインについての調査研究を行った。今回は対象ユーザを外国人旅行者に絞り、公共交通施設を中心にユーザに受容可能な情報の受発信の現状を調査し、課題を抽出した。	三菱電機(株) デザイン研究所
南区の地域活性化に向けたまちづくり調査研究	平成23年11月22日 ～平成24年3月15日	南区の特色を踏まえたまちづくりの研究・実践を通じて、地域の主体的なまちづくりの推進、また、区内の各種団体によるシーニックバイウエイの取り組みの円滑化及び活性化を図った。シーニックバイウエイ各種会議等への参画及び制作提言、グッズ試案、地下鉄駅構内活用方法の提言を行った。	札幌市南区
UD視点からの図書館サイン計画の研究	平成23年11月24日 ～平成24年3月16日	札幌市中央図書館を対象にUD(ユニバーサルデザイン)視点からの図書館サイン計画の提案を行った。シナリオライティング手法を用い想定ユーザの視点から現状の問題点を抽出し、館内マップ、書架案内、利用案内、注意サイン等多種類のサインについて具体的なデザイン提案を行った。	札幌市 教育委員会
路面電車を活用する地域創成デザインに関する研究	平成23年12月27日 ～平成24年3月26日	路面電車を地域創生のインフラとして活用している地方都市の調査研究を行った。対象地域は北陸地区、九州地区の各都市で、海外の事例としてオランダ主要都市も取り上げた。各都市ともユニバーサルデザインの視点からのハード・ソフト面の配慮による利用者の利便性の確保、沿線の地理的・文化的資源の活用による観光客誘致等を通じて地域創生を目指していることが明らかとなった。	札幌市 市民まちづくり局

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

2) 高大連携

①デザイン学部 第5回高大連携公開講座

開催日	高校名	参加生徒数	タイトル	担当教員
平成23年10月9日	北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 市立札幌大通高等学校	22名	製品デザインとメカトロニクス	三谷 篤史
			コンテンツデザインとは?	大淵 一博

②看護学部 高大連携講座

開催日・期間	高校名	受講生徒数	受講科目名	担当教員
平成23年4月7日～ 平成24年2月2日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌啓北商業高等学校 市立札幌大通高等学校	5名	看護学原論(講義・15時間)	◎定廣 和香子 河野 総子
		5名	地域保健学概論(講義・15時間)	◎清水 光子
		5名	人間発達援助論(演習・30時間)	◎内田 雅子 坂倉 恵美子 松浦 和代 宮崎 みち子 山本 勝則
		4名	チーム医療論(講義・15時間)	◎河野 総子 星 美和子 太田 晴美
		5名	国際看護学(講義・15時間)	◎大野 夏代 スーディ神崎和代

◎印:科目責任者(オムニバス形式等の場合)

③看護学部 模擬授業

開催日・期間	高校名	受講生徒数	受講科目名	担当教員
平成23年10月8日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 市立札幌大通高等学校	48名	看護におけるヘルスアセスメント	樋之津 淳子
			超高齢社会へ対応する看護について～高齢者への理解を深める～	坂倉 恵美子

3) 高校出前講義

デザイン学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成23年7月21日	北海道帯広緑陽高等学校	日常の空間デザイン	山田 良
平成23年8月25日	北海道旭川北高等学校	空間デザインの世界	矢部 和夫
平成23年10月28日	北海道札幌藻岩高等学校	「間取り」からはじめる建築	那須 聖
平成23年11月4日	北海道札幌北陵高等学校	日常の空間デザイン	山田 良
平成23年11月8日	北海道札幌旭丘高等学校	人の感性(心)を読めるヒト。それがデザイナー	柿山 浩一郎
平成23年11月8日	北海道札幌清田高等学校	遊びをデザインするって?デザインの可能性を考えてみる	福田 大年
平成23年11月9日	北海道札幌新川高等学校	地域と共同でのものづくり	杉 哲夫
平成23年11月16日	北海道札幌開成高等学校	デザインとアートによる社会貢献	上遠野 敏
平成23年12月8日	北海道苫小牧東高等学校	2040年のわたしたちの住まいを考える - 建築環境学への招待 -	斉藤 雅也
平成23年12月16日	北海道札幌平岸高等学校	遊びをデザインするって?デザインの可能性を考えてみる	福田 大年
平成24年1月19日 ~2月9日(全4回)	北海道札幌手稲高等学校	つながるために、伝えよう	石田 勝也

看護学部

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成23年6月29日	北海道札幌創成高等学校	学問の内容と職業へのつながり	定廣 和香子
平成23年7月13日	北海道室蘭清水丘高等学校	看護師・保健師・助産師の仕事の概要と資格の仕組み	大野 夏代
平成23年9月2日	北海道札幌新川高等学校	在宅看護学	スーディ神崎和代
平成23年9月28日	北海道札幌東陵高等学校	老年看護学領域	坂倉 恵美子
平成23年10月28日	北海道札幌藻岩高等学校	地域保健学 お腹まわりサイズと病気の予防	清水 光子
平成23年11月15日	北海道石狩南高等学校	母性看護学:リプロダクティブヘルス・ライツ	宮崎 みち子
平成23年11月17日	北海道札幌平岸高等学校	成人看護学~多様な看護の在り様~	内田 雅子
平成23年11月17日	北海道千歳高等学校	生活援助科学としての看護学	樋之津 淳子

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

4) その他の地域貢献諸活動

デザイン学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
酒井 正幸	副理事長業務	北のユニバーサルデザイン協議会		
城間 祥之	理事として、IT事業の普及事業等の確定	NPO法人「札幌ITフロント」		
	新商品開発のマーケティング、パッケージデザインに関するユーザの意見収集	農都共生研究会		
上遠野 敏	年間11回の美術講演会の企画、運営	サッポロアートラボ実行委員会		通年
齋藤 利明	理事(北海道支部長)	テレビ日本美術家協会		通年
杉 哲夫	札幌市立桑園小学校における健康・安全教育の推進 転倒予防マットレス	札幌市立桑園小学校、札幌市立大学		通年
武邑 光裕	札幌ビエンナーレにむけたプレ企画展及び市民啓蒙活動	札幌ビエンナーレプレ実行委員会		通年
	年次行事の運営委員	札幌メディアアートフォーラム		通年
	会長	創造都市さっぽろ芸術の森地区協議会		通年
	札幌メディアアーツラボ設立準備委員会、創造都市さっぽろメディアアーツ部会部会長	創造都市さっぽろ実行委員会		平成23年10月～平成24年
	理事	NPO法人都市文化創造機構		通年
羽深 久夫	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会委員	札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会		通年
	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議特別委員	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議		通年
	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会委員	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会		平成23年8月～2月
	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会委員	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会		平成23年7月～10月
	札幌市南区石山地区まちづくり協議会委員(石山商店街振興組合理事として)	札幌市南区石山地区まちづくり協議会		通年
	NPO法人北の民家の会理事長・事務局	NPO法人北の民家の会		通年
	NPO法人日本民家再生協会会員	NPO法人日本民家再生協会		通年
	NPO法人アルテピアッツア美唄会員	NPO法人アルテピアッツア美唄		通年
芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会会員	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会		通年	

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
羽深 久夫	北海道中小企業家同友会 札幌支部南地区会会員	北海道中小企業家同友会 札幌支部南地区会		通年
矢部 和夫	サマーアートキャンプIN江別(江別市共催)の子どもキャンプのスタッフを務めた	トライ☆アス☆カル 2011実行委員		
	道内の自然を守る活動(常務理事)	北海道自然保護協会		
	湿原植生のアドバイザーとしての役割	キウシト湿原の会		
	植生管理のアドバイザーとしての役割	ビオトープイタンキ		
吉田 和夫	「ウロギネ女性の会」巡回ポスター展への作品提供に依る活動支援	ウロギネ女性の会	6名	平成23年8月 ～9月
	「Tシャツ展」出展	北海道デザイン協議会	3名	平成23年8月15日 ～20日
	「第3次札幌新まちづくり計画書」表紙デザイン	札幌市	14名	平成23年10月 ～11月
	「芸術の森25周年誌」表紙デザイン	(財)札幌芸術の森	6名	平成24年2月 ～3月
吉田 恵介	南区まちづくり活動助成活動として南区を歩くマップづくりの為の活動	南区36景を歩く会		平成23年 9月から3月
	顧問として組織運営に参加	グリーンライフさっぽろ		通年
	隊長として組織運営に参加	八剣山発見隊		通年
	委員長として催事運営に参加	さくらんぼ祭り 実行委員会		平成23年 4月から9月
	ボランティアハンドブック作成委員会で編集委員として活動に参加	札幌市公園緑化協会		平成24年3月
	HITの社会的企業家育成プログラム応募と運営に参加	八剣山エコケータリング		通年
齊藤 雅也	「緑のカーテン」の育成に関するアドバイザー	芸術の森地区まちづくりセンター		平成23年5月 ～9月
武田 亘明	事務局代表、メディアを活用した情報協働教育および雪像制作指導・企画運営	バーチャル雪まつり 実行委員会		通年
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	情報と教育フォーラム「オンコの木」運営委員会		通年
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ハイパー風土記札幌 InterCityOroppas運営委員会		通年
	web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動	ネットワーク・コミュニティ・フォーラム		通年

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
武田 亘明	運営副委員長、運営委員会主催および事務局活動、ワークショップ等プロジェクト企画運営	札幌メディア・アート・フォーラム運営委員会		平成23年4月 ～平成24年3月
	理事、会運営に関する活動	北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会		平成23年4月 ～平成24年3月
	副会長、北海道支部長、web・ドメイン管理およびメディア教育に関する情報交流・研究会等の主催	教育とコンピュータ利用研究会		平成23年4月 ～平成24年3月
	代表、市内書店の在り方およびメディア戦略検討プロジェクト等の主催	北海道企画デザイン研究会		平成23年4月 ～平成24年3月
細谷 多聞	理事	北海道デザインマネジメントフォーラム		
町田 佳世子	女性の地位向上を目的とした講演会の企画活動に参加	特定非営利活動法人日本BPW連合会札幌クラブ		平成23年7月・11月
石田 勝也	行啓通フィルムコンテストの作品募集及び、運営、作品審査委員長	札幌市中央区行啓通商店街組合		平成23年6月～9月
	地下歩行空間北2条メディアゾーンでのPRプログラムの制作、配信	PMF実行委員会		平成23年6月～7月
	500m美術館での学生作品制作支援、優秀作品審査	札幌市観光文化局文化都市市民文化課		平成24年2月 ～5月
	スポーツ推進委員会PR映像制作、地下歩行空間での配信、50周年記念パーティーでの上映	札幌市観光文化局スポーツ部企画事業課振興係		平成24年1月
片山 めぐみ	寿都町21世紀コトブキプロジェクト・ワークショップ	寿都町	5名	平成24年3月17日
三谷 篤史	北海道内の大学生を対象としたロボットコンテストの企画運営、第11回ロボット・トライアスロン大会への参加	ロボット・トライアスロン運営委員会		平成23年10月2日
	第12回ロボット・トライアスロン	ロボット・トライアスロン運営委員会	5名	平成23年10月2日
	第3回SCU-HFUデザインワークショップ	札幌市立大学	34名	平成24年2月5日 ～11日
山田 良	さっぽろシャワー通りの施設整備・運営	さっぽろシャワー通り商店街		平成23年5月
上田 裕文	住民ワークショップの企画運営および参加	寿都町企画課		平成24年3月17日
	福島から北海道への一時避難受け入れ支援	北海道被災者受入支援ネットワーク		平成23年3月14日～
須之内 元洋	地域住民参加型、台湾向け震災謝礼CM制作 ボランティア支援	北海道運輸局・HTB等		平成24年6月26日

看護学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
スーディ神崎 和代	札幌芸術の森25周年記念公開プレゼンテーション・審査・講評	札幌市芸術文化財団		平成23年10月23日
	医療産業の産学連携促進活動	産学連携促進活動参加		平成23年12月1日 ～平成24年3月30日
宮崎 みち子	胎児と女性の健康支援活動：研修会・学習会の企画・運営、活動内容の社会への周知	エンブリオ北海道		通年
	ワンストップセンター設立の準備、研修会の企画・運営	北海道女医会		通年
	留学生の支援	北海道国際女性協会		通年
坂倉 恵美子	小学校跡の高齢者の生活拠点づくり	札幌市市民まちづくり局 都市計画部地域計画課		
	もみじ台の地域の大広間イベント開催協力	札幌市市民まちづくり局 都市計画部地域計画課		
大野 夏代	看護師によるマッサージボランティア活動	手稲溪仁会病院		平成23年6月 ～平成24年3月
清水 光子	桑園地区ボランティア「桑園地区文化祭」	桑園連合町内会		平成23年10月15日・16日
	桑園地区ボランティア「桑園地区文化祭」の設営	桑園連合町内会	7名	平成23年10月15日
	桑園地区ボランティア「桑園地区文化祭」	桑園連合町内会	7名	平成23年10月16日
守村 洋	精神障害者当事者会の運営活動に対する助言指導および相談業務	NPO法人すみれ会		通年
	企画運営および参画	さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会		通年
山田 典子	災害地における性暴力被害の防止にかかるSANE活動	NPO法人女性の健康と安全のための支援教育センター		
	“地域の精神障害者のDV、性虐待相談”	NPO法人ウィメンズネット青森		
	震災後の女性・子ども応援プロジェクト	災害時の性暴力・DV防止ネットワーク		
	パープル電話相談員(全国規模のホットライン電話相談)	全国規模のホットライン電話相談		
	桑園地区センターまつり	桑園地区衛生委員会		
菊地 ひろみ	桑園地区ボランティア活動の組織・参加	札幌市立大学		平成23年4月～11月
櫻井 繭子	組織運営(法人理事・庶務担当)、健康相談事業相談員	NPO法人こころ		通年
菅原 美樹	監事：委員会活動の監査・会計監査、第7回日本救急看護認定看護師会ブラッシュアップセミナー企画・運営	日本救急看護認定看護師会		平成23年9月3日

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
村松 真澄	健康に関する企画・運営および手洗い口座の企画・運営と当日リーダーをした	ミニ大通りお散歩祭り実行委員会		平成23年9月11日
	口腔ケアの講座の企画・運営を実施した	NPO炭抗の記憶推進事業団		平成23年9月25日
	健康祭りの当日スタッフとしてボランティアをした	社会福祉法人札幌市福祉事業団		平成23年7月20日
	口腔ケアの講座を企画実施した	清田老人福祉センター		平成23年8月31日
渡邊 由加利	模擬患者組織の支援	札幌市立大学看護学部模擬患者「桑の会」		
工藤 京子	岩手県における災害ボランティア活動への参加	遠野まごころネットワーク		平成23年6月8日 ～11日
	「職場体験学習」実習室体験	札幌市立高等学校	5名	8月31日
鶴木 恭子	看護師によるマッサージボランティア	手稲溪仁会病院		平成23年7月 ～平成24年3月
原井 美佳	桑園地区連合町内会主催の行事における学生ボランティアへの支援3件	桑園地区連合町内会		平成23年4月 ～10月
三上 智子	小樽市最上地区ボランティアエコ活動	最上小学校エコクラブ		6月(2日間)

5) マスメディアへの掲載

デザイン学部

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
石崎 友紀	つくってわくわく(再放送)	NHK	通年
	つくってあそぼ(再放送)	NHK	通年
上遠野 敏	炭鉱遺産まるごとアートに 夕張清水沢できょう開幕	北海道新聞 朝刊	平成23年9月17日
	「炭鉱アート振り返る」	北海道新聞 朝刊	平成24年2月11日
	新カントリーサイン決定	北海道新聞 朝刊	平成24年3月8日
	札幌市立大生ら募金活動「奇跡の一本松」 訴え	北海道新聞 朝刊	平成24年3月13日
	炭鉱の記憶アートプロジェクト (北海道環境生活部くらし安全局発行)	北海道アートマップ	平成24年3月
齋藤 利明	個展作品の紹介	北國新聞(金沢) 朝刊	平成23年11月9日
杉 哲夫	三輪自転車 出演	NHK「ネットワーク ニュース北海道」ライブ 北海道	平成23年9月13日
	ベビーカーモーターショーに出品	北海道新聞、朝刊	平成24年1月26日
	「ママの味方 雪道で使えるベビーカー」	NHK「ネットワーク ニュース北海道」ライブ 北海道	平成24年2月15日
	札幌モーターショー 電動ベビーカー、スノーダンプ 出演	北海道テレビ	平成24年2月16日
	電動スノーダンプ出演	北海道放送「今日ドキッ」	平成24年2月20日
	同友大学杉哲夫講師紹介掲載	同友会・中小企業家新聞	平成24年1月16日
	札幌モーターショー 札幌市立大学ブース紹介 出演	北海道放送 「北海道ニュース1」	平成24年2月16日
武邑 光裕	コラム「魚眼図」毎月連載	北海道新聞 夕刊	通年(年12回)
羽深 久夫	ひと 2011 厚真で古民家を再生する 札幌市立大学教授	北海道新聞 朝刊	平成23年9月5日
	希少古民家	北海道新聞 夕刊	平成23年10月13日
	開拓古民家	読売新聞 朝刊	平成24年3月7日
	古民家まちづくりに活用	読売新聞 朝刊	平成24年3月9日
	古民家再生へ	苫小牧民報 朝刊	平成23年7月27日
	古民家再生へ協議会	北海道新聞 朝刊	平成23年7月27日
	厚真町古民家再生協議会	苫小牧民報 朝刊	平成23年10月25日
	古民家再生へ実態調査報告	北海道新聞 朝刊	平成23年10月25日
	古民家を再生、まちの活力に	苫小牧民報 朝刊	平成24年1月1日
	古民家を文化財指定に	北海道新聞 朝刊	平成24年2月1日

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
羽深 久夫	古民家の活用提言	苫小牧民報 朝刊	平成24年2月1日
	厚真町古民家再生協議会が提言書素案	北海道建設新聞 朝刊	平成24年2月17日
原 俊彦	北海道“人口急減”への提言	道民雑誌クオリティ	平成23年4月1日
	検証 さっぽろ圏 第1部 人口 少子化 群抜く適齢・未婚男性 職少なく若年世代は道外へ	北海道新聞 朝刊	平成24年1月6日
	41市町村の未来考 教育と人口減4人口移動 札幌へ毎年2万人流出	北海道新聞(旭川支局)朝刊	平成24年1月11日
矢部 和夫	ウトナイ湖面積調査の記事が「札幌市立大学大学院教授矢部和夫の研究」として掲載	北海道新聞 朝刊(一面)	平成23年11月19日
吉田 恵介	さくらんぼ祭りの開催について	北海道新聞 朝刊	平成23年7月14日
齊藤 雅也	[記事]は虫類・両生類 実は面白い	北海道新聞 朝刊(23面)	平成23年4月21日
	[報道]札幌市円山動物園 は虫類・両生類館の温熱環境デザイン	北海道文化放送「U型テレビ」	平成23年4月22日
	[記事]「生きた宝石」に歓声 円山動物園は虫類・両生類館リニューアルオープン	毎日新聞 朝刊	平成23年4月24日
	[記事]もっと知りたい!円山動物園4月オープン新は虫類・両生類館	道新オントナ	平成23年4月27日
	[記事]まるで宝石箱!魅力的で美しい「は虫類・両生類」専門の施設がオープン～円山動物園	ペットプレスニュース	平成23年4月28日
	[記事]円山動物園の新施設「は虫類・両生類館」	ようこそ さっぽろ 札幌市	平成23年5月1日
	[映像]さっぽろZOOアーカイブ「は虫類・両生類館」	札幌市円山動物園(株)キッズプロモーション	平成23年5月5日
	[記事]へびやカエルに熱い視線 円山、旭山の両動物園で新施設が開館	産経新聞社	平成23年5月14日
	[記事]ひと 2011 円山動物園の「は虫類・両生類館」をデザインした 齊藤雅也さん	北海道新聞社 朝刊	平成23年6月19日
	[放送]札幌市立大学「緑のカーテン」プロジェクトの紹介	Leaf(リーフ)(株)エフエム北海道(Air-G)	平成23年6月23日
	[記事]円山動物園に学ぶ快適で省エネな環境設計 前編	北海道住宅新聞	平成23年11月5日
	[記事]円山動物園に学ぶ快適で省エネな環境設計 後編	北海道住宅新聞	平成23年11月15日
	[対談記事(再掲)]エアコンで暖房エコで省エネな北海道の暖房提案	ヒートポン普及促進連絡会	平成23年11月18日
	[出演]WARM BIZ NAVI「住でWARM BIZ」	FMノースウェーブ82.5・環境省「チアラジ!~Cheers Radio~」	平成24年1月12日
	[トークショー]新千歳空港ショールームウォームビズキャンペーン [動画]住のウォームビズ	FMノースウェーブ82.5・(北海道文化放送)環境省	平成24年2月11日

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
齊藤 雅也	[記事]札幌市立大・齊藤先生に聞く 基準の狙いと今後の展望	北海道住宅新聞	平成24年3月15日
武田 亘明	枝幸、中頓別町で教育支援調査研究視察	日刊宗谷(宗谷新聞社) 朝刊	平成23年9月14日
柿山 浩一郎	大学概要、歴史、最近の取り組み、学長インタビュー等	テレビ北海道 「けいざいナビ北海道」	平成23年7月31日
	卒修展ツアー	札幌テレビ放送「どさんこワイド179」	平成24年3月13日
片山 めぐみ	寿都活性化へ「海」と「食」に着目－札幌市立大とプロジェクト	北海道新聞 朝刊	平成24年3月18日
小宮 加容子	コネキッド	北海道新聞 朝刊	平成23年8月8日
	「ママの味方 雪道で使えるベビーカー」	NHK「ネットワークニュース北海道」ライブ北海道	平成24年2月15日
	「私達のアイデアがさっぽろをかえる(雪道ベビーカー)」	広報さっぽろ1月号	平成24年1月19日
福田 大年	8月6日「札幌市立大学公開講座 Connekid!!(コネキッド)2012」の取材記事	北海道新聞 朝刊	平成23年8月8日
	「情報デザイン 教育のあり方は」 3月15日シンポジウム「次代の社会をつくる、デザインの学び－情報デザイン×大学教育のこれから－」の取材記事	北海道新聞 夕刊	平成24年3月26日
	札幌版次世代規準を発表 「SAPPORO ECO-E HOUSE」	北海道住宅新聞 朝刊	平成24年3月5日
山田 良	小樽アートプロジェクト2011 theatrical landscape	北海道新聞 朝刊	平成23年7月28日
	小樽アートプロジェクト2011 theatrical landscape	朝日新聞 朝刊	平成23年7月26日
	小樽アートプロジェクト2011 theatrical landscape	読売新聞 朝刊	平成23年7月27日
	小樽アートプロジェクト2011 theatrical landscape	北海道新聞 朝刊	平成23年8月10日
	真駒内駅アートフレーム	北海道新聞 朝刊	平成24年3月24日
	札幌駅前通地下歩行空間 shelf byway	北海道新聞 朝刊	平成24年1月25日
	札幌ビエンナーレへの提言	北海道新聞 朝刊	平成24年1月9日
上田 裕文	北海道新聞後志版8月24日、 寿都町のブルーーツーリズム	北海道新聞 朝刊	平成23年8月24日
	北海道新聞後志版3月18日、 寿都町での住民ワークショップ	北海道新聞 朝刊	平成24年3月18日

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

看護学部

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
中村 恵子	連載「教育者の眼」	総合看護(季刊誌)	通年(年4回)
スーディ神崎 和代	グループホーム職員対象の認知症ケア講演について「介護はクールな頭と温かい心で」	北海道新聞 朝刊	平成23年6月15日
	一般社団法人化へ準備:札幌市ケアマネ連協が総会-認知症とコミュニケーション研修会	介護新聞 朝刊	平成23年5月19日
	追分で認知症講演会:進行遅延策を伝授-最新情報提供	苫小牧民報 朝刊	平成23年5月26日
松浦 和代	楽しく脚力、平衡感覚強化 転倒予防マット運動 桑園小などと開発	北海道医療新聞 朝刊	平成24年10月21日
	『先天性股関節脱臼の予防と早期発見』に関わる現地視察	Daily News Mongolia 朝刊	平成24年3月14日
大野 夏代	新聞掲載	モンゴル国Daily News 朝刊	平成24年3月14日
守村 洋	障害をもった白石区在住姉妹餓死事件へのコメント	STV「どさんこワイド」	平成24年1月23日
	うつ	北海道新聞 朝刊	平成23年9月
藤井 瑞恵	学会報告「端野・壮瞥町研究」1日14-25gの飲酒はインスリン抵抗性リスク低下と関連	疫学循環サイト (http://www.epi-c.jp/entry/e800_0_jea2012.html#14th)	平成24年2月中旬
村松 真澄	夕張での 札幌市立大学看護学部3年生の健康セミナーが紹介	ベストナース	平成23年12月
	札幌市立大学看護学部地域交流ボランティアの口腔ケアセミナーが紹介	ベストナース	平成23年11月
	札幌市立大学看護学部地域交流ボランティアも身に大通り祭りの手洗いセミナーが紹介	ベストナース	平成23年11月
	北海道看護協会札幌第一支部看護職能で実施した研修会が紹介	ベストナース	平成23年10月
多賀 昌江	顔「死産した赤ちゃんのひつぎを開発した助産師」	読売新聞 朝刊(総合面)	平成23年9月22日

2 公開講座開催実績

開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成23年5月14日(土)	訪問看護スキルアップ講座2011 「在宅医療機器とケア講座」	高橋 夏絵(勤医協中央病院看護師長・皮膚排泄ケア認定看護師)	44
平成23年7月2日(土)	ママの声を聞かせてください! もっとこうなったら?を形にしましょう	杉 哲夫(デザイン学部教授) 張 浦華(デザイン学部准教授) 小宮 加容子(デザイン学部講師)	19
平成23年7月7日(木)	持続可能な都市・建築システムと身体の繋がりを考えるー熱力学的視座にもとづく流れ・循環・リズムのデザインー	斉藤 雅也(デザイン学部准教授)	22
平成23年8月7日(日)	Connekid(コネキッド)! <遊びのデザインワークショップ>	小宮 加容子(デザイン学部講師)、 福田 大年(デザイン学部講師)、 学生有志スタッフ	197 (子ども112、 保護者85)
平成23年8月29日(月)	臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座	大野 夏代(看護学部准教授)、 河内 香久子(治療室シーズ院長)	65
平成23年9月9日(金)	うつ病を抱える人への関わり方 ー自殺への周囲の気づきと対応ー	守村 洋(看護学部准教授)	200
平成23年9月22日(木)	路面電車のスタイリング ー心地よい公共空間の新構築ー	白井 寛(札幌LRTの会副会長) 石崎 友紀(デザイン学部教授)、 大坪 聡一郎(札幌市立大学大学院デザイン研究科学生)	19
平成23年10月15日(土)	ママの声を聞かせてください! もっとこうなったら?を形にしましょう	杉 哲夫(デザイン学部教授) 張 浦華(デザイン学部准教授) 小宮 加容子(デザイン学部講師)	16
平成23年10月20日(木)	さっぽろ建築夜学校 ー札幌における建築の役割ー「札幌の景観」	小澤 丈夫 (北海道大学大学院工学研究院准教授) 進行:那須 聖(デザイン学部准教授)	28
平成23年10月29日(土)	家庭でも活かせるコミュニケーション ー言いにくいことはポジティブな言葉でサンドイッチー	山本 勝則(看護学部教授) 吉川 由希子(看護学部准教授) 渡邊 由加利(看護学部講師) 工藤 京子(看護学部助教) 測本 雅昭(看護学部助教)	6
平成23年10月29日(土)	住まいをつくるー間取りで考える世界の住まいー	那須 聖(デザイン学部准教授)	11
平成23年11月11日(金)	ジェンダーから読むアメリカ南部小説ー『風と共に去りぬ』からウィリアム・フォークナーまでー	松井 美穂(デザイン学部講師)	8
平成23年11月12日(土)	訪問看護スキルアップ講座2011 認知症ケア講座 第3弾	スーディ神崎 和代(看護学部教授)	68
平成23年11月17日(木)	さっぽろ建築夜学校 ー札幌における建築の役割ー「札幌らしさ」	三木圭 吾(株札幌社代表取締役) 進行:山田 良(デザイン学部講師)	30
平成23年11月18日(金)	ジェンダーから読むアメリカ南部小説ー『風と共に去りぬ』からウィリアム・フォークナーまでー	松井 美穂(デザイン学部講師)	5
平成23年11月25日(金)	エイズの最新治療とエイズ患者の気持ちを知る	星 美和子(看護学部講師) 遠藤 知之(北海道大学病院)、HIV陽性者	16

開催日	タイトル	講師	受講者数(名)
平成23年12月15日(木)	さっぽろ建築夜学校 -札幌における建築の役割-「札幌エコ」	遠藤 謙一良 (株)遠藤建築アトリエ代表取締役 進行:齊藤 雅也(デザイン学部准教授)	24
平成24年1月12日(木)	女性の排尿に関する困りごとの現状 -札幌における調査報告-	原井 美佳(看護学部助教)	17
平成24年1月19日(木)	さっぽろ建築夜学校 -札幌における建築の役割-「北方型住宅」	大柳 佳紀 (道立総合研究機構本部連携推進部主幹) 進行:片山 めぐみ(デザイン学部講師)	12
平成24年2月16日(木)	さっぽろ建築夜学校 -札幌における建築の役割-「札幌の住まい」	野島 宏利 (株)北海道住宅通信社代表取締役 進行:羽深 久夫(デザイン学部教授)	15
平成24年2月18日(土)	飼育員ってどんな人? -円山動物園「1日飼育係」体験において人と動物をつなぐ飼育員の役割-	河村 奈美子(看護学部助教) 町田 佳世子(デザイン学部准教授) 柴田 千賀子 (札幌市円山動物園 飼育展示課長) 土佐 貴樹(飼育員) 吉田 淳一(飼育員) 中居 幸世(飼育員)	12

3 社会における活動

デザイン学部

教職員	名称/自治体名・主催団体名
酒井 正幸	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)さっぽろ産業振興財団評議員/札幌市 ・札幌市図書館協議会委員/札幌市 ・円山動物園の森協議会/札幌市 ・札幌市路面電車トータルデザインアドバイザー座長/札幌市
中原 宏	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道建築士審査会/北海道 ・「北のまちづくり賞」選考委員会/北海道 ・札幌市中高層建築物紛争調整委員会/札幌市 ・アイヌアートモニュメント基礎的検討アドバイザー/札幌市
石崎 友紀	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の森工芸部委員会/札幌市 ・札幌芸術の森工芸部委員長
上遠野 敏	<ul style="list-style-type: none"> ・空知地域づくり推進委員会&ガイドマニュアル専門部会/空知総合振興局
武邑 光裕	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道商工振興審議会/北海道 ・創造都市さっぽろ実行委員会副会長/札幌市 ・Film in 北海道ネットワーク委員会/北海道 ・札幌駅前地下歩行空間北2条コンテンツアプリケーション検討委員会/札幌市 ・全北海道広告協会 審査委員会委員長 ・NPO法人 都市文化創造機構理事

教職員	名称／自治体名・主催団体名
羽深 久夫	<ul style="list-style-type: none"> ・国重要文化財建造物所有者診断支援事業調査員／文化庁+北海道教育委員会 ・札幌市文化財保護審議会委員長代理／札幌市 ・豊平館活用整備等検討委員会委員長代理／札幌市 ・札幌芸術の森運営協議会委員／札幌芸術文化財団 ・喜茂別町交流の森検討委員会委員長／喜茂別町 ・喜茂別町水の郷きもべつまちづくり振興基金補助金審査会委員／喜茂別町 ・喜茂別町町内案内サイン検討委員会委員長／喜茂別町 ・厚真町古民家再生推進協議会委員長／厚真町 ・札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議委員／札幌市南区 ・札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート検討協議会委員／札幌市南区 ・札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート地域づくり部会委員／札幌市南区 ・札幌市保養センター駒岡運営協議会委員／札幌市環境福祉事業団
原 俊彦	<ul style="list-style-type: none"> ・国立社会保障・人口問題研究所研究評価委員／厚生労働省
矢部 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・植生凡例検討委員会／環境省 ・芸術の森樹林調査業務へのアドバイス委託／札幌市公園緑化協会 ・美々川自然再生事業技術検討委員会／北海道 ・植生管理アドバイザー／国営滝野すずらん公園 ・平岡公園原っぱ会議委員／札幌市・札幌市公園緑化協会 ・円山動物園の森協議会／円山動物園 ・成東・東金食虫植物群落作業部会委員／千葉県山武市
吉田 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車デザインコンテスト審査委員／北海道 ・札幌市都市景観審議会／札幌市 ・札幌市広告アドバイザー会議／札幌市 ・中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会／札幌市 ・札幌駅前通地下歩行空間・地名由来等説明表示デザインアドバイザー／札幌市 ・広告電通賞 地区選考委員会委員長 ・地下広場広告デザイン審査会委員 ・北海道エアシステム新ロゴマーク選考委員会委員
吉田 恵介	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市芸術文化財団評議員／札幌市 ・札幌市都市景観アドバイザー／札幌市 ・札幌市環境影響評価審議会委員／札幌市 ・民族共生の象徴となる空間のイメージの構築に向けた検討会委員／国土交通省 ・札幌市屋外広告物審議会委員／札幌市 ・藻岩山魅力アップ構想環境配慮ガイドライン検討懇談会委員／札幌市 ・全国花のまちづくり札幌大会実行委員会委員／札幌市 ・大通公園百周年記念シンポジウム2011実行委員会委員／札幌市 ・北海道特定開発行為審査会委員／北海道 ・公園マネジメント評価委員／札幌市公園緑化協会

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

教職員	名称／自治体名・主催団体名
武田 亘明	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道学校・家庭・地域の連携による教育活動促進事業推進委員会／北海道 ・望ましい読書週間定着推進事業検討委員会／北海道 ・望ましい読書週間定着推進事業子ども読書プロジェクトチーム／北海道 ・さっぽろ地域IT活用支援事業審査委員会／札幌市 ・平成23年度姉妹都市記念映像制作事業企画選考委員会／札幌市 ・創造都市さっぽろグラフィックデザイン産業振興会議／札幌市 ・「視聴覚教育・情報教育功労者表彰」選考委員会／北海道 ・優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰推薦活動選考委員会／北海道 ・北海道立生涯学習センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会／北海道 ・札幌市立西岡小学校学校評議員会／札幌市 ・北海道札幌藻岩高等学校学校評議員会／北海道
張 浦華	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道陶芸作家協会 事務局
細谷 多聞	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌スタイル推進会議／札幌市 ・札幌スタイル認証審査委員会／札幌市
町田 佳世子	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌家庭裁判所参与員／裁判所 ・(財)札幌市水道サービス協会評議員／札幌市
片山 めぐみ	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会委員／札幌市 ・次世代育成支援対策推進協議会専門部会委員／札幌市 ・札幌市臨時都市景観アドバイザー／札幌市 ・大規模小売店舗立地法専門家会議委員／札幌市
福田 大年	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌メディア・アート・フォーラム運営委員 ・札幌アートディレクターズクラブクラブ委員
山田 良	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市総合企画調査専門委員／札幌市
上田 裕文	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市みどりの審議会委員／札幌市 ・上山型温泉クアオルト推進員アドバイザーフェロー員／上山市
須之内 元洋	<ul style="list-style-type: none"> ・駅地下北2条運営アドバイザー会議／札幌市

看護学部

教職員	名称／自治体名・主催団体名
中村 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師医道審議会／厚生労働省 ・社会全体で共有する緊急度判定(トリアージ)体系のあり方検討会委員／総務省 ・札幌市救急業務検討委員会／札幌市 ・認定看護師制度委員会委員長／日本看護協会 ・専門看護師認定実行委員会／日本看護協会
坂倉 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市介護保険認定審査会の審査委員／札幌市 ・札幌市社会福祉協議会の評議委員／札幌市 ・北海道建築審査会の建築審査委員／北海道庁
樋之津 淳子	<ul style="list-style-type: none"> ・大学設置・学校法人審議会専門委員／文部科学省
清水 光子	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市地域包括支援センター運営協議会委員／札幌市 ・社会福祉法人札幌市中央区社会福祉協議会評議員／札幌市 ・札幌市中央区桑園地区民生委員・児童委員推薦準備会委員／札幌市
守村 洋	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市社会福祉総合センター運営委員会／札幌市 ・札幌市地域福祉権利擁護事業／札幌市
菅原 美樹	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム医療推進のための大学病院職員の人材育成システムの確立」におけるペーパーレフェリー／文部科学省高等教育局 ・文部科学省高等局「チーム医療推進のための大学病院職員の人材育成システムの確立」におけるペーパーレフェリー
村松 真澄	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道看護協会札幌第一支部看護職能委員長 ・旭川口腔ケア普及研究会幹事／上川中部地域歯科保健推進協議会 ・在宅療養支援薬局研究会幹事
山内 まゆみ	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道看護協会助産師職能委員
山本 真由美	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道看護協会教育委員
山田 典子	<ul style="list-style-type: none"> ・青森市100人会議／青森県青森市 ・十和田市SCオブザーバー／青森県十和田市

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

4 専門職支援・セミナー講師等

デザイン学部

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
原田 昭	平成23年10月23日	芸森25歳100年の未来へ	(財)札幌市芸術文化財団
	平成23年11月29日	デザイン、介護分野に於けるインターネットの役割(仮題)	日本学術振興会 産業協力研究委員会
中原 宏	平成24年2月16日	さっぽろ緑花園芸学校 「札幌市の都市計画と未来」	(財)札幌市公園緑化協会
	平成24年3月26日	平成23年度北のまちづくりセミナー (演題:「北のまちづくりについて」～地域の資源を活かしたまちづくり～)	北海道建設部
石崎 友紀	平成23年10月16日	第3回3D-CAD プロダクトデザインコンテスト記念講演「ものづくり源流・(工学的性能とアイデア発想力)」	日本工業大学
杉 哲夫	平成24年3月27日	地域に根ざした「ものづくり」	北海道中小企業家同友会
原 俊彦	平成23年10月7日	平成23年度社会保障・人口問題基礎講座	一般(財)厚生労働統計協会
	平成23年10月28日	システムダイナミックス(SD)手法による人口変動のモデル化	日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所
矢部 和夫	平成23年6月4日	観察会「平岡公園春の湿生植物観察ツアー」講師	(財)札幌市公園緑化協会
	平成23年7月7日	平成23年度調査研究成果発表会	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
	平成23年9月29日	さっぽろ緑花園芸学校「ビオトープ」	(財)札幌市公園緑化協会
	平成24年3月16日	平成23年度第2回西岡公園の湿原学習会	札幌市
吉田 恵介	平成23年12月15日	ふらっとホーム2011 in 南区～市民と市長の2時間談義	札幌市豊平区
	平成24年3月22日	講義「緑花ボランティアの展開」コメンテーター	(財)札幌市公園緑化協会
斉藤 雅也	平成23年9月6日	第1学年総合的な学習の時間 「環境について考える」講演会	札幌市立中央中学校
	平成23年11月30日、12月4日・10日・11日	平成23年度北海道旭川西高等学校 「SS 実験講座」講師	北海道旭川西高等学校
武田 亘明	平成23年11月29日	向陵中学校区青少年健全育成推進会講演会にかかる講師	向陵中学校区 青少年健全育成推進会
	平成24年1月17日	北海道教育支援活動推進フォーラム インタビュアー	北海道教育庁学校教育局
	平成24年2月14日	平成23年度新篠津村家庭教育講座講師	新篠津村教育委員会
町田 佳世子	平成23年9月4日	平成23年度新人教育プログラム2年次研修会 講演テーマ「グループ力を高めるコミュニケーション」	公益社団法人 北海道理学療法士会
	平成23年11月19日	アンダー35男子のためのコミュニケーション講座	札幌市男女共同参画センター

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
大舘 一博	平成23年9月12日	看護職復職支援講習会の講師	さっぽろ雇用創造協議会
柿山 浩一郎	平成23年12月9日	人間の感性を考慮した効果的な PPT 資料等の作成について	札幌管区气象台
福田 大年	平成23年9月7日	パッケージデザイン技術指導	北海道社会福祉協議会
	平成23年9月20日	講義「商品の良さを伝えるためのデザイン」	北海道社会福祉協議会
	平成24年3月29日 ～30日	施設製品パッケージデザイン技術指導等	北海道社会福祉協議会

看護学部

1) 専門職支援

① 認定看護管理者制度サードレベル教育課程

平成23年度受講者11名(修了者10名)

開講期間	教科目／ 時間／単位	単元	講義・演習 (時間数)	講師
第Ⅰ期(15日間) 平成23年8月22日 ～9月9日	保健医療 福祉政策論／ 30時間／2単位	社会保障の概念	講義(3)	★梅井 治雄
		諸外国の保健医療福祉	講義(3)	スーディ神崎 和代
		保健医療福祉政策	講義(3)	★山田 雅子
		看護制度・政策	講義・演習(6)	★丸山 知子 ★山田 雅子
		制度・政策に影響を及ぼす 看護管理者	講義・演習(6)	中村 恵子
		保健医療福祉政策論	演習(9)	★上田 順子 ★近藤 ときえ 河野 総子
第Ⅱ期(14日間) 平成23年11月7日 ～11月25日	保健医療 福祉組織論／ 45時間／3単位	保健医療福祉サービスの マーケティング	講義・演習(6)	★松下 博宣
		地域保健医療福祉計画	講義(6)	★飯田 晃
		組織デザイン論	講義・演習(9)	河野 総子 ★永池 京子
第Ⅲ期(10日間) 平成24年1月16日 ～1月27日	保健医療 福祉組織論／ 45時間／3単位	ヘルスケアサービスの連携	講義(12)	河野 総子 ★佐々木 由紀子 中村 恵子 ★平川 由紀子
		保健医療福祉組織論	演習(12)	★荒木 美弥子 河野 総子 ★西川 優子 ★松田 久代
		医療福祉と経済論	講義・演習(6)	★高木 安雄
	経営管理論／ 75時間／5単位	医療福祉経営	講義・演習(12)	河野 総子 ★徳田 禎久

開講期間	教科目／時間／単位	単元	講義・演習(時間数)	講師	
第Ⅰ期(15日間) 平成23年8月22日 ～9月9日	経営管理論／ 75時間／5単位	財務管理	講義・演習(6)	★玉川 真弓	
		経営分析	講義・演習(6)	★水野 克也	
		ヘルスケアサービスの経営 と質管理・経済性	講義・演習(12)	★陣田 泰子 ★宮城 領子	
		看護経営の今後のあり方	講義・演習(15)	スーディ神崎 和代	
		経営管理論	演習(18)	★加藤 久美子 河野 総子 ★佐々木 由紀子 ★児玉 真利子	
	第Ⅱ期(14日間) 平成23年11月7日 ～11月25日	経営者論／ 30時間／2単位	経営者論	講義(6)	★田中 靖代 中村 恵子
			管理者の倫理的意思決定	講義(6)	★石垣 靖子 中村 恵子
			起業家論	講義(6)	★原田 典子 ★鈴木 英樹
			経営者論演習1	演習(6)	河野 総子 ★近藤 ときえ ★鈴木 康也
			経営者論演習2	演習(6)	河野 総子 ★近藤 ときえ ★鈴木 康也
第Ⅲ期(10日間) 平成24年1月16日 ～1月27日	※その他／ 30時間	開講式・終講式、オリエンテーション・ガイダンス、情報・文献検索、小論文 プレゼンテーション、レポート作成、特別講義、口頭試問、全体会議			

★印:非常勤講師

2) セミナー講師等

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村 恵子	平成23年5月7日	研修会講師「OSCEに係るプロジェクトの総括評価について」	日本赤十字広島看護大学
	平成23年7月2日	平成23年度認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程講師	(社)青森県看護協会
	平成23年7月29日	師長・主査研修講師「看護管理者の役割と実践」	苫小牧市立病院
	平成23年8月18日	看護職員スキルアップ研修会講師「基礎教育におけるOSCE - 札幌市立大学の取り組み -」	(社)岩手県看護協会
	平成23年9月3日	日本救急看護学会主催 基礎病態セミナー講師	一般社団法人日本救急看護学会
	平成23年9月12日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成23年9月16日	FD 講演会講師「学生の看護実践能力を育てるOSCEの導入」	茨城キリスト教大学
	平成23年9月27日	OSCE 学内研修会講師「OSCEの目的、OSCEの内容、進め方、模擬患者の役割」	聖マリアンナ医科大学 看護専門学校

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村 恵子	平成23年10月6日・7日	平成23年度看護師救急医療業務実地修練講義 講師 座学「救急患者への対応とトリアージ」 ワークショップ「救急トリアージの実際」	(財)日本救急医療財団 日本救急医学会 救急医学領域 教育研修委員会
	平成23年10月7日	平成23年度認定看護管理者制度セカンドレ ベル講師「看護の専門性」	(社)京都府看護協会
	平成23年10月27日・28日 平成24年1月14日・17日	平成23年度認定看護管理者教育制度ファース トレベル教育課程講師「看護管理概説」	(社)北海道看護協会
	平成23年11月5日	講演講師「看護技術の達成度評価の考え方と実際」	東京都看護系学校連絡協議会
	平成23年11月12日	基礎病態セミナー講師「救急看護師の役割」	一般社団法人日本救急看護学会
	平成23年12月13日	講義講師「特定看護師(仮称)概論」	公益社団法人日本看護協会 看護研修学校
	平成24年1月12日	講演講師「OSCE の導入に関する講演」	共立女子学園看護学部 設置準備室
	平成24年1月21日	平成23年度免疫アレルギー疾患等予防・治療研 究事業「移植医療の社会的基盤に関する研究」セ ミナー講師 家族ケア「看取りの概念とグリーフ ケア」(死の受容プロセス・現場認識の促進)	東京歯科大学市川総合病院 角膜センター
	平成24年3月15日	青森県立保健大学 FD 研修会講師「(仮)実践的 な学習とその評価－看護・理学教育と OSCE -」	青森県立保健大学
内田 雅子	平成23年6月11日	看護研究 基調講義講師「記述統計と推測統 計 変数と尺度 尺度に基づく検定法の選 択 標本数による検定力」	札幌市病院局市立札幌病院
河野 総子	平成23年8月2日	都道府県看護協会における継続教育のプロ グラム開発～認定看護管理者教育課程の充 実～研修会講師「担当者が変われば教育が変 わる！プログラムの工夫例」	公益社団法人日本看護協会
	平成23年8月11日	平成23年度認定看護管理者教育制度セカンドレ ベル教育課程講師「看護管理に必要な知識体系」	(社)北海道看護協会
	平成23年9月12日・ 20日・21日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成23年11月9日・ 11日、平成24年1月 31日	平成23年度認定看護管理者教育制度ファース トレベル教育課程講師	(社)北海道看護協会
坂倉 恵美子	平成23年11月14日	高齢者の看護研修講師 「高齢者の特性:身体的・心理的・社会的」	札幌市病院局市立札幌病院
	平成23年9月14日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
定廣 和香子	平成23年7月14日・15日	秋田県実習指導者講習会講師「看護教育論」	秋田県立衛生看護学院
スーディ神崎 和代	平成23年4月1日～ 平成24年3月31日	管理職・看護・介護スタッフの継続教育の 非常勤講師「認知症看護および介護、感染管 理、医療経営」	神鋼ケアライフ(株)
	平成23年5月12日	平成23年度札幌市介護支援専門員連絡協議会「全 体研修会」講師「認知症とコミュニケーション」	札幌市介護支援専門員 連絡協議会

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
スーディ神崎 和代	平成23年5月25日	安平町講演『認知症』講師	三井ヘルスサービス(株)
	平成23年6月10日	研修会講師「2011年時点の認知症」	恵庭市グループホーム ネットワークの会
	平成23年7月22日	高齢者対象の講演会講師「口腔の世界～いきいきと生活するために～」	神鋼ケアライフ(株)
	平成23年9月1日～ 平成24年3月31日	指導	夕張市
	平成23年10月18日	認知症講演講師「認知症 - 2011年時点で明らかになっていること」	札幌市白石区管理者連絡会 グループホームあかり
	平成23年10月22日	東区介護予防特別講演会講師「認知症と生きていくこと～進行を遅らせるために～」	札幌市東区
	平成23年11月18日	韓日露科学都市共同シンポジウムテーマ発表・討論「科学技術と都市発展及び文化芸術、福祉、環境分野の連携」	札幌市(韓国大田市)
	平成23年12月3日	認知症介護従事者研修会講師 「認知症の新しい情報」	滝川地域介護サービス 事業者連絡協議会
	平成24年1月21日	研修講師「認知症の知識」	社会福祉法人札幌恵友会
	平成24年3月23日	研修会講師「終末期ケア」	神鋼ケアライフ(株)
樋之津 淳子	平成23年9月16日	FD「看護教育における OSCE の意義と活用について」の講師	山口県立大学
	平成23年11月5日	看護 OSCE の方法と実践についての研修会	東京都看護系学校連絡協議会
松浦 和代	平成23年4月16日	看護研究講演会講師「リサーチクエスチョンのつくり方 - 教育実践から研究課題へ -」	北海道看護教育研究会
	平成23年5月9日	臨床指導者研修 I 講師「基礎教育における実習の意義と指導」	札幌市病院局市立札幌病院
	平成23年5月31日	平成23年度看護部院内研修講師「看護事例研究」	KKR 札幌医療センター
	平成23年6月9日	臨地実習指導 - 学生をうけとめて - 研修会講師「看護基礎教育の概要・看護教育における実習の意義」	(社)北海道看護協会
	平成23年7月5日	北海学園札幌高等学校性教育講演会講師 「1年生の性に関する講演」	北海学園札幌高等学校
	平成23年7月14日	健康講話講師「高校生としての性への対応について」	札幌平岸高等学校
	平成23年9月3日	学校歯科研修会講師「小児の生活習慣と健康」	(社)札幌歯科医師会
	平成23年9月29日	看護職員対象研修会講師「新人看護職員研修について～新人看護職員を教えるとは～」	北海道自治体病院協議会
	平成23年10月24日 ～26日	平成23年度看護学教育ワークショップグループワーク助言者	千葉大学大学院看護学研究科
山本 勝則	平成24年2月17日	研修会講師「新人教育担当看護職員に対するプリセプターとしての役割」	岩見沢市立総合病院
山本 勝則	平成23年10月9日	メンタルケア・スペシャリスト養成講座講師「メンタルケアの手法論」	(財)メンタルケア協会

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
大野 夏代	平成23年6月～ 平成23年10月～	IMS グループ看護部職員新卒入職者対象精神的サポート“ほっとライン”面談講師「入職1ヵ月後面談」「入職6ヵ月後面談」	IMS グループ
清水 光子	平成23年9月13日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
守村 洋	平成23年7月10日	アル・ネット第18回学術研修会講師「自傷行為への対応、自殺未遂の対応について」	アルコール保健医療と地域ネットワーク平成23年度第18回学術研修会
	平成23年8月3日	平成23年度専門研修「自殺対策研修」講師「自殺未遂者対策の現状と対応の実践について」	北海道立精神保健福祉センター
	平成23年8月10日	センター研修講師「精神障害者へのかかわり方」	（財）札幌市在宅福祉サービス協会
	平成24年3月12日	平成23年度札幌市自殺未遂者実態調査事業「自殺未遂者対象研修会－実態に基づく報告－」研修会講師「救急医療現場における自殺予防～平成23年度札幌市自殺見未遂者実態調査から～」	札幌市保健福祉局
山田 典子	平成23年11月2日	「DV 被害者の早期発見と対応に関する全道セミナー」セミナー講師、事例研修助言者	北海道環境生活部
	平成23年11月30日～12月1日	安全・安心なまちづくり研修会講師「セーフコミュニティに暮らしたい」	小諸市
	平成24年3月5日	平成23年度富良野保健所思春期保健ネットワーク会議講師「思春期の性的虐待の早期発見とケアについて～発生防止に向けて、地域のネットワークを考える」	北海道富良野保健所
吉川 由希子	平成23年5月8日	日本医療保育学会北海道・東北ブロック研修会講師「保育の現場で多く遭遇する症状の観察ポイント～けいれん・喘息発作・頭部打撲～」	日本医療保育学会北海道・東北ブロック
	平成23年5月29日	平成23年度北海道看護研究学会司会「専門職としてのさらなる成長を目指して－看護のこころを語りあい、技を磨こう－」	（社）北海道看護協会
	平成23年9月15日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成23年9月16日	山口県立大学看護栄養学部看護学科 FD 研修講師「看護教育における OSCE の意義と活用について」	山口県立大学
	平成24年2月20日～3月23日	平成24年度北海道看護研究学会に係る研究指導	（社）北海道看護協会
	平成24年3月25日	難病の子どもの QOL を考えるフォーラム講師「病気や障がいを持つ子どもと家族の在宅支援」	公益財団法人 そらぶちキッズキャンプ
菊地 ひろみ	平成23年9月14日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成23年9月16日	山口県立大学看護栄養学部看護学科 FD 研修講師「看護教育における OSCE の意義と活用について」	山口県立大学

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
菊地 ひろみ	平成23年10月24日・25日	訪問看護師養成講習会総合演習助言者	(社)北海道看護協会
	平成24年2月18日	看護研究に係る講師「看護研究成果をより良く伝えるプレゼンテーションの方法」	市立室蘭総合病院
菅原 美樹	平成23年9月	平成23年度保健師助産師看護師実習指導者講習会講師「看護過程」	北海道保健福祉部
	平成23年9月12日 14～16日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成23年11月5日	「看護技術の達成度評価の考え方と実際」講演講師「看護 OSCE の方法と実践」	東京都看護系学校連絡協議会
杉田 久子	平成23年9月14日・16日	看護職復職支援講習会	さっぽろ雇用創造協議会
村松 真澄	平成23年4月16日	第11回摂食・嚥下リハビリテーション北海道地区研修会司会	北海道摂食・嚥下リハビリテーション研究会 第11回摂食・嚥下リハビリテーション北海道地区研修会
	平成23年5月21日	食と健康支援ネットワーク開設10周年の記念講演講師	食と健康支援ネットワーク
	平成23年6月19日	第8回日本口腔ケア学会総会・学術大会シンポジウム演者・座長「口腔アセスメントに関する統一と教育」	第8回日本口腔ケア学会 総会・学術大会
	平成23年8月1日	口腔ケア院内認定テクニカルコース研修講師	砂川市立病院
	平成23年8月19日	「簡単！口腔ケア」をマスターしよう研修講師「口腔ケアとは 自分の口腔ケアを見直す口腔ケアの評価 口腔ケアプロトコル」	東京医科大学病院
	平成23年8月27日	第4回在宅療養支援薬局研究会シンポジウム講演講師「看護師からみた口腔ケア－患者のQOLを上げるための口腔アセスメント(OAG)の共有」	一般社団法人在宅療養支援薬局研究会
	平成23年9月12日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成23年11月29日	摂食・嚥下セミナー2011講演講師	(株)大塚製薬工場札幌支店
	平成24年1月29日	講演講師「高齢者の口腔ケア～看護の現場から～」	九州大学・摂食機能リハビリテーション学分野
	平成24年3月13日	職員集合研修会講師「倫理的視点に基づいた看護・介護を提供するため、看護倫理とは何かを学ぶ」(仮)	医療法人愛全会愛全病院
	平成24年3月28日	職員集合研修会講師「口腔ケアの現状と課題(仮題)」	医療法人愛全会愛全病院
山本 真由美	平成23年5月12日	看護研究計画書の作成についての研修会講師「看護研究計画書の作成について」	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター
	平成24年3月1日	北海道がんセンター看護研究発表会の講師	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
渡邊 由加利	平成23年5月26日	臨地実習指導者研修講師	天使病院
	平成24年2月18日	勉強会講師「看護の仕方について」	一般社団法人桶谷式 乳房管理法研鑽会
太田 晴美	平成23年9月6日	講師及びパネラー「東日本大震災」	第20回経営学合同ゼミ合宿 留寿都大会
	平成23年9月13日	看護職復職支援講習会	さっぽろ雇用創造協議会
	平成23年11月7日	講演講師「災害時における医療機関の役割」 について(仮題)	(社)北海道勤労者 医療協会勤医協中央病院
	平成23年11月11日	災害看護研修講師「災害看護研修～備えよ う、今から出来る災害看護～」	社会医療法人複人会病院
神島 滋子	平成23年7月30日	新人看護師のための看護に生かす基礎知識研 修会講師「脳神経領域におけるアセスメントー 意識、運動、神経症状を把握するためにー」	日本脳神経看護研究学会
	平成23年9月	平成23年度保健師助産師看護師実習指導者 講習会講師「看護過程」	北海道保健福祉部
	平成24年1月28日	研修会講師「検査料どうでしょう～求められ る検査室を目指して～」	(社)北海道臨床衛生検査 技師会
	平成24年3月15日・ 16日	研修会講師「意識障害・寝たきり(廃用性症候 群)患者の生活行動回復看護の研修」	日本ヒューマンナーシング 研究会
河村 奈美子	平成24年1月23日	2011年度教育生理学講習会講師 「アニマルセラピーの生理学」	北海道大学大学院教育学研 究院
工藤 京子	平成23年9月15日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
照井 レナ	平成24年2月20日 ～3月23日	平成24年度北海道看護研究学会に係る研究 指導	(社)北海道看護協会
原井 美佳	平成23年4月26日・ 7月26日、平成24年 2月7日	看護研究研修講師「看護研究」	医療法人社団豊生会 東苗穂病院
測本 雅昭	平成23年5月14日・ 21日、7月31日	クリティカルケア領域における看護倫理の理 解と患者・家族へのアプローチセミナー講師	日総研グループ
	平成23年9月	平成23年度保健師助産師看護師実習指導者 講習会講師「看護課程」	北海道保健福祉部
	平成23年9月13日	看護職復職支援講習会講師	さっぽろ雇用創造協議会
	平成23年10月22日	第13回日本救急看護学会学術集会交流セッ ションV 話題提供者	第13回日本救急看護学会 学術集会

I
概要II
教育活動III
研究活動IV
社会活動V
キャリア支援活動VI
入学者選抜結果VII
附属図書館VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会IX
学内運営の概要X
資料XI
教員業績一覧

5 国際交流実績

年月日	内容	
平成23年8月9日 ～11日	受入	華梵大学との交流協定締結及び記念講演会、学内視察、交流・意見交換(3名)
平成23年10月31日 ～11月5日	受入	承德医学院学生受入プログラム実施(承德医学院学生5名、教員1名)
平成23年11月17日	派遣	交流に関する打合せ、学内視察のため、又松大学訪問(教員2名、職員1名)
平成24年2月5日 ～2月11日	受入	華梵大学とのデザインワークショップ実施 (華梵大学学生19名、教員1名、雲林科技大学学生6名)
平成25年3月11日 ～3月18日	派遣	モンゴル国へ教員派遣(JICA市民参加協力事業)(教員2名)

6 サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数	学外貸出件数	計
セミナー	40	0	40
会議	235	0	235
学会	37	0	37
その他	87	0	87
合計	399	0	399

V キャリア支援活動

1 デザイン学部

1) 概要

デザイン学部キャリア支援委員会は、デザイン学部の学生を対象としたキャリア支援の取り組みを図る目的として、平成20年4月に設立された。本委員会は、定例会議(毎月1回程度)において学生への支援方法及び企業へのPR・求人開拓活動などを協議し、コース毎の独自企画と連携しながら運営を行った。

平成20年4月には、キャリア支援室を開設し、教職員による就職相談体制を開始した。また、キャリア支援室は、後援会からの支援により、就職関連図書や什器などの備品・設備を整備した。平成21年5月には就職相談員1名を配置し、きめ細かく個別指導できる体制を整備した。活動実績については、下記のとおりである。

学部4年生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導(就職相談、面接対策、履歴書対策など) (平成23年4月～) ・学内企業説明会(随時) ・求人情報の提供(掲示、メール)
学部3年生への支援 大学院1年生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンス(平成23年4月～平成24年1月) ・就職活動マニュアルの配布(平成23年4月) ・進路希望調査(平成23年10月) ・学内企業説明会(平成23年12月) ・求人情報の提供(掲示、メール)
就職先の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問(PR活動、求人開拓) (平成23年8月～平成24年3月) ・企業向けパンフレット作成・発送(平成23年11月)
後援会からの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン系スキルアップセミナー(平成23年12月) ・履歴書用証明写真撮影補助(平成23年12月) ・就職先開拓支援(平成23年8月～)

2) 支援体制

デザイン学部のキャリア支援は、本委員会の委員、4コースのゼミ担当教員及び事務局(学生課学生支援係、就職相談員)によって行われている。主な役割分担として、事業の企画・運営は本委員会の委員が、就職先の開拓は全教員及び学生支援係が、学生相談のうち専門分野に関わることはキャリア支援室の就職相談員及び学生支援係がそれぞれ行っている。

3) 就職・進学結果

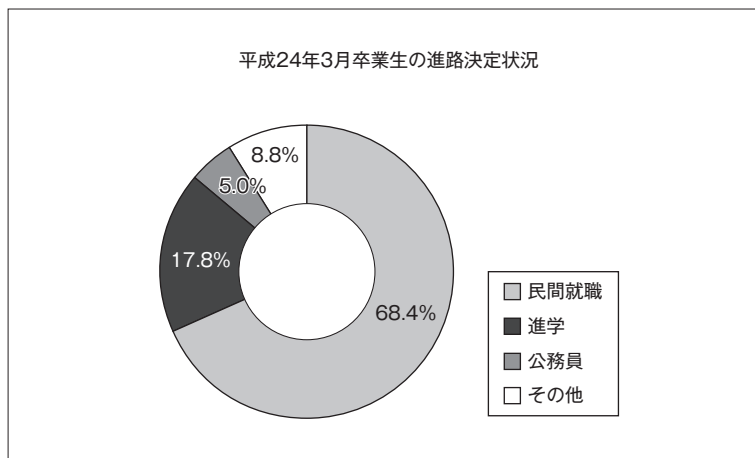
平成24年3月卒業生（3期生）

就職 (65名)	<p>■情報通信業（放送・ゲームソフト・インターネット関連・映像制作等） (株)エイベック研究所（3）、(株)アジェンダ、(株)サイバーエージェント、クレアテック(株)、(有)イー、 日販コンピュータテクノロジー(株)、(株)リクルート北海道じゃらん、ウェブクリエーション(株)、 (株)札幌ネクシス、ピー・シー・エー(株)、(株)オバリ、フュージョン(株)、ソフトバンクモバイル(株)</p> <p>■卸売業・小売業 (株)セイコーマート、(株)ローソン、(株)カンディハウス札幌、ハミューレ(株)、(株)バイクルーズ、 (株)マックスバリュ北海道、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、(株)ビギ、(株)エイ・ネット、 (株)ユナイテッドアローズ</p> <p>■製造業（印刷・食品等） カシオ計算機(株)、(株)いたがき、(株)ハート、(株)プリプレス・センター、(株)ランドマック、 (株)わかさいも本舗、川田ニット(株)、日藤(株)、共立印刷(株)</p> <p>■建設業 (株)フレンズ、(株)ジョンソンホームズ（2）、(株)一条工務店、(株)土屋ホームトピア</p> <p>■専門・技術サービス業（デザイン業・広告業等） (株)田中事務所、(株)画工房、堀尾浩建築設計事務所、(株)エヌ・ビー・ラボ、 エスオーエル(株)、(株)ビジネスリサーチラボ、漫画家アシスタント、起業（2）</p> <p>■公務・芸術文化団体 北海道財務局、札幌市役所、幕別町役場、天塩町役場</p> <p>■サービス業 (株)エーアイエル、(株)ワンエイトクリエーション、(株)グリーンディスプレイ、 (株)ピーアンドピー、(有)パーソナルコミュニケーションセンター</p> <p>■教育・学習支援業 札幌市立大学（2）</p> <p>■宿泊業・飲食サービス業 (株)京都吉兆、(株)中村屋、(株)アレフ</p> <p>■不動産業 中銀コーポレーション(株)</p>
進学	<p>■3期生（14名） 札幌市立大学大学院（9）、東京大学大学院、北海道大学大学院（2）、産業技術大学大学院、 日本工学院北海道専門学校</p>

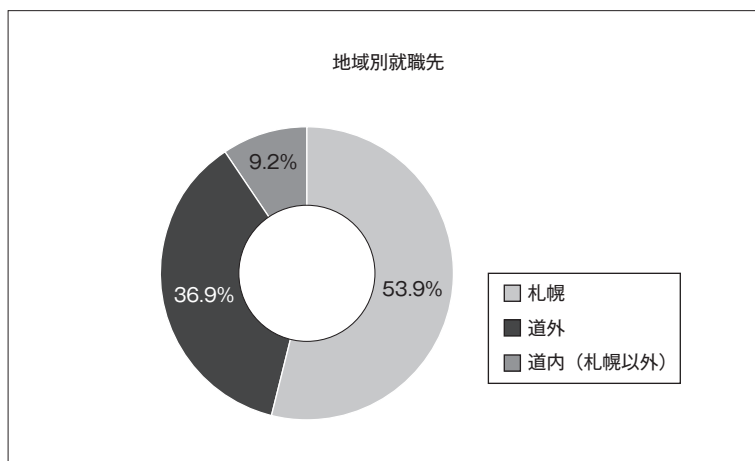
(3期生)

札幌市立大学デザイン学部 平成24年3月卒業生 就職状況

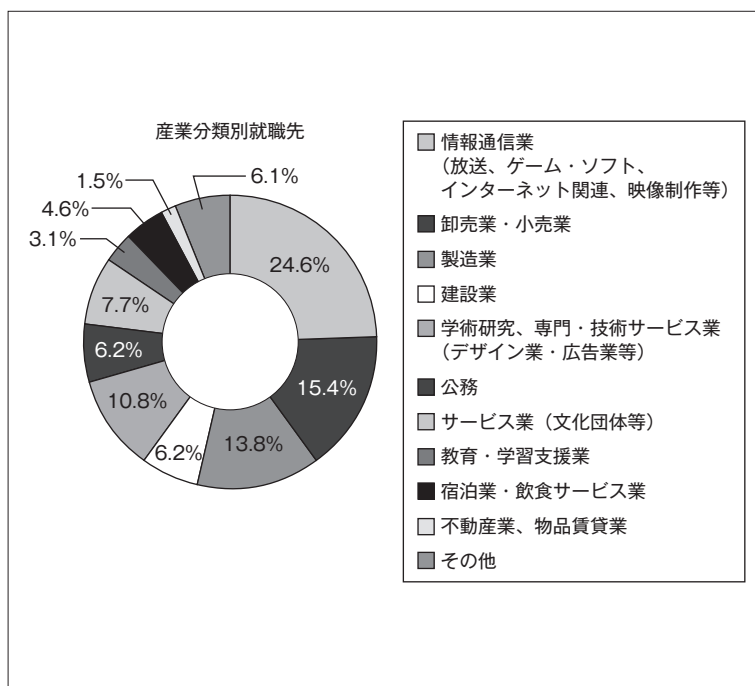
進路状況	名
民間就職	54
進学	14
公務員	4
その他	7
合計	79



地域別就職先	名
札幌	35
道外	24
道内(札幌以外)	6
合計	65



産業分類別就職先	名
情報通信業 (放送、ゲーム・ソフト、インターネット関連、映像制作等)	16
卸売業・小売業	10
製造業	9
建設業	4
学術研究、専門・技術サービス業 (デザイン業・広告業等)	7
公務	4
サービス業(文化団体等)	5
教育・学習支援業	2
宿泊業・飲食サービス業	3
不動産業、物品賃貸業	1
その他	4
合計	65



I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

(3期生)

札幌市立大学デザイン学部 平成24年3月卒業生 進路決定状況(概要)

1. コース別進路状況

コース	卒業生数①	1.就職希望		就職者(起業含)※1		2.進学希望		3.その他 ⑥※2
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3	
空間	28	22	1	20	1	5	4	1
製品	13	9	0	7	0	4	4	0
コンテンツ	17	14	2	13	2	1	1	2
メディア	36	30	1	25	1	5	5	1
合計	94	75	4	65	4	15	14	4
割合	100.0%	79.8%	5.3%	86.7%	100.0%	16.0%	93.3%	4.3%
	①÷①	②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷④	⑥÷①

(備考)

※1:就職希望者に対する就職者の割合

※2:就職希望・進学希望以外(アーティスト志望や制作活動の継続を希望)の進路選択をした者

※3:進学希望者に対する進学先決定者の割合

○参考

平成23年度大学等卒業者の就職状況調査(平成24年4月1日現在)[文部科学省]

・大学の就職率[全国]93.6%(昨年同期比 2.6ポイント増)

2. 内定先の内訳(市内34社35名、道内6社6名、道外23社24名)

コース	道内企業(札幌市内含む)		道外企業
空間	市内	(株)アレフ(びっくりドンキー)[飲食サービス] (株)土屋ホームトピア[建設業:住宅メーカー] (株)カンディハウス札幌[卸・小売業:家具・インテリア設計・施工] 日藤(株)[製造業:包装資材販売] 札幌市職員[公務:建築] (株)リクルート北海道じゃらん[情報通信業:出版・広告代理事業] (株)ジョンソンホームズ[建設業:住宅メーカー] (株)フレンズ[建設業:設計・施工] (株)画工房[専門・技術サービス業:建築設計] (株)グリーンディスプレイ[サービス業:環境演出の企画・設計] ユナイテッドアローズ[札幌市/小売業/営業] 堀尾浩建築設計事務所[専門・技術サービス業:建築設計]	(株)田中事務所[東京都/専門・技術サービス業:建築設備] (株)エイバック研究所[東京都/情報通信業:SMM 運営・管理] (株)一条工務店[東京都/建設業:住宅メーカー] (株)エイ・ネット[東京都/卸・小売業:アパレル] (株)エヌ・ピー・ラボ[神奈川県/専門・技術サービス業:経営コンサルティング]
	道内	(株)京都吉兆(洞爺湖店)[飲食サービス業]	
製品	市内		(株)中村屋[東京都/飲食サービス業] (株)ランドマック[東京都/製造業:商品開発] (株)ローソン[東京都/卸・小売業:コンビニエンスストア] (株)ビギ[東京都/卸・小売業:アパレル] カシオ計算機(株)[東京都/製造業:製品製造] 川田ニット(株)[富山県/製造業:生地企画・開発]
	道内	(株)いたがき[赤平市/製造業:皮革製造]	
コンテンツ	市内	(株)オバリ[情報通信業] (株)プリプレス・センター[製造業:印刷] 札幌市立大学[教育・学習支援業:期限付職員] ビー・シー・エー(株)[情報通信業:ソフトウェア開発] (株)アジェンダ[情報通信業:ソフトウェア開発] 漫画家アシスタント	(株)ハート[東京都/製造業:紙製品製造・販売] (株)エーアイエル[東京都/サービス業:人材ソリューションサービス] 日販コンピュータテクノロジー(株)[東京都/情報通信業:ソフトウェア開発] (株)イー[東京都/情報通信業:広告] (株)サイバーエージェント[東京都/情報通信業:情報サービス業]
	道内	幕別町職員[公務] 天塩町役場[公務]	

コース	道内企業(札幌市内含む)		道外企業
メディア	市内	(株)セイコーマート〔卸・小売業:コンビニエンス業〕 ハミューレ(株)〔卸・小売業:商品企画・販売〕 ウェブクリエーション(株)〔情報通信業:広告〕 (株)札幌ネクシス〔情報通信業:情報処理サービス業〕 (株)ワンエイトクリエーション〔専門・技術サービス業:デザイン〕 フュージョン(株)〔情報通信業:マーケティングマネジメント〕 自営〔起業〕 マックスバリュ北海道(株)〔卸・小売業:スーパーマーケット〕 (有)パーソナルコミュニケーションセンター〔専門・技術サービス業〕 (株)ジョンソンホームズ〔建設業〕 札幌市立大学〔教育・学習支援業:期限付職員〕 エスオーエル(株)〔専門・技術サービス業:情報サービス業〕 中銀コーポレーション株式会社〔不動産業〕 株式会社ピーアンドピー〔サービス業/人材派遣〕	(株)サマンサタバサジャパンリミテッド〔東京都/卸・小売業〕 (株)エイバック研究所〔東京都/情報通信業:SMM 運営・管理〕 (株)ベイクルーズ〔東京都/卸・小売業〕 (株)ビジネスリサーチラボ〔東京都/専門・技術サービス業〕 共立印刷(株)〔東京都/製造業/印刷〕 クレアテック(株)〔東京都/情報通信業〕 ソフトバンクモバイル(株)〔東京都/情報通信業〕
	道内	北海道財務局〔公務〕 (株)わかさいも本舗〔製造業:菓子製造〕	
小計	40社41名		23社24名
合計	63社65名		

3.進学状況(大学院14名)

空間	大学院	札幌市立大学大学院(空間デザイン分野)(4)	4
	研究生		
製品	大学院	札幌市立大学大学院(製品デザイン分野、コンテンツメディアデザイン分野)(3)、 産業技術大学大学院(創造技術専攻)	4
	研究生		
コンテンツ	大学院	札幌市立大学大学院(コンテンツメディアデザイン分野)	1
	研究生		
メディア	大学院	東京大学大学院(学際情報学府文化・人間情報学コース)、 札幌市立大学大学院(コンテンツメディアデザイン分野)、 北海道大学大学院(国際広報メディア学院)(2)、日本工学院北海道専門学校	5
	研究生		
合計		大学院 14名 研究生 0名	14

2 看護学部

1) 概要

看護学部キャリア支援委員会は、学生の進路相談や就職活動、国家試験への支援だけでなく、就職後の支援も視野に入れ、学生を支援する体制を整えている。

看護学部における支援体制には、①進路相談、②就職活動支援、③国家資格試験対策、④卒業後のキャリア支援の4つの取組を軸に、次のような活動計画を定めた。①看護学部キャリア支援室の管理・運営、②進路希望調査の実施、③看護学部キャリア支援ガイダンスの実施、④進路相談日の定期化、⑤各種就職説明会の開催、⑥国家試験自主ゼミの組織化。

また、上記に加え平成22年度から引き続き文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」の支援を受けて1期生、2期生を対象としたシャトル研修を実施するなど、卒後のキャリア支援も行った。

これらの活動が学生のニーズに適う内容であること及び学生の将来に有用な指針を示すものであることを念頭におき、進路希望調査の結果や進路相談などにおける学生の声を重視するとともに、これらを計画立案に反映させながら支援することに努めている。

2) 支援体制

看護学部キャリア支援委員7名により、次の表のとおり年間活動計画及び進路相談などを行った。また、学生による国家試験対策自主ゼミグループを組織し、自主ゼミリーダー会議を定期的に開催した。

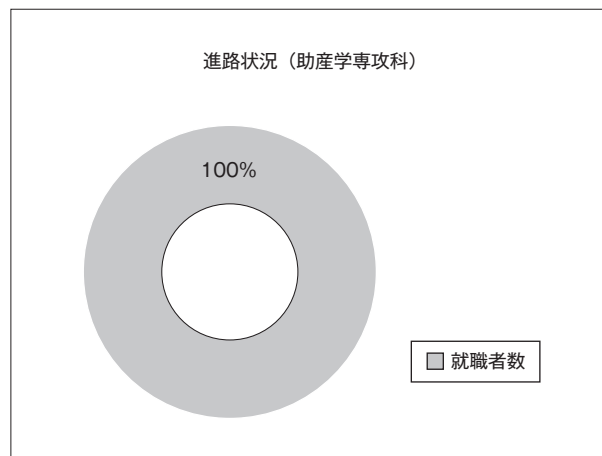
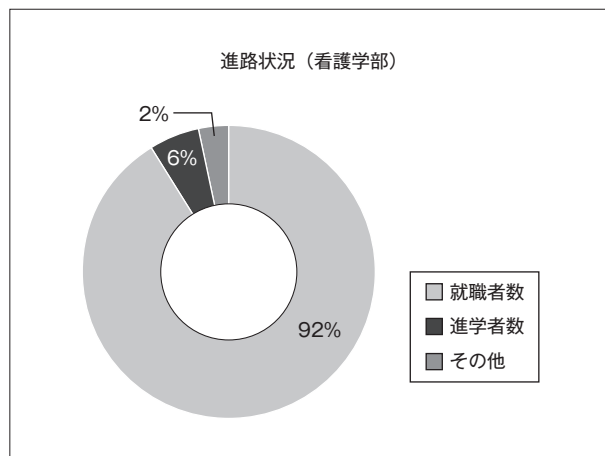
月	4年次生・助産学専攻科	3年次生
4月	・前期ガイダンス ・国家試験受験ガイダンス ・キャリアハンドブック配布（専攻科生） ・第1回進路希望調査	・前期ガイダンス ・キャリアハンドブック配布
5月	・進路活動ガイダンス	
6月		
7月	①看護師模擬試験	
8月	・再学修セミナー（2回）	
9月	・後期ガイダンス ・再学修セミナー（6回）	・後期ガイダンス ・第1回進路希望調査 ・国家試験対策自主ゼミ結成
10月	②看護師模擬試験	・公務員就職説明会 ・保健師就職説明会
11月	③助産師模擬試験 ④保健師模擬試験 ・国家試験受験願書説明会	
1月	⑤看護師模擬試験 ⑥助産師模擬試験 ・再学修セミナー（1回） ⑦保健師模擬試験	・助産師課程進学説明会
2月	・国家試験激励会	・学内就職説明会
3月		①低学年用国家試験模擬試験

3) 就職・進学結果

① 進路状況

(単位:名)

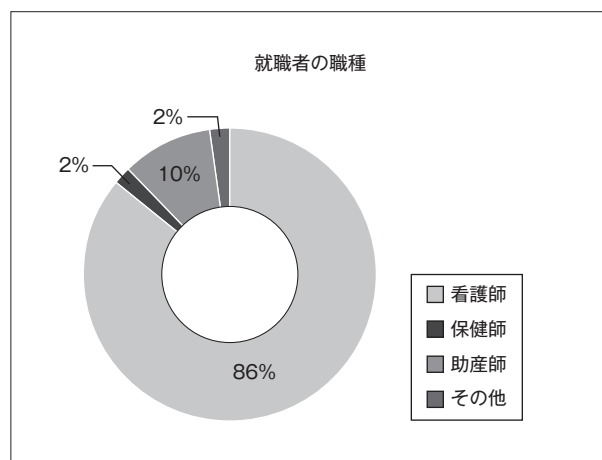
	在籍数	就職希望者数	進学者数	就職者数	内定率
学生数	91	83	6	83	100.0%
(うち編入学)	9	8	1	8	100.0%
助産学専攻科	10	10	0	10	100.0%



② 就職者の職種

(単位:名)

看護師	80
保健師	2
助産師	9
その他	2
合計	93



4) 国家試験の結果

(単位:名)

	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
看護師	80	79	78	98.7%
保健師	89	88	85	96.6%
助産師	10	10	10	100.0%

VI 平成24年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

<教育研究の理念>

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とする。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、1人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成する。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という3つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果していくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求する。

<教育研究の特長>

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指す。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開する。

<デザイン学部の求める学生像>

- 1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

このため、入学者には、日ごろから、人間及びその生活を豊かにするデザインに興味・関心を持ち、地域社会が抱える課題の発見や解決に向けて、日々の学習の中で幅広い基礎学力・思考力・発想力を身に付けるとともに、多くの人々と協働するためのコミュニケーション能力を備えていることが求められます。

<看護学部の求める学生像>

- 1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
- 2 豊かな感性と探究心を持って、柔軟に物事を考え、自主的に学修できる人
- 3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、積極的に地域に貢献する意志を備えた人

そのためには、高等学校における国語、英語、数学、理科などの基礎的な学力、及び課外活動等によって培われた協調性や責任感のある人を求めています。

② 平成24年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	80名	54名	14名	12名	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80名	48名	-	32名	若干名	-

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成23年11月1日 ～11月7日	平成23年11月26日	平成23年12月13日 【入学手続期間】 平成23年12月13日 ～12月19日
	私費外国人留学（※）	平成24年1月23日 ～2月1日	平成24年2月25日	平成24年3月8日 【入学手続期間】 平成24年3月8日 ～3月15日
一般選抜	前期日程	平成24年1月23日 ～2月1日	平成24年2月25日	平成24年3月8日 【入学手続期間】 平成24年3月8日 ～3月15日
	後期日程（※）	平成24年1月23日 ～2月1日	平成24年3月12日	平成24年3月22日 【入学手続期間】 平成24年3月22日 ～3月27日

（※）は、デザイン学部のみ実施

試験会場

学部・学科名	試験会場
デザイン学部デザイン学科	芸術の森キャンパス
看護学部看護学科	桑園キャンパス

選抜方法

選抜区分		学部・学科名	選抜方法
特別選抜	推薦入学	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	小論文(看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。)、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	社会人	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	総合問題(国語、英語、自然科学、論述)、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	私費外国人留学生	デザイン学部 デザイン学科	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」(いずれかを選択)、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
一般選抜	一般選抜	デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等の成績並びに調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	

一般選抜試験の大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科・科目

学部・学科名	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等 科目名等
		教科	科目名等	
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国語	「国」(古文・漢文を含む。)	「小論文(課題解決型の論述問題)」又は「実技(鉛筆デッサン)」のいずれかを選択
		地歴公民	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫理」「政・経」「倫理、政・経」から1科目	
		数学	「数I・数A」と「数II・数B」の2科目	
		理科	「物I」「化I」「生I」「地学I」から1科目	
		外国語	「英」(筆記及びリスニング)	
	後期日程	国語	「国」(古文・漢文を含む。)	
		数学	「数I・数A」	
看護学部 看護学科	前期日程	外国語	「英」(筆記及びリスニング)	面接
		国語	「国」(古文・漢文を含む。)	
		数学	「数I・数A」	
		理科	「物I」「化I」「生I」「地学I」から2科目	
外国語	「英」(筆記及びリスニング)			

③ 平成24年度3年次編入学者選抜概要

募集人員

学部・学科名等	募集人員
デザイン学部デザイン学科	20名
看護学部看護学科	10名

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
デザイン学部 デザイン学科	平成23年6月24日 ～7月1日	平成23年7月23日	芸術の森キャンパス	平成23年8月5日
看護学部 看護学科	平成23年8月12日 ～8月18日	平成23年9月10日	桑園キャンパス	平成23年9月27日

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、本学が実施する小論文(課題解決型の論述問題)、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	入学者の選抜は、本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a.選抜・入学状況

デザイン学部

(単位:名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	54	157	157	58	58
	後期日程	14	184	108	16	16
特別選抜	推薦入学	12	41	41	12	12
	社会人	若干名	3	3	2	2
	私費外国人留学生	若干名	2	1	1	1

看護学部

(単位:名)

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	48	125	119	49	48
特別選抜	推薦入学	32	102	102	32	32
	社会人	若干名	34	34	3	3

b.入学者の内訳

(単位:名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	89	42	34	13	25	64
看護学部	83	40	41	2	10	73
合計	172	82	75	15	35	137

② 編入学者選抜状況

a.選抜・入学状況

(単位:名)

学部		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
デザイン学部	空間デザイン	20	2	2	2	2
	製品デザイン		5	5	5	5
	コンテンツデザイン		5	5	4	3
	メディアデザイン		6	6	5	5
	計	20	18	18	16	15
看護学部		10	34	34	10	8

b.入学者の内訳

(単位:名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	15	3	2	10	6	9
看護学部	8	4	4	0	2	6
合計	23	7	6	10	8	15

2 大学院デザイン研究科・大学院看護学研究科

1) 博士前期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科博士前期課程】

本課程は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業・芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としています。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりとします。

<デザイン研究科博士前期課程の求める学生像>

- 1 デザインに関する基礎的知識を備え、豊かな感性と深い見識を持ち、人間重視の視点からデザインの発展に寄与できる人
- 2 各種のデザインを統合し、先導的なプロジェクトを主体的・戦略的に展開することに意欲のある人
- 3 デザインを通じ、地域を創成していくリーダーとして文化・産業の発展に貢献する意思を持った人

【看護学研究科博士前期課程】

本課程では、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりである。

<看護学研究科博士前期課程の求める学生像>

- 1 看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、自主的・意欲的に看護実践の向上に寄与できる人
- 2 柔軟で論理的な思考を持って保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた研究を遂行できる人
- 3 高い倫理観を有し、地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を持った人

② 平成24年度入学者選抜概要

研究科・専攻名	一般選抜	特別選抜(社会人)	特別選抜 (私費外国人留学生)
デザイン研究科 デザイン専攻	18名	若干名	若干名
看護学研究科 看護学専攻	18名(一般選抜、特別選抜を含む)		

※デザイン研究科の特別選抜(社会人・私費外国人留学生)の若干名は一般選抜の募集人員18名に含む。

選抜日程

【第1次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成23年8月19日 ～8月26日	平成23年9月17日・ 18日	平成23年10月4日 【入学手続期間】 平成23年10月4日 ～10月11日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成23年8月26日 ～9月2日	平成23年10月1日	平成23年10月18日 【入学手続期間】 平成23年10月18日 ～10月25日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			

【第2次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成24年2月3日 ～2月10日	平成24年3月3日	平成24年3月16日 【入学手続期間】 平成24年3月16日 ～3月23日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成24年2月3日 ～2月10日	平成24年3月3日	平成24年3月16日 【入学手続期間】 平成24年3月16日 ～3月23日
	特別選抜(社会人・ 私費外国人留学生)			

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	本学大学院が実施する学力検査(専門科目の筆記試験、英語)、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 (社会人・私費外国人留学生)	本学大学院が実施する学力検査(専門科目の筆記試験)、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験(英語、専門科目)、面接(口頭試問含む)及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 (社会人・私費外国人留学生)	

ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a.選抜・入学状況

デザイン研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位:名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	13	13	11	10
特別選抜 (社会人)	若干名	3	3	1	1
特別選抜 (私費外国人留学生)	若干名	2	2	2	2

看護学研究科【第1次・第2次募集合計】

(単位:名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	24	24	19	19
特別選抜(社会人)					
特別選抜 (私費外国人留学生)		0	0	0	0

b.入学者の内訳

(単位:名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	13	11	0	2	7	6
看護研究科	19	13	6	0	4	15
合 計	32	24	6	2	11	21

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

2) 博士後期課程

i 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

【デザイン研究科博士後期課程】

〈教育研究の理念〉

本課程は、人間重視を根幹とした高度な教育・研究を実践し、「知と創造の拠点」として地域からの負託に応え、高度の専門知識・技術を基盤に地域社会の発展に寄与します。さらに、高度で先進的な教育・研究の中枢機関として機能し、新たな理論構築や技術開発に独創的に取り組み、新たな社会価値の創造を図ることを教育研究の理念とします。

〈教育研究の目的〉

本課程は、地域社会に内在する様々な課題をデザインの視点から幅広く発見するとともに、高度な教育・研究の成果を通じて、その解決策を見出し、より豊かな人間生活や地域社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、本課程が求める学生像は次のとおりです。

〈デザイン研究科博士後期課程の求める学生像〉

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って地域課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて旺盛な探究心を持って自立した研究を遂行できる人
- 2 豊かな感性と深い見識を持ち、高度な教育・研究による成果をもとにデザインの発展に貢献しようとする意識を有する人
- 3 既成の概念にとらわれず、自立して独自のデザイン理論構築や技術開発に取り組み、新たな社会価値の創造を目指す意欲と実行力を有する人

【看護学研究科博士後期課程】

本課程では、高度な学識と豊かな実践経験を基礎に様々な看護現象の分析や評価を行い、その研究成果をもとに将来を見据えた看護の枠組みを再構築し、システム開発などを行うことができる人材を育成することを目的としている。

〈看護学研究科博士後期課程の求める学生像〉

- 1 柔軟な思考と独創的な視点に立って、看護を軸とした諸課題を発見・明確化し、その課題解決に向けて旺盛な探究心を持って自立した教育・研究を遂行できる人
- 2 保健医療福祉分野における新たな理論構築や技術開発等を通じて、より質の高い看護サービスのあり方を探求する意欲を有する人
- 3 卓越した看護知識と高い倫理観に基づく実践能力を有し、教育・管理能力の研鑽に励み、将来を見据えた保健医療福祉分野の指導者となりうる人

② 平成24年度入学者選抜概要

募集人員

研究科・専攻名	一般選抜
デザイン研究科 デザイン専攻	3名
看護学研究科 看護学専攻	3名

選抜日程

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成24年2月3日 ～2月10日	平成24年3月4日	平成24年3月16日 【入学手続期間】 平成24年3月16日 ～3月23日
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成24年2月3日 ～2月10日	平成24年3月3日	平成24年3月16日 【入学手続期間】 平成24年3月16日 ～3月23日

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科デザイン専攻	芸術の森キャンパス
看護学研究科看護学専攻	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	面接(研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む)の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	本学大学院が実施する筆記試験(英語)、面接(研究計画書に基づくプレゼンテーション、口頭試問を含む)及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

ii 選抜状況

① 入学者選抜状況

a.選抜・入学状況

デザイン研究科

(単位:名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	4	4	4	4

看護学研究科

(単位:名)

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	3	7	7	5	5

b.入学者の内訳

(単位:名)

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	4	3	1	0	2	2
看護学研究科	5	4	1	0	1	4
合計	9	7	2	0	3	6

3 助産学専攻科

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的とする。

これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりとする。

<助産学専攻科の求める学生像>

- 1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
- 2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
- 3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追求できる人

② 平成24年度入学者選抜概要

募集人員

専攻科名	募集人員
助産学専攻科	10名

選抜日程

出願期間	試験日	合格発表等
平成23年8月12日 ～8月18日	平成23年9月10日	平成23年9月27日 【入学手続期間】 平成23年9月27日 ～10月5日

試験会場

専攻科名	試験会場
助産学専攻科	桑園キャンパス

選抜方法

専攻科名	選抜方法
助産学専攻科	入学者の選抜は、本学専攻科が実施する筆記試験(専門科目(看護学一般))、小論文、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2) 選抜状況

① 入学者選抜状況

a.選抜・入学状況

(単位:名)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
10	35	35	11	11

b.入学者の内訳

(単位:名)

入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
	道内		道外	男	女
	札幌市内	札幌市外			
11	6	3	2	-	11

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

Ⅶ 附属図書館

1 概要

1) 施設規模

芸術の森キャンパス・ライブラリー … 延べ床面積／1,500㎡

桑園キャンパス・ライブラリー …… 延べ床面積／500㎡

2) 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数

(平成24年3月31日現在)

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	うち 視聴覚資料	計	和雑誌	洋雑誌	電子 ジャーナル
芸術の森キャンパス・ ライブラリー	62,620	8,785	3,112	71,405	378	53	383
桑園キャンパス・ ライブラリー	31,607	1,527	1,066	33,134	347	7	1,481
合計	97,227	10,312	4,178	104,539	725	60	1,864

3) 年間受入状況

区分			和	洋	計
芸術の森キャンパス・ ライブラリー	図書 (冊)	購入	1,460	231	1,691
		寄贈	351	21	372
		計	1,811	252	2,063
	雑誌 (種)	購入	28	8	36
		寄贈	33	0	33
		計	61	8	69
桑園キャンパス・ ライブラリー	図書 (冊)	購入	1,419	68	1,487
		寄贈	514	9	523
		計	1,933	77	2,010
	雑誌 (種)	購入	101	5	106
		寄贈	129	1	130
		計	230	6	236

2 利用状況

1) 開館時間・休館日

開館時間	平日:午前9時～午後10時 土曜日:午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中:午前9時～午後5時(平日)
休館日	日曜・祝日・年末年始

2) 利用資格

- ① 本学学部学生・大学院生及び教職員
- ② 札幌市に在住・在勤する18歳以上の方
- ③ 北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟館所属の方

3) 年間利用者数・貸出冊数等

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生 (科目等履修生を含む)	10冊	図書:2週間 雑誌:2週間(芸術の森キャンパス・ライブラリーの一部のみ貸出可)
教職員	無制限	図書:2ヶ月間 雑誌:2週間(芸術の森キャンパス・ライブラリーの一部のみ貸出可)
市民等学外者	3冊	図書:2週間 雑誌:2週間(芸術の森キャンパス・ライブラリーの一部のみ貸出可)

4) 貸出冊数・期間

図書館の 名称	利用者	開館 日数	入館 者数	貸出 人数	貸出 冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森 キャンパス・ ライブラリー	学生・ 教職員	278	16,171	4,667	9,544	13	49
	市民等 学外者	278	934	433	887	0	0
桑園 キャンパス・ ライブラリー	学生・ 教職員	274	40,635	5,583	12,357	63	561
	市民等 学外者	274	1,059	297	602	0	0
合計		-	58,799	10,980	23,390	76	610

ILL: Inter-Library Loan (相互貸借)

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

VIII 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況

1) 役員会

回数	開催日	議題
第1回	平成23年6月28日	・平成22事業年度業務の実績に関する報告について ・平成22年度事業報告及び決算について
第2回	平成23年8月23日	・平成22事業年度の業務実績に関する評価結果について ・第二期中期目標案について ・平成23年度予算の補正について
第3回	平成23年10月25日	・平成24年度予算編成方針について
第4回	平成23年11月30日	・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について ・公立大学法人札幌市立大学授業料等に関する規則の一部を改正する規則案について
第5回	平成24年1月25日	・公立大学法人札幌市立大学第二期中期計画案について ・大学院博士後期課程担当教員の定年の取扱いについて
第6回	平成24年3月30日	・平成24年度年度計画及び予算について

2) 経営審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成23年6月28日	・平成22事業年度業務の実績に関する報告について ・平成22年度事業報告及び決算について ・公立大学法人札幌市立大学学位規則の改正について
第2回	平成23年8月23日	・平成22事業年度の業務実績に関する評価結果について ・第二期中期目標案について ・平成23年度予算の補正について ・看護学部教育課程の変更承認申請について ・平成23年東日本大震災の被災に伴う学納金の取扱いについて
第3回	平成23年10月25日	・平成24年度予算編成方針について ・教員の再任について
第4回	平成23年11月30日	・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について ・公立大学法人札幌市立大学授業料等に関する規則の一部を改正する規則案について
第5回	平成24年1月25日	・公立大学法人札幌市立大学第二期中期計画案について ・大学院博士後期課程担当教員の定年の取扱いについて
第6回	平成24年3月30日	・平成24年度年度計画及び予算について ・規則等の制定及び改正等について

3) 教育研究審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成23年6月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22事業年度業務の実績に関する報告について ・平成22年度事業報告及び決算について ・公立大学法人札幌市立大学学位規則の改正について
第2回	平成23年8月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究審議会委員任命にあたっての審議会委員からの意見聴取について
第3回	平成23年8月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学理事長選考会議委員の選出について ・平成22事業年度の業務実績に関する評価結果について ・第二期中期目標案について ・平成23年度予算の補正について ・看護学部の教育課程の変更承認申請について ・平成23年東日本大震災の被災に伴う学納金の取扱いについて
第4回	平成23年10月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学理事長選考会議委員の補充について
第5回	平成23年10月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度予算編成方針について ・教員の再任について
第6回	平成24年1月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学第二期中期計画案について ・大学院博士後期課程担当教員の定年の取扱いについて
第7回	平成24年3月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度年度計画及び予算について ・規則等の制定及び改正等について

I
概要

II
教育活動

III
研究活動

IV
社会活動

V
キャリア支援活動

VI
入学者選抜結果

VII
附属図書館

VIII
役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX
学内運営の概要

X
資料

XI
教員業績一覧

2 役員及び審議会委員名簿 (平成24年3月31日現在)

1) 役員

役職	氏名	現職
理事長	原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
理事	中村 恵子	札幌市立大学 副学長・看護学部長・看護学研究科長
理事	松平 英明	(財)札幌市芸術文化財団 副理事長
理事	山岸 正美	(株)マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
理事	横内 龍三	(株)北洋銀行 取締役頭取
監事	藤田 美津夫	弁護士
監事	高松 謹也	公認会計士

2) 経営審議会委員

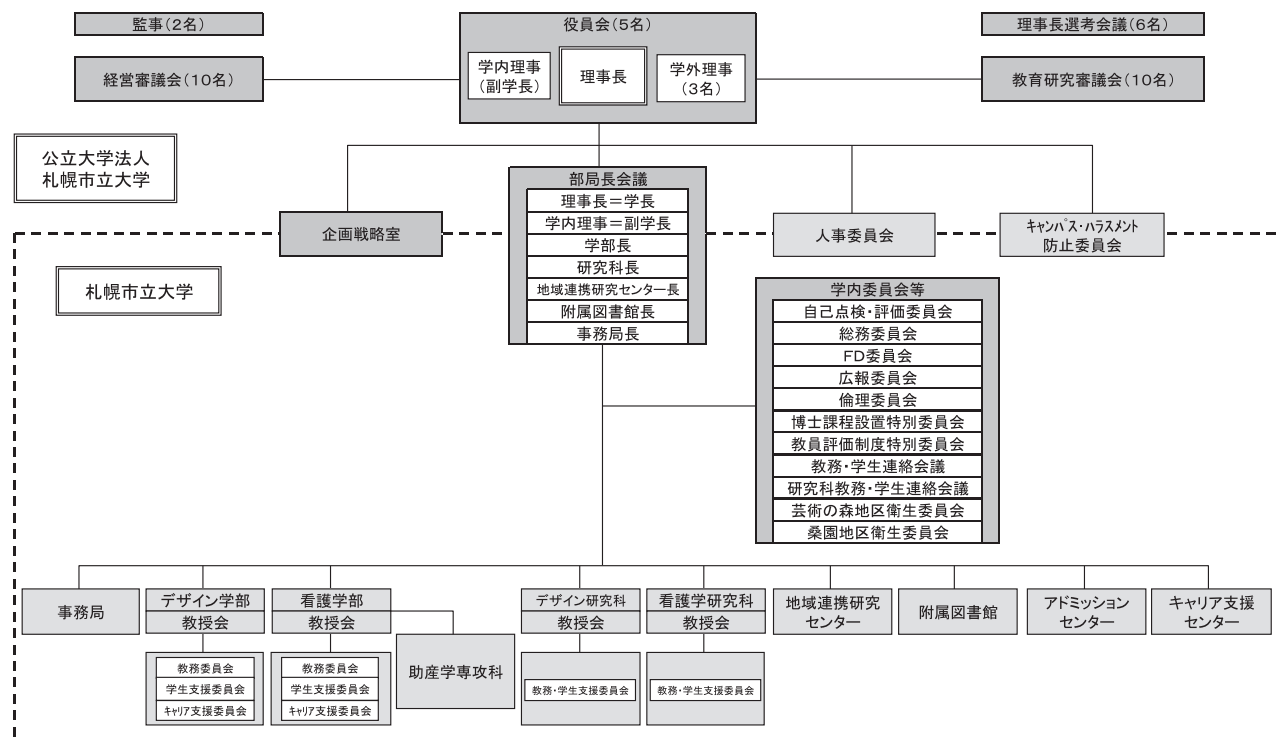
氏名	現職
原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
中村 恵子	札幌市立大学 副学長・看護学部長・看護学研究科長
松平 英明	(財)札幌市芸術文化財団 副理事長
横内 龍三	(株)北洋銀行 取締役頭取
塩澤 正樹	札幌市立大学 事務局長
菊嶋 明廣	札幌商工会議所 常務理事
高橋 昭憲	(株)データクラフト 代表取締役
平本 健太	北海道大学大学院経済学研究科 教授
平山 妙子	(社)北海道看護協会 会長
福井 知克	(財)さっぽろ産業振興財団 専務理事

3) 教育研究審議会委員

氏名	現職
原田 昭	札幌市立大学 理事長・学長
中村 恵子	札幌市立大学 副学長・看護学部長・看護学研究科長
山岸 正美	(株)マーケティング・コミュニケーション・エルグ 代表取締役
酒井 正幸	札幌市立大学 デザイン学部長
城間 祥之	札幌市立大学 デザイン研究科長
スーディ神崎和代	札幌市立大学 地域連携研究センター長
中原 宏	札幌市立大学 附属図書館長
塩澤 正樹	札幌市立大学 事務局長
山中 善夫	札幌市教育委員会 委員長
若山 登美子	前(社)北海道看護協会会長

IX 学内運営の概要

1 2011年度(平成23年度)公立大学法人札幌市立大学 組織図



2 部局長会議

部局長会議は、法人の経営及び大学の教育研究に係るさまざまな事項について協議及び連絡調整を行うため、原則として毎月1回(第1水曜日)に開催しており、平成23年度は16回会議を開催した。

回数	開催日	議題
第1回	平成23年4月1日	・学内委員会について
第2回	平成23年4月6日	・なし(報告事項のみ)
第3回	平成23年5月11日	・名誉教授の内申について
第4回	平成23年6月8日	・役員会・審議会の開催予定について ・平成22年度決算について ・学位規則の改正について ・又松大学との提携更新について ・華梵大学との提携について
第5回	平成23年7月6日	・利益相反管理に関する規程について ・華梵大学との調印行事要領(案)について
第6回	平成23年7月13日	・学位記の提出について ・目的積立金の執行計画について ・「平成23年東北地方太平洋沖地震」の被災に伴う学納金の取扱いについて

回数	開催日	議題
第7回	平成23年8月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・目的積立金の執行計画について(第6回部局長会議から継続) ・平成23年度予算の補正について ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴う変更承認申請について ・秋篠宮殿下来学(10/5)に係る学内役割分担について ・欠員教育研究審議会委員の後任について
第8回	平成23年9月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・なし(報告事項のみ)
第9回	平成23年10月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・承德医学院の学生来学のスケジュールについて ・授業料減額免除に関する選考基準を定める細則の改正について
第10回	平成23年11月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学授業料等に関する規則の一部改正について ・デザイン研究科後期博士課程学生募集要項 ・看護学研究科後期博士課程学生募集要項
第11回	平成23年11月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部改正について
第12回	平成23年12月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市立大学奨学金返還免除候補者選考要領の制定について ・平成24年度の共通教育科目カリキュラムについて ・公立はこだて未来大学との連携について ・大学院博士後期課程担当教員の定年等の取扱いについて
第13回	平成24年1月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・田村ICT基金について ・国際交流事業促進支援制度(短期)実施要領について ・平成23年度卒業式・修了式及び平成24年度入学式について ・大学基準協会による大学評価(認証評価)結果(委員会案)への対応について
第14回	平成24年2月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価及びGPAの計算方法の変更について ・札幌市立大学と札幌芸術の森との連携に関する協定書について
第15回	平成24年3月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・3月審議会に諮る規程改正について
第16回	平成24年3月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・3月審議会に諮る規程改正について

3 企画戦略会議

例年、企画戦略会議では、5～6月にかけて前年度の業務実績報告の審議、7～8月にかけて同報告を基にした札幌市地方独立行政法人評価委員会のヒアリング及び評価結果案への対応についての審議、10～12月には当該年度の業務計画に関する進捗状況の確認、年明け1～3月には、翌年度の年度計画策定について審議を行っている。また、10月前後に翌年度の法人予算編成方針について審議している。

平成23年度における企画戦略会議は、計27回開催した。特に23年度は開学から6年が経過し、第一期中期目標期間・中期計画期間の最終年度にあたる節目の年度であったことから、例年、当会議で取り扱う上述の業務審議に加えて、第一期中期目標期間の総括業務と第二期中期目標期間に向けた計画立案業務が重なり、多忙な年度となった。

平成24年度から第二期中期目標期間が始まることから、札幌市から示された「第二期中期目標」を踏まえて、本学が今後の6年間で方向付ける「第二期中期計画」を策定することとなった。当会議では、当該計画の重要性の認識のもと、年間を通じて十数回にわたる審議・検討を行い、その策定に多くの時間を費やした。

また、年明けの会議では、当該年度に特有の検討事項となる「第一期中期目標期間に関わる業務実績に関する報告書」の様式について審議し、平成24年度当初に実施する報告書の作成準備を行った。さらに、「本学独自の奨学金制度」の導入について検討するなど、今日的な課題を取り上げた審議も行った。

4 教授会

1) デザイン学部教授会

デザイン学部教授会は、平成23年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

2) 看護学部教授会

看護学部教授会は、平成23年度に12回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、進級卒業判定、施設整備及びその他学部の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、助産学専攻科における教育課程の編入学、修了判定教育研究に関する事項などについても本教授会において、幅広く審議を行った。

教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

3) デザイン研究科教授会

デザイン研究科教授会は、平成23年度に13回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、その他研究科の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

4) 看護学研究科教授会

看護学研究科教授会は、平成23年度に臨時教授会4回を含む12回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、修了判定、施設整備及びその他研究科の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、各学内委員会等からの報告も行い、必要に応じて看護学研究科教授のほか看護学研究科科目担当専任教員を構成員とする拡大会議として開催した。

5 地域連携研究センター

地域・産学連携部門、人材育成・継続教育部門、国際交流部門、紀要編集委員会の4セクションに構成員を配置して、研究活動、地域貢献および国内外ネットワーク形成の推進を担い、活動を行った。また、運営会議(計12回開催)で課題や情報を集約したほか、知的財産委員会を構成し、学内の知的財産に係わる管理・運営を行った。主な活動内容は以下のとおりである。

<地域・産学連携>

地域からの協力要請に対して、本学教員・学生が本来の活動の延長上で地域に還元するため、地域連携活動の協力を行った。また、教員の研究成果を学外に周知し産学連携のきっかけを探るために、「ビジネスEXPO」等の展示会へ出展したほか、産官学連携を目的とした学外との研究交流会を初めて開催し、ネットワークづくりに着手した。また、札幌芸術の森との連携協定を締結した。

<人材育成・継続教育>

大学が持つ知的資源をデザイン・看護の視点に基づき地域に還元し、地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献をすることを目的として、公開講座を開催した。専門職業人や市民を対象とした14コース・21コマの講座を、延べ834名が受講した。

<国際交流>

台湾の華梵大学との交流協定締結を行った。また、初めての承德医学院学生受入れプログラム、華梵大学とのデザインワークショップを実施した。国際交流事業促進支援制度(短期)実施要領を定めた。

<紀要編集>

研究論文集「SCU Journal of Design & Nursing 第6巻」の発行にあたり、全ての投稿論文について査読を経て掲載の可否を決定し、10件の論文を掲載した。

<研究推進>

地域や産業界から依頼された受託研究19件、共同研究1件、また寄附金3件の受入れを行い、次年度の学内競争的研究費(学術奨励研究費・共同研究費)の公募と審査に係わる制度設計を行った。また、両学部の教員の交流を図るため、研究交流会を企画・実施した。

<知的財産委員会>

「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業：(工業所有権情報・研修館主催)における広域大学知的財産ネットワーク」(①北海道地域中小規模大学知財ネットワーク、②保健医療福祉、工学系分野に芸術系分野を融合させた広域連携ネットワーク)へ加盟した。当該事業から派遣される大学知的財産アドバイザーによる「知的財産セミナー全11回」を全学FDとして開催した。

教員の職務発明における大学への権利継承の是非について判断基準を整備した。整備した基準に基づき年間8件の発明届けを審議し、6件を大学が権利の承継をすることとし、4件の特許出願を行った。

6 附属図書館

平成23年度は全10回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。結果、次のことを新たに導入・実施した。

教員選定図書(随時購入)制度の導入・実施、図書館システム「iLiswave-J V2」(富士通株式会社)の導入、自動貸出装置・自動入退館ゲートの設置、和雑誌・学会誌・文献検索データベース「最新看護索引Web」の新規購読、附属図書館ニュースレター「のほほん」5号の発刊等、各種事業。

この他、桑園図書館では書庫の増設により新たに約26,000冊の所蔵が可能となった。

7 アドミッションセンター

入学者選抜試験及びそれに伴う試験区分ごとの従事者説明会の実施、入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成23年度は計10回の会議を開催し、前年度の結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの学生募集要項・選抜試験実施要領の策定、入学者選抜試験に係る現状分析、特別選抜試験(推薦入学)の入学手続者に対する入学前教育の実施及び平成25年度以降の入学者を対象とする選抜試験一部変更の決定等を行った。

学生募集に係る具体的な取組として、オープンキャンパス、高校訪問及び進学相談会等についての企画・運営を行った。

8 キャリア支援センター

キャリア支援センター会議は、両学部に関係するキャリア支援に係る改善・充実を目的として、平成20年4月に設置された。平成23年度、本会議は開催されていない。

9 学内委員会

1) 自己点検・評価委員会

平成23年度の自己点検・評価委員会では、主に、認証評価機関(公益財団法人大学基準協会)による認証評価(大学評価)の受審に向けた準備及びその対応を行った。開催回数は計6回であった。

認証評価の受審に際しては、前年度末に提出した自己点検・評価報告書の記載をもとに、秋口に実施された実地調査について、日程調整、各種準備(各意見交換会、学生インタビュー、施設見学)、事前資料送付など、当日に向けて遺漏のないように取り組んだ。

実地調査は、10月13日(木)及び14日(金)の両日、桑園キャンパス及び芸術の森キャンパスそれぞれで実施されたが、委員会では、複数の意見交換会、学生インタビュー、施設見学、授業参観などの調査項目について事前に学内参加者と打合せを行うなど、円滑な調査に向けて準備を進めた。

実地調査を終え、12月下旬に同協会より送付された評価結果案に対して、委員会で審議し、2件の字句修正依頼及び3件の意見申立を行った。

上記を経て、平成24年3月に最終評価結果が送付され、本学は同協会の大学基準に適合しているとの認証を受けた。この認証に際しては、2点の努力課題が付されたが、これらに関する同協会への回答については、回答期限(同協会が3年後までと規定)を待たずに、対応・改善がされた段階で行うことを委員会で確認した。

また、上記認証評価結果については、スタッフブログやホームページへの掲載などにより、学内外に向け公表した。

その他の委員会活動では、①次年度以降の自己点検・評価活動の進め方についての協議、②平成23年度年度計画進捗状況報告、実績報告に関わる取りまとめ及び平成24年度年度計画の本委員会に関わる項目の原案作成、③同協会主催の実務説明会に参加(6月8日(水)開催)等が挙げられる。

上記①の協議では、次回の認証評価は、次期中期目標期間にあわせて6年後の平成29年度に受審することとした。これに伴い、認証評価に係る評価項目と、期間評価及び年度評価に係る評価項目の対応表を作成し、評価項目として重複する箇所を明確にすることで、複数の評価を受けるための作業軽減を図ることとし、認証評価時に必要となる大学基礎データ集についても、毎年、必要なデータを継続的に収集・蓄積していくこととした。

また、各評価項目について、それぞれの取り組み状況を半期又は四半期ごとのPDCAサイクルにより検証することとし、本委員会は、これらに関して内部監査機関としての役割を果たしていくことを確認した。

2) 総務委員会

平成23年度は10回の委員会を開催した。

芸術の森キャンパス内の火気使用管理区域の暫定措置について、デザイン学部学生支援委員会からの要望を受け、検討した。

平成23年度年度計画進捗状況報告書について、実施状況報告案を検討した。

平成23年度卒業式・修了式について、新たに大学院修士課程修了者が加わることに伴い、式典の実施方法等について検討するとともに、平成24年度入学式についても、実施方法の検討を行った。

3) FD委員会

平成23年度は、FD委員会として、教員の資質向上、情報の共有化、情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。10回開催したFD委員会では、FD活動の方針について論議するとともに、FD活動それぞれについて、実施前後にその内容の確認・検証を行った。

平成23年度の具体的な活動として、全学FD研修会(13回)、各学部・研究科のFD研修会(13回)、学外研修会への教職員派遣(5回延べ10名)、授業評価アンケートの効果的な活用、本学学生及び教職員への授業評価アンケートの集計結果に関する所見の公開、教員相互の授業参観等を企画・実施した。

また、「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加し、大学間のFD活動交流にも関わって

いる。

4) 広報委員会

「年報」「ホームページ」「大学案内等」の3つのチーム編成により計7回の委員会を開催し、機能的に活動した。

<年報>

平成22年度年報を400部制作し、札幌市、公立大学、道内大学等へ発送したほか、全教職員に配布した。また、次年度は年報に掲載している情報を公式サイトに掲載することとし、冊子体を廃止する方針を決めた。

<ホームページ>

利用者が本学に関する情報を容易にかつ迅速に把握できるよう、逐次更新を行った。

<大学案内等>

- ・2012大学案内を23,000部印刷し、公立大学、道内大学、札幌市などに発送した。
- ・2013大学案内について検討し、デザイン企画制作を行った。
- ・2013大学院案内について検討し、博士課程の情報を加えてデザイン企画制作を行い、3,000部印刷した。
- ・2013助産学専攻科リーフレットについて検討し、1,200部印刷した。

<その他>

- ・広報・記録用の写真撮影について、年度初めの学生向けガイダンスで広報記録のため撮影がある旨を連絡し、撮影時はこれまで同様、都度教員から撮影がある旨学生に伝える方針を決めた。
- ・今後の広報業務のあり方について、平成24年度広報委員会で協議をする方針を決めた。

5) 倫理委員会

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者(研究協力者)等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った十分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成23年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第2水曜日に委員会を開催した(計13回開催、臨時開催1回含む)。年間の審査申請総数は51件であり、1回当たり平均3.9件の審査を実施した(最大審査件数11件)。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、倫理審査の社会的透明性及び客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、平成22年度に引き続き、法律家を外部委員として委嘱することとし、中村隆弁護士が委員として審査に加わった。

このほか、審査申請様式・手順等について、委員会で協議のうえ見直しを図り、基本資料の改訂版を作成した。

6) 博士課程設置特別委員会

平成23年度においては、博士課程設置特別委員会の下部組織にあたる「デザイン研究科博士課程検討WG」を5回、「看護学研究科博士課程検討WG」を11回開催した。

学内では博士課程設置認可申請に向け、以前から着実に準備を進めてきたところであるが、平成23年度は、文部科学省に対する5月末の設置認可申請を目前に控える時期に入り、年度当初から両研究科のWGメンバーが申請書全体を精査し、博士後期課程の目指す教育・研究のあり方、人材育成像などをより明確に打ち出すため、それぞれの専門的見地から多角的に議論・協議を重ねた。

そのため、WGは特に4～5月において集中的に開催し、育成する人材像に沿った教育・研究が可能となるよう、カリキュラム、シラバス、履修モデル、教員組織、論文審査体制、入学選抜方法な

ど、実際の博士後期課程運営に必要となる詳細な事項について、その具体化を進めた。

また、委員会では、5月下旬に博士後期課程の科目担当予定教員を対象とした説明会を企画・開催した。説明会では、両研究科長から研究科の設置の趣旨・目的等を周知するとともに各科目の位置づけ、ねらい等についても説明し、教員間での共通認識の徹底を図った。

申請に際しては、文部科学省中央教育審議会の答申「グローバル化社会の大学院教育 ～多様な分野で大学院修了者が活躍するために～(平成23年1月31日)」の考え方に留意するとともに、他大学院の状況も参考にしながら、全体を通して一貫性・整合性のある計画となるよう努め、さらに、申請書類の不備等がないか指導・助言を仰ぐため、文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室へ計6回の事務相談を行った。その結果、8月の面接審査、9月の補正申請を経て、10月に設置認可を得ることができた。

7) 教員評価制度特別委員会

平成23年度は3回の委員会のほか、ワーキングや専門部会を開催し、各教員から提出された教員活動実績申告書のチェックや教員評価書の作成作業を行うとともに、次年度に向けて、申告書様式や記入要領等の検証や見直しを行った。

評価結果については、平成23年度末に任期満了を迎える教員の再任審査に活用した。

また、平成23年度は新たに、研究活動実績を総合的に勘案して研究費を追加で配分する取り組みを試行的に実施した。

なお、教員評価制度が確立したことから、当委員会は平成24年度から、常設の「教員評価委員会」へと移行することとした。

8) 教務・学生連絡会議

教務・学生連絡会議は、平成23年度に11回の会議を開催し、共通教育、デザイン・看護両学部との連携教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、共通教育のカリキュラム改正、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭に関すること等について議論を重ねたほか、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を提案し、協議を行った。

9) 研究科教務・学生連絡会議

研究科教務・学生連絡会議は、平成23年度に8回の委員会を開催し、デザイン・看護学両研究科の連携に関する事項、研究科連携科目に関する事項及び学生生活に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、研究科連携科目である連携プロジェクト演習、院生研究支援費に関すること、また、奨学金に関すること等について議論を重ねたほか、両研究科の教務・学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を提案し、協議を行った。

構成員名簿

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	部局長会議	◎原田 昭 中村 恵子 酒井 正幸 城間 祥之 スーディ神崎 和代 中原 宏 塩澤 正樹	理事長・学長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	企画戦略会議	◎原田 昭 中村 恵子 酒井 正幸 城間 祥之 スーディ神崎 和代 中原 宏 塩澤 正樹	理事長・学長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 事務局長
	地域連携研究センター	◎スーディ神崎 和代 羽深 久夫 原 俊彦 矢部 和夫 武田 亘明 張 浦華 ライト デーヴィッド 小宮 加容子 上田 裕文 坂倉 恵美子 大野 夏代 守村 洋 櫻井 繭子 神島 滋子 三上 智子 坂本 将司 上田 理子	地域連携研究センター長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部助教 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 桑園事務室長・調整担当部長 事務局地域連携課長
	図書館	◎中原 宏 宮崎 みち子 上遠野 敏 片山 めぐみ 三谷 篤史 山田 良 吉川 由希子 鶴木 恭子 上田 理子	附属図書館長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部准教授 看護学部助教 事務局地域連携課長

区分	委員会等	委員・構成員		
		教職員名	所属・職位等	
	アドミッションセンター	◎城間 祥之 酒井 正幸 山本 勝則 杉 哲夫 武邑 光裕 細谷 多聞 内田 雅子 渡邊 由加利 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン研究科長 デザイン学部長 看護学科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 看護学部教授 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長	
	キャリア支援センター	◎酒井 正幸 中村 恵子 杉 哲夫 樋之津 淳子 坂本 将司	デザイン学部長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部教授 看護学部教授 桑園事務室長・調整担当部長	
学内委員会	常置委員会	自己点検・評価委員会	◎中村 恵子 酒井 正幸 城間 祥之 スーディ神崎 和代 中原 宏 山本 勝則 吉田 和夫 常野 正浩	副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 附属図書館長 看護学科長 デザイン学部教授 事務局次長
		総務委員会	◎塩澤 正樹 齋藤 利明 羽深 久夫 望月 澄人 山田 良 河野 總子 大野 夏代 河村 奈美子 工藤 京子	事務局長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部助教 看護学部助教
		FD委員会	◎武邑 光裕 酒井 正幸 那須 聖 大淵 一博 片山 めぐみ 坂倉 恵美子 守村 洋 菅原 美樹 照井 レナ 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン学部教授 デザイン学部長 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 事務局学生課長 事務局桑園担当課長

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	◎羽深 久夫 中原 宏 吉田 和夫 福田 大年 須之内 元洋 松浦 和代 清水 光子 村松 真澄 測本 雅昭 上田 理子	デザイン学部教授 附属図書館長 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部助教 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 事務局地域連携課長
		◎樋之津 淳子 スーディ神崎 和代 宮崎 みち子 齋藤 利明 矢部 和夫 張 浦華 松井 美穂 藤井 瑞恵 太田 晴美 上田 理子	看護学部教授 地域連携研究センター長 助産学専攻科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部助教 事務局地域連携課長
	特別委員会	◎中村 恵子 原田 昭 城間 祥之 塩澤 正樹	副学長・看護学部長・看護学研究科長 理事長・学長 デザイン研究科長 事務局長
		◎原田 昭 中村 恵子 酒井 正幸 城間 祥之 スーディ神崎 和代 原 俊彦 松浦 和代 塩澤 正樹	理事長・学長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部長 デザイン研究科長 地域連携研究センター長 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局長
連絡調整会議	学部間	◎酒井 正幸 中原 宏 山本 勝則 原 俊彦 吉田 恵介 定廣 和香子 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン学部長 附属図書館長 看護学科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
連絡調整会議	研究科間	研究科教務・学生連絡会議	◎城間 祥之 中村 恵子 羽深 久夫 望月 澄人 松浦 和代 安立 卓也 徳永 信之助	デザイン研究科長 副学長・看護学部長・看護学研究科長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
		衛生委員会	◎常野 正浩 石崎 友紀 小宮 加容子 松井 美穂	事務局次長 デザイン学部教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師
		桑園地区衛生委員会	◎坂本 将司 清水 光子 菊地 ひろみ 原井 美佳	桑園事務室長・調整担当部長 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教
学部委員会	デザイン学部	教務委員会	◎中原 宏 齊藤 雅也 町田 佳世子 大淵 一博 柿山 浩一郎 上田 裕文 須之内 元洋	附属図書館長 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部助教 デザイン学部助教
		学生支援委員会	◎吉田 恵介 上遠野 敏 原 俊彦 細谷 多聞 片山 めぐみ 小宮 加容子	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師
		キャリア支援委員会	◎杉 哲夫 齊藤 雅也 武田 亘明 石田 勝也 小宮 加容子 福田 大年 長谷川 聡	デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部講師 デザイン学部助教
学部委員会	看護学部	教務委員会	◎山本 勝則 内田 雅子 吉川 由希子 菊地 ひろみ 杉田 久子 村松 真澄 山内 まゆみ 測本 雅昭 田仲 里江	看護学科長 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助手

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
学部委員会 看護学部	学生支援委員会	◎定廣 和香子 守村 洋 櫻井 繭子 田中 広美 藤井 瑞恵 渡邊 由加利 神島 滋子 多賀 昌江 照井 レナ 原井 美佳 三上 智子 檜山 明子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手
	キャリア支援委員会	◎樋之津 淳子 清水 光子 山本 真由美 太田 晴美 河村 奈美子 工藤 京子 鶴木 恭子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助教
研究科委員会	デザイン研究科 教務・学生支援委員会	◎望月 澄人 羽深 久夫 那須 聖 細谷 多聞 町田 佳世子 三谷 篤史	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師
研究科委員会	看護学研究科 教務・学生支援委員会	◎松浦 和代 定廣 和香子 菅原 美樹 村松 真澄	看護学部教授 看護学部教授 看護学部講師 看護学部講師

◎印:所管部局長

10 FD・SD 活動

全学FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
平成23年 4月14日	SD	新規採用職員研修	理事会室	5名
平成23年 7月14日	FD/ SD	知財ミニセミナー①「発明者とは」 (丞村 宏先生)	桑園:講義室1	教職員8名
平成23年 8月25日	FD/ SD	知財ミニセミナー①「発明者とは」 (丞村 宏先生)	芸森:大会議室	教職員5名
平成23年 9月5日	FD/ SD	平成23年度札幌市立大学研究交流会	桑園キャンパス 講義室1・2、体育館	教職員82名
平成23年 9月6日	FD/ SD	知財ミニセミナー②「著作権、著作人格権とは」 (丞村 宏先生)	桑園:講義室1	教職員4名
平成23年 10月19日	SD	知財ミニセミナー②「著作権、著作人格権とは」 (丞村 宏先生)	芸森:大会議室	事務職員4名
平成23年 11月9日	FD/ SD	知財ミニセミナー③「意匠権とは」 (丞村 宏先生)	桑園:講義室1	教職員3名
平成23年 11月16日	FD/ SD	看護とデザインの連携によるプロジェクト型 授業とポートフォリオ (鈴木 敏恵先生)	桑園:講義室1 芸森:大会議室 (遠隔利用)	教職員48名
平成23年 12月13日	FD/ SD	知財セミナー「知的財産としての著作権」 (丞村 宏先生)	桑園:大会議室 芸森:大会議室 (遠隔利用)	教職員17名
平成23年 12月14日	FD/ SD	知財ミニセミナー④「商標とは」 (丞村 宏先生)	桑園:大会議室 芸森:大会議室 (遠隔利用)	教職員7名
平成23年 12月21日	SD	知財ミニセミナー③「意匠権とは」 (丞村 宏先生)	芸森:C104	事務職員3名
平成23年 12月21日	FD/ SD	職場のメンタルヘルス (上村 友也先生)	芸森:大会議室 桑園:講義室 (遠隔利用)	教職員40名
平成24年 2月8日	FD/ SD	知財ミニセミナー「学生の発明の取り扱い、学 生と教員の創作物について」 (丞村 宏先生)	桑園:講義室1	教職員2名
平成24年 2月15日	FD/ SD	知財ミニセミナー④「商標とは」 (丞村 宏先生)	芸森:大会議室	教職員5名
平成24年 3月21日	FD/ SD	知財ミニセミナー「学生の発明の取り扱い、学 生と教員の創作物について」 (丞村 宏先生)	芸森:大会議室	教職員2名

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

デザイン学部FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
平成23年 12月21日	FD/ SD	職場のメンタルヘルス (学校医・植村裕也先生)	大会議室	教職員40名 (看護学部含む)
平成24年 2月23日	FD/ SD	卒業研究事例に基づくコース専門教育に係る 意見交換(各コース教員)	階段教室	教職員26名

デザイン研究科FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
平成23年 7月20日	FD/ SD	特別研究等にかかる倫理審査申請書の書き方 について (矢部デザイン研究科倫理委員会委員長)	大会議室	教職員21名
平成23年 10月3日	FD	TAの心構えについて (城間研究科長)	レクチャールーム	教員1名、院生5名
平成24年 3月23日	FD	デザイン研究科博士前期課程の研究指導教員 等の資格認定について (城間研究科長)	レクチャールーム	教員5名

看護学部FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
平成23年 5月17日	FD/ SD	ポートフォリオの活用の実際 (鈴木敏恵先生)	講義室5	教職員33名
平成23年 6月22日	FD	教育GP「学年別OSCEの到達度評価と教育法の 検討」事業の各部門の活動成果と今後の発展 (教育GP各部門・班担当者)	講義室4	教員33名
平成23年 7月20日	FD	就業力GP報告会「第1部地域連携部門シャトル 研修班報告」(松浦教授)	講義室4	教員25名
平成23年 7月20日	FD/ SD	進路相談の基本を学ぶ (今 寛子先生)	講義室4	教職員29名
平成23年 8月3、10日	FD/ SD	本学におけるポートフォリオの展開方法につ いて(吉川准教授)	講義室4	教職員32名
平成23年 9月20日	FD	進路相談の実際－事例からの学び	講義室4・5 演習室4・5・6	教員23名
平成24年 3月6日	FD	ラーニング・ポートフォリオの次年度の方向性 と進め方(就業力GPポートフォリオ班)	講義室1	教員25名

看護学研究科FD・SD		研修会名(講師)	場所	参加者数
平成23年 9月13・14日	FD	らくらく動作解除の教授法 ～寝・起・坐・車椅子トランスファー～ (NPO法人動作介助研究会齋竹一子先生、 佐藤幸恵先生)	実習室	教員23名、院生6名

X 資料

1 平成23年度年度計画

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置)

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育成果に関する目標を達成するための措置

(学部教育)

- ・ 共通教育科目は、大学教育を受けるための心構えや履修方法、主体的な問題解決能力を養う「導入科目」、文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、語学などのコミュニケーションツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」に区分し、体系的な教育を行う。
- ・ 専門教育科目は、専門科目を学ぶ前提や基礎となる科目群、専門的知識や技術を学ぶ科目群に区分し、専門知識や高度な技術について体系的な教育を行う。
- ・ デザイン学部の教員は、空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースの特色と他コースとの関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、コースごとにプレゼンテーションを行い、情報を共有することにより、体系的な教育を行う。
- ・ 看護学部の教員は、領域ごとの特色と他領域との関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、領域ごとにプレゼンテーションを行い、各領域が情報を共有することにより、体系的な教育を行う。
- ・ デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例や起業家等の活動を知る機会(講演会、交流会、ワークショップ等)を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、インターンシップを通じた就業体験の場を提供する。また、企業等に対しては、デザイン学部の教育内容について周知を図る。
- ・ 看護学部においては、保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職としての動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために臨地実習指導者会議を開催する。
- ・ 多様な講師の活用や関連施設を活用した実習など産業界、保健・医療・福祉機関、高等教育機関、行政等と連携した教育を行い、地域に貢献できる人材の育成に努める。特に看護学部では、「大学生の就業力育成支援事業」(文部科学省就業力GP)により、卒業生の就業先等と連携し就業力の育成を行う。また、公開講座の実施、学生の各種発表会の公開など、知的資源の地域への還元を拡大するとともに、地域を対象としたプロジェクトに取り組み、市民文化の向上やまちづくりに幅広く貢献する。
- ・ 教務・学生連絡会議は、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証するため、学生による授業評価アンケートを学期ごとに実施する。また、卒業生に対する追跡調査を年1度実施する。

(大学院教育)

- ・ デザイン研究科では、課題解決能力をはじめ、創造力、企画調整能力、実践能力等の高度なデザイン能力と、地域貢献に資する高度専門職業人としての資質の涵養に向け、授業科目及び研究指導を体系的・組織的に展開する教育課程を編成し、教育を実践していく。
- ・ 看護学研究科では、高度な臨床看護実践能力や、分析・判断・行動・評価能力、統合・調整能力、健康づくり支援能力と、地域貢献に資する高度専門職業人としての資質の涵養に向け、授業科目及び研究指導を体系的・組織的に展開する教育課程を編成し、教育を実践していく。

(2) 教育内容に関する目標を達成するための措置

ア 入学者選抜

- ・ アドミッション・ポリシーに基づき、使命感及び勉学意欲を持った学生を確保する。
- ・ アドミッション・ポリシーは、ホームページで公開するほか、オープンキャンパスや高校訪問、

進学相談会等でも説明を加え、広く周知する。

- ・アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜(前期・後期)、特別選抜(推薦入学・社会人・私費外国人留学生)を実施するほか、入学者選抜の内容や制度について継続して検討する。
- ・3年次編入学生を受け入れるため、編入学試験を実施する。また、社会人等の学習ニーズに対応するため、科目等履修生、聴講生及び研究生の募集を行う。また、専攻科及び大学院研究科の学生募集を積極的に行う。
- ・入学者を対象としたアンケート調査等を実施するなど、入学者選抜方法の事後評価を行い、入学者選抜方法の改善・充実を図る。

イ 教育課程

(学部教育)

- ・「日本語表現法」「プレゼンテーション」「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。
- ・「スタートアップ演習」では、両学部の学生が専門分野を学ぶ上での問題点の発見や課題解決手法等を習得させる。さらに、その成果の発表などを通じ、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう教育を行う。
- ・デザイン学部においては、1年次から共通教育とともに、体系的にデザインの基礎となる専門教育科目を実施し、2年後期から始まるコース別専門教育に円滑に移行できるよう配慮する。
- ・看護学部においては、1年次から専門知識・技術を習得するためにくさび型カリキュラムを導入し、専門教育科目を実施する。
- ・1年次の「スタートアップ演習」、3年次の「学部連携演習」で、学部間の有機的な連携による授業を展開する。
- ・学生の入学前の修得単位認定及びTOEIC・情報等の資格取得による単位認定を実施する。また、他大学との単位互換制度の導入について、単位互換の意義、整備条件(開講科目や遠隔授業等)を検討するとともに、実現可能な大学との具体的な交渉を進める。
- ・「スタートアップ演習」や「学部連携演習」において、地域の様々な課題を取り上げた実践的な授業を実施するとともに、「寒冷地デザイン」「寒冷地医療」など、地域の特色を生かした教育を進める。

(大学院教育)

- ・デザイン研究科では、学士課程を基礎に高度で専門的なデザインを迫及し、専門分野については、空間デザイン分野、製品デザイン分野、コンテンツ・メディアデザイン分野の3分野を設けて教育課程を編成し、体系的に進めていく。
- ・看護学研究科では、学士課程を基礎として、実践看護学分野及び看護マネジメント学分野を設けて教育課程を編成し、体系的に進めていく。
- ・デザイン研究科では、専攻分野の基礎的素養を涵養するため、専門教育科目の中に基本科目を配置するとともに、高度な専門的知識及び能力の修得に向け、展開科目等を配置するなど、全体のバランスに配慮した教育課程を編成する。
- ・看護学研究科では、専攻分野の基礎的素養を涵養するため、専門教育科目の中に専門基本科目を配置するとともに、高度な専門的知識及び能力の修得に向け、専門科目等を配置するなど、全体のバランスに配慮した教育課程を編成する。
- ・デザイン研究科に空間デザイン分野、製品デザイン分野、コンテンツ・メディアデザイン分野の3分野を設け、高度な専門性が求められる職業人の育成を目標とした実践的な教育を展開する。
- ・看護学研究科に、5領域で構成する実践看護学分野と1領域で構成する看護マネジメント学分野の2分野を設けるとともに、母子看護学領域、成人看護学領域(急性期)、精神看護学領域に、修士論文コースのほか、専門看護師(CNS)コースを併設することにより、高度な専門性が求められる職業人の育成を目標とした実践的な教育を展開する。

ウ 教育方法及び履修指導方法

(ア) 2キャンパス

- ・両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で実施するが、共通教育科目を受講する看護学部の学生が、同日中に両キャンパス(芸術の森、桑園)間を移動することのないような時間割編成を行うなど、看護学部の学生の一層の負担軽減に努める。
 - ・両研究科の学生が合同で学ぶ研究科連携科目については、特定の曜日に桑園キャンパスで開講するなど、学生の負担軽減に配慮する。
 - ・学生を対象に図書館の図書の間キャンパス間の検索、貸出し・返却を行う。
 - ・新たな遠隔授業システムの試験運用を行い、情報量の推移を検証する。また、共通教育科目の効率的な受講のための遠隔授業、学生の自己学習の一助としてのeラーニングシステムの活用により授業内容の充実を図る。
- (イ) 多様な授業・履修形態
- ・教育分野や教育内容の特性に応じ、演習、実習を取り入れた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査、模擬患者を活用した演習などを実施する。
 - ・大学院においては、学生の研究成果発表、学会等への参加を積極的に支援していく。
 - ・科目等履修生規則、聴講生規則及び研究生規則に基づき募集を行う。
 - ・大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例及び長期履修学生制度の運用状況を適切に把握するため、学生へのアンケート調査及び単位履修状況の集計を実施する。
- (ウ) 実践的な授業の重視
- ・デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例や起業家等の活動を知る機会(講演会、交流会、ワークショップ、学外授業等)を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、高年次においてはインターンシップ等を通じて企業の活動を実際に体験する機会を推奨する。また、企業等に対し、デザイン学部の教育内容について周知を図る。
 - ・保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職の動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために臨地実習指導者会議を開催する。
 - ・実習先等におけるさまざまな危険を回避し、学生が安心して演習・実習を行うのに必要な保険の必要性・重要性を理解できるようにガイダンスを行い、傷害・賠償保険に加入させる。
 - ・豊富な実務経験を持つ専任教員、非常勤講師を採用し、職業人育成のための教育を行う。
 - ・実務経験豊富な外部講師を招聘し、特別講演等を行う。
 - ・学部の特性に応じて、講義、演習、実習を体系的に組み合わせ、専門知識や高度な技術を修得できるよう授業を行う。
- (エ) 履修指導方法
- ・シラバスに「科目のねらい、到達目標」を明記するとともに、ホームページでも公開する。また、学生の授業評価アンケート等を参考にして、次年度のシラバスの充実を図る。
 - ・全教員を対象として、FD(ファカルティ・ディベロップメント)を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。
 - ・学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を行うため、 Semester制を実施する。
 - ・学部ごとに Semesterにあわせて履修にあたっての留意事項、スケジュール等についてガイダンスを実施する。
 - ・デザイン学部においては、2年後期のコース別教育にあたり、事前に適切なコース選択ができるようきめ細かな指導を行う。
 - ・看護学部においては、看護実習の開始前に、実習に当たっての履修指導を行う。
 - ・「英語Ⅱ」における習熟度別クラス編成の導入など、多様化する学生の資質・学力に対応するための共通教育科目の充実・強化に努める。

- ・一部専門基礎科目の見直し等により、多様化する学生の資質・学力に対応していく。また、これまでの事例検証を基に必要性が高いと考えられる科目のリメディアル教育(補完授業)を実施する。
- ・履修科目の過剰登録を防ぐため、カリキュラムの改編と併せて、GPAの活用及び Semester毎に登録単位の上限を設けるキャップ制の導入を検討する。
- ・大学院生によるTA制度について、引き続き実施する。また、少人数教育、習熟度別クラス等に関して、授業評価アンケートの結果を基に、より学生のニーズに合った授業形態を検討し、整備を進める。
- ・デザイン学部では、空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースごとに、看護学部では臨床、地域の区分により設けている履修モデルについて、学生の実際の履修状況を検証し、改善・工夫を図る。
- ・両研究科においては、学生の研究テーマに沿った指導教員を学生ごとに決定し、教育・研究指導を一貫して行う。

エ 学生の成績評価

- ・学則で定めた成績評価基準に基づき、適切な成績評価を行う。
- ・教育課程における目標の達成度の評価方法、各科目の年度ごとの評価の整合性等を検証し、成績評価基準等の見直しを図る。
- ・成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準を学生生活ハンドブックに明示するとともに、シラバス、ホームページで公開する。
- ・学生の優れた成績や課外活動等に対して表彰を実施する。
- ・多様な奨学金制度の創設について、予算状況を踏まえながら平成23年度中に結論を出すべく検討する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置

- ・大学院教育を含め、大学全体で必要な教員組織及び構成について検証し、その上で計画的に教員を採用し、適正な教員配置を行う。
- ・新たに教員を採用する場合には、将来的な年齢構成等にも配慮する。
- ・助教及び助手の適切な任用および配置を行う。
- ・客員教授及び特任教授の活用を図るとともに、臨地教授制度の導入を行う。

イ 教員の資質の維持向上

- ・学長、学部長、研究科長等は、教員に対し、授業開始前に、大学・学部等の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等に関する研修を行う。
- ・大学での授業が未経験の教員に対しては、FD委員会が中心となり、学校教育法等に係る研修を行う。
- ・教務・学生連絡会議は、シラバスの記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成する。FD委員会は、希望する教員に対して記載方法等の指導・助言を行う。
- ・学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員及び学生にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。
- ・FDに関する講演会や学内の研修会を実施する。
- ・FDに関する外部の研究会や研修会に教職員を派遣する。

ウ 教育環境の整備

- ・平成24年度の博士後期課程開設を視野に入れた大学院及び学部の教育・研究指導を総合的に考慮し、教室等の配置及び改修等を順次進める。
- ・学内施設利用に関する点検・評価を行い、効率的な施設運用を図りながら、大学の教育・研究機能として必要な産学連携スペースを拡充する。
- ・学年進行に合わせ、専門教育に必要な教育研究システムや情報機器を優先度を考慮し逐次整備する。

- ・学内外のeラーニングシステムや遠隔授業システムを活用した授業事例を全教員に紹介する機会を設け、授業内容の工夫・改善を図る。
- ・図書館運営会議が図書や図書館の備品整備を検討、総務委員会が全学的な施設・設備の整備を所管する等、所管委員会間で調整を行いつつ、必要な整備を行い、良好な教育研究環境の整備に努める。
- ・図書館運営会議において、図書の選定・充実を図るとともに、図書及び学術情報等に係る環境改善について定期的に検討する。
- ・図書等については、図書、視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等について選定作業を行い、充実を図る。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習支援及び学生生活支援

- ・両学部におけるメンター制度により、学生の修学・進路・生活及び心身の健康等にわたる各種相談等に、教員が直接かつ柔軟に対応する。
- ・学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般を支援するため、学部の学生支援委員会を中心に、両学部におけるメンター制度を活用した支援を行う。
- ・両キャンパスに配置したカウンセラー及び看護師等の専門スタッフにより、学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活の支援を行う。
- ・教務・学生連絡会議において、学生生活の実態や意向を把握するためのアンケートを実施し、学生生活の充実に向けた改善策を検討した上で、順次具体化していく。
- ・学内の施設利用に併せて大学院学生の駐車場利用を調整し、学生の利用については許可条件に基づいて随時使用を認める。
- ・学生の地域活動等に対して、情報提供、教職員の助言等を行う。
- ・学生のニーズを踏まえ、福利厚生及び課外活動のための施設・設備の整備を行う。
- ・キャリア支援センター及びキャリア支援委員会は、大学院学生を含め、学生に対するキャリア教育、就職ガイダンス等を実施するとともに、就職先の開拓および連携等を強化し、就職活動を支援する。また、看護学部では、「大学生の就業力育成支援事業」により看護職キャリア支援体制の強化や就業情報の一元化を図るためのデータベースの構築等を行う。
- ・キャリア支援センター及びキャリア支援委員会は、地元の企業や関係機関・団体等との連携を一層促進する。
- ・学生納付金の減免枠の拡大について検討する。また、多様な奨学金制度の創設について、予算状況を踏まえながら平成23年度中に結論を出すべく検討する。
- ・後援会組織及び同窓会組織と連携し、大学祭などの課外活動や学生生活、福利厚生等の支援を行う。

イ 留学生及び障がいのある学生に対する支援

- ・メンター制度による個別対応に加え、今後、留学生が日常的に直面する多様な問題に適切に対応するため、相談体制の充実に向けた検討を行う。
- ・障がいのある学生に対し、教務委員会及び学生支援委員会が中心となり、修学上の支援と相談を行うほか、必要に応じて設備・機器等の整備を行う。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向性

- ・デザイン学部及びデザイン研究科において、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上、都市再生等に寄与する研究を行う。
- ・看護学部及び看護学研究科において、看護の基礎的な研究、地域看護の充実及び市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。
- ・両学部・両研究科において、保健・医療・福祉分野や環境、健康、生活、情報等をキーワードとする共同研究を推進する。

- ・科学研究費補助金を含む競争的研究資金の情報を周知し、外部資金導入による研究の促進を図るとともに、科学研究費補助金の申請件数の増加に引き続き努める

イ 研究の水準及び研究の成果

- ・研究者を受け入れやすい環境を整備し、学内外の研究者との交流を図る。
- ・大学の知を社会に還元するために、公開講座、研究会、講演会等の開催や市内中小企業などの産業界へ向けた情報提供を行う。
- ・教員の研究成果を取りまとめた紀要(SCU Journal of Design & Nursing - 札幌市立大学研究論文集-)を発行する。また、シーズとなる教員の研究分野、研究内容等の情報をホームページ等で公開する等、国内外を対象とした、本学の教育・研究に関わる広報の充実を図る。
- ・共同研究等を推進する地域連携研究センターが中心となり、産業界等との連携を深める。また、大学院の設置により、新たな解決策の創出に向けた先端的かつ実践的な研究を推進し、複合的な地域課題の解決に積極的に取り組む。
- ・研究成果を教育課程へ反映させることにより、教育課程の一層の充実を図る。
- ・各教員の研究活動について、学会発表や論文執筆者の態様等に応じた基準により検証を行えるよう、体制整備に向けた検討を行う。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 研究費

- ・個人研究費ならびに学術奨励等競争的研究費を活用し、様々な地域課題に取り組む戦略的な研究を支援する。
- ・平成22年度実績に係る評価結果を平成23年度研究費に反映させる制度を確立する。
- ・共同研究費については、地域貢献に資する共同研究ならびにデザインと看護の連携した共同研究にも重点的に配分し、共同研究を推進する。

イ 研究の実施体制

(ア) 附属研究所(地域連携研究センター)

- ・産学連携事業に関わる前年度の調査結果を踏まえて、産業界と本学研究者との出会いの場を広げ、連携の機会を更に促進する。また、それらを実施するにあたりサテライトキャンパスを利用し、リエゾンオフィスとしての機能を有効活用する。
- ・地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランド及び新産業の創出を支援する。
- ・デザイン・看護両学部の連携によるユニバーサルデザインの視点に立った都市基盤整備や医療・福祉分野を対象とするデザイン・看護研究に取り組む。
- ・求めに応じ、看護職に対する専門的情報の収集・提供、相談・指導を実施する。
- ・地域看護や在宅看護・介護に関する研修会、講演会などを開催する。また、認定看護管理者の育成を目的とするサードレベルの教育を実施する。

(イ) デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

- ・地域連携研究センターは、各学部あるいは両学部における研究を支援し、その推進を図る。また、道内外の大学・研究機関等と連携・協力して研究を推進する。

3 地域貢献等に関する目標を達成するための措置

(1) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア 地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

- ・IT関連分野、観光分野等のデザイン研究、北方圏の新しいデザインモデルの創造等に取り組む。
- ・医療・看護・介護機器ならびにユニバーサルデザイン・バリアフリー住宅等に関する研究開発等に取り組む。
- ・地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。
- ・地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に取り組み、その成果の公表、提供等を通じて地域貢献に取り組む。

イ 教育面での貢献

- ・ サテライトキャンパスにおいて、新しい遠隔授業システム等の導入に向けた試験を実施する。
- ・ 関係機関との連携等により、多様な講座を提供するとともに、デザイン分野及び看護分野における専門職業人の継続教育等への需要に応えるプログラム開発に取り組む。その一環として、地域連携研究センターにおいて、認定看護管理者育成を目的としたサードレベルの教育を継続する。また、看護職の再就職に向けた教育を支援する。
- ・ 市民への図書の出し入れを実施するとともに、図書館運営会議においてサービス向上に向けた取組について検討を行う。
- ・ 高校生を対象とした出前講座や公開講座、職場体験学習の受け入れ等を行うとともに、高校関係者との協議を進め、高等学校とのより一層の連携の具体的方策を検討する。また、小中学生に対しても、大学の持つ教育機能の提供を進めていく。

ウ 大学間連携

- ・ 大学間の単位互換や大学施設の相互利用、大学間連携による共同講義、共同公開講座、共同研究等の実施等に向け、他大学及び関係機関と協議を行う。

エ 札幌市との連携

- ・ 札幌市の行政施策に関連する各部局との連携を推進するための情報交換の場を設け、地域課題の解決に対する取組みを行う。

オ 大学院における取組

- ・ 大学院では、先端的かつ高度な教育・研究に取り組むとともに、地域や産業の振興など、地域に関連する様々な課題について研究を行う。また、教育成果や研究成果等の知的資源を情報公開、公開講座を活用して地域に還元するとともに、地域を対象としたプロジェクトに取り組む。

(2) 国際交流に関する目標を達成するための措置

ア 海外大学との連携等

- ・ 地域連携研究センターが中心となり、海外の大学・研究機関等との連携等による研究者・学生の交流制度等の充実を推進する。
- ・ 国際会議の開催や参加等を通じて、国際的な大学・研究機関との連携、交流を促進する。
- ・ 情報収集の目的でUMAP(アジア太平洋大学交流機構)に引き続き参加する。
- ・ 地域連携研究センターが中心となり、国際交流の企画と推進を行う。

イ 留学生の受け入れ

- ・ 交流協定校を中心とした海外の大学との教育研究等に関する連携を進め、具体的な留学生の受け入れ条件を調整しながら検討を進める。また、交流協定校以外の大学・機関等とも、教育・研究を通じた多様な国際交流に取り組む。
- ・ メンター制度による個別対応に加え、今後、留学生が日常的に直面する多様な問題に適切に対応するため、相談体制の充実に向けた検討を行う。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア 公立大学法人の経営戦略の策定

- ・ 経営戦略に基づき、理事長のリーダーシップにより、目標達成に向け着実な業務運営を行う。

イ 役員会及び理事のサポート

- ・ 役員会において最重要事項の審議を行うとともに、各役員専門性を発揮するため、役割を分担し理事長をサポートする。

ウ 学内の資金配分

- ・ 研究費については基礎的な個人研究費のほかに、学術奨励等競争的研究費を継続して設ける。また、理事長の裁量により留保する戦略的経費の中から大学が様々な地域課題に取り組む戦

略的な研究費に充てる。

- ・予算全搬について、次期中期計画予算に向けて理事長が戦略的かつ柔軟な配分を行える仕組みを構築する。

(2) 公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア 理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

- ・学外から登用した専門家・有識者である理事の活用を図る。
- ・学外から登用した経営に関する有識者である経営審議会委員の活用を図る。
- ・学外から登用した教育研究に関する有識者である教育研究審議会委員の活用を図る。

イ 教授会等

- ・教授会および学内委員会の審議事項を厳選し、全学の学内委員会の数を15以下となるようにする。
- ・役員会等の重要な会議の議事内容が、すべての教員に周知されるよう教員会議において情報の共有化を行う。

(3) 経営手法に関する目標を達成するための措置

ア マネジメントサイクルの徹底

- ・半年から四半期でのマネジメントサイクル実施について、事業ごとに順次検討を進め、実施可能なものから順次実施していく。また、業務分析の結果を次期中期計画への策定に活用する。
- ・役員会等に対し前年度の業務実績報告を行うとともに、中期計画、前年度の評価委員会の評価結果及び自己点検・評価結果を踏まえ、年度計画を策定する。また、自己点検・評価報告書をもとに認証評価機関(大学基準協会)による認証評価を受ける。

イ 経営資源の管理・活用

- ・役員会、経営審議会、部局長会議等を通じて理事長を始めとする経営層が、経営資源の把握が容易となるよう運営を行う。
- ・理事長は経営戦略に基づき、効果的、効率的な経営資源の配分・活用についてそのリーダーシップを発揮する。
- ・公立大学法人の有する知識、技術等の情報を、電子メールや教職員専用学内ホームページ等により積極的に情報提供し、情報の共有化を図るとともに、教育研究の活性化や地域貢献に積極的に活用する。

(4) 教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア 教職員による運営への関与

- ・事務局職員は学内委員会の委員として参加し、教職員が一体となって公立大学法人の運営にあたる。

イ 専門性の高い事務局体制

- ・高い専門性を有する事務局体制を維持するため、札幌市からの派遣職員を計画的にプロパー職員等に切り替える。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

(1) 学部・学科

- ・大学開学から4年間の教育・研究活動の点検・評価結果等をもとに学部・学科体制の検証を行う。

(2) 大学院

- ・平成24年4月に大学院博士後期課程の開設を目指し、設置の趣旨・必要性、教育課程、教員組織等に関する具体的な検討を行い、平成23年5月末に文部科学省への設置認可申請を行う。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度に関する目標を達成するための措置

ア 多様な任用・勤務形態の構築

- ・「公立大学法人札幌市立大学教員の任期に関する規程」及び「公立大学法人札幌市立大学教員の再任に関する細則」に基づき、業績評価結果を反映した任期更新を実施する。
- ・教員の裁量労働制・兼業許可制度について継続して運用する。

イ 専門性の高い事務局職員の育成

- ・大学事務に精通した高い専門性を有する職員を育成するため、研修計画を策定し定期的に学内研修を実施するとともに、学外研修会等への参加を促進する。

(2) 評価制度に関する目標を達成するための措置

- ・教員評価制度の充実を図るとともに、その評価結果を給与、研究費、任期更新、昇任に反映する。
- ・教員に支給する給与及び研究費に評価結果を反映する手法を段階的に適用する。
- ・「公立大学法人札幌市立大学職員の人事評価に関する規程」に基づき事務局職員の評価を実施する。

(3) 教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

- ・教員については、博士課程が担当可能な教員の確保を前提に、適正な教員数を実現する。
- ・事務局職員については、業務分析を行ったうえで適正な職員数の配置に努めるとともに、次期中期計画策定に向けた検討を行う。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- ・財務会計システム、図書システム等の更新に向け、所管事務局が調査・検討を行い、各システムを順次整備し、引き続き事務の効率化・合理化を図る。
- ・未導入の証明書自動発行システムについて、需要件数の推移を見極めながら平成23年度中に導入の可否を検討する。
- ・ICカード学生証・教職員証等の運用により事務の省力化を図るとともに省力化状況の検証を行う。
- ・電子メールや教職員専用学内ホームページの活用によるペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化・効率化を推進する。
- ・事務局業務については、業務分析を行った上で、外部委託拡大などの業務改善を進める。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- ・地域連携研究センターにおいて、教員の研究活動に関する情報を収集し、教員プロフィールに反映させ、そのデータベースを更新する。
- ・地域連携研究センターにおいて、引き続き民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを広く把握し、効果的に学内の研究成果と結び付ける。
- ・地域連携研究センターにおいて、科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行い、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。また、科学研究費補助金の申請件数の増加に引き続き努める。
- ・外部研究資金について、定期的に監査を実施する。
- ・地域貢献につながる公開講座を実施する。
- ・知的財産規程に基づき、有効に活用することができる知的財産については、本学教員が職務発明した権利を大学が継承する。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

- ・事務局職員の配置にあたっては、業務分析を行ったうえで両キャンパスへの適正な職員配置を行う。
- ・冷房、暖房の温度設定管理の徹底等により、光熱水費の抑制を図る。また、教職員、学生に対して省エネルギーに関する啓発活動を積極的に行う。
- ・清掃等の業務委託の際には、光熱水費の節約や環境に対する配慮について明記する。
- ・教職員の適正な人員管理を行うとともに、業務の外部委託については、複数業務の一括契約、複数年度契約、委託範囲の拡大等の要否について検討する。

3 資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

- ・余裕資金の安全かつ効果的な運用を図る。

- ・学内施設の学外者への有料貸出状況を検証し、対象範囲拡大などの運用見直しを行う。
- ・知的財産委員会は、知的財産ポリシーに基づき知的財産の管理・運用を行う。

IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置
 - ・自己点検・評価報告書をもとに認証評価機関(大学基準協会)による認証評価を受けることとし、当該評価に際して行われる実地調査等に対応する。
 - ・教育・研究の水準の向上を目指し、自己点検・評価結果等を基に年度計画を策定するとともに、次期中期計画の策定準備を進める。また、本学における教育・研究上の特長を社会に広く周知するため、ホームページや報告書を通じて評価結果を公開する。
- 情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置
 - 情報提供に関する目標を達成するための措置
 - ・広く市民に以下の情報を周知するために本学のホームページ及びパンフレット(刊行物)を充実する。ホームページには、学校教育法施行規則により新たに公表することとなった情報を掲載するとともに、利用者が本学に関する情報を容易にかつ迅速に把握できるよう逐次改善を行う。このほか様々な媒体を通じて、効果的な広報活動を展開する。
 - ① 大学の設置の趣旨及び特色並びに教育研究上の目的及び特色
 - ② 育成する人材像
 - ③ 教育課程の内容及び開設科目のシラバス等教育内容・方法
 - ④ 教員組織、施設・設備等の教育環境および研究活動
 - ⑤ 選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
 - ⑥ 公開講座等の大学における学習機会
 - ⑦ 卒業生の就職・進学状況
 - ⑧ 自己点検・評価及び地方独立行政法人評価委員会の評価結果
 - ⑨ 設置認可申請書
 - ⑩ 学則その他の規程
 - ⑪ 図書館に関する情報
 - ⑫ サテライトキャンパスに関する情報
 - ⑬ オープンキャンパスに関する情報
 - ⑭ 大学行事に関する情報
 - ⑮ 大学の資料請求に関する情報
 - ⑯ 学生支援に関する情報
 - ・平成23年度の教育研究活動の成果を取りまとめた紀要(SCU Journal of Design & Nursing - 札幌市立大学研究論文集-)を発行する。なお、紀要は、審査(査読)を経た論文・制作を含んだ内容とする。また、その他の学内の教育研究及び地域貢献活動についてまとめた活動報告書を作成しホームページにて公表する。
 - ・市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。
 - 個人情報保護に関する目標を達成するための措置
 - ・個人情報保護事務取扱規程及び個人情報保護ポリシーに基づき個人情報の適正な取り扱いを行う。

V その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置
 - ・教育課程及びニーズ調査に沿って施設・設備の整備を進める。
 - ・総務委員会に設置した施設保全ワーキングにおいて、施設保全計画(施設、設備の中・長期的な維持管理計画)を見直し、次期中期計画への反映を図る。また、業務分析を実施し、施設、設備の

維持管理におけるマネジメントサイクルの改善を図る。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置

- ・ 事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制について、教職員及び学生への周知を徹底する。
- ・ 学内の秩序及び安全を維持するため、危機管理マニュアルの適切な運用を図る。
- ・ 消防法の改正に伴い、桑園キャンパスにおいて防火・防災管理に係る消防計画の見直しと届出を行う。また、市立病院との複合施設による共同防火・防災管理協議会を設置する。
- ・ キャンパス・ハラスメント防止委員会により、ハラスメントや違法行為が行われた場合の対応を行うとともに、新たに制定したガイドライン等により防止策や対応策の周知を徹底する。
- ・ 学生に対して、ガイダンスの実施や学生生活ハンドブックを通して、学則の周知徹底を図る。

3 環境に関する目標を達成するための措置

- ・ マイクロガスタービンによるコージェネレーションシステム(芸術の森)及び地熱利用システム(桑園)の活用により、引き続きエネルギーの有効利用を図る。
- ・ 学用車のリースに当たっては、環境に配慮したハイブリッド車を使用する。
- ・ 環境負荷軽減のため室温管理や適切な換気等を行い、省エネルギーを徹底する。また、教職員、学生に対して省エネルギーに関する啓発活動を積極的に行う。
- ・ 照明器具の交換(LED、hfタイプ)等、環境に配慮した設備等の導入を順次進める。
- ・ 電子メールや教職員専用学内ホームページの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

VI 予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2億円

2 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延および事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れることが想定される。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上および組織運営の改善に充てる。

X 施設及び設備に関する計画

- ・ 経常的修繕
 - ・ 緊急修繕 等
- 総額 17百万円

(注)金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

XI 人事に関する計画

- ・ 教員については、博士課程が担当可能な教員の確保を前提に、適正な教員数を実現する。
- ・ 事務局職員については、業務分析を行ったうえで適正な職員数の配置に努めるとともに、次期中期計画策定に向けた検討を行う。
- ・ 札幌市からの派遣職員のプロパー化の推進により、大学事務に精通した高い専門性を有する職

員を公立大学法人において育成する。

- ・教職員の能力開発や意識向上を図るための学内研修会を行うとともに、必要に応じて外部研修に教職員の派遣を行う。

別紙 予算、収支計画及び資金計画(人件費の見積りを含む)

1. 予算 (単位:百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1,521
授業料等収入	462
受託研究等収入及び寄附金収入	22
補助金収入	17
その他収入	12
目的積立金取崩	56
計	2,090
支出	
教育研究経費	484
受託研究等経費及び寄附金事業費等	21
人件費	1,220
一般管理費	348
補助金事業費	17
計	2,090

2. 収支計画 (単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	
経常費用	2,131
教育研究経費	431
受託研究等費	21
人件費	1,220
一般管理費	309
財務費用	12
減価償却費	138
収益の部	
経常収益	2,076
運営費交付金収益	1,499
授業料等収益	483
受託研究等収益	22
補助金収益	17
資産見返運営費交付金戻入	25
資産見返寄附金戻入	2
資産見返物品受贈額戻入	16
雑益	12
その他収益	12
純利益(純損失)	△55
目的積立金取崩益	55
総利益(総損失)	0

3. 資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	2,174
業務活動による支出	1,993
投資活動による支出	22
財務活動による支出	103
翌年度への繰越金	56
資金収入	2,199
業務活動による収入	2,034
運営費交付金による収入	1,521
授業料及入学金検定料による収入	462
受託研究等による収入	22
補助金等による収入	17
その他収入	12
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	165

2 平成23年度決算

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	1,521	1,521	0	
授業料等収入	462	465	3	
受託研究等収入及び寄附金収入	22	38	16	(注1)
補助金収入	17	17	0	
その他収入	12	16	4	
目的積立金取崩	56	171	115	(注2)
計	2,090	2,228	138	
支出				
教育研究費	484	482	△2	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	21	15	△6	
人件費	1,220	1,165	△55	(注3)
一般管理費	348	486	138	(注4)
補助金事業費	17	16	△1	
計	2,090	2,164	74	
収入-支出	0	64	64	

○予算と決算の差異について

(注1)当初予算では予定していなかった寄附金の受入のため、増加しました。

(注2)教育研究の環境改善のための桑園キャンパス増築工事及び芸術の森キャンパス改修工事に係る予算の補正のため、増加しました。

(注3)教員の欠員により、減少しました。

(注4)桑園キャンパス増築工事及び芸術の森キャンパス改修工事の実施により、増加しました。

3 教職員数（平成24年3月31日現在）

1) 学部別教員数 (名)

学 長	1
副 学 長	1
デザイン学部	33
看護学部	36
合計	71

2) 職位別教員数 (名)

		教授	准教授	講師	助教	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	15	5	6	3	0	29	56
	女	0	2	3	0	0	5	24
看護学部	男	1	1	0	1	0	3	79
	女	9	4	10	9	2	34	68
合計		25	12	19	13	2	71	227

3) 職員数 (名)

	事務系	技術・技能系	医療系	計
男	24	4	0	28
女	39	0	2	41
合計	63	0	0	69

4 管理職一覧表（平成24年3月31日現在）

役職名	教職員名
学長	原田 昭
副学長 兼 看護学部長 兼 看護学研究科長	中村 恵子
デザイン学部長	酒井 正幸
デザイン研究科長	城間 祥之
地域連携研究センター長	スーダイ神崎 和代
附属図書館長	中原 宏
事務局長	塩澤 正樹
事務局次長	常野 正浩
桑園事務室長 兼 調整担当部長	坂本 将司
事務局総務課長	加賀 賢治
事務局地域連携課長	上田 理子
事務局学生課長	安立 卓也
事務局桑園担当課長	徳永信之助

5 教員一覧表 (平成24年3月31日現在)

デザイン学部		看護学部	
職位	教員名	職位	教員名
教授	原田 昭	教授	中村 恵子
教授	酒井 正幸	教授	スーディ神崎 和代
教授	城間 祥之	教授	山本 勝則
教授	中原 宏	教授	宮崎みち子
教授	石崎 友紀	教授	内田 雅子
教授	上遠野 敏	教授	河野 總子
教授	齋藤 利明	教授	坂倉恵美子
教授	杉 哲夫	教授	定廣和香子
教授	武邑 光裕	教授	樋之津淳子
教授	羽深 久夫	教授	松浦 和代
教授	原 俊彦	准教授	大野 夏代
教授	望月 澄人	准教授	清水 光子
教授	矢部 和夫	准教授	守村 洋
教授	吉田 和夫	准教授	山田 典子
教授	吉田 恵介	准教授	吉川由希子
准教授	斉藤 雅也	講師	菊地 ひろみ
准教授	武田 亘明	講師	櫻井 繭子
准教授	張 浦華	講師	菅原 美樹
准教授	那須 聖	講師	杉田 久子
准教授	細谷 多聞	講師	田中 広美
准教授	町田佳世子	講師	藤井 瑞恵
准教授	ライトデーヴィッド	講師	村松 真澄
講師	石田 勝也	講師	山内まゆみ
講師	大淵 一博	講師	山本真由美
講師	柿山浩一郎	講師	渡邊由加利
講師	片山めぐみ	助教	太田 晴美
講師	小宮加容子	助教	神島 滋子
講師	福田 大年	助教	河村奈美子
講師	松井 美穂	助教	工藤 京子
講師	三谷 篤史	助教	多賀 昌江
講師	山田 良	助教	鶴木 恭子
助教	上田 裕文	助教	照井 レナ
助教	須之内元洋	助教	原井 美佳
助教	長谷川 聡	助教	測本 雅昭
		助教	三上 智子
		助手	田仲 里江
		助手	檜山 明子

6 学生定員及び学生数

1) 学生定員 (平成23年5月1日現在)(名)

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	80	20	360
看護学部	80	10	340
合計	160	30	700

2) 学生数 (平成23年5月1日現在)(名)

学部	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン学部	1学年	24	64	88
	2学年	21	63	84
	3学年	34	60	94
	4学年	33	71	104
看護学部	1学年	5	77	82
	2学年	11	75	86
	3学年	12	78	90
	4学年	9	82	91
助産学専攻科		0	10	10
合計		149	580	729

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科	1学年	7	10	17
	2学年	10	8	18
看護学研究科	1学年	2	15	17
	2学年	2	16	18
合計		21	49	70

3) 科目等履修生・聴講生・研究生 (平成23年3月31日現在)(名)

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン学部	0	0	2	2
看護学部	1	0	0	1
合計	1	0	2	3

学部	科目等履修生	聴講生	研究生	計
デザイン研究科	0	0	2	2
看護学研究科	0	0	3	3
合計	0	0	5	5

7 授業料等

(円)

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部生	17,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき 14,800

8 奨学金貸与・授業料減免実施状況 (平成24年3月31日現在)

奨学金貸与状況 (名)

学年	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
1学年	32	43	1	76
2学年	37	46	1	84
3学年	41	69	1	111
4学年	32	70	4	106
助産学専攻科		4	0	4
大学院1年生	6	0	1	7
大学院2年生	5	1	0	6
合計	153	233	8	394

授業料減免実施状況 (名)

学年	学期	全額減免者	半額減免者	計
1学年	前期	0	7	7
	後期	0	8	8
2学年	前期	0	8	8
	後期	0	8	8
3学年	前期	0	17	17
	後期	0	18	18
4学年	前期	0	20	20
	後期	0	19	19
助産学専攻科	前期	0	2	2
	後期	0	1	1
大学院1年生	前期	0	2	2
	後期	0	2	2
大学院2年生	前期	0	4	4
	後期	0	4	4
合計	前期	0	60	60
	後期	0	60	60

9 学生の入選・受賞

入選・受賞 年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成23年4月	松本沙緒里 江口亜衣里 曾根 麻美 國柄 美奈 柴田 美奈 三浦 淳子	学生映像コンペ 「クリエイティブ・フロンティア」・演出賞	NHK北海道「クリエイティブ・フロンティア」
平成23年4月	鈴木 麻以	学生映像コンペ 「クリエイティブ・フロンティア」・企画賞	NHK北海道「クリエイティブ・フロンティア」
平成23年4月	若生 大地	学生映像コンペ 「クリエイティブ・フロンティア」・審査員特別賞	NHK北海道「クリエイティブ・フロンティア」
平成23年5月	武田 康佑	広報さっぽろ南区版ロゴ制作・採用	札幌市南区
平成23年6月	藤田 元輝	北海道ガーデンショー デザインコンペティション優秀賞	北海道ガーデンショー 実行委員会
平成23年6月	山根 春菜	北海道ガーデンショー デザインコンペティション優秀賞	北海道ガーデンショー 実行委員会
平成23年6月	日高 麻里 鈴木 智夫 田邊 優 杉 先生 小宮 先生	日本デザイン学会第58回研究発表会・ グッドプレゼンテーション賞	日本デザイン学会
平成23年7月	工藤 寛子	赤平市 火まつりやらん会のロゴマーク制作・ 最優秀賞(採用)	
平成23年7月	神馬 抄苗	赤平市 火まつりやらん会のロゴマーク制作・ やらんかい会長賞	
平成23年7月	奥田 論史	第7回三井住空間デザインコンペ	三井不動産レジデンシャル新建築
平成23年9月	大野 恭一	2011年度精密工学会北海道支部第11回CAD/CG モデリングコンテスト・最優秀賞 (リアリティ部門)	公益財団法人 精密工学会
平成23年9月	首 藤 翠	芸術の森地区シンボルマーク制作・優秀賞	
平成23年9月	川 村 慎 吾	芸術の森地区シンボルマーク制作・佳作	
平成23年9月	千葉絵理子	芸術の森地区シンボルマーク制作・佳作	
平成23年10月	チーム「スタン ドアローン」	ロボットトライアスロン記念大会・デザイン部門 1位	ロボットトライアスロン 運営委員会
平成23年10月	チーム「Truss+ 制作委員会」	ロボットトライアスロン記念大会・ポスター部門 1位、デザイン部門2位	ロボットトライアスロン 運営委員会
平成23年10月	小比類巻郁恵 神坂 知春 世永 千尋	第6回国際短編映画祭実行委員会主催アイアン・ フィルムメーカー・コンテスト・グランプリ	国際短編映画祭実行委員会

入選・受賞 年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成23年11月	皆月 明人 一戸 俊希 小川 祥平 丹野 健介 山口 多聞 横山 航 吉村 佑馬	第6回GATSBY学生CM大賞・一般CM部門賞	株式会社マンダム GATSBY
平成23年12月	世永 千尋	札幌市グリーティングカード制作・採用	札幌市 総務局国際部
平成24年2月	堺 麻那	JRタワー「アートボックス2012」優秀賞	札幌駅総合開発株式会社
平成24年2月	百澤 大	次世代自動車デザインコンテスト・銀賞	北海道
平成24年2月	魚住 桜	次世代自動車デザインコンテスト・入選	北海道
平成24年2月	友野 優子	次世代自動車デザインコンテスト・入選	北海道
平成24年2月	野月 夏雅	次世代自動車デザインコンテスト・入選	北海道
平成24年2月	本間 愛里彩	次世代自動車デザインコンテスト・入選	北海道
平成24年2月	三石佳 奈子	次世代自動車デザインコンテスト・入選	北海道
平成24年2月	安田 奈央	次世代自動車デザインコンテスト・入選	北海道
平成24年3月	磯野 桂 萩原 拓矢 山田しおり	Sapporo*north2 Award 2012・ 年間コンテンツ部門 最優秀賞	札幌市
平成24年3月	内海 智美	Sapporo*north2 Award 2012・ 特別テーマ部門 優秀賞	札幌市

10 学生の課外活動

1	バスケットボール部	14	創作活動サークル「創-KIZ-」
2	吹奏楽部	15	茶道サークル「Cha部」
3	軽音楽部	16	写真映像サークル「SEED」
4	美術部「noumenon」	17	軟式野球サークル「すらっくす」
5	バドミントン部	18	昆虫サークル「昆虫採レ」
6	YOSAKOIソーラン部「真花」	19	ダンスサークル「VOLUME」
7	デザイン部「GNING」	20	パソコン同好会「PERSEAS」
8	服飾制作部「Alice(アリス)」	21	ゲリラガーデニング同好会「0864」
9	絵本ボランティアサークル「しゃぼん玉」	22	ユニバーサルデザイン研究同好会「ksks」
10	フットサルサークル「SCUギャラクシー」	23	国際協力／ボランティアを考える同好会 「AMIGO」
11	ソフトボールサークル「SOFTiMo」	24	軽音楽同好会「Piece」
12	作品制作サークル「さくさく」	25	地域交流ボランティア同好会「act」
13	料理サークル「SCU Cooking Studio」	26	映像制作研究同好会「Vomish」

11 後援会

後援会(平成19年2月発足)は、学生の福利厚生の推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的として活動している。

(平成23年度)

役員	(会 長)河内 博 (副会長)田中 直人 (理 事)魚住 由美、大北 善広、鎌田 久美子、内藤 満美、服部 聖、服部 博和、 本間 日出春、村井 哲也 (監 事)小石 俊治、三浦 正
主な事業	・ 課外活動(部活動、大学祭、地域ボランティア活動等)支援 ・ 就職対策(企業開拓支援、就職講話、証明写真撮影補助、国家試験対策) ・ 後援会報「SSA News」発行
後援会費	40,000円(4年分。ただし、3年次編入学者は20,000円、専攻科入学者は10,000円)

12 教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成23年4月	平成23年度履修要項
平成23年4月	平成23年度学生生活ハンドブック
平成23年4月	平成24年度大学案内パンフレット
平成23年5月	平成24年度デザイン学部3年次編入学生募集要項
平成23年5月	平成24年度学生募集要項(デザイン研究科 修士課程)
平成23年6月	平成24年度入学者選抜要項
平成23年6月	平成24年度大学院案内パンフレット
平成23年6月	平成24年度助産学専攻科案内リーフレット
平成23年6月	平成24年度看護学部3年次編入学生募集要項
平成23年6月	平成24年度学生募集要項(看護学研究科 修士課程)
平成23年6月	平成24年度学生募集要項(助産学専攻科)
平成23年9月	平成24年度学生募集要項(特別選抜)
平成23年10月	就職パンフレット
平成23年11月	平成24年度学生募集要項(一般選抜)
平成23年11月	平成24年度学生募集要項(デザイン研究科 博士前期課程 第2次募集)
平成23年11月	平成24年度学生募集要項(看護学研究科 博士前期課程 第2次募集)
平成23年11月	平成24年度学生募集要項(デザイン研究科 博士後期課程)
平成23年11月	平成24年度学生募集要項(看護学研究科 博士後期課程)
平成23年12月	平成23年度札幌市立大学看護学部卒業研究抄録集
平成23年12月	札幌市立大学年報 平成22年度第5号
平成24年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第5号
平成24年2月	平成23年度 デザイン研究科修了研究梗概集
平成24年3月	SCU Journal of Design and Nursing - 札幌市立大学研究論文集 - 第6巻1号
平成24年3月	平成23年度札幌市立大学看護学部キャリア支援委員会活動報告書
平成24年3月	デザイン学部 第3回卒業研究展図録
平成24年3月	デザイン研究科 第3回修了研究展図録

13 施設

1) 校地・校舎、講義室・演習室等の面積

(平成24年3月31日現在)

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積(m ²)	校舎面積(m ²)	総数	面積(m ²)
芸術の森キャンパス	167,617	23,087	52	5,790
桑園キャンパス	18,152	12,367	30	3,083
サテライトキャンパス	175	175	2	152
合計	185,769	35,326	84	9,025

2) 芸術の森キャンパス・桑園キャンパス・サテライトキャンパス（施設配置図・校舎配置図）

芸術の森キャンパス
〔大学本部・デザイン学部〕

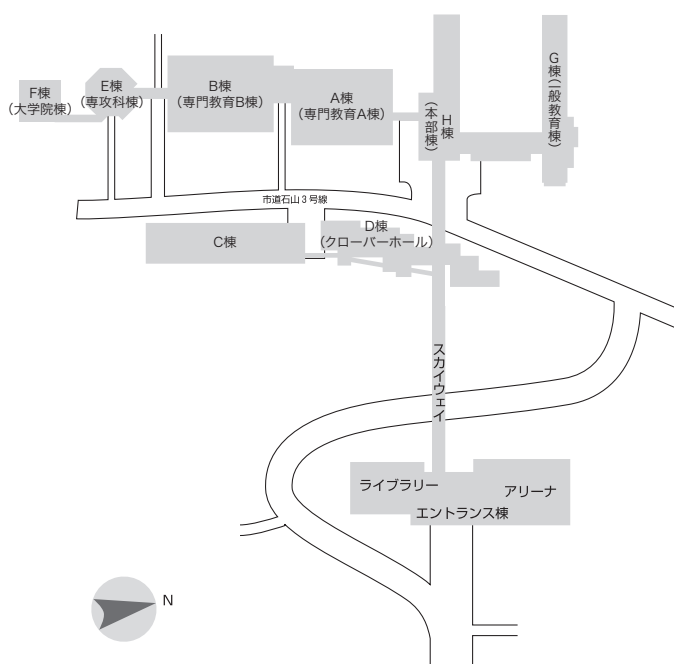
〈施設配置図〉

〒005-0864

北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL：011-592-2300（代）

FAX：011-592-2369



桑園キャンパス
〔看護学部〕

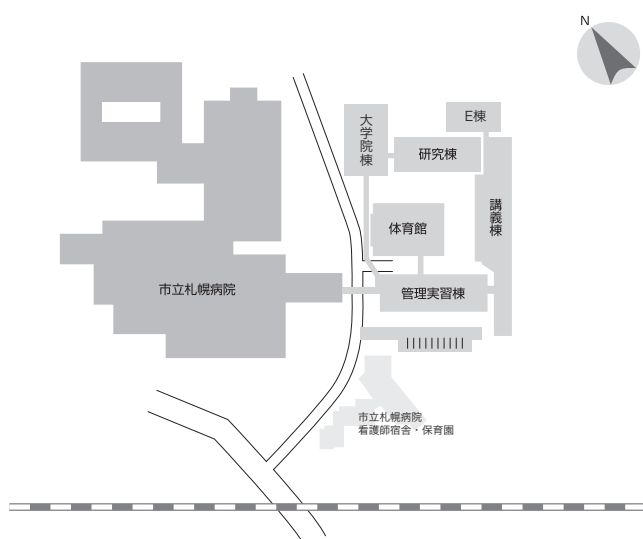
〈施設配置図〉

〒060-0001

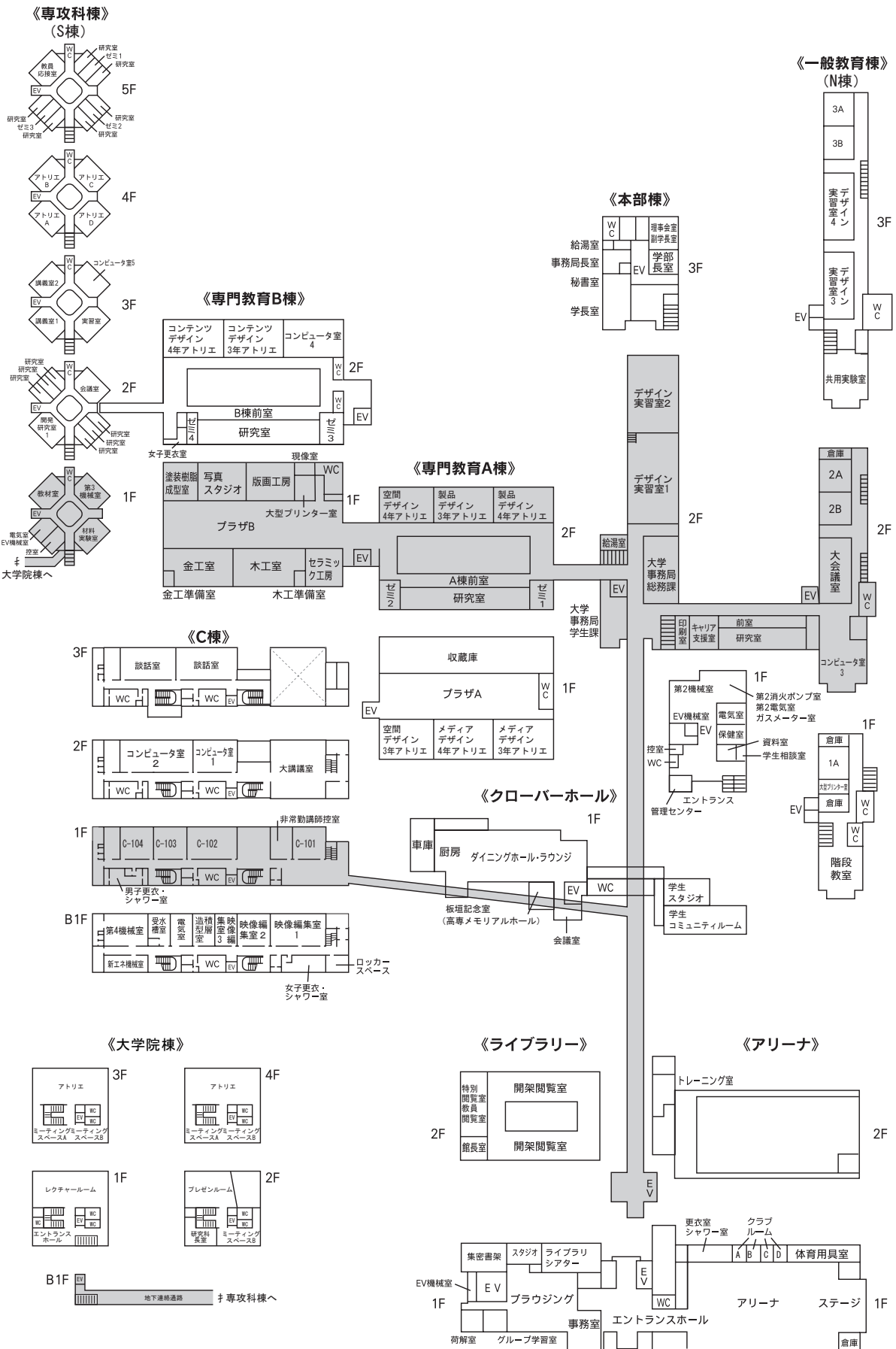
北海道札幌市中央区北11条西13丁目

TEL：011-726-2500（代）

FAX：011-726-2506



芸術の森キャンパス(校舎配置図)



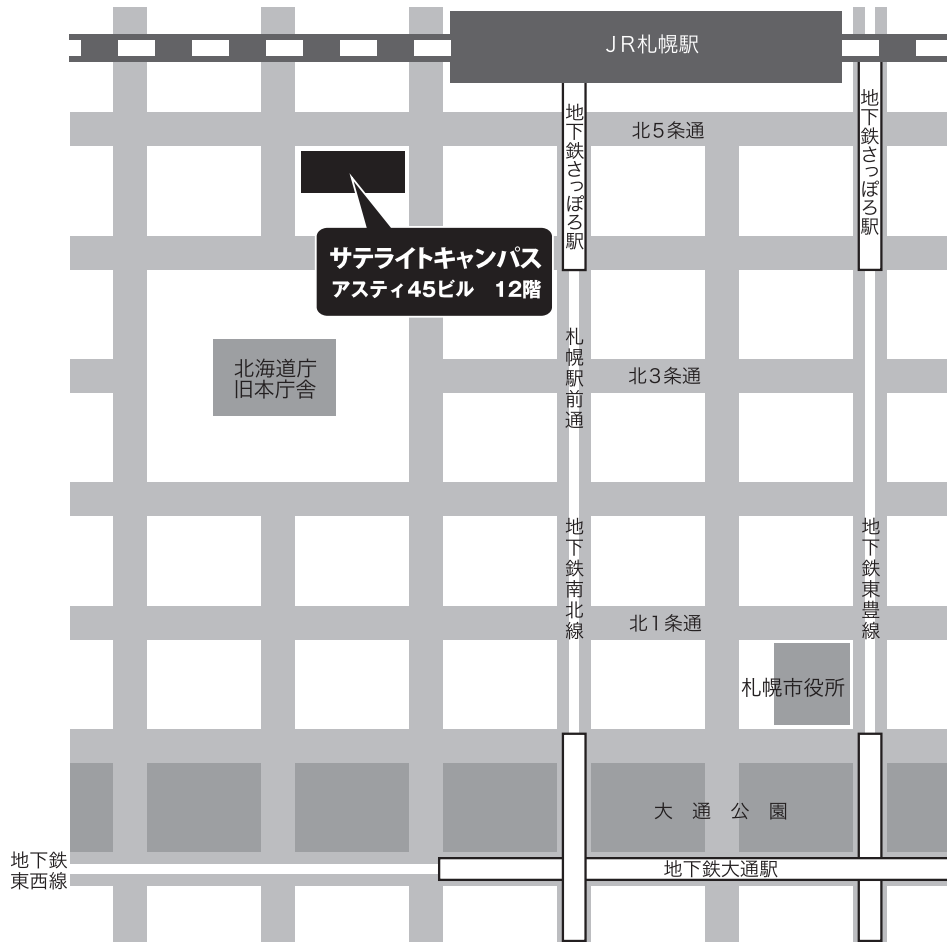
サテライトキャンパス〈施設配置図〉

〒060-0004

北海道札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階

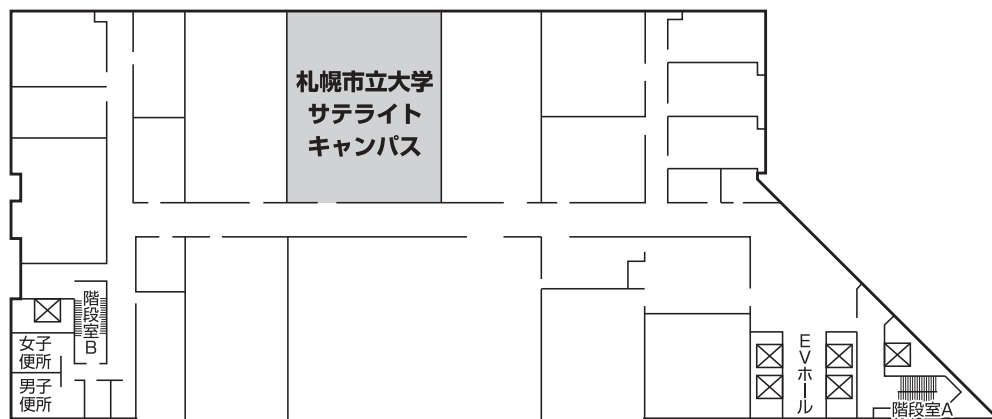
TEL：011-218-7500

FAX：011-218-7507



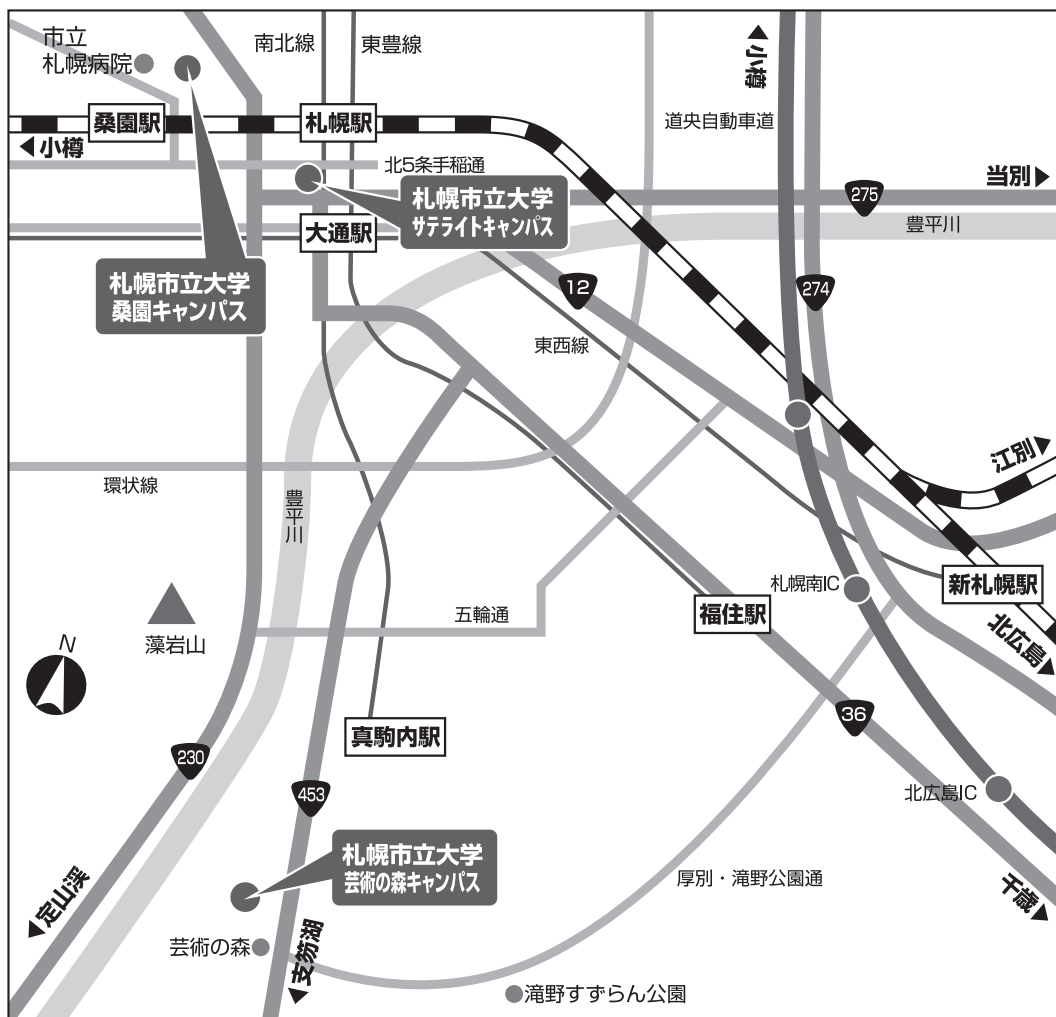
〈施設配置図〉

北側（JR札幌駅方面） アスティ45ビル12階

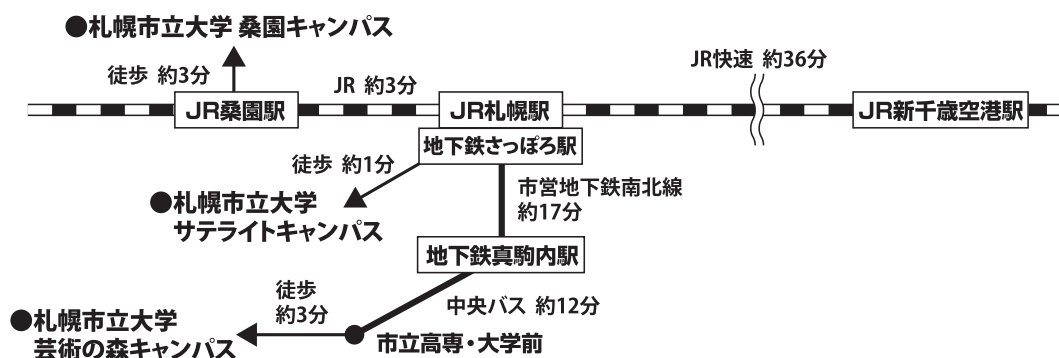


14 大学への交通アクセス

1) アクセスマップ



2) 交通案内



I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

15 札幌市立大学 大学歌『みらいの手』

作詞：後藤優太・首藤翠
作曲：堀 彩葉

力強く風が吹き抜ける
新たな希望をたずさえて
さあ飛び出そう
翼広げて
光の指す方へと

ともに笑いともに競った仲間たち
これからは別々の道を往く
強い風に吹かれ
立ち止まりかけても
恐れず歩き続けて

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
同じ空の下には今も
走り続ける仲間がいるだろう

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
あの地平の彼方にはきっと
君の染める世界がある

僕らには導く能力(ちから)がある
僕らには差し伸べる精神(こころ)がある
その壁の向こうにはきっと
君を待つ世界がある

『みらいの手』

公立大学法人 札幌市立大学 大学歌

作詞：首藤 翠・後藤 優太 (デザイン学部)
作曲：堀 彩葉 (デザイン学部)

♩ = 93

rit.

A *a tempo*

からづよく かぜ が ふき ぬ け る あ

ら たな き ぼ う を たず さ え て き

B

あ と び だ そ う つ ぼ さ ひ る け て ひ かり の さ ま ほう へ と ぼ くら

C

に は つ くり あ げ る て が あ る ぼ くら に は さ さ え あ え る て が あ る あ

の ち へ い の か な た に は き っ と き み の そ め る せ かい が あ る

rit. **A** *a tempo*

と も に わ ら い と も に き そ っ た な か ま た ち

れ か ら は ベ ッ ペー つ の み ら を 一 つ づ く つ

B

よ い か ぜ に ふ か れ た ち ど ま り け け て も お そ れ ず あ る さ つ け て ぼ くら

C

に は み ち び く ち か ら が あ る ぼ くら に は さ し の べ る こ ころ が あ る そ

の か べ の む こ う に は き っ と き み を ま つ せ かい が あ る ぼ くら

C

に は つ くり あ げ る て が あ る ぼ くら に は さ さ え あ え る て が あ る お

rit. *a tempo*

な じ そ ら の し た に ほ い ま ち ほ し り つ づ け る な

rit.

か ま が い る だ ろ う

XI 教員業績一覧

- ・ 研究業績等
- ・ 学会及び研究会における活動
- ・ 社会における活動
- ・ 地域貢献諸活動
- ・ 専門職支援・セミナー講師等
- ・ マスメディア掲載実績

デザイン学部

原田 昭

<学術論文>「特別講演：Beyond Art & Design」平成11年8月26日～31日、韓国漢城大学、「医療生活産業とデザインと看護の連携」平成23年9月14日、北海道医療産業研究会、依頼講演、「安心の設計 V1」第4回日本デザイン学会第一支部大会、平成23年11月19日、札幌市立大学サテライトキャンパス、「安心の設計 V2」日本学術振興会産学協力研究委員会（ITRC）15周年記念シンポジウムセッション、平成23年11月29日、グリーンピア大沼（函館）、「北海道陶芸作家協会展」平成24年1月9日～15日、作品5点出品、「異分野横断型デザイン連携教育と研究」、平成24年1月31日、日本デザイン学会プロダクトデザイン部会キックオフ会議で記念講演 東京アクシスビル、「感性評価は論理評価よりも早く処理されているか」単著、平成24年3月10日、日本感性工学会札幌フォーラム2012、札幌市立大学サテライトキャンパス、メモリアルスピーチ、「Design for the Peace of Mind」、平成24年3月27日 平成24年韓国科学技術大学（KAIST）招待講演、“Tray with 3 Bowls”アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）ソウル展、平成23年8月29日～9月2日、ANBD協会、“Green High Cup”アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）天津展、平成23年10月12日～20日、ANBD協会、“3 Connected Bowls”アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）台北展、平成23年11月22日～12月9日、ANBD協会、“Bowl with 3 Legs”アジアネットワークビヨンドデザイン（ANBD）横浜展、平成23年12月20日～26日、ANBD協会

<所属学会・研究会等>日本デザイン学会（学会各賞審査委員）、日本感性工学会（参事、論文審査委員）、アジアネットワークビヨンドデザイン協会（会長、作品審査委員長）、北海道陶芸作家協会（会員）、IASDR（国際デザイン研究学会）（大会実行委員）

<地域貢献諸活動>円山動物園市民会議委員長（札幌市、円山動物園）

<専門職支援・セミナー講師等>「形態に対する会・不快反応の計測システムの構築」その2-形態に対する感性反応の計測-、平成23年9月5日、研究交流会、札幌市立大学、「安心の設計」原田学長感謝の夕べ、平成24年3月22日、京王プラザホテル、札幌市立大学

<マスメディア掲載実績>三井一哉、円山動物園「おもてなし日本一」への挑戦-新しい公共のビジネスモデル-、ざいさつアップル新書、財界さっぽろ、平成23年6月25日発行、pp.54-58、pp.124-129に掲載、札幌市教育委員会推薦、北海道学校図書館協会推薦

酒井 正幸

<学術論文>1.AGE DIFFERENCES IN THE COGNITIVE PROCESS OF SIGN RECOGNITION IN ZOOS : A CASE STUDY OF SAPPORO MARUYAMA ZOO（共著、平成23年11月、IASDR2011）

<調査研究報告書>1.ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究（平成24年2月）/2.円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究（平成24年2月）/3.地方都市観光振興のためのICTを用いた情報ユニバーサルデザイン（平成24年3月）/4.路面電車を活用する地域創成デザインに関する研究（平成24年3月）/5.UD視点からの図書館サイン計画の研究（平成24年3月）

<学会発表>1.視覚的使いやすさ感の研究 ジャー炊飯器を事例として（共同、平成23年6月、日本デザイン学会第58回大会）/2.ユニバーサルデザインの評価指標の研究（共同、平成23年6月、日本デザイン学会第一支部大会）/3.UD視点からの博物館展示方法の調査研究（共同、平成23年11月、日本デザイン学会）/4.子供が惹きつけられる遊びの中の要素の検証（共同、平成24年3月、感性フォーラム札幌2012）/5. [Smooony] 積雪寒冷地における親子の安全な外出をサポートするChild Care Vehicleの提案（共同、平成24年3月、感性フォーラム札幌2012）/6.人間と動物の共生デザインの一考察-アフォダンスの視点から-（共同、平成24年3月、感性フォーラム札幌2012）/7.図式を用いた知識構造の伝達と記憶に関する研究-手書きとPC操作による幾何図形描画とその印象差-（共同、平成24年3月、感性フォーラム札幌2012）/8.博物館におけるUD視点からの調査研究-視覚障害者への対応に関して-（共同、平成24年3月、感性フォーラム札幌2012）/9.視覚的使いやすさ感の研究-ジャー炊飯器を事例として-（共同、平成23年9月、第13回日本感性工学会大会）/10.人と動物の共用空間の提案-

アフォーダンスの視点から－（共同、平成23年11月、日本人間工学会北海道支部大会）／11.ジャー炊飯器の視覚的な使いやすさ感の研究（共同、平成23年11月、日本人間工学会）／12.UD視点からの博物館展示方法の調査研究（共同、平成23年11月、日本人間工学会北海道支部大会）

<地域貢献諸活動>副理事長業務（北のユニバーサルデザイン協議会）

<社会における活動>財団法人さっぽろ産業振興財団評議員（札幌市）／札幌市図書館協議会委員（札幌市）／円山動物園の森協議会（札幌市）／札幌市路面電車トータルデザインアドバイザー座長（札幌市）

城間 祥之

<特許申請>1.わが子のひつぎ（平成23年8月）

<意匠登録申請>1.わが子のひつぎ（平成23年8月）

<学会発表>1.Webサービスにおける利用規約閲覧に関するユーザーの実態調査（共同、平成23年9月、第13回日本感性工学会大会）／2.死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイナー第1報：医療現場のニーズと要求性能の検討－（共同、平成23年9月、第13回日本感性工学会大会）／3.死産児安置の為の「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイナー－第2報：要求性能に基づく設計と評価－（共同、平成23年9月、第13回日本感性工学会大会）／4.Webサービスにおける利用規約に関する情報提示手法の提案（共同、平成24年3月、感性フォーラム札幌2012）

<論文査読>1.Tools and Methods of Competitive Engineering（3件、TMCE 2012 Symposium）／2.Kansei Engineering International Journal（3件、日本感性工学会）／3.日本感性工学会論文誌（5件、日本感性工学会）

<地域貢献諸活動>理事として、IT事業の普及事業等の確定（NPO法人「札幌ITフロント」）／新商品開発のマーケティング、パッケージデザインに関するユーザの意見収集（農都共生研究会）

中原 宏

<学術論文>1.高齢者の暮らしやすさとその将来－札幌市の統計区データによる地域分析－（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.59-69）

<その他の論文>1.札幌市の統計区にみる高齢者の暮らしやすさ潜在性の評価（共著、平成23年8月、北海道都市地域学会・第49回研究発表会梗概集、49号、pp.5-6）

<書評>1.現代日本社会の原風景としての「昭和30年代」（札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん 第5号」）（単著、平成24年2月、札幌市立大学附属図書館、5号、p.2）

<論文査読>1.札幌市立大学研究論文集 5巻第1号（2件）

<社会における活動>北海道建築士審査会 会長（北海道）／「北のまちづくり賞」選考委員会 委員長（北海道）／札幌市中高層建築物紛争調整委員会 委員（札幌市）／アイヌアートモニュメント基礎的検討アドバイザー（札幌市）

<専門職支援・セミナー講師等>さっぽろ緑花園芸学校「札幌市の都市計画と未来」（財団法人札幌公園緑化協会、平成24年2月）／北のまちづくりセミナー「地域資源を活かしたまちづくり」（北海道建設局、平成24年3月）

石崎 友紀

<学術論文>1.デジタルとアナログを繋ぐ道具の研究-1（ライカ型レンズマウントアダプター）（単著、平成24年3月、道具学論集、17号、pp.4-14）

<著書>1.つくってあそぶたのしいまち（共著、平成24年1月、NHK出版、pp.3-70）

<実務関係書>1.テレビテキストつくってあそぶ（共著、平成23年4月、NHK出版）

<実践報告書>1.道具学会NEWS（平成24年3月、道具学会、44号、p.7）

<作品発表>1.テーブルウェア（単独、9月、2011台北世界設計大展）／2.テーブルウェア（単独、12月、日本クラフトデザイン展）／3.テーブルウェア（単独、10月、assemble4th）

<学会発表>1.デジタルとアナログを繋ぐ道具（単独、平成24年1月、道具学会）／2.高速車両の先頭

部スタイリング評価（共同、平成23年6月、日本デザイン学会）／3.記号消費社会に対するプロダクトデザインの方法に関する一考察（共同、平成23年10月、芸術工学会）

<シンポジウム>1.機械の生命感（共同、道具学会）

<所属学会・研究会等>道具学会／日本デザイン学会／芸術工学会／北海道芸術学会／日本クラフトデザイン協会／北海道インテリアプランナー協会

<社会における活動>芸術の森工芸部委員会（札幌市）／札幌芸術の森工芸部委員長

<専門職支援・セミナー講師等>工作ショーの支援（7月・2月）／公共建築の日ポスターデザインコンテスト審査員（11月）／ソリッドワークスデザインコンテスト審査員（10月）／故宮博物館収蔵金工品の技術解説（9月）／賞牌制作（2月・3月）

<マスメディア掲載実績>つくってわくわく（再放送）（通年、NHK）／つくってあそぼ（再放送）（通年、NHK）

上 遠 野 敏

<作品発表>1.ネ・申・イ・ム・光景：那智の滝／2.ネ・申・イ・ム・光景：神倉神社ゴトビキ岩／3.他、全34作品を展示（単独、7月～8月、「上遠野敏個展 ネ・申・イ・ム・光景」札幌ビエンナーレ・プレ連携企画展）／4.風神・雷神・千手観音（タービンロータ）／5.天空の虹彩／6.他、全5作品を展示（単独、9月～10月、「夕張清水沢アートプロジェクト」札幌ビエンナーレ・プレ連携企画地域連動アートプロジェクト）／7.もっと遠くに飛ぶために（単独、平成23年9月、ミニ大通お散歩まつり「樹上展」）／8.水と風のあいだに／9.鏡像：フラ・アンジェリコ／10.鏡像：オフィーリア（単独、11月～1月、「500m美術館オープニング記念展 前期展」）／11.ネ・申・イ・ム・光景：石狩川・江別大川通・晩秋／12.ネ・申・イ・ム・光景：石狩川・江別大川通・冬（単独、平成24年1月、「SAPPORO ART LABO の仲間展」）／13.夕張清水沢アートプロジェクト報告パネル（共同、2月～3月、「夕張清水沢アートプロジェクト報告展」）

<地域貢献諸活動>年間11回の美術講演会の企画、運営（通年、サッポロアートラボ実行委員会、サッポロアートラボ）

<社会における活動>空知地域づくり推進委員会&ガイドマニュアル専門部会（空知総合振興局）

<専門職支援・セミナー講師等>地域活性化のためのキャラクター開発、ゲーム冊子やグッズ開発
アートディレクター：三吉神社例大祭（5月14日～15日、三吉神社例）／三笠フットパスサイン計画
アートディレクター：三笠フットパス（9月24日～11月、空知総合振興局）／ミニ大通お散歩まつり
「樹上展」「樹名板」アートディレクター：ミニ大通お散歩まつり（9月11日、ミニ大通お散歩まつり実行委員会）／夕張清水沢アートプロジェクト
アートディレクター：夕張清水沢アートプロジェクト（9月17日～10月16日、NPO炭鉱の記憶推進事業団）／募金箱デザイン、ポスタガード
アートディレクター：3.11地下歩行空間募金活動（3月11日～14日、札幌市市民活動促進課）／三笠市カントリーサイン
アートディレクター：三笠市カントリーサイン（1月～3月、三笠市）

<マスメディア掲載実績>炭鉱遺産まるごとアートに 夕張清水沢できょう開幕（9月17日、北海道新聞、朝刊）／「炭鉱アート振り返ろう」（2月11日、北海道新聞、朝刊）／新カントリーサイン決定（3月8日、北海道新聞、朝刊）／札幌市立大生ら募金活動「奇跡の一本松」訴え（3月13日、北海道新聞、朝刊）／炭鉱の記憶アートプロジェクト（北海道環境生活部くらし安全局発行）（平成24年3月、北海道アートマップ）

齋 藤 利 明

<作品発表>1.「あやとり」（単独、平成23年7月4日～16日、クラフト・DOLLアートスタイル2011）／2.「水芭蕉」（単独、平成23年10月2日～8日、郡炎展）／3.「高野聖」（単独、平成23年11月7日～13日、「齋藤 利明 和の人形展」金沢城・河北門）／4.「白木連」（単独、平成23年11月7日～13日、「齋藤 利明 和の人形展」金沢城・河北門）／5.「子子」（単独、平成23年11月7日～13日、「齋藤 利明 和の人形展」金沢城・河北門）

<招聘講演>1.「オールビスクによる球体関節人形」（単独、平成23年12月、日本人形玩具学会）

<所属学会・研究会等>芸術工学会／北海道芸術学会／日本人形玩具学会
 <地域貢献諸活動>理事（北海道支部長）（通年、テレビ日本美術家協会）
 <専門職支援・セミナー講師等>一般公募「アート・ボックス」審査委員（平成24年1月17日・2月17日）／北海道建築学会賞審査委員（平成23年5月6日～9月1日）
 <マスメディア掲載実績>個展作品の紹介（平成23年11月9日、北國新聞（金沢）、朝刊）

杉 哲夫

<書評>1.札幌市立大学付属図書館ニュースレター第5号（共著、平成23年12月、札幌市立大学、p.4）
 <作品発表>1.「低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発と運動プログラム」（共同、平成23年5月、第5回キッズデザイン賞 応募）／2.電動スノーダンプ、電動ベビーカー（共同、平成23年11月、札幌モーターショー2012 応募）
 <特許申請>1.ハイブリッド型除雪具 特願2012-019235（平成24年1月）／2.踏込み型除雪具 特願2012-19244（平成24年1月）
 <入選・受賞>1.転倒予防大賞2011実践部門特別賞（平成23年10月、転倒予防医学研究会）／2.第58回研究発表大会グッドプレゼンテーション賞（平成23年6月、日本デザイン学会）
 <学会発表>1.第58回研究発表大会「雪道でのベビーカー」（共同、平成23年6月、日本デザイン学会）
 <所属学会・研究会等>日本デザイン学会／日本感性工学会／日本インダストリアルデザイナー協会
 <地域貢献諸活動>札幌市立桑園小学校における健康・安全教育の推進 転倒予防マットレス（1年間、札幌市立桑園小学校、札幌市立大学、札幌市立桑園小学校）
 <専門職支援・セミナー講師等>三輪自転車授産施設商品 展示説明：第25回北海道技術・ビジネス交流会（平成23年11月10日～11日）／ものづくりテクノフェア 授産施設、三輪自転車 展示説明：ものづくりテクノフェア（平成23年8月19日）／電動スノーダンプ、電動ベビーカー 展示説明：札幌モーターショー2012（平成24年2月17日～19日）／高齢者向け三輪自転車 展示説明：いきいき福祉・健康フェア2011（平成23年10月15日）／次世代自動車デザインコンテスト 学生7名入選 展示支援：次世代自動車デザインコンテスト（平成24年2月17日～19日）／JIDA アクレジット委員会委員：JIDA（日本インダストリアルデザイナー協会）（1年間）／高齢者向け三輪自転車の開発：株式会社Will-E、札幌市立大学（1年間）／転倒予防訓練マットレス商品開発会議：株式会社特殊衣料（6月～8月 3カ月）
 <マスメディア掲載実績>NHKネットワークニュース北海道 ライブほっかいどう 三輪自転車 出演（平成23年9月13日、テレビ中継）／北海道新聞社 ベビーカーモーターショーに出品 掲載交渉（平成24年1月26日、新聞、朝刊）／NHKネットワークニュース北海道 ライブほっかいどう ベビーカー 取材交渉（平成24年2月15日、テレビ中継）／札幌モーターショーHTB 電動ベビーカー、スノーダンプ 出演（平成24年2月16日、テレビ中継）／HBC今日ドキッ 電動スノーダンプ 出演（平成24年2月20日、テレビ）／同友会・中小企業家新聞 同友大学杉哲夫講師紹介掲載（平成24年1月16日、新聞）／HBC北海道ニュース1 札幌モーターショー札幌市立大学ブース紹介 出演（平成24年2月16日、テレビ）

武邑 光裕

<その他の論文>1.創造経済への協働～「創造都市さっぽろ」がめざすもの～（単著、平成23年7月、開発こうほう8月号、577号、pp.8-13）／2.Birth of the Cool-The Co-creation of Canon and Fanon A Diaspora from “Cool Japan”（単著、平成24年3月、Sapporo Pre-Biennale Contemporary Art Exhibition 2011、pp.52-55）
 <招聘講演>1.メディア芸術による地域文化の進化 2月25日（金）（単独、平成24年2月、CG-ARTS協会「メディア芸術 部門会議」）／2.LEARNING FROM FUKUSHIMA（単独、平成23年10月、Projekt der Berliner Gazette）
 <所属学会・研究会等>American Computer Machinery（ACM）／文化経済学会／芸術科学会／日本予防医学リスクマネジメント学会／History of Media Art

<地域貢献諸活動>札幌ビエンナーレにむけたプレ企画展及び市民啓蒙活動（平成23年4月～平成24年3月、札幌ビエンナーレプレ実行委員会、札幌ビエンナーレプレ企画実行委員会）／年次行事の運営委員（平成23年、札幌メディアアートフォーラム）／会長（平成23年、創造都市さっぽろ芸術の森地区協議会）／札幌メディアアーツラボ設立準備委員会、創造都市さっぽろメディアアーツ部会部長（平成23年10月～平成24年、創造都市さっぽろ実行委員会、創造都市さっぽろメディアアーツ部会）／理事（平成23年、NPO法人都市文化創造機構）

<社会における活動>北海道商工振興審議会（北海道）／創造都市さっぽろ実行委員会副会長（札幌市）／Film in 北海道ネットワーク委員会（北海道）／札幌駅前地下歩行空間北2条コンテンツアプリケーション検討委員会（札幌市）／全北海道広告協会 審査委員会 委員長／NPO法人 都市文化創造機構 理事

<専門職支援・セミナー講師等>審査委員長：全北海道広告協会賞審査委員会委員長（平成23年6月、北海道広告業界、全北海道広告協会）／講演：基調講演「創造都市さっぽろと国際芸術展」北海道近代美術館（平成23年4月、市民、芸術文化団体、札幌ビエンナーレプレ企画実行委員会）

<マスメディア掲載実績>北海道新聞コラム「魚眼図」毎月連載、年12回（毎月1回、北海道新聞、夕刊）

羽深 久夫

<学術論文>1.鷹部屋福平の毛民青屋集5・6に基づいた1940年の二風谷アイヌ集落の建築物ごとの平面と外観的特徴（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.97-112）／2.1940年の二風谷アイヌ集落を記録した鷹部屋福平の毛民青屋集5・6の資料整理（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.81-95）

<調査研究報告書>1.豊平館保存活用基本計画書（共著、平成23年8月、札幌市、pp.1-23）／2.南区の地域活性化に向けたまちづくり調査研究報告書（共著、平成24年3月、札幌市立大学、pp.1-48）／3.豊平館活用整備等基本計画書（共著、平成24年3月、札幌市、pp.1-19）／4.厚真町の古民家再生に関する提言書（共著、平成24年3月、厚真町、pp.1-16）

<実践報告書>1.札幌芸術の森25周年記念誌（共著、平成24年3月、札幌市芸術文化財団、pp.5-34）

<学会発表>1.北海道における漁業関連建築の歴史的研究（共同、平成23年7月、日本建築学会）

<招聘講演>1.北海道における建築文化財のながれ（平成23年度道内工業高校巡回講演会）（単独、平成24年2月、日本建築学会）

<論文査読>1.日本建築学会計画系論文集（1件、日本建築学会）／2.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）

<所属学会・研究会等>日本建築学会／建築史学会／日本生活文化史学会／日本家政学会／風俗史学会／北海道考古学会／放送大学

<地域貢献諸活動>札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会委員（年間、札幌市南区定山溪地区まちづくり協議会）／札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議 特別委員（年間、札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議）／札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会委員（8月～2月、札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会）／札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会委員（7月～10月、札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会）／札幌市南区石山地区まちづくり協議会委員（石山商店街振興組合理事として）（年間、札幌市南区石山地区まちづくり協議会）／NPO法人北の民家の会理事長・事務局（年間、NPO法人北の民家の会、NPO法人北の民家の会理事長・事務局）／NPO法人日本民家再生協会会員（年間、NPO法人日本民家協会）／NPO法人アルテピアッツァ美唄会員（年間、NPO法人アルテピアッツァ美唄）／芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会会員（年間、芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会）／北海道中小企業家同友会札幌支部南地区会会員（年間、北海道中小企業家同友会札幌支部南地区会）

<社会における活動>国重要文化財建造物所有者診断支援事業 調査員（文化庁+北海道教育委員会）／札幌市文化財保護審議会 委員長代理（札幌市）／豊平館活用整備等検討委員会 委員長代理（札幌市）／札幌芸術の森運営協議会委員 委員（札幌芸術文化財団）／喜茂別町交流の森検討委員会 委員

長（喜茂別町）／喜茂別町水の郷きもべつまちづくり振興基金補助金審査会 委員（喜茂別町）／喜茂別町町内案内サイン検討委員会 委員長（喜茂別町）／厚真町古民家再生推進協議会 委員長（厚真町）／札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート運営代表者会議委員（札幌市南区）／札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート検討協議会委員（札幌市南区）／札幌シーニックバイウエイ藻岩山麓・定山溪ルート地域づくり部会委員（札幌市南区）／札幌市保養センター駒岡運営協議会委員（札幌市環境福祉事業団）

<専門職支援・セミナー講師等>北海道建築士会道央・道南ブロック合同協議会研修会景観バスツアー：札幌市の開拓使時代の建築文化財（6月25日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／旧夕張鉄道鹿ノ谷機関区動車庫解体現場見学会：旧夕張鉄道鹿ノ谷機関区動車庫解体現場見学（9月3日、建築士資格所有者、北海道建築士会）／景観スペシャリスト養成講座2011：歴史的建造物の補強（9月21日、建築士資格所有者、北海道建築士会札幌支部）／第7回定期総会記念講演会：木造建築のフレキシビリティとこれからの新しい住宅について（11月3日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／道産材による継手・仕口の公開破壊実験：道産材による継手・仕口の公開破壊実験（11月10日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／古民家解体見学会（岩見沢市宝水）：古民家解体見学会（岩見沢市宝水）（11月18日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／正田邸住宅見学会（札幌市中央区）：正田邸住宅見学会（札幌市中央区）（11月23日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／シンポジウムこれからの北海道に適した住宅づくり：シンポジウムこれからの北海道に適した住宅づくり（3月24日、建築関係者、NPO法人北の民家の会）／「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム審査委員（日本技術者教育認定機構）

<マスメディア掲載実績>ひと 2011 厚真で古民家を再生する札幌市立大学教授（7月27日、苫小牧民報、朝刊）／古民家再生へ協議会（7月27日、北海道新聞、朝刊）／厚真町古民家再生協議会（9月5日、北海道新聞、朝刊）／希少古民家（10月13日、北海道新聞、夕刊）／開拓古民家（10月25日、北海道新聞、朝刊）／古民家を再生、まちの活力に（10月25日、苫小牧民報、朝刊）／古民家再生へ実態調査報告（1月1日、苫小牧民報、朝刊）／古民家を文化財指定に（2月1日、北海道新聞、朝刊）／古民家の活用提言（2月1日、苫小牧民報、朝刊）／厚真町古民家再生協議会が提言書素案（2月17日、北海道建設新聞、朝刊）（3月7日、読売新聞、朝刊）／古民家まちづくりに活用（3月9日、読売新聞、朝刊）／古民家再生へ

原 俊彦

<学術論文>1.縮減する社会-子どもが減るとなぜ悪いか（単著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.113-120）／2.配偶関係別純移動率の推計：札幌市1995年-2005年（単著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.29-35）

<著書>1.縮減する社会-人口減退とその帰結（共訳書）（共著、平成23年6月、原書房）／2.統計の世界-物の見方・考え方・心構え（単著、平成23年10月、原書房）

<学会発表>1.縮減する社会-人口減少とその帰結（単独、平成23年6月、日本人口学会）／2.縮減する社会-子どもが減るとなぜ悪いか（単独、平成23年9月、日本社会学会）／3.札幌市における配偶関係別移動率 1995年-2005年（単独、平成23年9月、日本人口学会東日本部会）

<シンポジウム>1.病'縁'化社会のゆくえ-新たな〈絆〉ネットワーキングにむけて（共同、平成23年6月、北海道社会学会）

<招聘講演>1.システム・ダイナミックス（SD）手法による人口変動のモデル化-その可能性と限界（単独、平成23年10月、アジア経済研究所 マクロ計量経済モデル作成研究会）

<論文査読>1.現代社会学研究（1件、北海道社会学会）／2.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）

<所属学会・研究会等>日本人口学会／日本社会学会／日本家族社会学会／北海道社会学会／日本政治学会／情報考古学会／人口学研究会

<社会における活動>国立社会保障・人口問題研究所 研究評価委員（厚生労働省）

<専門職支援・セミナー講師等>システム・ダイナミックス（SD）手法についてレクチャー：シス

テム・ダイナミックス (SD) 手法による人口変動のモデル化—その可能性と限界 (平成23年10月28日、アジア経済研究所研究員、マクロ計量経済モデル作成研究会)

<マスメディア掲載実績>北海道“人口急減”への提言 (平成23年4月1日、道民雑誌クオリティ) / 検証 さっぽろ圏 第1部 人口 少子化 群抜く適齢・未婚男性 職少なく若年世代は道外へ (平成24年1月6日、北海道新聞、朝刊) / 41市町村の未来考 教育と人口減4 人口移動 札幌へ毎年2万人流出 (平成24年1月11日、北海道新聞 (旭川支局)、朝刊)

望月 澄人

<作品発表>1.Lotus 01 (単独、平成23年8月、Asia Network Beyond Design 2011 韓国 漢城大学校 A&Dギャラリー) / 2.Lotus 02 (単独、平成23年1月、Asia Network Beyond Design 2011 中国 天津美術学院ギャラリー) / 3.Lotus 03 (単独、平成23年11月、Asia Network Beyond Design 2011 台湾 景文科技大学芸文中心) / 4.Lotus 04 (単独、平成23年12月、Asia Network Beyond Design 2011 日本 横浜赤レンガ1号館ギャラリー) / 5.望月澄人小作品 88点 (単独、平成23年12月、望月澄人作品展 札幌市小春堂) / 6.ESCAPER (アニメーション) (単独、平成23年8月、地球色展 東京都府中市美術館) / 7.Lotus01 B1 / 8.Lotus02 B1 / 9.Lotus03 B1 / 10.Lotus04 B1 (単独、平成23年8月、地球色展 東京都府中市美術館)

<所属学会・研究会等>ASIA NETWORK BEYOND DESIGN / デジタル・イメージ

<専門職支援・セミナー講師等>シンボルマークデザイン アートディレクター

矢部 和夫

<学術論文>1.水位および、表層水の酸性度と電気伝導度の季節変動とその周期を考慮したフェンの分布に対する影響の評価 (共著、平成24年3月、札幌市立大学紀要、6巻、1号、pp.71-79)

<学会発表>1.石狩泥炭地跡地における幌向湿原の再生計画 (共同、平成23年9月、日本湿地学会) / 2.ウトナイ湖北西岸における高茎湿生草原の分布を規定する水文化学条件の解明 (共同、平成24年3月、日本生態学会) / 3.酸性度と電気伝導度の変動周期の抽出によるフェン群落の分布に対する影響評価 (共同、平成24年3月、日本生態学会) / 4.年輪判読によって解析されたウトナイ湖北西岸におけるハンノキ林の侵入、成立過程 (共同、平成24年3月、日本生態学会) / 5.勇払地方安平川湿原で見られる大規模フェンの種組成的な特徴とその保全 (単独、平成24年2月、日本生態学会北海道地区会) / 6.Distribution and edaphic conditions of secondary grasslands established after burning of peat forest in Central Kalimantan (共同、平成23年9月、3rd International Workshop on "Willd Fire and Carbon Management in Peat-Forest in Indonesia" sponsored by JST-JICA)

<論文査読>1.Landscape and Ecological Engineering (1件、応用生態工学会) / 2.American Journal of Plant Sciences (1件、Scientific Research Publishing)

<所属学会・研究会等>日本生態学会 / 日本造園学会 / 日本陸水学会 / 日本湿地学会 / 応用生態工学会 / 日本気象学会北海道支部会 / 北海道自然エネルギー研究会

<地域貢献諸活動>サマーアートキャンプIN江別 (江別市共催) の子どもキャンプスタッフ (トライ☆アス☆カル2011実行委員会) / 道内の自然を守る活動 (常務理事) (北海道自然保護協会) / 湿原植生のアドバイザー (キウシト湿原の会) / 植生管理のアドバイザー (ビオトープイタンキ) / 湿原再生のアドバイザー (フラット南幌)

<社会における活動>植生凡例検討委員会 (環境省) / 芸術の森樹林調査業務へのアドバイス委託 (札幌市公園緑化協会) / 美々川自然再生事業技術検討委員会 (北海道) / 植生管理アドバイザー (国営滝野すずらん公園) / 平岡公園原っぱ会議委員 (札幌市・札幌市公園緑化協会) / 円山動物園の森協議会 (円山動物園) / 成東・東金食虫植物群落作業部会委員 (千葉県山武市)

<専門職支援・セミナー講師等>湿原小委員会で再生事業計画の検討をした / ウトナイネイチャーセンター運営協議会委員

<マスメディア掲載実績>ウトナイ湖面積調査 (平成23年11月19日、北海道新聞、朝刊一面)

吉田 和夫

<作品発表>1.特殊衣料 会社案内（単独、平成23年9月、第33回2012日本BtoB広告賞）／2.動物園グラフィック（共同、平成23年9月、札幌ADCコンペティション&アワード2011 部門7：入選）／3.Conception（単独、平成23年9月、ASIA NETWORK BEYOND DESIGN 2011,SEOUL）／4.Liberation（単独、平成23年11月、ASIA NETWORK BEYOND DESIGN 2011,TIANJIN）／5.Exploration（単独、平成23年11月、ASIA NETWORK BEYOND DESIGN 2011,TAIPEI）／6.Experience（単独、平成23年12月、ASIA NETWORK BEYOND DESIGN 2011,YOKOHAMA）

<所属学会・研究会等>TGC（東京デザイナーズクラブ）

<地域貢献諸活動>「ウロギネ女性の会」巡回ポスター展への作品提供に依る活動支援（平成23年8月～9月、ウロギネ女性の会、6名）／「Tシャツ展」出展（平成23年8月15日～20日、北海道デザイン協議会、3名）／「第3次札幌新まちづくり計画書」表紙デザイン（平成23年10月～11月、札幌市、14名）／「芸術の森25周年誌」表紙デザイン（平成24年2月～3月、財団法人札幌芸術の森、6名）

<社会における活動>次世代自動車デザインコンテスト審査委員（北海道）／札幌市都市景観審議会（札幌市）／札幌市広告アドバイザー会議（札幌市）／中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会（札幌市）／札幌駅前通地下歩行空間・地名由来等説明表示デザインアドバイザー（札幌市）／広告電通賞 地区選考委員会 委員長／地下広場広告デザイン審査会 委員／北海道エアシステム新ロゴマーク選考委員会 委員

<専門職支援・セミナー講師等>広告電通賞 地区選考委員会 委員長：広告電通賞 地区選考委員会 委員長（平成21年～、広告出稿企業、広告電通賞審議会）／駅前通地下広場広告デザイン審査会 委員：駅前通地下広場広告デザイン審査会 委員（平成21年～、広告出稿企業、札幌駅前通まちづくり株式会社）／北海道エアシステム新ロゴマーク選考委員会 委員：北海道エアシステム新ロゴマーク選考委員会 委員（平成23年2月～3月、一般、株式会社北海道エアシステム）

吉田 恵介

<著書>1.環境デザインがわかる（共著、平成24年3月、朝倉書店、pp.122-123）

<その他の論文>1.公園緑地の防災機能を再考する（共著、平成24年1月、日本造園学会、75巻、4号、pp.331-333）

<学会発表>1.Urban Food Futures（単独、平成23年7月、Communities and Technologies）

<論文査読>1.環境情報科学論文集25（1件、環境情報科学センター）

<所属学会・研究会等>日本造園学会／日本都市計画学会／農村計画学会／人文地理学会／日本デザイン学会

<地域貢献諸活動>南区まちづくり活動助成活動として南区を歩くマップづくりの為の活動（9月から3月、南区36景を歩く会、南区36景を歩く会）／顧問として組織運営に参加（4月から3月、グリーンライフさっぽろ、グリーンライフさっぽろ）／隊長として組織運営に参加（4月から3月、八剣山発見隊、八剣山発見隊）／委員長として催事運営に参加（4月から9月、さくらんぼ祭り実行委員会）／ボランティアハンドブック作成委員会で編集委員として活動に参加（3月、札幌市公園緑化協会）／HITの社会的企業家育成プログラム応募と運営に参加（4月から3月、八剣山エコケータリング）

<社会における活動>札幌市芸術文化財団評議員（札幌市）／札幌市都市景観アドバイザー（札幌市）／札幌市環境影響評価審議会委員（札幌市）／民族共生の象徴となる空間のイメージの構築に向けた検討会委員（国土交通省）／札幌市屋外広告物審議会委員（札幌市）／藻岩山魅力アップ構想環境配慮ガイドライン検討懇談会委員（札幌市）／全国花のまちづくり札幌大会実行委員会委員（札幌市）／大通公園百周年記念シンポジウム2011実行委員会委員（札幌市）／北海道特定開発行為審査会委員（北海道）／公園マネージメント評価委員（札幌市公園緑化協会）

<専門職支援・セミナー講師等>ふらっとホーム2011in南区運営（12月15日、市民、札幌市南区役所）／サッポロビール恵庭工場インスタレーション制作（通年、株サッポロビール）

<マスメディア掲載実績>さくらんぼ祭りの開催について（7月14日、北海道新聞、朝刊）

齊藤 雅也

<学術論文>1.鈴木宏彬・齊藤雅也・吉野博：北海道の住まいにおける暖房時の居間室温と住戸形態・暖房対象室・暖房運転方法の関係（共著、平成23年4月、日本建築学会環境系論文集、76巻、662号、pp.369-377）／2.札幌・福井における冬季入浴時の室温変化に伴う高齢者の血圧変化の実態調査（共著、平成23年6月、日本建築学会技術報告集、17巻、36号、pp.569-572）

<著書>1.設計のための建築環境学 みつける・つくるバイオフィリックデザイン（共著、平成23年4月、彰国社、pp.18-19、pp.22-23、pp.54-57、pp.92-93）／2.LCCM住宅の設計手法 デモンストレーション棟を事例として（共著、平成24年3月、建築技術、pp.60-61）

<調査研究報告書>1.受託研究「寒冷地の動物園における熱帯系飼育・展示施設のデザイン研究」報告書（共著、平成24年2月、札幌市立大学、pp.43-76）／2.受託研究「札幌市次世代住宅基準の普及に関する研究－性能表示方法の調査とデザイン－」報告書（共著、平成24年2月、札幌市立大学）／3.科研費「小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討」成果報告パンフレット（共著、平成24年3月、札幌市立大学）

<その他の論文>1.札幌市立大学附属図書館の壁面緑化システムと室内温熱環境（共著、平成23年6月、北海道自然エネルギー研究会、8号、pp.27-32）

<実務関係書>1.LCCM住宅デモンストレーション棟（共著、平成23年4月、株式会社新建築社、301号、pp.18-27）／2.LCCM住宅 デモンストレーション棟 JA 84 YEARBOOK2011（共著、平成24年1月、株式会社新建築社、84号、pp.110-111）

<解説文>1.動物に学ぶ 次世代住宅の光・熱環境デザイン（単著、平成24年1月、北海道冷暖房換気システム協会、21号、pp.2-5）／2.いま、公共建築の魅力を語る意味～第31回北海道建築作品発表会～（単著、平成24年3月、日本建築学会、127巻、1629号、pp.63-64）

<学会発表>1.中学生の環境要素に対する感覚と居場所の選択行動のプロセスに関する調査 エコ改修された夏季の黒松内中学校を事例として（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／2.低体温・基礎代謝が温冷感に与える影響（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／3.札幌と熊本の小学児童の温熱的不快と想像温度・実際室温（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／4.病室のベッド周りのカーテンの有無が患者の光・温熱環境に与える影響（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／5.住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握 その1 全国の疾患発生と住宅の建築時期・構造解析（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／6.住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握 その2 全国の呼吸器疾患発生と住宅の建築時期・構造解析（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／7.住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握 その3 札幌と福井の冬季入浴時の温熱環境と高齢者の血圧変化（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／8.住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握 その4 夕張市における在宅患者の住宅内温熱環境と血圧変動（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／9.ヒトの温度感覚と環境調整行動に関する研究 その6 札幌と熊本の小学児童の温熱的不快と想像温度（共同、平成23年8月、日本建築学会）／10.小学児童の温熱認識と家庭でのエアコン使用習慣の関係（共同、平成23年8月、日本建築学会）／11.中学生の環境要素に対する感覚と居場所の選択行動の関係 エコ改修された夏季の黒松内中学校を事例として（共同、平成23年8月、日本建築学会）／12.想像温度による温熱快適性の評価に関する考察（単独、平成23年8月、日本建築学会）／13.病室のベッド周りカーテンの有無による温熱環境の比較（共同、平成23年9月、日本人間工学会・看護人間工学会第19回看護人間工学部会）／14.人口動態統計を用いた疾病発生に関する研究 その4 呼吸器疾患と地域性（共同、平成23年9月、空気調和・衛生工学会）／15.夕張市における高齢者の住宅内温熱環境に関する研究 その2 温度変動と血圧変動（共同、平成23年9月、空気調和・衛生工学会）／16.札幌・福井における高齢者の入浴時の人体エクセルギー解析（共同、平成23年9月、空気調和・衛生工学会）／17.札幌市円山動物園における雄ボルネオオランウータンの環境変化に伴う内分泌および行動学的評価（共同、平成23年9月、日本野生動物医学会）／18.新施設は虫類・両生類館とその機能（共同、平成23年10月、全国動物園技術者研究会）／19.住環境が死亡要因に与える影響 その3 呼吸器疾患発生と気象条件の関係（共同、平成23年10月、日本公衆衛生学会）／20.夕張市にお

ける在宅医療・看護時の室内温熱環境と血圧変動の関係性（共同、平成23年10月、日本公衆衛生学会）／21.住宅の断熱性と高齢者の入浴時の血圧変化に関する実測と人体エクセルギー解析（共同、平成23年10月、日本公衆衛生学会）／22.札幌市円山動物園 は虫類・両生類館（共同、平成23年12月、日本建築学会北海道支部）／23.熊本と札幌における小学児童の温熱的不快・想像温度・授業への集中度合い - その1 温熱的不快と想像温度 -（共同、平成24年3月、日本建築学会九州支部）／24.熊本と札幌における小学児童の温熱的不快・想像温度・授業への集中度合い - その2 授業への集中度合いと想像温度 -（共同、平成24年3月、日本建築学会九州支部）／25.在宅医療・看護時の室内温熱環境が身体へ与える影響の実態把握（共同、平成24年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部）

<シンポジウム>1.動物園と大学の協働による動物舎デザイン-札幌市円山動物園「は虫類・両生類館」を事例として-（共同、平成23年10月、日本建築学会 環境工学本委員会 熱環境運営委員会 第41回熱シンポジウム）／2.「環境楽譜」に基づく設計課題（共同、平成23年10月、日本建築学会 環境工学本委員会 熱環境運営委員会 第41回熱シンポジウム）

<論文査読>1.日本建築学会環境系論文集（3件）／2.日本建築学会技術報告集（3件）／3.日本感性工学会（1件）

<所属学会・研究会等>日本建築学会／空気調和・衛生工学会／日本デザイン学会／日本感性工学会／日本太陽エネルギー学会／日本看護科学学会／日本公衆衛生学会／住まい・環境教育学会／Low-EX Net.／北海道自然エネルギー研究会

<地域貢献諸活動>「緑のカーテン」の育成に関するアドバイザー（平成23年5月～9月、札幌市南区芸術の森地区まちづくりセンター、芸術の森地区まちづくりセンター）

<専門職支援・セミナー講師等>〔専門家支援講習〕BIS認定養成・更新講習会（平成24年1月17日・23日、建築専門職、(社)北海道建築技術協会）／〔専門家支援講習〕住宅の熱性能と長期優良住宅の関係についての講習（平成24年2月17日、BIS取得希望者、(社)北海道建築技術協会）／〔専門家支援講習〕景観デザインセミナー（平成24年2月20日、建築・ランドスケープ専門職、札幌市市民まちづくり局都市計画部地域計画課）／〔専門家支援講習〕住環境の快適性を考える「エクセルギー理論による住環境の快適性を考える」（平成24年2月23日、建設業関係、医療専門職、東京大学生産技術研究所）

<マスメディア掲載実績>〔記事〕は虫類・両生類 実は面白い（平成23年4月21日、北海道新聞23面、朝刊）／〔報道〕札幌市円山動物園 は虫類・両生類館の温熱環境デザイン（平成23年4月22日、U型テレビ）／〔記事〕「生きた宝石」に歓声 円山動物園 は虫類・両生類館リニューアルオープン（平成23年4月24日、毎日新聞、朝刊）／〔記事〕もっと知りたい!円山動物園 4月オープン新は虫類・両生類館（平成23年4月27日、道新オンテナ）／〔記事〕ひと 2011 円山動物園の「は虫類・両生類館」をデザインした 齊藤雅也さん（平成23年6月19日、北海道新聞社、朝刊）／〔放送〕札幌市立大学「緑のカーテン」プロジェクトの紹介（平成23年6月23日、Leaf（リーフ）株式会社エフエム北海道（Air-G））／〔記事〕円山動物園に学ぶ快適で省エネな環境設計 前編・後編（平成23年11月5日、北海道住宅新聞、北海道住宅新聞社）／〔対談記事（再掲）〕エアコンで暖房 エコで省エネな北海道の暖房提案（平成23年11月18日、ヒートポンプ普及促進連絡会）／〔出演〕WARM BIZ NAVI「住でWARM BIZ」（平成24年1月12日、チアラジ!～Cheers Radio～ FMノースウェーブ82.5・環境省）／〔トークショー〕新千歳空港ショールーム ウォームビズキャンペーン〔動画〕住のウォームビズ（平成24年2月11日、FMノースウェーブ82.5・UHB（北海道文化放送）・環境省）／〔記事〕札幌市立大・齊藤先生に聞く 基準の狙いと今後の展望（平成24年3月15日、北海道住宅新聞）

武田 亘明

<その他の論文>1.クリエイティブ人材育成の実践的学びの場のデザイン（単著、平成24年3月、日本教育工学会、JSET012、1号、pp.303-308）／2.手書き入力・自動採点システムによる放課後自学自習用電子教材の開発と活用（単著、平成23年7月、日本教育工学会、JSET011、3号、pp.13-20）

<所属学会・研究会等>情報処理学会／日本教育工学会／日本教育工学協会／北海道中国哲学会／教

育とコンピュータ利用研究会

<地域貢献諸活動>事務局代表、メディアを活用した情報協働教育および雪像制作指導・企画運営（平成23年4月～平成24年3月、バーチャル雪まつり実行委員会、バーチャル雪まつり実行委員会）／web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動（平成23年4月～平成24年3月、情報と教育フォーラム「オンコの木」運営委員会、情報と教育フォーラム「オンコの木」）／web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動（平成23年4月～平成24年3月、ハイパー風土記札幌Inter City Oropas運営委員会、ハイパー風土記札幌Inter City Oropas運営委員会）／web・ドメイン・サーバ管理、運営・外部対応などに関する活動（平成23年4月～平成24年3月、ネットワーク・コミュニティ・フォーラム、ネットワークコミュニティフォーラム事務局）／運営副委員長、運営委員会主催および事務局活動、ワークショップ等プロジェクト企画運営（平成23年4月～平成24年3月、札幌メディア・アート・フォーラム運営委員会、札幌メディアアートフォーラム）／理事、会運営に関する活動（平成23年4月～平成24年3月、北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会、北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会）／副会長、北海道支部長、web・ドメイン管理およびメディア教育に関する情報交流・研究会等の主催（平成23年4月～平成24年3月、教育とコンピュータ利用研究会、教育とコンピュータ利用研究会）／代表、市内書店の在り方およびメディア戦略検討プロジェクト等の主催（平成23年4月～平成24年3月、北海道企画デザイン研究会、北海道企画デザイン研究会）

<社会における活動>北海道学校・家庭・地域の連携による教育活動促進事業推進委員会（北海道）／望ましい読書週間定着推進事業検討委員会（北海道）／望ましい読書週間定着推進事業子ども読書プロジェクトチーム（北海道）／さっぽろ地域IT活用支援事業審査委員会（札幌市）／平成23年度姉妹都市記念映像制作事業企画選考委員会（札幌市）／創造都市さっぽろグラフィックデザイン産業振興会議（札幌市）／「視聴覚教育・情報教育功労者表彰」選考委員会（北海道）／優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰推薦活動選考委員会（北海道）／北海道立生涯学習センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会（北海道）／札幌市立西岡小学校学校評議員会（札幌市）／北海道札幌藻岩高等学校学校評議員会（北海道）

<専門職支援・セミナー講師等>第二次審査員（平成23年11月～12月、学校インターネット教育推進協会（JAPIAS））／審査委員長（平成23年7月～9月、札幌国際短編映画祭実行委員会）

<マスメディア掲載実績>枝幸、中頓別町で教育支援調査研究視察（平成23年9月14日、日刊宗谷（宗谷新聞社）、朝刊）

張 浦 華

<学術論文>1.動物園における歩行移動時の高揚感に影響を及ぼす経路のデザイン（共著、平成23年11月、デザイン学研究、58巻、4号、pp.105-112）

<作品発表>1.Tray with 3 Bowls（平成23年8月29日～9月2日、Asia Network Beyond Design 2011, Seoul）／2.Green High cup（平成23年10月12日～20日、Asia Network Beyond Design 2011, Tianjin）／3.Connected Bowls（平成23年11月22日～12月9日、Asia Network Beyond Design 2011, Taipei）／4.Bowl with 3 Legs（平成23年12月20日～26日、Asia Network Beyond Design 2011, Yokohama）／5.種（平成24年1月10日～15日、第33回 北海道陶芸作家協会展（コンチネンタルギャラリー））／6.花びら（平成24年1月10日～15日、第33回 北海道陶芸作家協会展（コンチネンタルギャラリー））／7.水鳥（平成24年1月10日～15日、第33回 北海道陶芸作家協会展（コンチネンタルギャラリー））

<論文査読>1.日本感性工学会論文誌（1件、日本感性工学会）

<所属学会・研究会等>日本デザイン学会入／日本感性工学会／軽労化研究会／北海道陶芸作家協会

<社会における活動>北海道陶芸作家協会 事務局

<専門職支援・セミナー講師等>（スマートスーツ・ライト実用化促進事業推進）アドバイザー／被災地支援チャリティーバザール運営実施及び作品出品

細谷 多聞

<学会発表>1.ライフログでの活用を目指した感性タグに関する研究（第2報）（共同、平成24年8

月、日本感性工学会) / 2.環境音の視覚化とその要件に関する研究 (第1報) (共同、平成24年8月、日本感性工学会)

<論文査読>1.感性工学 (1件、日本感性工学会) / SCU JOURNAL (1件、札幌市立大学)

<所属学会・研究会等>日本デザイン学会 / 芸術工学会 / 日本感性工学会 / 日本看護科学学会

<地域貢献諸活動>理事 (北海道デザインマネジメントフォーラム)

<社会における活動>札幌スタイル推進会議 (札幌市) / 札幌スタイル認証審査委員会 (札幌市)

町田 佳世子

<学術論文>1.動物園の飼育担当者の語りが導く飼育体験参加者の認識変容のプロセス (共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.49-57)

<調査研究報告書>1.北海道の企業が採用時に重視する「コミュニケーション能力」に関する調査報告 (単著、平成24年3月、財団法人北海道開発協会開発調査総合研究所) / 2.平成23年度上市市クアオルト健康ウォーキング質問紙調査報告書 (共著、平成24年3月、札幌市立大学)

<学会発表>1.「伝える」という仕事-動物園1日飼育体験における飼育担当者の大人と子どもに対する語りの特徴の違いから (共同、平成23年11月、質的心理学会第8回大会) / 2.既存認識のくつがえしと再構築 (共同、平成23年12月、第52回日本動物園水族館教育研究会) / 3.飼育担当者の語りと飼育体験参加者の認識変化 (共同、平成23年10月、日本コミュニケーション学会北海道支部平成23年度支部研究大会) / 4.企業は採用時にどのようなコミュニケーション能力を求めるのか (共同、平成24年3月、日本コミュニケーション学会北海道支部平成23年度支部研究会) / 5. Seasonal Variations in Going-Out Behavior and Mental Health in the Community-Dwelling (共同、平成23年5月、International Conference in Community Health Nursing Research) / 6.高齢者の外出目的と、外出手段と精神健康の関連 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会) / 7.季節別に見た地域在住高齢者の外出頻度と精神健康の関連 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会) / 8.中学生の環境要素に対する感覚と居場所の選択行動のプロセスに関する調査 (共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部第84回研究発表会)

<論文査読>1. Kansei Engineering International Journal (1件、日本感性工学会) / 2.札幌市立大学研究論文集 (1件)

<所属学会・研究会等>日本コミュニケーション学会 / International Communication Association / International Pragmatics Association / 社団法人 大学英語教育学会 / 日本質的心理学会 / 日本語用論学会 / 全日本博物館学会 / 日本動物園水族館教育研究会 / 日本看護科学学会

<地域貢献諸活動>女性の地位向上を目的とした講演会の企画活動に参加 (平成23年7月・11月、特定非営利活動法人日本BPW連合会札幌クラブ)

<社会における活動>札幌家庭裁判所 参与員 (裁判所) / 財団法人札幌市水道サービス協会評議員 (札幌市)

石田 勝也

<地域貢献諸活動>行啓通フィルムコンテストの作品募集及び、運営、作品審査委員長 (6月~9月、札幌市中央区行啓通商店街組合、行啓通ショートフィルムコンテスト) / 地下歩行空間北2条メディアゾーンでのPRプログラムの制作、配信 (6月~7月、PMF実行委員会、PMF実行委員会) / 500m美術館での学生作品制作支援、優秀作品審査 (平成24年2月~5月、札幌市観光文化局文化市民文化課、札幌市観光文化局文化市民文化課) / スポーツ推進委員会PR映像制作、地下歩行空間での配信、50周年記念パーティーでの上映 (平成24年1月、札幌市観光文化局スポーツ部企画事業課振興係、札幌市観光文化局スポーツ部企画事業課振興係)

<専門職支援・セミナー講師等>ファノン展札幌市立大学エリア支援、ライブイベント企画・運営：表現するファノン-サブカルチャーの表象たち- (10月29日~11月23日、市民、札幌ビエンナーレプレ企画実行委員会、芸術の森美術館) / オープニングパーティー用サウンド&ビジュアルプログラム制作：HAKONIWAナイト (6月24日、市民、HAKONIWA) / コカ・コーラ、メイバリン主催メ

イクアップアーティスト横山美和のイベント映像、プログラム制作：Beauty Up Party COLORFUL（7月1日、雑誌読者（POROCO）、POROCO）／英国アーティスト「Fourtet」ライブイベント用ビジュアルプログラム制作とライブオペレーション：Four Tet Japan Tour 2011 in Sapporo（7月30日、市民、DES_NOS）／英国DJ「Gold Panda」DJイベント用ビジュアルプログラム制作とライブオペレーション：GOLD PANDA Japan Tour 2011 in Sapporo（9月2日、市民、DES_NOS）

大 淵 一 博

<学術論文>1.OSCE実施支援システムの開発と運用（共著、平成24年3月、札幌市立大学、6巻、1号、pp.37-48）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.87-93）

<調査研究報告書>1.ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究－西門周辺アプローチの誘導サイン－（共著、平成24年3月、札幌市立大学、pp.3-4、pp.11-13）

<学会発表>1.助産師教育における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの試み（共同、平成23年9月、日本母性衛生学会）

<所属学会・研究会等>電子情報通信学会／日本教育工学会／日本感性工学会／日本看護学教育学会／日本母性衛生学会

<専門職支援・セミナー講師等>ソフトウェア利用に関する個別指導等：色彩分析アプリケーションの利用法／グラフィックソフトウェアの活用法（7月30日・31日・10月29日・11月5日、同会メンバー、札幌イメージコーディネート研究会）／札幌市グリーティングカード選考会審査員：札幌市グリーティングカード選考会（平成23年11月2日、作品応募者、札幌市国際部）

柿 山 浩 一 郎

<学術論文>1.AGE DIFFERENCES IN THE COGNITIVE PROCESS OF SIGN RECOGNITION IN ZOOS :A CASE STUDY OF SAPPORO MURAYAMA ZOO（共著、International Association of Societies of Design Research 2011 Proceedings、CD-ROM 154.pdf、p.46）／2.動物園における歩行移動時の高揚感に影響を及ぼす経路のデザイン（共著、日本デザイン学会誌 デザイン学研究研究論文集 第58巻 第4号 通巻208号、58巻、4号、pp.105-112）

<調査研究報告書>1.路面電車を活用する地域創成デザインに関する研究（共著、平成24年3月、札幌市立大学）／2.UD視点からの図書館サイン計画の研究（共著、平成24年3月、札幌市立大学）

<実践報告書>1.ITを用いた遠隔看護支援システム“E-KANGO”（共著、平成24年1月、(株)日本看護協会出版会、Vol.14／No.01、165号、pp.50-56）

<作品発表>1.Life Support System-Blue View（単独、Asia Network Beyond Design ソウル展（8月））／2.Life Support System-Red View（単独、Asia Network Beyond Design／天津展（10月））／3.Life Support System-Green View（単独、Asia Network Beyond Design／台北展（11月））／4.Life Support System-Yellow View（単独、Asia Network Beyond Design横浜展（12月））

<特許申請>1.わが子のひつぎ（平成23年8月）／2.地方の住民生活のインフラとして機能する遠隔看護システムおよびその方法（平成23年9月）

<学会発表>1.閲覧者の興味度抽出を目的とした、無意識動作計測実験（単独、平成23年6月、日本デザイン学会）／2.死産児安置の為に「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン－第2報：要求性能に基づく設計と評価－（共同、平成23年9月、日本感性工学会大会）

<論文査読>1.Kansei Engineering and Emotion Research 2012（未発刊）（1件、Kansei Engineering and Emotion Research）／2.Design Research Society 2012（未発刊）（2件、Design Research Society）

<学会の抄録査読>1.Design Research Society 2012 アブストラクト（未発刊）（8件、Design Research Society 2012）

<所属学会・研究会等>日本デザイン学会／日本感性工学会／日本教育工学会

<専門職支援・セミナー講師等>横浜展（10月19日～25日、世界のクリエイター、Asia Network Beyond Design）

<マスメディア掲載実績>大学概要、歴史、最近の取り組み、学長インタビュー等（7月31日、TVh「けいざいナビ北海道」）／卒業生の作品展ツアー（3月13日、stv「どさんこワイド179」）

片山 めぐみ

<学術論文>1.動物園における歩行移動時の高揚感に影響を及ぼす経路のデザイン（共著、平成24年1月、デザイン学研究、5巻、4号、pp.105-112）

<調査研究報告書>1.寿都町におけるコミュニティ・レストラン及び空き家活用術等の調査研究（単著、平成24年3月、札幌市立大学）／2.寒冷地の動物園における熱帯系飼育・展示施設のデザイン研究（単著、平成24年3月、札幌市立大学）

<学会発表>1.The possibility of the informal services; an attempt to involve the elderly with the community（共同、平成23年5月、Environmental Design Research Association）／2.少子高齢社会におけるコミュニティを再構築する「縁側サービス」（共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部）／3.Architectural, Behavioral and Physiological "Environmental Assessment" of Orangutan House Renovation（共同、平成23年8月、International Conference on environmental enrichment 2011）／4.高齢者と地域を結びつける「縁側サービス」-その1 パターン分析-（共同、平成23年8月、日本福祉のまちづくり学会）／5.高齢者と地域を結びつける「縁側サービス」-その2 釧路市「わたぼうしの家」の試み-（共同、平成23年8月、日本福祉のまちづくり学会）／6.高齢者と地域を結びつける「縁側サービス」-その3 台湾と中国における「社区」が果たす役割-（共同、平成23年8月、日本福祉のまちづくり学会）

<シンポジウム>1.「環境楽譜」に基づく設計課題（第41回熱シンポジウム『みつめる・つくるバイオクライマティック建築』（共同、平成23年10月、日本建築学会））

<所属学会・研究会等>日本建築学会／日本造園学会／日本動物心理学会／日本福祉のまちづくり学会／日本展示学会／日本デザイン学会

<地域貢献諸活動>寿都町21世紀コトブキプロジェクト・ワークショップ（平成24年3月17日、寿都町、5名）／[札幌市生涯学習センター札幌市立大学連携講座]「今こそ行きたい!動物園の魅力～札幌市円山動物園60周年記念講座」の企画・講演

<社会における活動>札幌市犯罪のない安全で安心なまちづくり等審議会委員（札幌市）／次世代育成支援対策推進協議会専門部会委員（札幌市）／札幌市臨時都市景観アドバイザー（札幌市）／大規模小売店舗立地法専門家会議委員（札幌市）

<マスメディア掲載実績>寿都活性化へ「海」と「食」に着目-札幌市立大とプロジェクト（平成24年3月18日、北海道新聞、朝刊）

小宮 加容子

<学会発表>1.授業を通じての雪道ベビーカー提案（共同、平成23年6月、日本デザイン学会）／2.Age Differences in the Cognitive Process of Sign Recognition in Zoos :A Case Study of Sapporo Maruyama Zoo（共同、平成23年10月、IASDR2011）

<所属学会・研究会等>ヒューマンインタフェース学会／計測自動制御学会／日本リハビリテーション工学協会／日本機械学会／日本福祉のまちづくり学会／玩具福祉学会／日本デザイン学会／日本科学看護学会

<マスメディア掲載実績>コネキッド（8月8日、北海道新聞、朝刊）／「ママの味方 雪道で使えるベビーカー」（2月15日、NHK「ネットワークニュース北海道」ライブ北海道）／「私達のアイデアがさっぽろをかえる（雪道ベビーカー）」（1月19日、広報さっぽろ1月号）

<調査研究報告書>UD視点からの図書館サイン計画の研究、共同、平成24年3月

<地域貢献諸活動>ものづくりテクノフェア出展（8月）、ビジネスEXPO出展（11月）、SAPPORO DESIGN WEEK 2011 子供向け遊びイベント実施（10月）／協力依頼「SORAこそだてフェスティバル2011 子供向け遊びのイベント実施（12月）」／ジュニアチャレンジジャム2011（9月）／協力依頼「円山動物園遊具と遊び場基本設計策定（札幌市環境局みどりの推進課）」／常盤小学校「総合

的な学習の時間（6年生）：車いす操作の説明と疑似体験（10月）」／札幌市立大学公開講座「コネキッド（8月）」／札幌市立大学公開講座「ママの声を聞かせて下さい!もっとうなったら?を形にしましょう（基本編）（7月）」／札幌市立大学公開講座「ママの声を聞かせて下さい!もっとうなったら?を形にしましょう（応用編）（10月）」

福田 大年

<調査研究報告書>1.寒冷地の動物園における熱帯系飼育・展示施設のデザイン研究 報告書（平成24年2月、札幌市立大学）／2.札幌市次世代住宅基準の普及に関する研究－性能表示方法の調査とデザイン－報告書（平成24年2月、札幌市立大学）

<実務関係報告書>1.札幌アートディレクターズクラブ年鑑2010（平成23年7月、札幌アートディレクターズクラブ）

<作品発表>1.SONG1（共同、平成23年8月、Asia Network Beyond Design 2011）／2.SONG2（共同、平成23年8月、Asia Network Beyond Design 2011）／3.SONG3（共同、平成23年8月、Asia Network Beyond Design 2011）／4.「パン工房ひかり」との協同プロジェクトの成果（単独、平成23年11月、第25回北海道技術・ビジネス交流会「ビジネスEXPO」）／5.ふうれん「ソフト大福」パッケージ（共同、平成23年9月、札幌アートディレクターズクラブ コンペティション&アワード2011）／6.「Furano Soil」パッケージタグ（共同、平成23年9月、札幌アートディレクターズクラブ コンペティション&アワード2011）／7.「パン工房ひかり」との協同プロジェクトの成果（単独、平成23年8月、北洋銀行 ものづくりテクノフェア2011）

<入選・受賞>1.日本デザイン学会第58回研究発表大会「グッドプレゼンテーション賞（テーマセッション）」（平成23年6月、日本デザイン学会）

<学会発表>1.体験と言葉を活用したアイデア発想教育（共同、平成23年6月、日本デザイン学会）

<所属学会・研究会等>日本デザイン学会／情報文化学会

<社会における活動>札幌メディア・アート・フォーラム運営委員／札幌アートディレクターズクラブクラブ委員

<専門職支援・セミナー講師等>「imagine!クリエイティブ・フロンティア」出品学生のサポート：「imagine!クリエイティブ・フロンティア」（4月23日、学生、NHK札幌放送局）／ロゴマークデザイン学生コンペの企画ならびに参加学生のサポート：法律事務所「ロゴマークデザイン学生コンペ」（4月25日～現在に至る、学生、佐藤・平岩・小川法律事務所）／紫蘇ジュースラベルデザイン学生コンペの企画ならびに参加学生のサポート：授産施設「紫蘇ジュースラベルデザイン学生コンペ」（4月8日～8月1日、学生、NPO法人だいち）／円山動物園遊具広場検討会議にアドバイザーとして参加：円山動物園遊具広場検討会議（6月28日～10月7日、札幌市円山動物園）／「道産化粧品ブランド」のデザイン提案コンペの企画ならびに参加学生のサポート：「道産化粧品ブランド」のデザイン提案コンペ（12月20日～2月24日、学生、株式会社セピア）／北海道社会福祉協議会「平成23年度 製品製作アドバイザー派遣事業」の一環で「帯広ケアセンター」の製品に関するサポートを実施：平成23年度 製品製作アドバイザー派遣事業（平成23年9月～平成24年3月、帯広ケアセンター、北海道社会福祉協議会）／団体の運営および公式WEBサイトの企画・運営のサポート、コンペへの出品：札幌アートディレクターズクラブ（通年）／団体の運営および一部のイベントの企画・運営を担当、研究会に参加：札幌メディア・アート・フォーラム（通年）

<マスメディア掲載実績>8月6日「札幌市立大学公開講座 Connexid!!（コネキッド）2012」の取材記事（8月8日、北海道新聞、朝刊）／「情報デザイン 教育のあり方は」3月15日シンポジウム「次代の社会をつくる、デザインの学び－情報デザイン×大学教育のこれから－」の取材記事（3月26日、北海道新聞、夕刊）／札幌版次世代規準を発表「SAPPORO ECO-E HOUSE」（3月5日、北海道住宅新聞、朝刊）

松井 美穂

<学術論文>1.「南部のヴァージニティをめぐって－ニューマンのキャサリン、フークナーのキャ

ディ、そしてクエンティン」(単著、平成23年4月、『フォークナー』、13号、pp.105-113) / 2. 「文学、ジェンダー、ESD-フォークナーの「あの夕陽」と「読むこと」と「サステナビリティ」」(単著、平成24年1月、『英文学研究支部統合号』、4巻、pp.27-34) / 3. 「南部のグロテスク再考-Julia Peterkin, William Faulkner, Eudora Weltyの短編を通して」(単著、平成24年3月、『北海道アメリカ文学』、28号、pp.19-33)

<学会発表> 1. 「Julia Peterkinの*Scarlet Sister Mary*における人種、ジェンダー、セクシュアリティ」(単独、平成23年10月、日本英文学会 北海道支部)

<シンポジウム> 1. シンポジウム「好奇の心と畏怖の念 : the Quintessence of American Literature」講演題目「Passing into the Dark-南部のグロテスク再考」(単独、平成23年12月、日本アメリカ文学会北海道支部)

<所属学会・研究会等> 日本アメリカ文学会 / 日本英文学会 / 北海道アメリカ文学会 / 日本ウィリアム・フォークナー協会 / Carson McCullers Society / アメリカ学会 / 日本看護科学学会 / 日本公衆衛生学会

三谷 篤史

<学術論文> 1. Mechatronics Education in School of Design-Development of Educational Tool to Study Design Expression Using Mechatronics (共著、平成23年12月、Journal of Robotics and Mechatronics、23巻、5号、pp.629-637) / 2. Development of a "TSUMIKI" Robot Toy Based on a Figure Original to the Hokkaido Region-Examination of a Prototype Robot of Blakiston's Fish Owl, Called "Kotan Kor Kamuy," a Household God of the Aynu (共著、平成23年12月、Journal of Robotics and Mechatronics、23巻、6号、pp.1108-1114) / 3. A Study on the Motion of Micro-Parts on a Saw-Tooth Surface by the PTV Method (共著、平成24年1月、Journal of System Design and Dynamics、6巻、1号、pp.73-80)

<特許申請> 1. 知育用メカトロ融合型木製積木 (平成23年10月)

<学会発表> 1. Evaluation of Feeder Surface Materials for Microparts Feeding Using An Asymmetric Fabricated Surface With Symmetric Vibrations (共同、平成23年4月、IEEE IES 2011 International Conference on Mechatronics (ICM2011)) / 2. Measurement of the Motion of Micro-Parts on a Vibratory Surface (共同、平成23年10月、International Tribology Conference) / 3. DEVELOPMENT OF MECHATRONIC-SYSTEM-EMBEDDED WOODEN TOYS BASED ON HOKKAIDO REGIONAL ORIGINALITIES (共同、平成23年10月、The 4th World Conference on Design Research) / 4. Tracking Micro-Part Motion on a Vibratory Saw-tooth Surface by PTV Method (共同、平成23年11月、ASME 2011 International Mechanical Engineering Congress & Exposition) / 5. Feeding of Microparts Along an Asymmetric Surface Using Horizontal and Symmetric Vibrations-Development of Asymmetric Surfaces using Anisotropic Etching Process of Single-Crystal Silicon (共同、平成23年12月、2011 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics (IEEE-ROBIO2011)) / 6. 第11回ロボット・トリアスロンにおけるロボットデザイン (共同、平成23年11月、日本デザイン学会第1支部大会) / 7. 知育的特性と感性的特性の融合を目指したメカトロ積木の開発 (共同、平成23年11月、日本デザイン学会第1支部大会) / 8. 通常歩行時における身体の振動分析-三次元加速度センサ信号のFFT解析による振動評価- (共同、平成23年12月、第33回臨床歩行分析研究会定例会) / 9. 通常歩行時に身体にかかる振動の測定に向けた最適部位の検討 (共同、平成23年12月、第33回臨床歩行分析研究会定例会)

<論文査読> 1. Proceedings of IEEE-ROBIO2011 (9件、IEEE) / 2. 日本ロボット学会誌 (1件、日本ロボット学会) / 3. 札幌市立大学紀要 (1件、札幌市立大学) / 4. Journal of Robotics and Mechatronics (1件、JSME/Robot and Mechatronics section) / 5. Proceedings of IROS2011 (2件、IEEE/RSJ) / 6. Proceedings of SII2011 (1件、SICE System Integration section)

<所属学会・研究会等> 日本機械学会 (JSME) / 日本ロボット学会 (RSJ) / 日本デザイン学会 (JSSD) / 計測自動制御学会 (SICE) / IEEE / RAS (アメリカ電気電子学会 / ロボティクス・オートメーション部門) / 精密工学会 (JSPE) / 北海道トライボロジー研究会 / 北海道光技術研究会

<地域貢献諸活動>北海道内の大学生を対象としたロボットコンテストの企画運営、第11回ロボット・トライアスロン大会への参加（平成23年10月2日、ロボット・トライアスロン運営委員会、ロボット・トライアスロン実行委員会）／第12回ロボット・トライアスロン（平成23年10月2日、ロボット・トライアスロン運営委員会、5名）／第3回SCU-HFUデザインワークショップ（平成24年2月5日～11日、札幌市立大学、34名）／子ども向けメカトロ教育「簡単!電子工作」運営・実施（日本機会学会ロボティクスメカトロニクス部門、札幌市青少年科学館、平成23年7月2日）

<専門職支援・セミナー講師等>接触に関する研究内容の紹介：非対称微細周期構造表面による微小物体の振動輸送（平成24年3月23日、産業技術総合研究所研究員、産業技術総合研究所ナノメカニクス部門原雄介氏）／サインデザイン従事者に対して、メカトロニクスを用いたインタラクティブシステムの紹介：メカトロニクスとは（平成24年1月20日、サインデザイン研究会参加者、サインデザイン研究会）／サッポロ・ロボットコーナーにおける展示企画：サッポロ・ロボットコーナー（平成23年4月～平成24年3月、札幌市青少年科学館来訪者、札幌市青少年科学館）／特別講演会の実施：産業技術総合研究所原雄介氏「ロボット工学と化学の融合」（平成23年11月18日、北海道内ロボット工学研究者、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門）

山田 良

<解説文>1.AXIS ナショナルツアーリスト・ルート・イン・ノルウェー（単著、平成23年10月、AXIS、153号、pp.46-49）／2.recent works（単著、平成24年2月、2000ワードin & out、19号、pp.61-65）／3.ryo yamada's forest light & wind（単著、平成23年12月、FRAME、83号、p.68）

<実践報告書>1.AXIS クリエイターズ・ワーク（単著、平成24年2月、AXIS、155号、p.111）

<作品発表>1.Irresolution Landscape（単独、平成24年3月、神戸ビエンナーレ2011）／2.Theatrical Landscape（単独、平成23年7月、小樽アートプロジェクト）／3.Indistinct Landscape（単独、平成23年9月、ハルカヤマ藝術要塞）／4.100 bamboo glass（単独、平成23年9月、飛生芸術祭2011）／5.Serial Landscape（単独、平成23年12月、isa徳島現代美術ギャラリー）／6.Phenomenal Landscape（単独、平成24年2月、定山溪雪灯路）／7.Shelf Byway（平成23年11月、札幌駅前通地下歩行空間シーニックバイウエイ展示空間）

<入選・受賞>1.神戸ビエンナーレ・しつらいアート国際展 奨励賞（平成23年9月、神戸市）／2.北海道ガーデンショー・コンペティション（平成23年6月、北海道ガーデンショー実行委員会）

<学会発表>1.環境芸術なる連続性（単独、平成23年10月、環境芸術学会）

<所属学会・研究会等>環境芸術学会

<地域貢献諸活動>さっぽろシャワー通りの施設整備・運営（平成23年5月、さっぽろシャワー通り商店街、シャワー通り商店街）

<社会における活動>札幌市総合企画調査専門委員（札幌市）

<専門職支援・セミナー講師等>展覧会の企画・運営アドバイザー：地域におけるアートの役割（平成23年5月、実行委員、ハルカヤマ藝術要塞実行委員会）／展覧会の運営に関する講義：地域におけるアートの役割（平成23年8月、東京芸術大学GTS、東京芸術大学）／環境芸術による地域再生講演／展覧会の企画・運営と作品出展）／講演会場の企画・デザインと制作）

<マスメディア掲載実績>小樽アートプロジェクト2011 theatrical landscape（平成23年7月28日、北海道新聞、朝刊）／小樽アートプロジェクト2011 theatrical landscape（平成23年7月26日、朝日新聞、朝刊）／小樽アートプロジェクト2011 theatrical landscape（平成23年7月27日、読売新聞、朝刊）／小樽アートプロジェクト2011 theatrical landscape（平成23年8月10日、北海道新聞、朝刊）／真駒内駅アートフレーム（平成24年3月24日、北海道新聞、朝刊）／札幌駅前通地下歩行空間 shelf byway（平成24年1月25日、北海道新聞、朝刊）／札幌ビエンナーレへの提言（平成24年1月9日、北海道新聞、朝刊）

上田 裕文

<学術論文>1.観光のまなざしによりつくられる北海道の風景イメージの研究（共著、平成24年3

月、ランドスケープ研究、75巻、5号、pp.529-532) / 2.大学生の海岸に対する心象風景の形象について(共著、平成24年3月、ランドスケープ研究、75巻、5号、pp.537-540) / 3.日本とドイツの森林イメージ - 国有林地域の事例から - (単著、平成23年6月、北方林業、63巻、6号、pp.18-21) / 4.日本とドイツの森林イメージ - 伝統的林業地域の事例から - (単著、平成23年8月、北方林業、63巻、8号、pp.21-24)

<実践報告書>1.平成23年度受託研究札幌芸術の森野外美術館景観調査報告書(単著、平成24年3月) / 2.寿都町におけるブルーツーリズムと中間支援組織に関する調査研究報告書(単著、平成24年3月)

<学会発表>1.The Concept of Landscape in Japan(単独、平成24年2月、Landschaften : Theorie, Praxis und internationale Bezüge)

<論文査読>1.都市計画(1件、日本都市計画学会) / 2.農村計画学会誌(1件、農村計画学会) / 3.札幌市立大学研究論文集(1件、札幌市立大学)

<所属学会・研究会等>日本造園学会 / 日本都市計画学会 / 農村計画学会 / 日本観光研究学会

<地域貢献諸活動>住民ワークショップの企画運営および参加(平成24年3月17日、寿都町企画課、寿都町) / 福島から北海道への一時避難受け入れ支援(平成23年3月14日～、北海道被災者受入支援ネットワーク)

<社会における活動>札幌市みどりの審議会委員(札幌市) 上山型温泉クアオルト推進員アドバイザーフェロー(上山市)

<マスメディア掲載実績>北海道新聞後志版8月24日、寿都町のブルーツーリズム(8月24日、北海道新聞、朝刊) / 北海道新聞後志版3月18日、寿都町での住民ワークショップ(3月18日、北海道新聞、朝刊)

須之内 元洋

<学術論文>1.ネットを活用した持続的博物館メディアの可能性(単著、平成23年5月、博物館研究46(6)、46巻、6号、pp.10-13)

<調査研究報告書>1.札幌駅前通地下歩行空間北2条広場における継続的コンテンツ供給等に関する調査・研究業務(共著、平成24年3月、札幌市、ワークショップに関連する箇所)

<その他の論文>1.デジタルアーカイブを核としたサウンドスケープ活動-“43d : World Sound Mix”の創作をめぐる(共著、平成23年11月、日本サウンドスケープ協会 平成23年度研究発表会論文集、pp.43-47)

<解説文>1.2011-2012年の都市・建築・言葉 アンケート(共著、平成24年1月、Artscape、<http://10plus1.jp/monthly/2012/02/enq-2012.php>) / 2.創造都市さっぽろ国際シンポジウム メディアアートと創造都市(単著、平成24年2月、開発こうほう、583号、pp.1-6)

<作品発表>1.World Sound Mit for Bankart(共同、8月11日、BankART LifeⅢ(CAI現代芸術研究所(札幌)の作家として参加))

<所属学会・研究会等>ACM / 芸術科学会 / 情報処理学会 / 日本サウンドスケープ協会

<地域貢献諸活動>地域住民参加型、台湾向け震災謝礼CM制作 ボランティア支援(平成24年6月26日、北海道運輸局・HTB等、北海道運輸局・HTB等)

<社会における活動>駅地下北2条運営アドバイザー会議(札幌市)

<専門職支援・セミナー講師等>北海道&上海アジアクリエイティブフォーラム(交流イベント開催支援、地域情報発信システムの展示、作品展示) : 北海道&上海アジアクリエイティブフォーラム(平成23年4月25日、主催者、イベント参加者、上海ぐるなび、SHIFT、NPO法人札幌ビズカフェ、株式会社JT北海道、株式会社トライ・ビー・サッポロ、北海道新聞社) / 森正洋氏デジタルアーカイブ構築支援 : 森正洋氏デジタルアーカイブ構築支援(通年、所員、森正洋デザイン研究所) / 学生参加イベントの企画・運営、産官学連携イベントの企画運営 : 札幌メディア・アートフォーラム(毎月、主催者、イベント参加者、札幌メディア・アートフォーラム) / 学生、イベント支援 : 札幌ビエンナーレ・プレ企画実行委員会(平成23年10月29日～11月23日、主催者、イベント参加者、札幌ビエンナーレ・プレ企画実行委員会)

長谷川 聡

<著書>「DESIGNER'S FILE 2012」(共著、平成22年3月、株式会社 ワークスコーポレーション、pp.202-203)

<書評>内藤廣と若者たち(鹿島出版会)(共著、平成23年8月、川嶋勝 長谷川聡、機関誌:スミセイベストブック pp.34-34)

<解説文>1.Soft tetra (単著、平成24年2月、かわさき産業デザインコンペ2011 入賞作品集 pp.2-2) / 2.Love veil (単著、平成24年2月、WJD Award (ワールドジュエリーデザイン大賞) 2011 入賞作品集 pp.17-17)

<作品発表>1.Snake veil (単独、平成23年6月1~5日、第43回毎日・DAS diploma デザイン賞「入賞・入選作品展」、主催:毎日新聞社、社団法人 総合デザイナー協会(DAS)、大阪デザイン振興プラザ デザインギャラリー) / 2. shike veil (共同、平成23年10月12~14日、株式会社 松井機業場+札幌市立大学 デザイン学部 長谷川研究室、JFW ジャパンクリエーション2011、東京ビックサイト) / 3.shike veil (共同、平成23年11月2日~4日、株式会社 松井機業場+札幌市立大学 デザイン学部 長谷川研究室、IFFT 国際インテリアライフスタイル展2011、東京ビックサイト) / 4.Soft tetra (単独、平成24年1月31日~2月5日、かわさきデザインフェア・かわさき産業デザインコンペ2011 入賞作品展、神奈川サイエンスパーク KSPギャラリー) / 5.Love veil (単独、平成24年2月24日、WJD Award (ワールドジュエリーデザイン大賞) 2011 授賞式・入賞作品展、リビエラ南青山)

<入選・受賞>1.北海道ガーデンショー「恋の庭」デザインコンペティション、奨励賞(平成23年5月、北海道ガーデンショー実行委員会) / 2.毎日・DAS diploma デザイン賞、入選(インダストリアル部門、平成23年6月、毎日・DAS) / 3.かわさき産業デザインコンペティション2011、入賞(平成24年2月、川崎市) / 4.WJD Award (ワールドジュエリーデザイン大賞) 2011、入賞(平成24年2月、株式会社 シーマ)

<受託研究等>株式会社 松井機業場(富山県南砺市) 研究名称:インテリア製品としての「しけシルク」活用方法に関する研究(平成23年9月30日~平成24年2月29日)

<学会発表>1.産学協働で創出する産業新興デザインのプロセスにおける一考察(単独、平成23年6月、日本デザイン学会) / 2.光で創る持続可能性社会の構築~色素増感太陽電池とデザインの融合(共同、松本隆幸 小地谷文仁 長谷川聡 寇湘暉 杉林秀之、指導/主査:管野善則(首都大学東京 産業技術大学院大学教授)、副査:國澤好衛(同 教授)、網代剛(同 助教)、平成23年7月、芸術工学会)

<所属学会・研究会等>日本インダストリアルデザイナー協会/日本デザイン学会/芸術工学会/日本感性工学会/日本建築学会/土木学会/産業用LED応用研究会

看護学部

中村 恵子

<学術論文>1.看護基礎教育における模擬患者養成プログラムの実際とその検証（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.1-10）／2.OSCE実施時に評価者が「評価しにくい」と感じた理由（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.11-18）

<著書>1.老年看護「熱中症」（共著、ヌーヴェルヒロカワ）／2.看護OSCE①p2-9、②52-54、③118-120（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.2-9、pp.52-54、pp.118-120）／3.看護OSCE編者（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.1-222）／4.看護OSCE編者 ①成人看護学2年次131-142、②143-154（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.31-142、pp.143-154）

<その他の論文>1.看護基礎教育と臨床教育の接点を強化する方法論（単著、平成23年6月、日本看護科学雑誌、31巻、2号、pp1-3）／2.会長講演（日本クリティカルケア雑誌）

<学会発表>1.OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発への取り組み（共同、平成23年10月、日本看護学会）／2.模擬患者を活用した授業の実践例（共同、平成23年10月、第13回日本救急看護学会学術集会）／3.A大学看護学部と病院の人材育成連携活動における成果と課題（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会）／4.Reflection and Reflective Thinking in Sumulation（座長）（単独、平成23年5月、アジアシミュレーション学会香港）

<シンポジウム>1.スキルミクス-チーム医療をめぐる動向と今後の課題-（単独、平成23年7月、第7回日本クリティカルケア看護学会）

<招聘講演>1.救急看護師の教育と将来展望（単独、平成23年6月、日本臨床救急医学会総会）

<論文査読>1.日本看護管理学会誌（2件、日本看護管理学会）／2.日本臨床救急医学会誌（2件、日本臨床救急医学会）／3.日本クリティカルケア看護学会誌（1件、日本クリティカルケア看護学会）

<学会の抄録査読>1.第15回日本看護管理学会年次大会（4件）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本救急看護学会／日本クリティカルケア看護学会／日本看護診断学会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／日本看護管理学会／日本ヒューマンケア学会／日本老年看護学会／日本災害看護学会／日本集団災害医学会／日本臨床救急医学会／日本医療・病院管理学会

<社会における活動>保健師助産師看護師医道審議会（厚生労働省）／社会全体で共有する緊急度判定（トリアージ）体系のあり方検討会委員（総務省）／札幌市救急業務検討委員会（札幌市）／認定看護師制度委員会委員長（日本看護協会）／専門看護師認定実行委員会（日本看護協会）

<専門職支援・セミナー講師等>看護OSCEの進め方と成功のための戦略：看護OSCEの進め方と成功のための戦略（11月15日、専門学校教員、東京都看護系学校協議会）／看護管理者の役割と実践「看護専門職としての人材育成」：看護専門職としての人材育成（1回、師長・主任研修、苫小牧市立病院）／救急看護師の役割：救急看護師の役割（9月3日、11月12日、2月18日、救急看護師、日本救急看護学会）／救急患者への対応とトリアージ：救急患者への対応とトリアージ（2日間、看護師、日本救急医療財団）／特定看護師（仮）概論：特定看護師（仮）概論（1回、看護師、日本看護協会看護研修学校）／FD研修会「学生の実践能力を育てるOSCEの導入～進め方と成功のための戦略～」：学生の実践能力を育てるOSCEの導入～進め方と成功のための戦略～（9月16日、看護教員、茨城キリスト教大学）／FD研修会「実践的な学習とその評価」：実践的な学習とその評価（3月15日、学部教員全体、青森県立保健大学）／FD研修会「看護OSCEの特徴と実施・評価」：看護OSCEの特徴と実施・評価（1月12日、看護教員・事務職員、共立女子学園）／社会が求める看護職のあり方-看護師としてどう成長するか-：社会が求める看護職のあり方-看護師としてどう成長するか-（12月17日、看護教員、看護師等、東邦看護学会）／臓器提供施設におけるクオリティマネジメントセミナー「看取りの概念とグリーンケア」：家族ケア「看取りの概念とグリーンケア」（1月21日、医師・看護師など、移植医療の社会的基盤に関する研究）

<マスメディア掲載実績>雑誌 連載「教育者の眼」（季刊誌）（総合看護）

I 概要

II 教育活動

III 研究活動

IV 社会活動

V キャリア支援活動

VI 入学者選抜結果

VII 附属図書館

VIII 役員会、経営審議会
及び教育研究審議会

IX 学内運営の概要

X 資料

XI 教員業績一覧

スーディ神崎 和代

<学術論文>1.Delaying the Progress of Dementia Conditions among Older Adults in Japan – Effects of an Activity Tool (共著、平成24年3月、Medimond, Italy、2012、pp.51 – 55)

<著書>1.OSCE (共著、平成23年5月、メヂカルフレンド社、pp.188 – 196)

<調査研究報告書>1.IT活用による遠隔看護サービス (E-KANGO) の試験的運用を目的とする調査研究とモデル試作 (ノーステック財団) (共著、平成24年3月、札幌市立大学、pp.1 – 9)

<その他の論文>1.ITを用いた遠隔看護支援システム"E-KANGO" (単著、平成24年1月、日本看護協会出版会、14巻、1号、pp.50 – 52、p.56)

<解説文>1.Translational research : connecting evidence to clinical practice by Ruth Mulnard (単著、平成23年6月、日本看護科学誌、31巻、2号、p.82)

<特許申請>1.わが子のひつぎ (平成23年8月) / 2.地方の住民生活のインフラとして機能する遠隔看護システムおよびその方法 (平成23年9月)

<意匠登録申請>1.「わが子のひつぎ」 (平成23年8月)

<学会発表>1.Delaying the progress of dementia condition among the elderly in Japan (共同、平成24年3月、Alzheimer's Disease International) / 2.E-KANGO道内自治体におけるシミュレーションと評価 – 管理者の評価 (共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会) / 3.旧産炭地における在宅ケア従事者の自立型学習活動の支援プロセス (共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会) / 4.死産児安置のための「わが子の棺」プロトタイプデザイン：医療現場のニーズと要求性能の検討 (共同、平成23年9月、日本感性工学会) / 5.死産児安置のための「わが子の棺」プロトタイプデザイン：要求性能に基づく設計と評価 (共同、平成23年9月、日本感性工学会) / 6.E-KANGO道内自治体におけるシミュレーションと評価 – 在宅療養者の評価 (共同、日本ルーラルナーシング学会) / 7.E-KANGO道内自治体におけるシミュレーションと評価 – 担当保健師による評価 (共同、日本ルーラルナーシング学会)

<シンポジウム>1.科学都市として特性を生かした北東アジアの発展 (2011/11/18、韓国) (単独、International Cooperation Symposium of Science City)

<招聘講演>1.韓日露の科学都市共同シンポジウム：Example of a joint industry, academy, and collaborative research in Hokkaido (単独、平成23年11月、太田広域市科学技術特化産業推進本部)

<論文査読>1.日本ルーラルナーシング学会誌 (1件、日本ルーラルナーシング学会)

<所属学会・研究会等>日本在宅ケア学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護教育学会 / 日本遠隔医療学会 / 日本ルーラルナーシング学会 / 北海道公衆衛生協会 / 日本プライマリ・ケア連合学会 / National Rural Health Association / National Association for Healthcare Quality / Association for Professional of Infection Control

<地域貢献諸活動>札幌芸術の森25周年記念公開プレゼンテーション・審査・講評 (平成23年10月23日、札幌市芸術文化財団、札幌市芸術文化財団) / 医療産業の産学連携促進活動 (平成23年12月1日～平成24年3月30日、産学連携促進活動参加、北海道産業医療研究会)

<専門職支援・セミナー講師等>夕張市が実施する高齢者支援政策への支援と指導：夕張市が実施する高齢者支援政策への支援と指導 (平成23年4月1日～平成24年3月31日、夕張市) / ヒトゲノム・遺伝子解析研究審査委員会：ヒト・ゲノム解析研究に対する倫理審査 (平成23年5月30日～平成26年3月31日、札幌医科大学研究者、札幌医科大学) / 研究発表会審査・講評：平成23年度研究発表会審査・講評 (平成23年3月13日、ドマーニ神戸研究発表者、神鋼ケアライフ社) / 講演：認知症の基礎 (平成24年1月21日、看護師・介護福祉士・管理者、社会福祉法人札幌恵友会) / 講演：認知症とコミュニケーション：講演 (平成23年5月12日、看護師・介護福祉士・管理者、札幌市介護支援専門員連絡協議会) / 2011年時点での認知症：講演 (平成23年6月10日、看護師・介護福祉士・管理者、恵庭市グループホームネットワーク) / 研究発表会審査・講評：平成23年度研究発表会審査・講評 (平成23年5月27日、研究発表者、神鋼ケアライフ社) / オープニング記念講演：認知症：講演 (平成23年5月25日、保健師・看護師・介護福祉士・管理者、三井ヘルスサービス社) / 講演：口腔の世界：いきいきと生活するために：講演 (平成23年7月22日、高齢者、神鋼ケアライフ社) / 講演：認知症と生き

ていくこと－進行を遅らせるために：講演（平成23年10月22日、東区民・保健師・看護師、札幌市東区役所）／講演：論拠に基づいたケアの基礎：講演（平成23年10月18日、連絡会会員（看護師・介護福祉士・ケアマネ）、白石区管理者連絡会）／講演：認知症の新研究：講演（平成23年12月3日、看護師・管理者・介護福祉士・医師、滝川地域介護サービス事業者連絡協議会）

<マスメディア掲載実績>グループホーム職員対象の認知症ケア講演について「介護はクールな頭と温かい心で」（平成23年6月15日、北海道新聞、朝刊）／一般社団法人化へ準備：札幌市ケアマネ連絡協議会が総会－認知症とコミュニケーション研修会（平成23年5月19日、介護新聞、朝刊）／追分で認知症講演会：進行遅延策を伝授－最新情報提供（平成23年5月26日、苫小牧民報、朝刊）

山本 勝則

<学術論文>1.看護基礎教育における模擬患者養成プログラムの実際とその検証（共著、平成24年3月、札幌市立大学地域連携研究センター、6巻、1号、pp.3-10）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド、pp.56-60）

<その他の論文>1.OSCEにおける模擬患者への支援と模擬患者によるフィードバック（共著、平成23年4月、看護展望、36巻、6号、pp.27-31）／2.臥床患者の安楽を促進する技術としての指圧を取り入れたマッサージ（共著、平成23年8月、達人ナース、32巻号、5、pp.20-25）

<学会発表>1.（交流集会）精神看護学におけるシミュレーション教育の可能性－模擬患者を活用した演習の展開とOSCEの導入－（共同、平成23年6月、日本精神保健看護学会第21回総会・学術集会）／2.看護ケアの受け手を理解することに関する文献検討（共同、平成23年9月、日本応用心理学会第78回大会）／3.精神看護学におけるシミュレーション教育－SP導入の影響－（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／4.（交流セッション）看護基礎教育における取り組み：模擬患者を活用した授業の実践例（共同、平成23年10月、第13回日本救急看護学会学術集会）／5.地域高齢者を対象にした家庭訪問による回想法の効果（共同、平成23年10月、第70回日本公衆衛生学会総会）／6.高齢者の外出目的、外出手段と精神的健康、QOL、ソーシャルサポート、外出行動意識との関連（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／7.季節別に見た地域在住高齢者の外出頻度と精神健康の関連（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）

<論文査読>1.応用心理学研究（1件、日本応用心理学会）／2.SCU JOURNAL（1件、札幌市立大学）

<学会の抄録査読>1.第42回日本看護学会－精神看護－学術集会抄録（15件、日本看護学会）

<所属学会・研究会等>日本看護協会／日本看護研究学会／日本応用心理学会／日本病院・地域精神医学会／日本看護科学学会／日本行動分析学会／日本発達心理学会／日本精神保健看護学会／日本赤十字看護学会／日本精神科看護技術協会／日本公衆衛生学会／日本看護管理学会

<専門職支援・セミナー講師等>臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座：臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座（平成23年8月29日）

宮崎 みち子

<学術論文>1.OSCE実施時に評価者が「採点しにくい」と感じた理由（共著、平成24年3月、札幌市立大学、6巻、1号、pp.11-18）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.15-19）

<その他の論文>1.OSCE実施の流れと実施後の評価（共著、平成23年5月、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.19-26）

<学会発表>1.助産師教育における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの試み（共同、平成23年9月、第52回日本母性衛生学会）／2.母性看護学における客観的臨床能力試験を用いた教育の課題（共同、平成23年9月、第41回北海道母性衛生学会）／3.看護実践における倫理的ジレンマ解決に向けて－人工妊娠中絶と宗教－（共同、平成23年10月、The 8th International Nursing Conference（INC2011））／4.子どもの入院環境：日本におけるヘルスケアに関する子どもの自己決定をめぐる諸規定の検討（共同、平成23年5月、2011年国際看護師連盟学術集会）／5.OSCEを経験した学生の認

識－参加学生への面接調査より－（共同、平成23年10月、The 8th International Nursing Conference (INC2011)）／6.看護OSCEにおける学生の自己効力感と関連要因の検討（共同、平成23年10月、日本看護学会（看護教育））

<学会の抄録査読>1.第21回日本看護学教育学会学術集会抄録集（2件、日本看護学教育学会）／2.第26回日本助産学会学術集会抄録集（1件、日本助産学会）

<所属学会・研究会等>日本助産学会／日本母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護研究学会／生命倫理学会／日本看護倫理学会／日本医事法学会／北海道母性衛生学会／北海道公衆衛生学会／日本看護協会／全国助産師教育協議会

<地域貢献諸活動>胎児と女性の健康支援活動：研修会・学習会の企画・運営、活動内容の社会への周知（平成23年度、エンブリオ北海道）／ワンストップセンター設立の準備、研修会の企画・運営（平成23年度、北海道女医会、ゆいねっと北海道）／留学生の支援（平成23年度、北海道国際女性協会）

<専門職支援・セミナー講師等>全国助産師教育協議会、社会貢献委員会活動（災害支援・健やか親子21支援・助産師希望の高校生支援・助産教育における地域貢献）の企画・運営

内田 雅子

<学術論文>1.OSCE評価者が「採点しにくい」と感じた理由－1・2年生OSCE評価者アンケートの結果から－（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.11－18）／2.看護OSCE 受験生の心理的反応および学習意欲の関係と課題－学生アンケート調査を通して－（共著、平成24年3月、第42回（平成23年度）日本看護学会論文集 看護教育 平成24年、pp.10－13）

<著書>1.看護OSCE Objective Structured Clinical Examination（共著、平成23年5月、メヂカルフレンド社、pp.81－86）

<調査研究報告書>1.看護基礎教育におけるOSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発（共著、平成23年6月、札幌市立大学 中村恵子、pp.1－86）／2.平成22～23年度キャリア支援部門動向調査キャリアデータベース班活動報告書（共著、平成24年3月、札幌市立大学 中村恵子、pp.13－22）／3.キャリアデータベース構築の目的と経過（共著、平成24年3月、札幌市立大学 中村恵子、pp.164－165）

<学会発表>1.慢性透析者における「生活の再編成」の概念分析（単独、平成23年6月、第5回日本慢性看護学会学術集会）／2.A大学看護学部とB病院の人材育成連携活動における成果と課題～チーム・プロセスに焦点をあてて～（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／3.学年別OSCE（Objective Structured Clinical Examination）と卒業時点での「就業力」との関係（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／4.A大学卒業生の就業時到達度に対する職場適応力と看護キャリア形成の実態（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／5.大学生のコンタクトレンズの自己管理行動とその影響要因の関係（共同、平成23年9月、第42回日本看護学会－成人看護Ⅰ・Ⅱ）／6.臓器移植法制定前後における脳死患者の家族の心理と看護師の問題意識（共同、平成23年9月、第42回日本看護学会－成人看護Ⅰ・Ⅱ）／7.看護OSCEにおける学生の自己効力感と関連要因の検討（共同、平成23年10月、第42回日本看護学会－看護教育－学術集会）／8.The Perception of Students who Experienced OSCE from the interview Survey of Participant Students.（共同、平成23年10月、8th International Nursing Conference (INC 2011)）

<論文査読>1.日本慢性看護学会誌（1件、日本慢性看護学会）

<学会の抄録査読>1.第31回日本看護科学学会学術集会講演集（7件、日本看護科学学会）

<所属学会・研究会等>日本慢性看護学会

<専門職支援・セミナー講師等>看護研究 基調講義

河野 總子

<著書・学術論文等>男性看護師のキャリア・アンカーに関する調査研究（共同、平成23年8月24日、日本看護管理学会）

<所属学会・研究会等>日本看護協会 日本看護学会会員／日本看護研究学会会員／日本医療病院管理

学会会員 北日本看護学会会員／日本看護科学学会会員／日本災害看護学会会員／日本看護教育学会
会員／医療経済研究学会会員／癒しの環境研究学会会員

<地域貢献諸活動>潜在看護職復職支援講習会開催企画運営担当（平成23年9月12日～9月22日、札幌
雇用創造協議会、40名）／認定看護管理者サードレベル開催企画運営担当（開催期間：8週間（39日
間）第Ⅰ期：平成23年8月22日（月）～9月9日、第Ⅱ期：平成23年11月7日（月）～25日、第Ⅲ期：平
成24年1月16日（月）～27日、公立大学法人札幌市立大学地域連携研究センター、10名）

<専門職支援・セミナー講師等>平成23年度看護管理認定教育ファーストレベル講師「看護の質・看
護記録」（平成23年2月9日・10日：11月8日）財団法人北海道看護協会／平成23年度看護管理認定教
育セカンドレベル講師「看護管理に必要な基礎知識－経営戦略－」（平成23年8月8日）財団法人北海
道看護協会／平成23年度看護管理認定教育サードレベル講師「保健医療福祉組織論－ヘルスケアサー
ビスの連携」（平成23年9月6日）公立大学法人札幌市立大学地域連携研究センター

<学会の抄録査読>第21回日本看護学教育学会学術集会抄録査読（3件、日本看護学教育学会）

坂倉 恵美子

<学術論文>1.札幌・福井における冬季入浴時の室内変化に関する高齢者の血圧変化の実態（共著、
平成23年6月、日本建築学会技術報告集、17巻、36号、pp.569-572）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年12月、メデカルフレンド社）

<調査研究報告書>1.科学研究費補助会22年度報告書（平成23年4月、科学研究費22年度報告書）／
2.北海道の介護保険施設の口腔ケアに対する看護管理的取り組みについて実態調査報告書（平成24年
3月、札幌市立大学）

<その他の論文>1.札幌市立大学附属図書館ニュースレター のほほん（平成24年2月、札幌市立大学）

<学会発表>1.住宅の断熱材と高齢者の入浴時の血圧変化に関する実態と人体エクセルギー解析（共
同、平成23年10月、日本公衆衛生学会）／2.地域高齢者を対象とした家庭訪問による回想法の効果
（共同、平成23年10月、日本公衆衛生学会）／3.老年看護学会における看護学生の高齢者のイメージ
の変化（共同、平成23年6月、日本看護学会老年看護）／4.学年別OSCEと老年看護領域の看護実践力
の評価（共同、平成23年12月、日本看護科学学会）／5.季節別に見た地域在住高齢者の外出頻度と精
神健康の関連（共同、平成23年12月、日本老年看護学会）／6.高齢者の外出目的、外出手段と精神健
康、QOL,ソーシャルサポート、外出行動意識の関連（共同、平成23年12月、日本看護科学学会）／
7.特別豪雪地帯に居住する高齢者の主観的幸福感に関する研究（共同、平成23年7月、日韓地域看護
学会）／8.季節別に見た地域在住高齢者の外出頻度と精神健康（共同、平成23年5月、国際地域看護
学会）／9.老年看護学実習における看護学生の高齢者イメージの変化（共同、平成23年8月、日本看
護学会老年看護）

<論文査読>1.天使大学紀要編集委員会より依頼査読（1件、天使大学紀要論文集）／2.日本ルーラ
ルナーシング学会誌（1件、日本ルーラルナーシング学会）／3.名寄市立大学（1件、名寄市紀要論文
集）

<所属学会・研究会等>日本老年看護学会／日本看護研究学会／日本地域看護学会／日本公衆衛生学
会／日本看護教育学会／日本家族看護学会／日本高齢者虐待学会／日本ルーラルナーシング学会／北
海道医学会

<地域貢献諸活動>小学校跡の高齢者の生活拠点づくり（札幌市市民まちづくり局都市計画部地域計
画課）／もみじ台の地域の大広間 イベント開催協力（同上団体）（札幌市もみじ台まちづくり）

<社会における活動>札幌市介護保険認定審査会の審査委員（札幌市）／札幌市社会福祉協議会の評
議委員（札幌市）／北海道建築審査会の建築審査委員（北海道庁）

<専門職支援・セミナー講師等>高齢者の看護研修実施に協力－高齢者の理解とケアの向上

定廣 和香子

<学術論文>1.看護職者の過失が認定された医療過誤判例における結果予見義務の分析－看護基礎教
育カリキュラムの教育内容の検討－（共著、平成23年4月、医療の質・安全学会誌、6巻、1号、pp.22

- 30)

<著書>1.看護OSCE (共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.93-96)

<学会発表>1.Safety Management Behaviors of Nurses in Japan : Focusing on Novice to Proficient (共同、平成23年11月、Sigma Theta Tau International 41st Biennial Convention) / 2.精神疾患患者に対する痛みのアセスメント方法に関する検討 (共同、平成23年10月、日本看護技術学会) / 3.終末期がん患者の精神的安寧をはかる看護師の看護実践-臨死期にある患者の看護に焦点を当てて (共同、平成23年10月、日本看護技術学会)

<論文査読>1.看護教育学研究 (1件、日本看護教育学学会) / 2.日本看護学教育学会誌 (1件、日本看護学教育学会)

<学会の抄録査読>1.日本看護教育学学会第21回学術集会 (1件、日本看護教育学学会)

<所属学会・研究会等>Sigma Theta Tau International / 日本看護教育学学会 評議員 / 日本看護学教育学会 評議員 / 日本看護技術学会 評議員 / 日本看護科学学会 / 医療の質・安全学会

<専門職支援・セミナー講師等>秋田県実習指導者講習会 看護教育論9時間を担当 : 秋田県実習指導者講習会 (平成24年7月14日・15日、実習指導者、秋田県) 日本看護学教育学会 教育制度委員会 委員 / 看護系学会等者会保険連合 委員

樋之津 淳子

<学術論文>1.OSCE実施支援システムの開発と運用 (共著、平成24年3月、SCU、6巻、1号、pp.37-48)

<著書>1.看護OSCE (共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.10-14)

<学会発表>1.病室のベッド周りのカーテンの有無が患者の光・温熱環境に与える影響 (共同、平成23年7月、日本建築学会北海道支部 第84回研究発表会) / 2.S大学卒業生のキャリア発達-卒業後半年の実態調査より (共同、平成23年8月、日本看護学教育学会 第21回学術集会) / 3.学年別OSCEと卒業時点での「就業力」との関係 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会) / 4.A大学卒業生の就業時到達度に対する職場適応力と看護キャリア形成の実態 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会) / 5.看護管理者と指導者からみた新人看護師の看護実践能力と教育側に期待すること (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会) / 6.病室のベッド周りカーテンの有無による温熱環境の比較 (共同、平成23年9月、第19回日本人間工学会看護人間工学部会研究発表会)

<論文査読>1.日本看護研究学会雑誌 (1件、日本看護研究学会) / 2.日本人間工学会看護人間工学研究誌 (1件、日本人間工学会看護人間工学部会)

<学会の抄録査読>1.第31回日本看護科学学会学術集会講演集 (5件、日本看護科学学会)

<所属学会・研究会等>日本看護研究学会 / 日本保健医療行動科学会 / 日本人間工学会 / 日本老年泌尿器科学会 / 日本泌尿器科学会 / 日本がん看護学会 / 日本看護学教育学会 / 日本看護科学学会 / 日本看護技術学会 / 日本コンチネンス協会

<社会における活動>大学設置・学校法人審議会専門委員 (文部科学省)

<専門職支援・セミナー講師等>FD「看護教育におけるOSCEの意義と活用について」の講師 : 「看護教育におけるOSCEの意義と活用について」 (9月16日、看護教員、臨床指導者、山口県立大学) / 看護OSCEの方法と実践についての研修会 : 基礎看護学領域でのOSCE (11月5日、看護教員、東京都看護系学校連絡協議会)

松浦 和代

<学術論文>1.防災の道具-寒冷地の保育園を考察する-【第一報】 (共著、平成24年3月、道具学論集、17号、pp.15-25) / 2.OSCE実施支援システムの開発と運用 (共著、平成24年3月、札幌市立大学、6巻、1号、pp.37-48)

<著書>1.看護OSCE (共著・筆頭著者以外、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.155-163) / 2.新体系看護学全書小児看護学①小児看護学概論、小児保健 第4版 (共著、平成24年1月、メヂカル

フレンド社、pp.85-262) / 3.新体系看護学全書小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 第4版 (共著、平成24年2月、メヂカルフレンド社、pp.1-33)

<調査研究報告書>1.2009~2011科学研究費補助金基盤研究c「小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討」 (共著、平成24年3月、科学研究費補助金研究成果報告書、pp.1-4)

<その他の論文>1.OSCE課題の作成および評価内容・評価基準の設定 (共著、平成23年4月、看護展望、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.9-12) / 2.OSCE課題の質およびカリキュラムの整合性を高める取り組み (共著、平成23年4月、看護展望、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.13-18) / 3.「最近話題のミニセミナー」小児看護の基礎教育と新人研修の活性化のために 第1回成人教育理論の基礎 (単著、平成24年1月、小児看護、へるす出版、35巻、1号、pp.120-125) / 4.「最近話題のミニセミナー」小児看護の基礎教育と新人研修の活性化のために 第2回ポータルフォーリオ (共著、平成24年2月、小児看護、へるす出版、35巻、2号、pp.252-255)

<実践報告書>1.JICA青年研修/感染症対策/マレーシア2009 帰国後2年後の状況調査 (共著、札幌市立大学)

<特許申請>1.知育用メカトロ融合型木製積木 (識別番号509180566) (平成23年10月)

<入選・受賞>1.転倒予防大賞2011実践部門特別賞 (平成23年10月、札幌市立大学・札幌市立桑園小学校)

<学会発表>1.光刺激を用いたディストラクションツールの開発と評価 (共同、平成23年8月、第42回日本看護学会母性看護・小児看護) / 2.看護OSCE: 学年別難易度の検証 (共同、平成23年8月、日本看護学教育学会第21回学術集会) / 3.小学校低学年児童を対象とした転倒予防の取組 (共同、平成23年10月、転倒予防研究会第8回研究集会) / 4.低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発 (共同、平成23年11月、第58回日本学校保健学会) / 5.看護OSCEにおける学年別難易度検証の視点、方法、体制、および教育改善への波及効果 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会) / 6.DEVELOPMENT OF MECHATRONIC-SYSTEM-EMBEDDED WOODEN TOYS BASED ON HOKKAIDO REGIONAL ORIGINALITIES (共同、平成23年11月、IASDR2011) / 7.Refreshers course, conducted in Japan, for sharing experiences and training in infection control among Malaysian young nurses: Programme evaluation using Project Cycle Management (PCM) method (共同、平成24年2月、15th EAFONS 2012)

<論文査読>1.日本小児看護学会誌 (1件、日本小児看護学会)

<学会の抄録査読>1.日本小児看護学会第21回学術集会講演集 (5件、日本小児看護学会) / 2.日本看護学教育学会第21回学術集会講演集 (5件、日本看護学教育学会) / 3.第12回全国病弱教育研究会 (3件、全国病弱教育研究会)

<所属学会・研究会等>日本小児看護学会/日本小児保健学会/日本看護科学学会/日本看護研究学会/日本看護学教育学会/日本学校保健学会/日本行動療法学会/日本母性衛生学会

<専門職支援・セミナー講師等>臨床指導者研修会: 臨床指導者研修 I (5月9日、看護師、札幌市病院局市立札幌病院) / 臨地指導者研修会: 臨地指導者研修 (6月9日、看護師、北海道看護協会) / 看護研究研修会: 看護研究研修 (5月31日~12月6日、看護師、KKR札幌医療センター) / 新人看護師研修会: 新人看護師研修 (9月29日、新人看護研修企画者、北海道自治体病院協議会) / 学校歯科研修会: 小児の生活習慣と健康 (9月3日、歯科医師、札幌歯科医師会) / 看護教育FDマザーマップ開発専門家会議 (委員)

<マスメディア掲載実績>楽しく脚力、平衡感覚強化 転倒予防マット運動 桑園小などと開発 (平成23年10月21日、北海道医療新聞、朝刊) / 『先天性股関節脱臼の予防と早期発見』に関わる現地視察 (平成24年3月14日、Daily News Mongolia、朝刊)

大野 夏代

<学術論文>1.OSCE実施時に評価者が「採点しにくい」と感じた理由 (共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻1号、pp.11-18)

<著書>1.看護OSCE「フィードバックの仕方」(共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.54-56) / 2.看護OSCE「基礎看護学」(メヂカルフレンド社、pp.121-130) / 3.看護OSCE「卒業前の統合OSCE」(メヂカルフレンド社、pp.216-221)

<調査研究報告書>1. Follow-up Evaluation Study on Training Programme for Malaysian Young Leaders on Infectious Disease Control in 2009 Implemented Jointly by JICA and Sapporo City University (SCU) (共著、平成24年3月、札幌市立大学、pp.1-25)

<その他の論文>1.看護師人生と「お金」の話-「お金」のこと関心ありますか(単著、平成23年10月、達人ナース日総研、32巻、6号、pp.103-105) / 2.看護師人生と「お金」の話-看護師の転職と「お金」の話(単著、平成23年12月、達人ナース日総研、33巻、1号、pp.124-126) / 3.看護師人生と「お金」の話-看護師人生と資産形成(単著、平成24年2月、達人ナース日総研、33巻、2号、pp.111-113) / 4.臥床患者の安楽を促進する技術としての指圧を取り入れたマッサージ(共著、平成23年9月、達人ナース日総研、32巻、5号、pp.20-25) / 5.OSCE実施の流れと実施の評価(共著、平成23年4月、看護展望、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.19-26) / 6.OSCE課題の質およびカリキュラムとの整合性を高める取り組み(共著、平成23年4月、看護展望、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.13-18) / 7.OSCE課題の作成および評価内容・評価基準の設定(共著、平成23年4月、看護展望、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.9-12) / 8.諸外国における看護技術としての指圧マッサージの活用状況に関する文献検討(共著、平成24年1月、日本看護技術学会、10巻、3号、pp.39-43)

<学会発表>1.看護OSCE学年別難易度の検証(共同、平成23年8月、日本看護学教育学会第21回学術集会) / 2.The perception of students who experienced OSCE-from the interview survey of participant students(共同、平成23年10月、The 8th International Nursing Conference) / 3.看護OSCEにおける学年別難易度検証の視点、方法、体制、および教育改善への波及効果(共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会) / 4.Refreshers course, conducted in Japan, for sharing experiences and training in infection control among Malaysian young nurses: Programme evaluation using project cycle management (PCM) method(共同、平成24年2月、15th East Asian Forum of Nursing Scholars) / 5.看護OSCEにおける学生の自己効力感と関連要因の検討(共同、平成23年10月、日本看護学会看護教育)

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会 / 日本看護研究学会 / 国際看護研究会 / 日本看護学教育学会 / 国際看護交流協会 / 日本国際保健医療学会 / 日本渡航医学会 / 日本人間工学会 / 日本人間工学会看護人間工学部会 / 看護における指圧マッサージ研究会

<地域貢献諸活動>看護師によるマッサージボランティア活動(平成23年6月~平成24年3月、手稲溪仁会病院、手稲溪仁会病院ボランティア)

<専門職支援・セミナー講師等>市立札幌病院看護研究指導:市立札幌病院看護研究指導(平成23年4月~平成24年3月、市立札幌病院看護部看護課看護職員看護研究グループ、23年度就業力GP大学・病院人財育成・連携協力プロジェクト) / 臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座:臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座(平成23年8月29日、看護職、札幌市立大学専門講座) / 新入職看護職員の面談:新入職看護職員の面談(平成23年6月2日・7月31日・10月6日・11月10日、新入職看護職員、IMSグループ)

<マスメディア掲載実績>「先天性股関節脱臼の予防と早期発見」に関わる現地視察(平成24年3月14日、Daily News Mongolia、朝刊)

清水 光子

<学術論文>1.OSCE実施時に評価者が「採点しにくい」と感じた理由(共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.11-18) / 2.育児支援が必要な家族への保健師のケアマネジメントの過程と構造(単著、平成24年3月、札幌医科大学、1号、p.139)

<著書>1.看護OSCE(共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.60-65、pp.70-71、pp.197-201)

<書評>1.スマイル・コミュニケーション(単著、平成24年2月、札幌市立大学 のほほん、5号、p.7)

<学会発表>1.育児支援を必要とする家族の把握の方法と支援対象の判断（共同、平成23年10月、日本公衆衛生学会）／2.The Perception of Student who Experienced OSCE – From the Interview Survey of Participant Students（共同、平成23年10月、International Nursing Conference）／3.看護OSCEにおける学生の自己効力感と関連要因の検討（共同、平成23年10月、日本看護学会）／4.看護管理者と指導者からみた新人看護師の看護実践能力と教育側に期待すること（共同、平成23年12月、日本看護科学学会）／5.Refreshers course, conducted in Japan, for sharing experiences and training in infection control among Malaysian young nursing officers：（共同、East Asian Forum of Nursing Scholars）

<所属学会・研究会等>日本公衆衛生学会／北海道公衆衛生学会／日本地域看護学会／日本看護科学学会／北海道公衆衛生セミナー

<地域貢献諸活動>桑園地区ボランティア「桑園地区文化祭」（10月15日・16日、桑園連合町内会、桑園地区連合町内会）／桑園地区ボランティア「桑園地区文化祭」の設営（10月15日、桑園連合町内会、7名）／桑園地区ボランティア「桑園地区文化祭」（10月16日、桑園連合町内会、7名）

<社会における活動>札幌市地域包括支援センター運営協議会委員（札幌市）／社会福祉法人 札幌市中央区社会福祉協議会評議員（札幌市）／札幌市中央区桑園地区民生委員・児童委員推薦準備会委員（札幌市）

<専門職支援・セミナー講師等>地域包括支援センター・介護予防センター 平成23年度評価事業調書作成支援：地域包括支援センター・介護予防センター 平成23年度評価事業調書作成支援（平成24年1月4日、札幌市介護保険課職員、札幌市介護保険課）

守村 洋

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.21-23）

<調査研究報告書>1.平成23年度札幌市自殺未遂者実態調査（平成24年3月、山藤三陽印刷）

<その他の論文>1.来院した自殺未遂患者へのケア Q&A – 実践編2011 –（平成23年8月、へるす出版）／2.特集 学生の看護実践能力を育てるOSCEの導入『II OSCE課題の作成および評価内容・評価基準の設定』（平成23年5月、看護展望、36巻、6号、pp.9-12）／3.特集 学生の看護実践能力を育てるOSCEの導入『III OSCE課題の質およびカリキュラムとの整合性を高める取り組み』（平成23年5月、看護展望、36巻、6号、pp.13-18）／4.特集 自殺企図患者へのアプローチ Q&Aと取り組み例で学ぶ救急ナースの役割『アプローチを学ぶ、その前に（2）看護師が抱えるジレンマへの備えと答え』（平成23年11月、EMERGENCY CARE、24巻、11号、pp.17-21）／5.特集2 SP（模擬患者）を効果的に活用した教育デザイン『SPを活用した参加型授業・実習の展開と効果 ～「援助的人間関係論」と「成人看護技術論」を例に』（平成23年10月、看護人材教育、8巻、4号、pp.87-94）

<解説文>1.のほほん 背中を押された言葉（平成24年2月、5号、p.9）

<学会発表>1.『精神疾患患者に対する痛みのアセスメント方法に関する検討』（共同、平成23年10月、第10回日本看護技術学会学術集会）／2.『精神看護学におけるシミュレーション教育 – SP導入の影響 –』（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／3.『札幌市における2次および3次救急医療機関へ搬送される自殺未遂者の現状』（共同、平成23年12月、第35回日本自殺予防学会総会）

<シンポジウム>1.病'縁'化社会のゆくえ – 新たな〈絆〉ネットワークングにむけて『精神に障害を抱える人にとって、精神医療とは精神保健福祉とは』（共同、平成23年6月、第59回北海道社会学会）

<学会の抄録査読>1.第42回日本看護学会抄録集精神看護2011（15件、日本看護学会）

<所属学会・研究会等>産業保健師メンタルヘルス研究会／第14回日本臨床救急医学会総会・学術集会／日本精神保健看護学会第21回総会・学術集会／日本精神保健看護学会第22回総会・学術集会／日本看護学教育学会第21回学術集会／第31回日本看護科学学会学術集会

<地域貢献諸活動>精神障害者当事者会の運営活動に対する助言指導および相談業務（平成23年度、NPO法人すみれ会）／企画運営および参画（平成23年度、さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会、さっぽろ・こころの健康まつり）

<社会における活動>札幌市社会福祉総合センター運営委員会（札幌市）／札幌市地域福祉権利擁護

事業（札幌市）

<専門職支援・セミナー講師等>研究支援（3病棟）：「整形外科病棟におけるせん妄対策」「緩和ケア病棟に入院後短期間で看取りになる終末期がん患者への看護ケアに対する家族の満足度」「ICUにおける腹臥位による排痰援助の検証」（平成23年度、勤医協中央病院4東、ホスピス、ICU、勤医協中央病院）／精神看護学臨地実習を受けるにあたって：精神看護学臨地実習を受けるにあたって（平成23年4月28日、札幌鈴木病院看護スタッフ、札幌鈴木病院）／札幌市障がい児（者）医療・福祉複合施設整備アドバイザー業務（平成24年2月～平成24年10月、札幌市保健福祉局障がい福祉課）／講演「自傷行為への対応、自殺未遂の対応について」：自傷行為への対応、自殺未遂の対応について（平成23年7月10日、アルコール関連問題と自殺防止アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会）／医療情報技師能力検定試験：医療情報技師能力検定試験（平成23年8月21日、日本医療情報学会）
<マスメディア掲載実績>障害をもった白石区在住姉妹餓死事件へのコメント（1月23日、STVどさんこワイド）／うつ（9月、北海道新聞社、朝刊）

山田 典子

<学術論文>1.DV被害の看護観察項目と初期対応の課題（単著、平成24年3月、東京医科歯科大学大学院）／2.情報処理演習科目における学習者の負担感とモチベーションの関連について。（共著、平成23年12月、大学ICT推進協議会2011雑誌（491-495頁））／3.裁判員裁判と性犯罪被害者支援のあり方（共著、平成23年12月、青森県立保健大学雑誌、12巻）／4.性暴力被害にあった中学生に対する関係機関の話し合い SARTへの第1歩（単著、性とこころ（1884-7005）3巻1号 Page125-131）
<著書>1.児童虐待とネグレクト対応ハンドブック（共著、平成24年2月、明石書店 全690頁）
<学会発表>1.セーフコミュニティ活動における市民ボランティアの目的意識形成過程（共同、平成23年10月、第70回日本公衆衛生学会）／2.住民が市民に変わる過程 セーフコミュニティ活動実践の成果（共同、平成23年10月、第4回日本ヒューマンケア科学学会）／3.保健師教育の技術項目と卒業時の到達度を用いた自己チェックの有用性の検討（共同、平成23年10月、第70回日本公衆衛生学会）
<地域貢献諸活動>災害地における性暴力被害の防止にかかるSANE活動（NPO法人女性の健康と安全のための支援教育センター）／地域の精神障害者のDV、性虐待相談（NPO法人ウィメンズネット青森）／震災後の女性・子ども応援プロジェクト（災害時の性暴力・DV防止ネットワーク）／パープル電話相談員（全国規模のホットライン電話相談）（内閣府相談支援事業）／桑園地区センターまつり（桑園地区衛生委員会）
<社会における活動>青森市100人会議（青森県青森市）／十和田市SCオブザーバー（青森県十和田市）
<所属学会・研究会等>日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本健康教育学会、日本セーフティプロモーション学会、日本「性とこころ」関連問題学会、日本嗜癖行動学会、日本災害看護学会

吉川 由希子

<著書>看護OSLE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.100-115、155-163）
<学術論文>1.保育所・幼稚園・認定こども園などの施設及び保育士、幼稚園教諭養成校における感染症の予防に関する研究（共著、平成24年1月、小児保健研究、71巻、1号、pp.92-100）／2.看護基礎教育における模擬患者養成プログラムの実際とその検証（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.3-10）／3.OSCE実施支援プログラムの開発と運用（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.37-48）
<その他の論文>1.小児看護の基礎教育と新人研修の活性化と実質化のために～第2回 ポートフォリオとは（共著、平成24年2月、小児看護、35巻、2号、pp.252-255）／2.SPを活用した参加型授業・演習の展開と効果～「援助の人間関係論」と「成人看護技術論」を例に（共著、平成23年10月、看護人材教育、8巻、4号、pp.87-94）
<入選・受賞>1.転倒予防大賞2011実践部門特別賞（平成23年10月、第8回転倒予防医学研究会）

<学会発表>1.看護基礎教育における取り組み 模擬患者を活用した授業の実践例（共同、平成23年10月、第13回日本救急看護学会学術集会）／2.低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットの開発（共同、平成23年11月、日本学校保健学会）／3.Children's Decision Making on Health Care（共同、平成24年2月、The 15th EAFONS）

<招聘講演>1.保育の現場で多く遭遇する症状の観察ポイント（平成23年5月、日本医療保育学会北海道・東北ブロック研修会）

<論文査読>1.札幌市立大学研究論文集（1件）

<所属学会・研究会等>小児保健学会／日本看護研究学会／日本家族看護学会／日本小児看護学会／日本看護科学学会／日本学校保健学会／日本母性衛生学会／日本助産学会／日本看護学教育学会／全国病弱教育研究会

<地域貢献諸活動>札幌市立大学活動紹介コーナー 子どものための転倒予防マットの展示（10月1日、けんこうフェスタinちゅうおう実行委員会、けんこうフェスタinちゅうおう実行委員会）／がんばれ共和国 キャンプボランティア（看護師）（6月24日～27日4日間、難病のこども支援全国ネットワーク）／糖尿病サマーキャンプ 看護師ボランティア（8月6日～9日4日、北海道つぼみの会）／ウインタープレキャンプ 看護師ボランティア（平成24年2月10日～13日4日間、そらぶちキッズキャンプ）

<専門職支援・セミナー講師等>子どもの未来を育む ワークショップ2のコーディネーター：地域・家族を育む：在宅患児の支援（10月15日、看護・保健・医療関係者、北海道成育看護研究会）／看護研究の指導／看護研究の論文作成指導／研究学会の論文指導／札幌市障がい児（者）医療・福祉複合施設整備アドバイザー業務（平成24年2月～平成24年10月、札幌市保健福祉局障がい福祉課）

菊地 ひろみ

<著書>看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.188-196）

<その他の論文>1.ITを用いた遠隔看護支援システムE-KANGO（共著、平成24年2月、コミュニティケア、日本看護協会出版会、14巻、1号、pp.50-58）

<特許申請>1.通信システム、通信方法、およびプログラム（平成23年9月）

<学会発表>1.Structural equation modeling of contributing factors to quality of life in Japanese patients with multiple sclerosis（共同、平成23年10月、ECTRIMS 2011）2.E-KANGO 道内自治体におけるシミュレーションと評価第2報（共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会）／3.E-KANGO 道内自治体におけるシミュレーションと評価第1報（共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会）／4.E-KANGO 道内自治体におけるシミュレーションと評価第3報（共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会）／5.在宅療養支援診療所の看護師の役割に関する他職種の認識（共同、平成24年3月、日本在宅ケア学会）

<論文査読>1.札幌市立大学研究論文集（1件）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本難病看護学会／日本在宅ケア学会／日本在宅看護学会／日本ルーラルナーシング学会／日本プライマリケア学会／北海道公衆衛生学会

<地域貢献諸活動>学生と共に桑園地区ボランティア活動の組織・参加（平成23年4月～11月、札幌市立大学、桑園地区連合町内会）

<専門職支援・セミナー講師等>訪問看護スキルアップ講座（全2回）の企画・運営：在宅医療機器とケア講座、認知症と栄養（平成23年5月・11月、訪問看護師、札幌市立大学）／訪問看護師養成講習講師（平成23年10月、北海道看護協会）／潜在看護師復職支援講師：在宅看護の実際（平成23年9月）／市内病院看護研究指導

櫻井 繭子

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.197-201）

<学会発表>1.A大学卒業生の就業時到達度に対する職場適応力と看護キャリア形成の実態（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／2.学年別OSCE（Objective Structured Clinical

Examination) と卒業時点での「就業力」との関係(共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会)

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会/日本産業衛生学会/日本産業精神保健学会/日本地域看護学会/日本公衆衛生学会/北海道公衆衛生学会/日本看護研究学会/日本精神保健看護学会

<地域貢献諸活動>組織運営(法人理事・庶務担当)、健康相談事業相談員(4月1日～3月31日、NPO法人こころ)

<専門職支援・セミナー講師等>研究支援:大学・病院連携プロジェクト(4月1日～3月31日、看護師、札幌市立大学)/北海道産業看護研修会、実務研修会の企画・運営・ファシリテーター:日本産業衛生学会北海道地方会看護部会 北海道産業看護研修会(10月29日、産業看護職、日本産業衛生学会北海道地方会看護部会)/日本産業衛生学会北海道地方会看護部会 実務研修会(2月27日、産業看護職、日本産業衛生学会北海道地方会看護部会)

菅原 美樹

<著書>1.看護OSCE(共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.45-49)

<調査研究報告書>1.看護教育におけるOSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発(平成23年4月、平成20～22年度科研費研究成果報告書)

<その他の論文>1.OSCE実施の流れと実施後の評価「看護展望」(共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.19-26)

<学会発表>1.看護基礎教育における取り組み:看護実践能力を高める育てるOSCE実践例(単独、平成23年10月、第13回日本救急看護学会学術集会)/2.A大学看護学部とB病院の人材育成連携活動における成果と課題(共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会)

<論文査読>1.日本救急看護学会雑誌第13巻2号(1件、日本救急看護学会)/2.日本クリティカルケア看護学会誌第7巻3号(1件、日本クリティカルケア看護学会)/3.札幌市立大学研究論文集第6巻第1号(1件、札幌市立大学)

<学会の抄録査読>1.日本看護学教育学会第21回学術集会講演集(4件、日本看護教育学学会)/2.第13回日本救急看護学会プログラム・抄録集(5件、日本救急看護学会)/3.第7回日本クリティカルケア看護学会学術集会プログラム・抄録集(5件、日本クリティカルケア看護学会)

<所属学会・研究会等>日本クリティカルケア看護学会/日本救急看護学会/日本看護科学学会/日本循環器看護学会/日本看護学教育学会/日本看護研究学会/日本災害看護学会/日本集中治療医学会/日本臨床救急医学会

<地域貢献諸活動>監事:委員会活動の監査・会計監査、第7回日本救急看護認定看護師会ブラッシュアップセミナー企画・運営(9月3日、日本救急看護認定看護師会、日本救急看護認定看護師会)

<社会における活動>「チーム医療推進のための大学病院職員の人材育成システムの確立」におけるペーパーレフェリー(文部科学省高等教育局)/文部科学省高等局「チーム医療推進のための大学病院職員の人材育成システムの確立」におけるペーパーレフェリー

<専門職支援・セミナー講師等>北海道保健師助産師看護師実習指導者講習会講師「看護過程」(6時間):北海道保健師助産師看護師実習指導者講習会「看護過程」(9月1日、9月5日、看護職、北海道保健福祉部)/JNTECプロバイダーコース:第51回JNTECプロバイダーコース(9月17日～18日、看護職、日本救急看護学会)/看護技術の達成度評価と考え方と実際:看護OSCEの方法と実際:「看護技術の達成度評価と考え方と実際:看護OSCEの方法と実際」(11月5日、看護教員、東京都看護系学校連絡協議会)

杉田 久子

<学術論文>1.看護学生による看護実践の知の語り(単著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.19-28)

<著書>1.イラストで理解する初めての介護 心と技術(共著、平成23年8月、中央法規、pp.170-177)/2.看護OSCE(共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.38-52)

<学会発表>1.卒業前看護学生の看護実践の「知」の語り－個人インタビューを通して－（共同、平成23年8月、日本看護学教育学会）／2.看護学生が語る「知」の表現－グループインタビューの分析から－（共同、平成23年12月、日本看護科学学会）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本クリティカルケア看護学会／日本集中治療医学会看護部会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／日本救急看護学会／日本看護技術学会／日本赤十字看護学会／千葉看護学会

<専門職支援・セミナー講師等>平成23年度札幌第一支部看護研究発表会総評（平成23年11月12日、看護協会会員、北海道看護協会）／勤医協中央病院研究指導、研究計画発表会および院内看護研究発表会 講評（平成23年9月21日、看護師、勤医協中央病院）（平成24年3月17日、看護師、勤医協中央病院）

田中 広美

<学術論文>1.OSCE評価者が「採点しにくい」と感じた理由（共著、平成24年3月、札幌市立大学、3巻、1号、pp.11-18）

<その他の論文>1.呼吸器・循環器急性期ケア クリティカルケア領域における看護倫理（単著、平成23年4月、日総研出版、11巻、1号、pp.59-62）／2.学生の看護実践能力を育てるOSCEの導入（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.19-26）

<学会発表>1.看護系書籍における注射技術の状況（共同、平成23年12月、日本看護科学学会）／2.看護OSCEにおける学生の自己効力感と関連要因の検討（共同、平成23年10月、第8回国際看護学会）／3.看護実践能力評価のためのOSCEと学生の自信（共同、平成23年7月、日本看護協会）

<論文査読>1.札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学紀要）

<学会の抄録査読>1.新人看護師に対する学習支援プログラムの有用性の検討他（12件、日中韓看護学会）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護歴史学会／日本看護研究学会

<専門職支援・セミナー講師等>研究指導、発表会での助言（中間・最終）：高齢患者が病状変化した時の家族への病状説明における看護師の反応～病状説明の振り返りから～（平成23年6月～平成24年3月、2病棟）／北海道勤医協西区病院 中間発表、最終発表会講評（平成22年8月・平成23年2月、2～5病棟、外来、訪問看護）

藤井 瑞恵

<学術論文>1.OSCE評価者が『採点しにくい』と感じた理由－1・2年生のOSCE評価者アンケートから（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.11-18）

<著書>1.第Ⅲ章 各学年、領域におけるOSCEの実施 2年次成人看護学『看護OSCE』（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.131-142）／2.領域におけるOSCEの実施 3年次成人看護学『OSCE』（平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.143-154）／3.第Ⅱ章 看護OSCEの方法 2.OSCEの実施 フィードバックの実際『看護OSCE』（平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.60-71）

<解説文>1.学生の看護実践能力を育てるOSCEの導入 OSCEの流れと実施後の評価（共著、平成23年4月、雑誌 看護展望、医学書院、136巻、6号、pp.531-538）／2.口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査（共著、平成24年3月、ベストナース、北海道医療新聞社、2012、4号、pp.60-61）

<学会発表>1.The Perception of Students who Experienced OSCE -from the Interview Survey of Participant Students-（共同、平成23年10月、Scientific Committee of the 8th International Nursing Conference）／2.A大学看護学部とB病院の人材育成連携活動における成果と課題～チーム・プロセスに焦点をあてて～（共同、平成23年12月、日本看護科学学会第31会学術集会）／3.地域一般男性住民における飲酒とインスリン抵抗性との関連－端野・壮瞥町研究－（共同、平成24年1月、日本疫学会第22回学術総会）／4.Refreshers course, conducted in Japan, for sharing experiences and training in infection control among young Malaysian nurses : Programme evaluation using project cycle

management (PCM) method (共同、平成24年2月、15thEast Asian Forum of Nursing Scholars)
 <学会の抄録査読>1.第16回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集 Vol.15特別号 (7件、糖尿病教育・看護学会)

<専門職支援・セミナー講師等>道内看護専門学校教員約100名の会員向け研修1回、講演1回を企画運営した：研究デザインと研究計画：講師松浦和代先生 (4月16日、看護教員、北海道看護教育研究会) / 研究支援：ナイチンゲールと未来をつなぐ看護：講師川島みどり先生 (7月17日、看護教員、北海道看護教育研究会)

<マスメディア掲載実績>疫学循環サイト：学会報告「端野・壮瞥町研究」1日14-25gの飲酒はインスリン抵抗性リスク低下と関連 (2月中旬、http://www.epi-c.jp/entry/e800_0_jea2012.html#14th)

村松 真澄

<学術論文>1. Self-assessed masticatory ability and hospitalisation costs among the elderly living independently. (共著、平成23年6月、J Oral Rehabil. 2011; 38 : 321-7.、38巻、pp.321-327)

/ 2. Relationships between perceived chewing ability and muscle strength of the body among the elderly. (共著、平成23年6月、J Oral Rehabil. 2011; 38 : 674-679.、38巻、pp.674-679)

/ 3. Associations between self-assessed masticatory ability and higher brain function among the elderly. (共著、平成23年6月、J Oral Rehabil. 2011; 38 : 746-753.、38巻、pp.746-753) /

4. Relationships between Geriatric Oral Health Assessment Index scores and general physical status in community-dwelling older adults. (共著、平成23年11月、Gerodontology.、10.1111/j.1741-2358.2011.00597.x.) / 5. Factors associated with self-assessed masticatory ability among community-

dwelling elderly persons. (共著、平成24年3月、Community Dent Health.、29巻、1号、pp.39-44) / 6. Relationships between self-assessed masticatory ability and higher-level functional

capacity among community-dwelling young-old persons. (共著、平成24年3月、International Journal of Gerontology.、6巻、1号、pp.33-37)

<著書>1.看護OSCE (共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.170-176) / 2.口腔ケアガイド (共著、平成24年3月、文光堂、pp.28-35)

<調査研究報告書>1.平成23年度札幌市立大学共同研究費研究「北海道の介護保険施設の口腔ケアに対する看護管理的取り組みについての実態調査」 (平成24年2月)

<その他の論文>1.水のいらない口腔ケア① (単著、平成23年6月、北海道医療新聞社、ベストナース、22巻、6号、p.38) / 2.水のいらない口腔ケア② (単著、平成23年7月、北海道医療新聞社、ベストナース、22巻、7号、p.57) / 3.口腔アセスメントガイドの活用と実践編集 (単著、平成24年1月、看護技術メヂカルフレンド社、看護技術、58巻、1号、pp.1-51) / 4.口腔水分計ムーカスの可能性を探る 歯科医師から提案する口腔水分計を使用した看護研究の勧め-口腔ケアのEBMをつくる-

(単著、平成23年9月、デンタルプロダクトニュース190号、190巻、1号、pp.12-13) / 5.上部消化管内視鏡検査を受ける患者への芳香浴を試みて~アロマセラピー導入前後のリラクゼーション効果の検討 (共著、平成24年1月、北海道医療新聞社、ベストナース、23巻、1号、pp.65-67) / 6.老年看護学実

習における看護学生の高齢者イメージの変化-地域健康高齢者を対象とした実習 I 及び虚弱高齢者を対象とした実習 II 前後の比較 (共著、平成24年1月、第42回日本看護学会論文集老年看護、42巻、pp.151-154) / 7.はじめに：口腔ケアの現状と課題 (単著、平成24年1月、看護技術メヂカルフレンド社、看護技術、58巻、1号、p.1) / 8.2.Eilers口腔アセスメントガイドと口腔ケアプロトコール (単著、平成24年1月、看護技術メヂカルフレンド社、看護技術、58巻、1号、pp.12-16) / 9.3.口腔ケア

プロトコールで活用する口腔ケアの基本技術 (単著、平成24年1月、看護技術メヂカルフレンド社、看護技術、58巻、1号、p.17)

<学会発表>1.「OSCE課題を用いた老年看護実践能力の評価-平成21年度課題の実施状況及び成績の分析-」 (共同、平成23年6月、第16回日本老年看護学会) / 2.「A大学老年看護学臨地実習を履修した学生による実習評価-2009年度と2010年度との比較」 (共同、平成23年6月、第16回日本老年看護学会) / 3.「地域自立高齢者のOral Assessment Guide (OAG) と主観的幸福感との関連性」 (共

同、平成23年6月、第8回日本口腔ケア学会) / 4. 上部消化管内視鏡検査を受ける患者への芳香浴を試みて～アロマセラピー導入前後のリラクゼーション効果の検討 (共同、平成23年7月、北海道看護協会第3支部看護研究発表会) / 5. 老年看護学実習における看護学生の高齢者イメージの変化～地域健康高齢者を対象とした実習Ⅰ及び虚弱高齢者を対象とした実習Ⅱ前後の比較 (共同、平成23年7月、第42回日本看護学会看護総合) / 6. 手術室看護師のラテックスアレルギーに関する認識調査 (共同、平成23年9月、第42回日本看護学会看護総合) / 7. 新人看護師へのメンタルフォローの取り組み～新人支援看護師による支援を通して～ (共同、平成23年10月、第42回日本看護学会看護管理) / 8. 事業所で働く事務系労働者の口腔保健に関する実態調査 (共同、平成23年10月、第70回日本公衆衛生学会) / 9. 学年別OSCEと老年看護学領域の看護実践力の評価～平成22年度課題の実施状況及び成績の分析～ (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会) / 10. A大学卒業生の就業時到達度に対する職場適応力と看護キャリア形成の実態 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会) / 11. 地域自立高齢者の安静時唾液分泌能に関連する因子の検討 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会)

<シンポジウム> 1. 看護管理として口腔アセスメントの統一と教育 (単独、平成23年6月、第8回日本口腔ケア学会) / 2. 口腔ケアに関する看護師の意識調査 (共同、平成23年6月、第8回日本口腔ケア学会)

<論文査読> Gerodontology、1件

<学会の抄録査読> 1. 第21回日本看護学教育学会、2件

<所属学会・研究会等> 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会評議員 / 認定士 / 日本口腔ケア学会 / 評議員 / 口腔ケア学会指導者 / 日本看護科学学会 / 日本老年歯科医学会 / 日本看護研究学会 / 日本公衆衛生学会 / 認定専門家 / 日本老年看護学会 / 日本がん看護学会 / 日本口腔科学会 / 北海道歯学会 / 日本公衆衛生学会 / 日本看護管理学会 / 日本医療・病院管理学会 / 北海道口腔ケア研究会 / 北海道プライマリー研究会 / 日本口腔看護研究会世話人 / 歯科ラクトフェリン研究会 / ドライマウス研究会 / 日本口腔ケア協会 役員

<地域貢献諸活動> 学生と一緒に参加して健康に関する企画・運営および手洗い講座の企画・運営と当日リーダーをした (9月11日、ミニ大通りお散歩祭り実行委員会、第2回ミニ大通りお散歩祭り) / 学生と一緒に口腔ケアの講座の企画・運営を実施した (9月25日、NPO炭抗の記憶推進事業団、夕張清水沢アートプロジェクト) / 学生と一緒に参加して健康祭りの当日スタッフとしてボランティアをした (7月20日、社会福祉法人札幌市福祉事業団、はつらつ健康祭り) / 学生と一緒に口腔ケアの講座を企画実施した (8月31日、健康セミナー)

<社会における活動> 北海道看護協会札幌第一支部看護職能委員長、旭川口腔ケア普及研究会幹事 (上川中部地域歯科保健推進協議会)、在宅療養支援薬局研究会幹事

<専門職支援・セミナー講師等> 看護研究支援：看護研究支援 (1年間、看護師、徳洲会病院) / 札幌第一支部看護職能委員会及び研修会企画運営開催：研究会の企画運営 (1年間、看護師、北海道看護協会) / 看護職能委員長として看護師向けの講演会の企画運営を実施した (9月24日、北海道看護協会) / 第10回口腔ケアセミナーの開催：研究会の企画運営 (5月14日、医療関係者、北海道口腔ケア研究会) / 10周年記念講演会：地域で取り組む口腔ケア～看護師から見た口腔ケア (5月21日、医療関係者、食と健康支援ネットワーク) / 口腔ケア認定制度立ち上げと口腔ケア研修会：看護師が行う簡単で効率的な口腔ケア「基礎編」 (8月1日、看護師、砂川市立病院) / 口腔ケアシステム立ち上げと口腔ケア研修会：どうして口腔アセスメントとプロトコルが必要か (8月19日、看護師、東京医科大学病院) / 看護師および介護士の倫理教育研修会、口腔ケア研修会：倫理的視点にもとづいた看護・介護を提供するため、看護倫理とは何かを学ぶ、安心、安全!快適!口腔ケア!! (平成24年3月13日・28日、医療関係者、愛全病院看護部) / 講演会第4回 一般社団法人 在宅療養支援薬局研究会シンポジウム 「JHP発・多職種連携医療を考える」：看護師からみた口腔ケア 患者のQOLを上げるための口腔アセスメント (OAG) の共有 (8月27日、医療関係者)

<マスメディア掲載実績> 夕張での札幌市立大学看護学部3年生の健康セミナーが紹介された (ベストナース2011.12) / 札幌市立大学看護学部地域交流ボランティアの口腔ケアセミナーが紹介された (ベストナース2011.11) / 札幌市立大学看護学部地域交流ボランティアのミニ大通り祭りの手洗いセミナーが紹介された (ベストナース2011.11) / 北海道看護協会札幌第一支部看護職能で実施した

研修会が紹介された（バストナース2011.10）

山内 まゆみ

<調査研究報告書>1.学士課程の助産選択学生における職業準備行動とその関連要因（科研成果報告書）（共著、平成24年3月、札幌市立大学）／2.看護系大学卒業生のキャリアに関する実態調査（共著、平成24年3月、札幌市立大学）

<その他の論文>1.B医科大学医学部看護学科で助産師基礎養育を受けた卒業生の「基本的助産業務に必須な能力（国際助産師連盟：ICM）（1999）の実態報告（共著、平成23年8月、北海道母性衛生学会、40巻、1号、pp.51-57）

<学会発表>1.施設まで長距離移動を要する妊産婦に発生した問題と対応上の困難（共同、平成23年9月、日本母性衛生学会）／2.助産学生と医療関係の職業を目指す学生の職業準備行動に関する調査報告 縦断的調査から（共同、平成23年9月、日本母性衛生学会）／3.母性看護学における客観的臨床能力試験を用いた教育の課題（共同、平成23年9月、北海道母性衛生学会）／4.助産師教育における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの試み（共同、平成23年9月、日本母性衛生学会）／5.看護系大学を卒業した看護職者の職業準備行動の実態報告（共同、平成23年8月、日本看護研究学会）／6.the relation between consciousness and action about weaning and breastfeeding of mothers with 4-month infants（共同、平成23年6月、ICM 29th triennial congress）

<論文査読>1.札幌市立大学研究論文集 第6巻 第1号（1件）

<所属学会・研究会等>日本看護研究学会／日本看護科学学会／日本母性衛生学会／日本地域看護学会／日本母性看護学会／北海道母性衛生学会／日本母乳の会研究会／日本助産学会

<社会における活動>北海道看護協会助産師職能委員

<専門職支援・セミナー講師等>連携病院の研究活動支援／北海道看護協会助産師職能委員

山本 真由美

<学会発表>1.母性看護学における客観的臨床能力試験を用いた教育の課題（共同、平成23年9月、北海道母性衛生学会）／2.助産師教育における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの試み（共同、平成23年9月、日本母性衛生学会）／3.看護管理者と指導者からみた新人看護師の看護実践能力と教育側に期待すること（共同、平成23年12月、日本看護科学学会）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本助産学会／日本母性衛生学会／日本看護管理学会／北海道母性衛生学会

<社会における活動>北海道看護協会教育委員

<専門職支援・セミナー講師等>看護研究支援：看護研究計画書の作成（平成23年5月12日、看護研究対象者、北海道がんセンター）／看護研究発表会講評（平成24年3月1日、看護研究対象者、北海道がんセンター）／研修運営：臨地実習指導者－学生を受けとめて－（平成23年6月9日～10日、看護職、北海道看護協会）／高齢者ケアの視点で考える転倒転落研修会（平成23年8月9日～10日、看護職、北海道看護協会）／退院に向けて地域ネットワークを活用しよう－地域連携パスの実践例から学ぶ－（平成23年12月3日、看護職、北海道看護協会）／研修会企画：臨地実習指導者研修（平成24年度、看護職、北海道看護協会）／認知症ケア研修会（平成24年度、看護職、北海道看護協会）／地域連携パス研修会（平成24年度、看護職、北海道看護協会）

渡邊 由加利

<学術論文>1.看護基礎教育における模擬患者養成プログラムの実際とその検証（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.3-10）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.100-113、pp.164-169）

<その他の論文>1.OSCEにおける模擬患者への支援と模擬患者によるフィードバック（共著、平成23年5月、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.27-31）／2.看護版OSCEのための模擬患者教育（共著、平成23年7月、医学書院、52巻、7号、pp.528-534）／3.大学において模擬患者をいかに活用する

か-OSCEを中心に（共著、平成23年8月、医学書院、52巻、8号、pp.586-592）

<学会発表>1.助産師教育における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの試み（共同、平成23年9月、日本母性衛生学会）／2.母性看護学における客観的臨床能力試験を用いた教育の課題（共同、平成23年9月、北海道母性衛生学会）／3.基礎看護教育における取組：模擬患者を活用した授業の実践例（共同、平成23年10月、日本救急看護学会）

<学会の抄録査読>1.日本看護学教育学会第21回学術集会抄録集（2件、日本看護学教育学会）／2.第26回日本助産学会学術集会抄録集（3件、日本助産学会）

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会／日本助産学会／日本看護教育学会／日本人間工学会／看護人間工学部会／母性衛生学会／北海道母性衛生学会

<地域貢献諸活動>模擬患者組織の支援（札幌市立大学看護学部模擬患者「桑の会」）

<専門職支援・セミナー講師等>臨床指導者研修会（平成23年5月、天使病院）／看護研究の方法（平成24年3月、桶谷式乳房管理法研讃会）／全国助産師教育協議会社会貢献委員会委員

太田 晴美

<学術論文>1.OSCE実施支援システムの開発と運用（共著、平成24年1月、札幌市立大学、6巻、1号、pp.37-48）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.87-93、pp.202-215）

<実践報告書>1.札幌市立大学の東日本復興支援活動（共著、平成24年1月、日本看護図書館協会誌、19巻、pp.99-103）

<学会発表>1.S大学卒業生のキャリア発達（共同、平成23年7月、日本看護学教育学会第21回学術集会）／2.災害看護を学習した看護師の思い-日常看護とのつながり-（共同、平成23年7月、第13回日本災害看護学会年次大会）／3.新人看護師の安全な看護実践に影響を与える要因（共同、平成23年9月、第42回日本看護学会看護管理）／4.災害看護に取り組む看護師支援に関する研究（単独、平成24年2月、第17回日本集団災害医学会総会）／5.東日本大震災活動報告-JMATと地元保健医療機関へ“つなぐ”支援活動（共同、平成24年2月、第17回日本集団災害医学会総会）／6.看護管理者と指導者からみた新人看護師の看護実践能力と教育側に期待すること-入職後半年の調査より（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会）

<所属学会・研究会等>日本看護管理学会／日本医療マネジメント学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本集団災害医学会／日本災害看護学会／日本臨床救急医学会

<専門職支援・セミナー講師等>看護研究指導連絡調整（平成23年4月～平成24年3月、北海道大野病院、看護部教育委員）／拡大防災委員会外部委員（平成23年4月～平成24年3月、勤医協中央病院）／災害支援派遣者支援（平成23年4月～平成24年3月、北海道民医連看護部）／研修講師：今から備えよう災害看護（平成23年11月11日、禎心会病院看護部）／東日本大震災の現状、アクションリサーチによる災害支援に携わる看護師育成（平成23年6月、北海道医療大学大学院看護福祉学研究所石垣ゼミ）／第20・21回日本集団災害医学会セミナー（平成23年7月、平成24年2月、災害医療関係者）／院内エマルゴ研修インストラクター（平成24年3月18日、手稲溪仁会病院）

神島 滋子

<学術論文>1.脳損傷者のための認知機能評価ツールの開発LOCFAS日本語版の臨床応用に向けて（単著、平成24年3月、札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士論文）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.93-95）

<その他の論文>1.OSCE課題の作成および評価内容・評価基準の設定（共著、平成23年5月、医学書院 看護展望、36巻、6号、pp.521-524）／2.OSCE課題の質およびカリキュラムとの整合性を高める取り組み（共著、平成23年5月、医学書院 看護展望、36巻、6号、525-530）／3.日常生活活動（ADL）自立への支援（単著、平成23年10月、メディカ出版 リハビリナース、26号、pp.108-117）／4.くも膜下出血患者の認知機能の回復過程の報告-The Levels of Cognitive Functioning Assessment Scale：LOCFASを利用して（共著、平成24年3月、日本脳神経看護研究学会誌、34巻、

2号、pp.161-166)

<書評>1.看護にいかせる海外文献この1本-入院脳血管障害患者の栄養摂取、栄養状態とリハビリテーションの効果 (単著、平成23年12月、メディカ出版 ブレインナーシング、27巻、12号、p.48)

<学会発表>1.Lifestyle and health-related factors that affect blood pressure of elderly who participate in senior citizens' clubs (共同、平成23年7月、The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing) /2.LOCFASを利用したくも膜下出血患者の高次脳機能の経過観察 (共同、平成23年10月、第38回日本脳神経看護研究学会) /3.脳損傷患者におけるLOCFAS日本語版の信頼性・妥当性の検討 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会)

<所属学会・研究会等>日本看護科学学会/日本看護研究学会/日本脳神経看護研究学会/日本高次脳機能障害学会/日本救急看護学会/日本クリティカルケア看護学会/日本慢性看護学会/日本看護学教育学会/国際リハビリテーション看護研究会/日本看護管理学会

<専門職支援・セミナー講師等>日本脳神経看護研究学会 北海道地方部会・研修会企画・運営：平成23年度総会・記念講演会・研究発表会 (平成23年5月、看護職、日本脳神経看護研究学会北海道地方部会) /脳神経領域におけるアセスメント-意識、運動、神経症状を把握するために：脳神経領域におけるアセスメント-意識、運動、神経症状を把握するために (平成23年11月、看護職、日本脳神経看護研究学会北海道地方部会) /フィジカルアセスメントセミナー：フィジカルアセスメントセミナー (平成23年7月、看護職、日本脳神経看護研究学会北海道地方部会) /保健師助産師看護師実習指導者講習会「看護過程」 (平成23年9月、看護職、北海道保健福祉局) /少人数職場交流会「検査科はどうでしょう～求められる検査室をめざして」：「検査科はどうでしょう～求められる検査室をめざして」 (平成24年1月1日、臨床検査技師、北海道臨床衛生検査技師会)

工藤 京子

<学術論文>1.看護基礎教育における模擬患者養成プログラムの実際とその検証 (共著、平成24年3月、札幌市立大学、6巻、1号、pp.3-10)

<著書>1.看護OSCE (共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.102-108)

<その他の論文>1.看護展望：看護教育へのOSCE導入 (共著、平成23年5月、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.27-31) /2.看護人材教育：SP (模擬患者) を効果的に活用した教育デザイン (共著、平成23年5月、日総研、8巻、5号、pp.87-94)

<学会発表>1.看護基礎教育における取り組み：模擬患者を活用した授業の実践例 (共同、平成23年10月、第13回日本救急看護学会学術集会)

<所属学会・研究会等>日本看護学教育学会/日本看護科学学会/日本呼吸ケア・リハビリテーション学会/日本看護研究学会/日本慢性看護学会/日本創傷治癒学会

<地域貢献諸活動>岩手県における災害ボランティア活動への参加 (6月8日～11日、遠野まごころネットワーク) /「職場体験学習」実習室体験 (8月31日、札幌市立高等学校、5名)

<専門職支援・セミナー講師等>在宅酸素患者への支援に対する新企画への相談と情報提供、助言：ipadを使ったHOT患者への支援 (8月4日、小山内大輔、薄木達也、株式会社エコモット) /看護研究計画書、看護研究成果発表への助言：院内看護研究計画書・研究発表会 (2月23日、札幌中央病院看護師、札幌中央病院看護部) /患者会の役員会への出席、相談助言など：定期役員会出席 (年間、北海道低肺の会)

多賀 昌江

<著書>1.看護OSCE (共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.93-95) /2.看護OSCE (平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.96-99) /3.看護OSCE (平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.164-169)

<その他の論文>1.看護展望 II OSCE課題の作成および評価内容・評価基準の設定 (共著、平成23年5月、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.9-12) /2.看護展望 III OSCE課題の質およびカリキュラムとの整合性を高める取り組み (共著、平成23年5月、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.13-18)

<特許申請>1.わが子のひつぎ（平成23年8月）

<学会発表>1.視覚的使いやすさ感の研究（共同、平成23年6月、デザイン学会春季大会）／2.視覚的使いやすさ感の研究－ジャー炊飯器を事例として－（共同、平成23年9月、第13回日本感性工学会大会）／3.死産児安置の為に「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン－第1報：医療現場のニーズと要求性能の検討－（共同、平成23年9月、第13回日本感性工学会大会）／4.死産児安置の為に「わが子のひつぎ」プロトタイプデザイン－第2報：要求性能に基づく設計と評価－（共同、平成23年9月、第13回日本感性工学会大会）／5.助産師教育における客観的臨床能力試験を用いた教育プログラムの試み（共同、平成23年11月、第52回日本母性衛生学会）／6.母性看護学における客観的臨床能力試験を用いた教育の課題（共同、平成23年9月、第41回北海道母性衛生学会学術講演会）／7.ジャー炊飯器の視覚的なつかいやすさ感研究（共同、平成23年11月、平成23年度人間工学会北海道支部大会）／8.交流セッション8 看護OSCE：学年別難易度の検証（共同、平成23年8月、日本看護教育学会第21回学術集会）／9.交流集会K23 看護OSCEにおける学年別難易度検証の視点、方法、体制、および教育改善への波及効果（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）

<所属学会・研究会等>日本助産学会／日本助産師会／文化人類学会／北海道民族学会／日本渡航医学会／国際看護研究会／日本母性衛生学会／北海道母性衛生学会／日本人間工学会／看護人間工学部会／日本看護科学学会／日本看護教育学会／日本感性工学会

<専門職支援・セミナー講師等>平成23年度北海道・東北ブロック総会・研修会運営

<マスメディア掲載実績>顔「死産した赤ちゃんのひつぎを開発した助産師」（9月22日、読売新聞9月22日朝刊総合面、朝刊）

鶴木 恭子

<学術論文>1.OSCE実施時に評価者が「採点しにくい」と感じた理由－1・2年生OSCE評価者アンケートの結果から（共著、平成24年3月、札幌市立大学、6巻、1号、pp.11－18）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.86－87）

<その他の論文>1.OSCE実施の流れと実施後の評価（共著、平成23年5月、メヂカルフレンド社、36巻、6号、pp.19－26）／2.臥床患者の安楽を促進する技術としての指圧を取り入れたマッサージ（共著、平成23年9月、日総研、32巻、5号、pp.20－25）

<学会発表>1.看護実践能力評価のためのOSCEと学生の自信・課題認識の関係（共同、平成23年9月、日本看護学会（教育学会））／2.S大学卒業生のキャリア発達－卒業後半年の実態調査より（共同、平成23年8月、日本看護学教育学会）／3.重曹を清拭剤として用いた場合の効果について（単独、平成23年10月、日本看護技術学会）／4.看護管理者と指導者から見た新人看護師の看護実践能力と教育側に期待すること－入職後半年の調査より（共同、平成23年12月、日本看護科学学会）／5.The Perception of Students who Experienced OSCE－From the Interview Survey of Participant Students（共同、平成23年10月、International Nursing Conference）

<所属学会・研究会等>日本看護研究学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護技術学会／日本人間工学会看護人間工学部会

<地域貢献諸活動>看護師によるマッサージボランティア（平成23年7月～平成24年3月、手稲溪仁会病院、手稲溪仁会病院ボランティア）

<専門職支援・セミナー講師等>専門職講座の企画・運営「臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座」：臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座（平成23年8月29日、看護者、札幌市立大学）／研究活動の支援：大学・病院連携プロジェクト（平成23年4月～平成24年3月、看護師、札幌市立大学）

照井 レナ

<学術論文>1.下腿骨折により入院した中年期にある患者の退院に向かう心理過程－折り合いという概念に着目して－（共著、平成23年4月、第41回日本看護学会論文集 地域看護、pp.309－311）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.188－196）

<特許申請>1.地方の住民生活のインフラとして機能する遠隔看護システムおよびその方法（特願

2011-213407号) (平成23年8月)

<学会発表>1.旧産炭地における在宅ケア従事者の自立型学習活動の支援プロセス (共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会 第6回学術集会) /2.E-KANGO 道内自治体におけるシミュレーションと評価-在宅療養者と保健師をつなぐ遠隔看護-第1報 在宅療養者による評価- (共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会 第6回学術集会) /3.E-KANGO 道内自治体におけるシミュレーションと評価-在宅療養者と保健師をつなぐ遠隔看護-第2報 担当保健師による評価- (共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会 第6回学術集会) /4.E-KANGO 道内自治体におけるシミュレーションと評価-在宅療養者と保健師をつなぐ遠隔看護-第3報 管理者による評価- (共同、平成23年10月、日本ルーラルナーシング学会 第6回学術集会) /5.Delaying the Progress of Dementia Conditions among Older Adults in Japan-Effects of an Activity Tool- (共同、平成24年3月、27th International Alzheimer's Disease Conference Interantional) /6.視覚的使いやすさ感の研究 ジャー炊飯器を事例として (共同、平成23年6月、日本デザイン学会第58回春季研究発表大会)

<所属学会・研究会等>日本公衆衛生学会/北海道公衆衛生学会/日本地域看護学会/日本在宅ケア学会/日本看護科学学会 第30回学術集会事務局/日本人間工学看護人間工学部会/日本人間工学会/日本プライマリケア学会/日本医療・病院管理学会/日本看護教育学会/北海道医療大学看護福祉学部学会/日本看護倫理学会/日本ルーラルナーシング学会

<専門職支援・セミナー講師等>会計：運営 (平成23年4月～平成24年3月、専門看護師・専門看護師申請準備者) /研究指導：研究指導 (平成23年4月～平成24年4月、看護職)

原井 美佳

<著書>1.看護OSCE (共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社、pp.170-176)

<調査研究報告書>1.北海道の介護保健施設において実践されている口腔ケアに関する看護管理的取り組みの実態調査 (概要) (共著、平成24年2月、札幌市立大学) /2.Follow-up Evaluation Study on Training Programme for Malaysian Young Leaders on Infectious Disease Control in 2009 Implemented Jointly by JICA and Sapporo City University (SCU) (共著、平成24年3月、札幌市立大学)

<その他の論文>1.日本建築学会技術報告集「札幌・福井における冬季入浴時の室温変化に伴う高齢者の血圧変化の実態調査」 (共著、平成23年6月、日本建築学会、17巻、36号、pp.569-572) /2.日本老年泌尿器科学雑誌「寒冷地に居住してきた高齢女性の尿失禁リスク要因の解明」 (単著、平成23年11月、医学図書出版(株)、p.24) /3.第42回日本看護学論文集 老年看護「老年看護学実習における看護学生の高齢者イメージの変化-地域健康高齢者を対象とした実習Ⅰ及び施設内虚弱高齢者を対象とした実習Ⅱ前後の比較」 (共著、平成24年1月、春恒社、pp.151-153)

<学会発表>1.寒冷地に居住してきた高齢女性の尿失禁リスク要因の解明 (共同、平成23年5月、第24回日本老年泌尿器科学会) /2.S大学老年看護学臨地実習を履修した学生による実習評価-2009年度と2010年度の比較- (共同、平成23年6月、日本老年看護学会第16回学術集会) /3.OSCE課題を用いた老年看護実践能力の評価-平成21年度課題の実施状況及び成績の分析- (共同、平成23年6月、日本老年看護学会第16回学術集会) /4.Research of Subjective Well-Being of the Elderly Living in Special Heavy Snow Area-analysis of life reviews- (共同、平成23年7月、第2回日韓地域看護学会 共同学術集会) /5.中小規模病院に勤務する看護師長の職務上の困難についての検討 (共同、平成23年8月、第15回日本看護管理学会) /6.看護学生の高齢者イメージの変化に関する研究-老年看護臨地実習Ⅰ・Ⅱ前後の変化- (共同、平成23年7月、第42回日本看護学会 老年看護) /7.Assessment of risk factors on urinary incontinence for the elderly women resided in relatively cold area in Japan. (共同、平成23年8月、ICS2011 (International Continence Society) (Glasgow,United Kingdom) /8.寒冷地で居住してきた女性高齢者の尿失禁リスク要因の解明 (共同、平成23年10月、第70回日本公衆衛生学会) /9.住宅の断熱性と高齢者の入浴時の血圧変化に関する実測と人体エクセルギー解析 (共同、平成23年10月、第70回日本公衆衛生学会 総会) /10.寒冷地に居住してきた女性高齢者の尿失禁と活動の関連についての検討 (共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会) /11.学年別OSCEと老

年看護学領域の看護実践力の評価－平成22年度課題の実施状況及び成績の分析－（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／12.通常歩行時に身体にかかる振動の測定に向けた最適部位の検討（共同、平成23年12月、第33回臨床歩行分析研究会定例会）／13.通常歩行時における身体の振動分析（共同、平成23年12月、第33回臨床歩行分析研究会定例会）／14.Refreshers course, conducted in Japan, for sharing experiences and training in infection control among Malaysian young nursing officers : Programme evaluation using Project Cycle Management (PCM) method (共同、平成24年2月、15th East Asian Forum for Nursing Scholars)

<所属学会・研究会等>日本老年看護学会／日本看護管理学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本公衆衛生学会／愛知排泄ケア研究会／日本コンチネンス協会／日本産業カウンセラー協会／札幌市介護支援専門員連絡協議会／福祉住環境コーディネーター協会／日本死の臨床研究会／日本褥瘡学会北海道地方会／日本老年泌尿器科学会／日本女性骨盤底医学会

<地域貢献諸活動>桑園地区連合町内会主催の行事における学生ボランティアへの支援3件（4月～10月、桑園地区連合町内会、桑園地区連合町内会）

<専門職支援・セミナー講師等>社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院看護部 看護研究発表会講評：社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院看護部 看護研究発表会講評（平成24年2月23日、看護師、社会医療法人鳩仁会 札幌中央病院看護部）／市立札幌病院看護部 研究支援：市立札幌病院看護部 研究支援（平成23年度通年、看護師長、市立札幌病院看護部）／医療法人社団豊生会 東苗穂病院看護部 看護研究講義×3回、通年研究支援：医療法人社団豊生会 東苗穂病院看護部 看護研究支援（平成23年度通年、看護師、医療法人社団豊生会 東苗穂病院看護部）

三上 智子

<学術論文>1.OSCE評価者が「採点しにくい」と感じた理由－1・2年生OSCE評価者アンケートの結果から－（共著、平成24年3月、札幌市立大学研究論文集、6巻、1号、pp.11-18）

<著書>1.看護OSCE（共著、平成23年4月、メヂカルフレンド社）／2.A New Method for the Identification of Leucine-Rich Repeats by Incorporating Protein Secondary Structure Prediction（共著、平成23年5月、Nova Science Publishers, Inc.）

<調査研究報告書>1.「実践評価部門」：3年間の取組みと今後に向けて（平成23年4月、平成23年度科研費研究成果報告書）／2.OSCE課題の質およびカリキュラムとの整合性を高める取り組み 難易度検証の概要と今後の課題（共著、平成23年5月、看護展望、36巻、6号、pp.9-12）／3.OSCE課題の作成および評価内容・評価基準の設定（共著、平成23年5月、看護展望、36巻、6号、pp.13-18）

<作品発表>1.低学年児童の基礎活動力を高める転倒防止マットレスの開発と運動プログラム（共同、5月、キッズデザイン2011）

<入選・受賞>1.特別賞（平成23年10月、転倒予防医学研究会第8回研究集会）

<学会発表>1.北海道における在宅重症心身障害児の社会資源の利用状況（共同、平成23年7月、日本小児看護学会第22回学術集会）／2.看護OSCEにおける学生の自己効力感と関連要因の検討（共同、平成23年10月、日本看護学会（看護教育））／3.小学校低学年児童を対象とした転倒予防の取組～教科体育での取組から地域在住高齢者の転倒予防拠点の形成に向けて～（共同、平成23年10月、転倒予防医学研究会第8回研究集会）／4.The Perception of Students who Experienced OSCE - from the interview Survey of Participant Students -（共同、平成23年10月、The 8th International Nursing Conference）／5.低学年児童の基礎活動力を高める転倒予防マットレスの開発（共同、平成23年11月、第58回日本学校保健学会）／6.学年別OSCE（Objective Structured Clinical Examination）と卒業時点での「就業力」との関係（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）／7.A大学卒業生の就業時到達度に対する職場適応力と看護キャリア形成の実態（共同、平成23年12月、第31回日本看護科学学会学術集会）

<所属学会・研究会等>日本看護教育学会／日本看護科学学会

<地域貢献諸活動>小樽市最上地区ボランティアエコ活動（6月・2日間、最上小学校エコクラブ、イオンチアーズ）

<専門職支援・セミナー講師等>中央区健康フェスタへの転倒予防マットレスの出展：中央区健康

フェスタ（10月・1日、札幌市民、札幌市中央区）／看護研究支援：看護研究発表会（9月と3月・2日、勤医協中央病院看護師、勤医協中央病院）

田仲 里江

<学会発表>1.Relationships among burnout, job stress and sense of coherence of public health nurses working at municipalities in Hokkaido（単独、平成23年7月、2nd Japan－Korea Joint Conference of Community Health Nursing（第2回日韓地域看護学会学術集会））

<所属学会・研究会等>日本地域看護学会／日本公衆衛生学会／保健活動を考える自主的研究会

檜山 明子

<学会発表>1.病棟における転倒予防に関する倫理的問題の特徴（単独、平成23年8月、第37回日本看護研究学会学術集会）／2.外来の採血時における本人確認の実践方法（共同、平成23年9月、第42回日本看護学会－看護総合－）／3.終末期がん患者の精神的安寧をはかる看護師の看護実践～臨死期にある患者の看護に焦点をあてて～（共同、平成23年10月、第10回日本看護技術学会学術集会）／4.精神疾患患者に対する痛みのアセスメント方法に関する検討（共同、平成23年10月、第10回日本看護技術学会学術集会）

<所属学会・研究会等>日本看護研究学会／日本看護倫理学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／看護総合科学研究会／日本看護技術学会

<専門職支援・セミナー講師等>研究支援：研究教育支援活動（平成23年4月1日～平成24年3月31日、看護職、札幌徳洲会病院）

「札幌市立大学のシンボルマークについて」

札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。(登録商標)



札幌市立大学

SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報 平成23年度 第6号

編 集 広報委員会（委員長 中原 宏）

担 当 事 務 地域連携課（広報）

発 行 日 平成25年2月28日

発 行 札幌市立大学

〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1丁目

TEL：011-592-2300 FAX：011-592-2369

URL <http://www.scu.ac.jp>